

昆虫は体が小さく、様々な環境に適応しており、種類数は圧倒的に多く全動物の3/4を占めるといわれている。日本国内ではこれまでに約3万種が記録され、府県では大阪府（2000）が5,567種、岡山県（2003）が7,673種、山口県（2002）が6,527種で、広島県（1995）は5,408種であるが、その後の調査により現在は約8,500種といわれている。

鳥根県では、三瓶山の1,996種（鳥根県昆虫研究会、1994）、斐伊川の1,978種（淀江ほか、1998）、宍道町の1,099種（淀江ほか、2000）などの記録はあるが、全県を網羅した目録はまだ整理されておらず、正確な種類数は把握できていない。おそらくこれまでに調査された種数をまとめれば、県全体では5,500種余と推計される。

このように種類数だけをみても鳥根県は、他府県に比べ昆虫相の解明は遅れている。これは県内に同好者が少ないこと、中央から遠く離れ専門家の指導や刺激の機会が少なかったこと、県立博物館に自然科学系の部門がなかったこと、大学や農業試験場などの研究機関も害虫だけを対象としたことなどによると思われる（しかし、近年、三瓶自然館が自然史博物館としての機能を有する大規模な施設に拡充されたのでその点は解消された）。

鳥根県は東西に200kmの細長い県土で、北は砂浜と岩礁の長い海岸線、南は標高1,000m級の中国山地、中間地域は雑木林などの里山と南から北に流れる大小の河川があり、日本海には隠岐諸島が存在するなど多様性に富んだ自然に恵まれており、多くの昆虫の種が未解明のまま残されているものと思われる。

## 1. 昆虫研究小史

鳥根県の昆虫研究は明治時代に始まる。明治14年（1881年）、小学校教則綱領の指導で小学校博物教育では「つとめて実物によって通常の動植物の名称を授け、つとめて標本を集めること」と定められた。昆虫採集や昆虫趣味の一般化はここにスタートしたといわれる。

明治24年、旧制松江中学の博物教師だった渡辺盈作（1891）は「動物学雑誌」に松江市のチョウ15種を正確な学名入りで報告した。渡辺はラフカディオ・ハーンとも深い親交があった人物で、ハーンの著書「日本瞥見記」にも登場する興味深い人物である。

国立農事試験場技師だった三宅恒方（1904）が隠岐を訪れチョウ・ガ179種を記録している。三宅の記録にはオキナワリチラシや新種として記載したオキホソバ（現ネズミホソバ）があり、当時の農事試験場八田分場

の田中房太郎が採集した標本も含まれている。田中自身の昆虫標本についての目録は見当たらないが、田中は「応用昆虫編」（1903、進学社）という152ページの小冊子を著わすなど愛書家でもあり、鳥根大学図書館には1フロアを使った田中房太郎コレクションが保存されている。

一方、害虫として鳥根農事試験場成績第25号（1912）にイネ、ムギ、野菜、果樹など農作物の害虫102種の分布と被害状況の報告がある。

大正時代は、一般の昆虫についてまとめたものはないが、農事試験場に野津六兵衛が赴任（1913）し、ダイコンサルハムシ、ウリハムシ、ナシヒメシンクイなど野菜、果樹を中心に多くの害虫の生態と防除法を明らかにした。1923年に野津と園山功が著した「鳥根の果実害虫」にはコツバメの幼虫がリンゴの幼果を加害するという報告がカラー図版付きで紹介しており、日本国内で最初の蝶類幼生期報告として注目されている。

昭和時代に入り、鳥根師範学校に酒井榮吾・雪吹敏光の指導のもと「鳥根師範学校博物学会」が立ち上がった（会誌「ユウグレナ」を発行）。会には丸山巖・林実・那須辰之輔・木村康信・広江寅三・安原辰郎・長島千代司（のちの石倉千代司＝八雲村村長）らがあり、以降長く鳥根県の博物学を支えるメンバーが集った。雪吹敏光は1903年に「昆虫と植物の関係」（富山房）を著していたし、広江寅三は昭和6年（1931）に三瓶山の蝶30種を報告した。この中にある「コヒョウモンモドキ」は疑いなく「ウスイロヒョウモンモドキ」で、広江は最初に鳥根県のウスイロヒョウモンモドキを発見した人物となる。広江は師範学校卒業後、伯太町赤屋小学校に勤務し同地からギフチョウを発見するなど有望なナチュラリストとして活躍したが惜しくも心臓麻痺で1936年に没した。なお鳥根県のギフチョウの最初の報告者は柳楽泰久で1935年、簸川郡出西村の記録となる。

旧制三刀屋中学に進学していた青木浩（鳥取県青谷町出身）は1931年に三刀屋でオオウラギンヒョウモン、ギフチョウをすでに採集していたことが没後まとめられたコレクション目録で明らかになった。この700箱5万頭の膨大な青木浩コレクションは没後に淀江の仲介で奥様から大阪市立自然史博物館に寄贈され、「日本一のコレクション」ともいわれている。アマチュアの集積した標本が自然史のサイエンスとして生きていく好例である。

岡部武夫（1931）は隠岐の動植物目録をまとめて昆虫272種を記録したが、この中には明らかに誤りと思われる種が含まれる。同じ頃、鳥根師範を卒業して故郷で奉職した木村康信（1932）が隠岐島前の昆虫82種を記録、

続いて昭和14年（1939年）には隠岐の昆虫354種を孔版で刊行した。このレポートはきわめて精度が高く、隠岐の昆虫研究の原点となるものである。木村はこれ以降も平成9年（1997年）90歳で亡くなる直前まで、古き良き博物学の伝統に従って陸続と報告を続けた。特に昭和15年（1940年）、ルーミスジミを発見したときの思い出日記を読むと、珍チョウ採集直後の興奮、ときめき、息づかいさえ生々しく伝わってくる。博物学の醍醐味であろう。

また、東京農業大学の神谷一男・山本玄（1934）は隠岐で自らの採集と田中房太郎の標本から甲虫160種を報告している。

第二次大戦中で中断していた昆虫の調査は、戦後、松江高校教諭に赴任した平田信夫によるカミキリムシやチョウなどの採集で再開された。台湾から引き揚げ島根県農事試験場に赴任したカミキリムシの権威水戸野武夫の指導もあり、その成果を後に「昭和20年代の島根県のカミキリムシ目録」として147種を報告（平田、1990）した。

昭和26年（1951）に水戸野武夫や平田信夫は増田耕作、上田常一とともに「島根生物学会」を立ち上げた。「会報」は5号まで発刊され、昆虫関係としてはスネケブカヒロコバネカミキリなどの報文がある。さらに同学会編集になる「生物の採集と標本の作り方」（1951）という116ページの小冊子も発刊しており、平田信夫が「松江市近傍に於ける採集地案内」を執筆している。

また、この頃から松江高校、出雲高校、大田高校、浜田高校、益田産業高校、津和野高校の生徒が中国山地や三瓶山などで熱心に採集し、その成果をそれぞれのクラブ雑誌（孔版）に発表した。戦後まもなくの新制高校生徒による情熱的な昆虫採集は全国的なものであり、この時代は昭和初期の第一次昆虫採集黄金時代に続く第二期黄金時代といわれている（因みに第三次黄金時代は1970年代である）。

ことに増田耕作が指導した益田産業高校の生徒は、西中国山地はもとより県西部の河川敷や海岸を熱心に探索し、エサキナガゴミムシ、ハマダナガチビゴミムシ、イソチビゴミムシ、ウミミズカメムシ、イソジョウカイモドキなどの新種や希少種を発見した。チョウでは恐羅漢山のウラジャノメの西日本新発見が特筆されるほかイシガケチョウやナガサキアゲハも採集した。これらは会誌「RARE INSECTS」に図入りで正確に記録されている。

昭和26年（1951）には、浜田高校生物部の山田隆保、岡田雅裕、成瀬吾朗らが社会人も混じえ「浜田昆虫同好会」を立ち上げ、会誌「昆虫石見」を発行した。この会誌は2号で終わったが、岡田が著した「島根県石見地方産蝶類採集目録」の小冊子とともに、今なお島根県西部の昆虫相を語る際には欠かせない資料となっている。ハヤシミドリシジミはその当時未記載種であったし、オオウラギンヒョウモンも普通にいたようである。山田隆保のコレクションは没後、淀江の仲介によって奥様から三瓶自然館に寄贈され目録が刊行されている。

昭和20年代後半から50年代にかけては、森山正治が奥出雲地域（おもに呑谷）のチョウやカミキリムシを採集して、シータテハなど多くの知見をもたらした。森山のコレクションは淀江の仲介で宍道湖自然館に寄贈された。

島根県事試験場に赴任した藤村俊彦は害虫防除試験の傍ら昆虫採集を行って、カミキリムシ186種（藤村、1966）など多くの記録を残した。

島根農科大学（のち島根大学農学部）の近木英哉は、島根県自然環境保全地域候補地調査で各地の昆虫類をまとめたほか、「山陰の蝶」「島根半島の昆虫」「三瓶山の昆虫」「山陰の虫たち」などの啓蒙書を多く執筆した。近木コレクション（枕木山のオオウラギンヒョウモンなどを含む）は淀江の仲介で宍道湖自然館に寄贈されている。

高校教員だった大島弘は一畑薬師など各地でガの灯火採集を行い、新種とされた種を含め多くの種類を記録した。大島は中国地方5県の鱗翅目研究者の集まり「六虫会」（2013年で27年目になる）の提唱者としても知られている。

昭和31年（1956）、松江高校の生徒たちを中心にして「松江昆虫同好会」が発足、会誌「千鳥」を発行した。指導者は鳥取の自然史学の大家・小林一彦。メンバーの中井衛、若槻匡志らはいまなお昆虫研究者として現役である。

昭和35年（1960）、島根大学教育学部の教官主導で「松江生物懇話会」が発足し、会誌「松江生物懇話会会報」を5年にわたって12号まで発行した。昆虫では、若浜健一によるショウジョウバエがあるくらいだが、注目すべきものとして上田常一による「島根の博物教育大家の列伝」の連載がある。上田は典型的ないわゆる博物学者で該博な知識と強い好奇心を持ち、「山陰の動物誌」「宍道湖の動物たち」「出雲の竜蛇」などの啓蒙書を著した。昆虫記事もオリジナルなものが含まれている。上田の標本は没後、三瓶自然館に寄贈された。

昭和43年（1968）、出雲市の高校生、岡義人が後藤雅人、石田明儀らと「島根昆虫同好会」を立ち上げ、会誌「NECYDALIS」を発行した。当時、六日市町の高校生だった能見豪がクロミドリシジミを報告したのは特筆すべき大発見だった。また岡義人は神戸川から多数のシルビアシジミを採集したが、その後40年以上再発見されていない。現存する標本はきわめて重要なものとなっている。石田明儀は高知大学に進学し昆虫学を専攻、卒業後は土佐高校で教員を勤めた。有望なナチュラリストだったが、若くして難病で没した。標本は大阪市立自然史博物館に寄贈された。

昭和47年（1972）、昆虫好きの中学生・曾田貞滋（現・京都大学大学院理学研究科動物生態学研究室教授）が「しまね虫屋連盟」を結成し、会誌「Longicorn」を発行した。その後誌名は「すかしば」と改称され、同・連盟は1975年に「山陰むしの会」に発展した。山陰むしの会には山陰地域（島根・鳥取・隠岐だけでなく萩を含む山口北部、丹波を含む兵庫県北部まで）に興味を持つ多く

の研究者、アマチュアが入会して、生息分布や生態の調査結果を発表した。「すかしば」はいま現在60号を数え、調査研究成果発表の場として、この地域の昆虫相を語る最重要文献資料として欠かせないものとなっている（「すかしば」は創刊したときからISSNを取得し、国立国会図書館、島根県立図書館を始め、県内の主要図書館に毎号欠かさず寄贈されている）。

山陰むしの会の活動をいくつかあげると、「山陰のトンボ」（山陰中央新報社、1993）は小泉八雲市民文化賞を受賞したし、「山陰のチョウたち」（1994）はいまなお愛読者が多くチョウの好きな人たちのバイブルともいわれている。

また、多くの同好者がこの会で育ったが一人だけ紹介すると、旧・匹見町の開業医・中村泰士があげられる。多忙の仕事の間隙を縫うようにして（シーズン中は朝4時半に出発して8時半には帰宅）、膨大なコレクションを作成した。これは没後、淀江の伸介で奥様から三瓶自然館に寄贈された。さらに、旧・六日市町で小学校の野外活動で昆虫採集を指導していた田中幾太郎が少なからぬコレクション（サツマジジミやクロコノマチョウなどを含む）を作成していた。これは長く幻となっており行方不明だったが、淀江が新築なった蔵木小学校の理科実験室の倉庫から見出し、関係者の了解を得て譲り受け、整理後、三瓶自然館に寄贈した。

このころ、島根大学の学生、久保田直哉（現・農水省）、伊藤文紀（現・香川大学教授）、鈴木謙治（現・山陰むしの会会員）らが、「島根大学野外研究会」というグループを結成し、隠岐諸島や匹見峡など各地で採集活動をしている。その結果は「CYGNUS」というクラブ誌に次々と報告された。とりわけ、久保田は知夫里島のオオウラギンヒョウモン、島後のエゾミドリシジミという大発見をなしている。

1991年からは数年間、島根県からの委託によって県内の昆虫相調査が実施されることになり、「島根県昆虫研究会」が新たに組織された（代表：前田泰生島根大学生物資源科学部教授）。この会は旧・匹見町加令谷、旧・瑞穂町、旧・頓原町、浜田市、江津市、三瓶山の昆虫相調査を行い充実した印刷物を発行した。

さらには近年、国土交通省による河川水辺の国勢調査（斐伊川、江の川、高津川）というきわめて大規模な組織的調査が5年ごとに実施され多くの新知見が大量の標本とともに蓄積されている。

平成に入り、2002年には三瓶自然館が拡充されて自然史博物館として生まれ変わり、昆虫担当学芸員も配属され、研究報告書も出版されるようになった。1997年には、ホシザキグリーン財団が野生生物研究所を立ち上げ、昆虫担当研究員も配属されて調査研究結果を充実した印刷物として発行を続けている。

以上のように、島根県内の昆虫相の解明も飛躍的に進展し、十分とはいえないまでもレッドデータ該当種の選定や検証が可能な状況となった。

## 2. 希少種から見た昆虫相の概要

以下、「希少種から見た昆虫相の概要」を述べるが、いわゆる普通種（ヤマキマダラヒカゲ、ヤマトスジグロシロチョウ、アサギマダラなど）や近年分布拡大している種（タイワンウチワヤンマ、イシガケチョウ、クロマダラソテツジミなど）には触れていないため、本来の意味での「島根県の昆虫相の概要」ではない。

〔東部地域〕

船通山、吾妻山、大万木山など1,000m級の山々にはコナラ、ミズナラや頂上部にはブナ林もあり、谷筋にはオニグルミ、ナラガシワなども見られる。フジミドリシジミ、エゾミドリシジミ、オナガシジミなどが生息する。猿政山山麓の呑谷にはヒサマツミドリシジミ、シータテハの古い記録があり、旧・頓原町の都加賀峠周辺からはゴマシジミが記録されている。谷間の溪流にはムカシトンボ、クロサナエが生息し、赤名湿原にはミドリシジミ、ヒメシジミ、ゴイシシジミ、ハッチョウトンボ、カラフトゴマフトビケラ、スゲハムシ、スジグロボタルなどの記録がある。

中山間地の雑木林や社寺林周辺では、局所的にギフチョウ、ヒロオビミドリシジミ、ウラゴマダラシジミ、ベーツヒラタカミキリの記録がある。里山の松林などに生息するハルゼミ、チッチゼミは環境の変化に注意を要する。

立久恵峡などの岩場ではナマリキシタバ、ホシミスジ、ウラナミジャノメなどが生息する。

点在する古い溜池などには、局所的にオオルリボシヤンマ、ルリボシヤンマ、ゲンゴロウ、タガメ、キンイロネクイハムシ、チュウブホソガムシ、ヤマトホソガムシ、コガタノゲンゴロウなどが生息する。このなかでゲンゴロウ、タガメの減少は著しい。

島根半島にはウラナミジャノメ、ヒメハルゼミ、オオセンチコガネ、アオヤンマ、エサキアメンボが生息し、ムネシロテンカバナミシヤク、オオハナカミキリの記録がある。海岸部（岩場～波打ち際）にはシルビアシジミ、ヘリグロチャバネセセリ、ハマベハサミムシ、ウミミズカメムシ、ウマヅライソハネカクシ、イソチビゴムシ、イソジョウカイモドキなどの重要種が生息する。近年、全国各地でシカによる環境破壊が問題になっている。滋賀県ではカンアオイ類がすべて被害されギフチョウが壊滅した報告があるほか、対馬特産種のツシマウラボシシジミも食草ヌスビトハギがすべて被害されて絶滅寸前（すなわち日本から消滅）となっているなど昆虫類に多大な悪影響を及ぼしている。島根半島西部山地のホンシュウジカ生息地ではまだそのような報告はないが今後注意を要する。

斐伊川の水辺の国勢調査では1992年調査で1,360種、1997年調査で1,395種、2002年調査で1,359種、2007年調査で1,122種が記録された（淀江ほか、1998など）。重複種を整理すると斐伊川水系の国交省管轄区間から3,035

種が確認されたことになる。これは一つの地域からの昆虫相解明率としては100%に近づきつつあると思われる。砂底の中流域はコカワゲラの国内唯一の産地であり、キイロヤマトンボ、アヤスジミゾドロムシも確認されている。下流域から宍道湖にかけてナゴヤサナエが生息し、堤防ではジャコウアゲハが見られる。派川河口域にはムスジイトンボも確認されている。

神戸川河口付近から差海川河口にかけての出雲砂質海岸には、良好な海浜植生が拡がり、オオヒョウタンゴミムシ、ハラビロハンミョウ、ニセマグソコガネ、キバラハキリバチ、ハマズズ、ハマベツチカメムシ、ハマゴウノメイガ、ハマベウスバカゲロウ、オオウスバカゲロウなどの重要種が生息しており、海浜とその植生の保全が重要である。

#### 〔中部地域〕

国立公園の三瓶山は、中国山地脊梁部から離れて位置し、室の内（特別保護地区）と呼ばれる旧火口を囲む6峰からなる活火山で、ブナ、カシワ、コナラ、クヌギなどの林や草原や放牧地からなり1,996種の記録（鳥根県昆虫研究会, 1994）がある。とくにウスイロヒョウモンモドキは県内唯一の生息地として保護対策が進められているほか、ギフチョウ、ハヤシドリシジミ、クロミドリシジミ、ウラミスジシジミ、オナガシジミ、クロシジミ、ヒメヒカゲ、ダイコクコガネ、ヨコヤマヒゲナガカミキリ、マルタンヤンマ、ルリボシヤンマ、アカエゾゼミなどが生息する。三瓶山には少なからず生息していたオオウラギンヒョウモンは1970年代前半に絶滅したものと推測されている。

広島県と接する旧・瑞穂町亀谷峠周辺では、1,292種の記録（鳥根県昆虫研究会, 1994）があり、ギフチョウ、ウラジロミドリシジミ、ゴマシジミ、ムカシトンボ、ルリボシヤンマなどが生息する。旧・瑞穂町後木屋にはヒョウモンモドキ、ヒメシジミの記録があるが、生息地の湿地が埋め立てにより絶滅したと推定されている。旧・羽須美村のナラガシワ林にはヒロオビミドリシジミ、ウスイロオナガシジミが生息する。

西中国山地の東端に位置する天狗石山、雲月山、大佐山の一带は資料不足であるが、天狗石山にはフジミドリシジミ、雲月山にはヒメヒカゲ、ヒメシジミ、ホソハンミョウの記録があり、傍示峠からはヒョウモンモドキ、ヒメシジミ、ホシチャバネセセリの記録があるが、この湿地も荒廃し絶滅状態である。中山間部に点在する古い溜池や休耕田では、局所的にゲンゴロウ、タガメが生息するが、シャープゲンゴロウモドキが確認された生息地は荒廃し、その後採集されていない。

江の川での河川水辺の国勢調査（1999）では1,576種が記録（中村ほか, 2001）されているが、347種は上流の広島県でのみ確認されており、それを除くと1,229種となる。この国勢調査は5年ごとに実施されており2004年の3回目の調査の結果では、重複種を整理して合計2,609種となる。マクガタテントウや最下流地点でタイリクアカネの記録がある。堤防のミヤコグサ群落にはシ

ルビアシジミも生息する。美郷町粕淵、江津市松川周辺の流域にはキイロヤマトンボが生息し、トンボ研究者には日本を代表する産地と称される。全国的にもまれになっているカワラバッタも生息する。静間川下流にはナゴヤサナエ、キイロヤマトンボの記録がある。

大田・江津・浜田の砂質海岸には、オオヒョウタンゴミムシが生息し、江の川河口から石見海浜公園にかけての砂質海岸には局所的にハラビロハンミョウ、カワラハンミョウが生息する。また周布川河口の渚の礫下や岩礁でイソチビゴミムシ、イソジョウカイモドキが採集されている。

#### 〔西部地域〕

西中国山地の標高1,000mを超える恐羅漢山、安蔵寺山、冠山、平家ヶ岳や裏匹見峡、安蔵寺山加令谷などの渓谷には、ブナ、ミズナラ、トチノキ、サワグルミなど植生豊かな自然林が残され、昭和20年代に益田産業高校の生徒たちが分け入り熱心に採集した地域である。フジミドリシジミ、スギタニルリシジミ、ヒサマツミドリシジミ、ミスジチョウ、ウラジャノメ、オオチャイロハナムグリ、スネケブカヒロコバナネカミキリ、コエゾゼミが生息し、ヒゲジロホソコバナネカミキリ、オオホソコバナネカミキリ、キバジュズハシアリの一種（未記載）も記録されている。谷間の溪流にはムカシトンボ、ヒメサナエが生息している。

山麓のナラガシワやクヌギ林ではヒロオビミドリシジミ、クロミドリシジミ、オオミドリシジミ、オオムラサキ、近隣のアカガシ林ではキリシマミドリシジミが生息し、道路沿いの灯火に飛来したタガメ、ゲンゴロウの記録もある。また海岸に近い大麻山にホシミスジやギフチョウの記録がある。

浜田市近郊の三階山は標高379mの低山地であるが、中国山地の出店的性格をもち、ギフチョウ、ヒメシジミ、ウラゴマダラシジミ、クロヒカゲモドキ、ウラナミジャノメ、ホシミスジ、オオムラサキなどを多産したが、近年の相次ぐ大規模開発によって生息地のほぼすべてが壊滅した。

高津川の水辺の国勢調査（1995）でシルビアシジミ、ギンイチモンジセセリ、ゲンバイトンボ、キイロサナエ、ヒメサナエ、アオヤンマ、マクガタテントウを含む1,036種が報告（松田ほか, 1999）されている。この河川調査は5年ごとに実施されており、2005年までの合計は2,175種となる。上流の旧・匹見町匹見でトゲナベブタムシ、澄川でオキナワリチラシ、下流の河川敷ではカワラバッタが採集されている。砂底の清流にはキイロヤマトンボも産する。田の浦から戸田小浜にかけての砂質海岸ではギンイチモンジセセリ、ハラビロハンミョウ、カワラハンミョウ、オオヒョウタンゴミムシが生息する。

益田市の小学生親子（宮本詔子、聡史）が50年ぶりとなる稀種ヒロシマサナエを再発見し、さらにベニイトンボを新発見したのも特筆すべきことであった。

#### 〔隠岐地域〕

隠岐諸島は島後と島前に大別され、昆虫相も大きく異

なる。明治年代に隠岐に渡りチョウ目179種を報告した三宅恒方は、隠岐の昆虫相について「面積に比べ種類数が多く、個体数も甚だ多い。田中房太郎氏は湿潤で草木が繁茂し、食草が豊富なためという。島前と島後は予想外に異なるが、面積、山の深さ、開発の度合いによるものであろう。全体の昆虫相は島根半島などに似ているが、個体数など詳細に見ると異なる(要旨)」と述べられ(三宅, 1908)、また江崎悌三(1941)には「注目すべき事実は、隠岐と紀伊・大和地方と類似し、両地方に産する特殊な昆虫が他の地域で見られない(要旨)」と記されている。

島後は最大の島で、大満寺山、時張山、横尾山など標高500~600mの山と急峻な谷が海岸まで延びて平地は少ない。コナラ、ミズナラ、クヌギ、オニグルミ、ウラジロガシ、スダジイ、アカガシなど植生は豊かで自然林も点在する。ルーミスシジミ、キリシマミドリシジミ、エゾミドリシジミ、オナガシジミ、ウラジロミドリシジミ、ウラキンシジミ、カラスシジミ、オキナワリチラシ、ムカシトンボ、ハネビロエゾトンボ、スネケブカヒロコバナカミキリが生息し、ネズミホソバ、クビアカモモトホソカミキリ、タキグチモモトホソカミキリ、ベーツヒラタカミキリ、タガメの採集記録もある。近年キンコルリクワガタも発見され注目を浴びた。特産種にオキチャイロコガネ、オキツヤヒサゴゴミシダマシ、ダイセンオサムシ隠岐亜種、マイマイカブリ隠岐亜種、ヤコンオサムシ隠岐亜種がある。

島前は島の規模も小さく、西ノ島の焼火山(452m)を中心に中ノ島、知夫里島が環状に囲んで内海を形成する。焼火山、高崎山周辺は樹種に恵まれているが、多くは急傾斜の地形で灌木や放牧地が多い。ウラキンシジミ、アカシジミが生息する。知夫里島はオオウラギンヒョウモンの生息地として知られるが、近年は記録が途絶えている。アオハナムグリ島前亜種は最近記載された種で、島後には緑色のアオハナムグリ(原名亜種)が分布し、島後と島前の約10kmの距離で亜種が異なる例として注目される。ホシミスジ隠岐亜種、ウラゴマダラシジミ(本種もまた島後と島前で顕著な地理変異が見られる)、クロシジミ、ネアカヨシヤンマ、アオヤンマ、タガメ、コガタノゲンゴロウなどが生息する。

以上を踏まえ、隠岐の主要な生態系を昆虫から見て整理すると、次のようになる。

- ①アカガシ、ミズナラなどの原生林：ルーミスシジミ、キリシマミドリシジミ、エゾミドリシジミ、キンコルリクワガタ、フタスジカタビロハナカミキリなど。
- ②オニグルミなどを含む渓谷：ムカシトンボ、オナガシジミなど。
- ③海岸岩場：ホシミスジ隠岐亜種、ナマリキシタバ、クビジロツメヨトウ、イソハサミムシ、ウミミズカメムシ、ハマベゴミムシ、オオツノハネカクシ、イソジョウカイモドキなど。
- ④牧場・草原：オオウラギンヒョウモン、クロシジミ、ウラギンスジヒョウモン、シルビアシジミ、フタテン

カメムシなど。

- ⑤里山の雑木林と溜池：オキナワリチラシ、ウラキンシジミ、ウラゴマダラシジミ、カラスシジミ、イチモンジチョウ隠岐亜種(未記載種)、スネケブカヒロコバナカミキリ、ダイセンオサムシ隠岐亜種、マイマイカブリ隠岐亜種、ヤコンオサムシ隠岐亜種、アオハナムグリ島前亜種、タガメ、ミズスマシなど。

### 3. 最新の分類群別の情報

主要な分類群について近年新たにまとめられているものがある。おもなものをコメント付きで紹介しておく。

島根県のトンボ目は91種(大浜, 2013私信)。

島根県のゴキブリ目は7種(松田, 2011)。

島根県のバッタ目は115種(林, 2014準備中)。

島根県のカメムシ目異翅亜目(カメムシ類)は375種、頸吻亜目(セミ、ウンカ類)は202種(尾原, 2006)。

島根県のキジラミは74種(林・宮武, 2012)。

島根県のアブラムシは147種(吉富・安達, 2013)。

島根県のコウチュウ目は2,548種(林, 2011)。

島根県の水生甲虫は145種(林, 2012)。

島根県のネジレバネ目は14種(前田・北村, 2006)。

島根県のメバエ類は15種(前田, 2006)。

島根県のニクバエは21種(柿沼, 2010)。

島根県のチョウ類は139種(淀江・坂田・藤原・山本, 2006) + ヒメシロチョウ、キマダラルリツバメ、クロマダラソテツシジミ。

島根県のガ類は1,952種(三島, 2013)。

隠岐島の直翅系昆虫類はバッタ目88種など(林・門脇, 2013)。

隠岐島のコウチュウ目は1,074種(林・門脇, 2012)。

### 4. 「しまねレッドデータブック1997」掲載種と保護対策

「しまねレッドデータブック1997」には、島根県の貴重野生動物リスト(島根県, 1995)に掲載された昆虫296種の中から、絶滅の危機に瀕し緊急に保護すべき種(緊急保護種)に、オオウラギンヒョウモン、ルーミスシジミ、ヒョウモンモドキの3種。生息状況が悪化し緊急保護種に移行するおそれのある種(要保護種)に、ウスイロヒョウモンモドキ、キリシマミドリシジミ、タガメ、ナゴヤサナエ、オオヒョウタンゴミムシなど25種。今後の推移に注意する必要がある種(要注意種)に、ムカシトンボ、ゲンゴロウ、オキナワリチラシなど60種の計88種が掲載されている。

緊急保護種のうちオオウラギンヒョウモンは、残された唯一の生息地であった知夫里島で、数年にわたり生息調査が実施されたが確認されず、ヒョウモンモドキも生息地であった湿地が荒廃しており、いずれも絶滅した可能性が高い。ルーミスシジミは生息地での継続調査により、面積は狭いながらもアカガシ林の環境が維持され、

キリシマミドリシジミとともに生息が確認されており、伐採の自粛、隣接地の松くい虫防除の農薬散布の除外など生息環境の保全が要請されている。

要保護種のウスイロヒョウモンモドキは、三瓶山で和牛の過放牧による衰退が進行しており、現在きわめて限られた場所に細々と生息している状況である。発生個体数の調査と食草の増殖などの保護対策が講じられている。タガメは一般の参加を求めた生息情報の収集で、密度は低いが各地で生息が確認され、幼虫飼育を委託する「タガメの里親事業」も行われている。イワタメクラチビゴミムシは再発見され、ヒロオビミドリシジミ、オオヒョウタンゴミムシ、ハラビロハンミョウは生息状況調査で実態が明らかになり、その他の要保護種や要注意種もゲンゴロウやトンボ類などで情報が集積されつつある。

## 5. 「改訂しまねレッドデータブック2004」の掲載種

総数は286種で大幅に増加したが、生息地や個体数の減少で新たに選定した種が大幅に増加したほか、情報不足の119種など選定基準の変更に伴うものも多い。

目別ではチョウ目95種（チョウ52種）、コウチュウ目87種、カメムシ目44種、トンボ目35種、ハチ目9種、バッタ目9種、ハエ目3種で、その他4目は各1種である。生息状況がよく把握されているチョウやトンボは既知の種数に対する割合が多い。

〔絶滅危惧Ⅰ類〕

絶滅の危機に瀕している種として、チョウ目14種（チョウ13種）、コウチュウ目11種、カメムシ目2種、トンボ目3種、バッタ目1種、カワゲラ目1種の計33種が選定されている。ルーミスシジミ、コカワゲラ、ダイコクコガネなど生息地が限られ個体数が少ない種である。オオウラギンヒョウモン、ヒョウモンモドキ、シータテハは絶滅した可能性が高い。

〔絶滅危惧Ⅱ類〕

絶滅の危機が増大している種として、チョウ目17種（チョウ16種）、コウチュウ目3種、カメムシ目5種、トンボ目5種、ハチ目2種、ハエ目1種の計32種が選定されている。タガメ、ゲンゴロウ、ギフチョウなど生息地は点在するが個体数が少ない種や、ナゴヤサナエ、キリシマミドリシジミなど生息地は限られるが個体数はやや多い種で、いずれも減少傾向がある。

〔準絶滅危惧〕

絶滅危惧種に移行する恐れがある種として、チョウ目35種（チョウ14種）、コウチュウ目16種、カメムシ目15種、トンボ目27種、ハチ目6種、バッタ目1種、ガロアムシ1種、ハエ目1種の計102種が選定されている。オオムラサキなど広く分布するが個体数が少ない種や減少傾向の種などである。

〔情報不足〕

減少傾向にあるが情報不足の種として、チョウ目29種（チョウ9種）、コウチュウ目57種、カメムシ目22種、バッ

タ目7種、カマキリ目1種、トビケラ目1種、ハチ目1種、ハエ目1種の計119種が選定されている。全国的な希少種や他府県のレッドデータ対象種で県内に生息するが情報不足の種、県内に基準標本産地があつて情報不足の種などである。

なお、「しまねRDB」（1997）で要注意種とされたムラサキツバメは、近年急速に北上を続けている個体群と昔から隔離されていた個体群の識別が困難であることから、レッドデータブック対象種から除外された。

## 6. 「改訂しまねレッドデータブック2014」の掲載種

今回の再改訂にあたって、昆虫分科会を設置し（委員は13名）、各分類群担当者から提出された候補種とランク付けについて検討し、分科会として決定した。

総数は342種と大幅に増加した。新規掲載種は85種である（これらは担当者各自がいわゆる定性的に判定したものであり、今後は定量的判定が必要になるだろう）。

目別ではチョウ目101種（チョウ54種）、コウチュウ目119種、カメムシ目59種、トンボ目27種、ハチ目12種、バッタ目8種、トビケラ目6種、ハエ目5種で、その他5目は各1種である。

50年以上前からの生息状況がよく把握されているチョウ類は既知の種数に対する割合が多い。チョウ類は長年のデータの蓄積があることに加え、食草や生息環境がほぼ解明されていることにより、環境のよしあしを判定する重要な指標生物となっている。コウチュウ目は種数が大きく増加したが、その多くは調査研究の進展により新たに選定されたものである。一方、トンボ目は種数が大きく減少したが、これがヤゴの生息する水辺環境の良好な改善を意味するものではない。

〔絶滅〕

ヒメシロチョウ：

2000年、倉敷市立自然史博物館に寄贈された平田信夫コレクション3万点のなかに、「1952年7月12日、仁多町呑谷」ラベルのヒメシロチョウ1♂が見出された。これを仔細に検討した結果、間違いなく「旧・仁多町呑谷峠」で採集されたものであることが判明した。白水隆博士が紹介した2つの文献（白水、1958,1959）の根拠がまったく別の情報によったものであることがわかり確定できたものである。その後の環境は放牧場から森林に遷移しており、すでに絶滅していると判断された。この検証ができたのは、残された標本そして古い文献がいかに自然史情報として大切なものか、「知識の保全活動」のたまものであった。なお、本種は広島県高野町でも1992年には絶滅したとされており、中国地方から消滅した。

〔絶滅危惧Ⅰ類〕

トンボ目4種、カワゲラ目1種、バッタ目1種、カメムシ目2種、コウチュウ目10種、チョウ目20種の計38種が選定された。

このなかにはオオウラギンヒョウモン、ヒョウモンモ

ドキ、ウスイロヒョウモンモドキ、シータテハのようにすでに絶滅している可能性が高い種と、今まさに絶滅寸前と思われるゴマシジミ、ウラジャノメ、クロヒカゲモドキ、ホシチャバネセセリなどが含まれている。

また、新たにキマダラルリツバメが加わった。本種はムネジワハリブトシリアゲアリと共生する変わった生態を持つチョウで鳥取市では国の特別天然記念物に指定されている。県内では板垣治による1例の記録しかない。

海浜性のハラビロハンミョウ、カワラハンミョウ、オオヒョウタンゴミムシ、良好な水辺環境に生息するヒロシマサナエ、コカワゲラ、タガメ、トゲナベブタムシ、ゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキなども含まれる。コカワゲラは斐伊川が国内唯一の生息地である。

コバネアオイトトンボ、モートンイトトンボ、マイコアカネは近年急速に減少している。

〔絶滅危惧Ⅱ類〕

トンボ目8種、カメムシ目5種、コウチュウ目6種、ハチ目2種、ハエ目1種、チョウ目17種の計39種が選定された。

このなかには分布域が狭く、個体数も少ないオツネトンボ、ベニイトトンボ、ハネビロエゾトンボ、キロヤマトンボ、ハッチョウトンボなどのトンボ類やコオイムシ、コガタノゲンゴロウ、ツヤネクイハムシなど水辺・湿地環境に生息する種が目立っている。

低山地のナラガシワ林に依存するヒロオビミドリシジミ、ウスイロオナガシジミも雑木林の荒廃で減少傾向にある。林縁性のスジボソヤマキチョウ、オオムラサキ、クモガタヒョウモンなども急速に減少しつつある。

海浜固有の生態系に依存するニッポンハナダカバチ、キバラハキリバチや、塩性湿地に生息するハマベゴミムシ、オオツノハネカクシなども含まれる。

〔準絶滅危惧〕

トンボ目15種、カマキリ目1種、バッタ目4種、ガロアムシ目1種、カメムシ目25種、アミメカゲロウ目1種、コウチュウ目30種、ハチ目6種、ハエ目1種、チョウ目32種の計116種が選定された。

ハマスズ、ショウリョウバッタモドキ、ヤマトマダラバッタなどのバッタ目、ホッケミズムシ、オヨギカタビロアメンボ、ハマベナガカメムシ、オオミズムシ、アダチアカサシガメ、シリアカハネナガウンカなどカメムシ目が増加している。アミメカゲロウ目のハマベウスバカゲロウは自然度の高い海浜植生に限定される。

〔情報不足〕

バッタ目3種、ハサミムシ目1種、カメムシ目27種、コウチュウ目73種、ハチ目4種、ハエ目3種、トビケラ目6種、チョウ目31種の計148種が選定された。

コウチュウ目が著しく増加した。これらは調査研究の進展によるものである。特に大畑純二による新属新種クロゲンセイの画期的な大発見は昆虫の調査に限界がないことを示し、全国的に注目された。その他、まだ採集地点が少なく分布の実態がつかめないものや、全国的な希少種などが含まれている。

カメムシ目のイシハラカメムシ、ミズカメムシなどは近年、県内で確認された希少種である。ミヤケミズムシは環境省第4次レッドリスト（2012）で追加された種である。

### カテゴリーが変更された種

上位のカテゴリー区分への変更種が17種ある。絶滅危惧Ⅰ類にランクアップした種がモートンイトトンボ、タガメ、ハラビロハンミョウ、ゲンゴロウ、ウラナミアカシジミ、シルビアシジミ、ゴマシジミ、ウラギンスジヒョウモン、キバネセセリである。ゴマシジミは隣県の広島県、岡山県ではほぼ絶滅状態である。

絶滅危惧Ⅱ類にランクアップした種がネアコヨシヤンマ、ハッチョウトンボ、アオハナムグリ島前亜種、ウスイロオナガシジミ、オナガシジミ、ミドリシジミ、ミスジチョウ、オオムラサキである。アオハナムグリ島前亜種は地理的変異が著しいため、商品として売買されている実態がある。

逆に下位のカテゴリー区分への変更種が9種ある。絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンした種がコオイムシ、コガタノゲンゴロウの2種。準絶滅危惧にランクダウンしたのは7種。そのなかのネズミホソバ、ツマグロキチョウはいずれも最近の調査で極端に少ないものではないということが判明したためである。

### ランクから外れた種

今回の再改訂により掲載対象外等となった種は計30種である。このなかではトンボ類10種、ガ類9種が目立っている。トンボ類では山間地の生息種、また移動性の強い種など、現状では生息環境、個体数などが大きく変わることがないと判断されたものである。ガ類は、調査の進展で新しい産地が発見されたことなどによるものである。

キマダラモドキは島根県未記録種として扱うべきとされ、キュウシュウエゾゼミは誤同定によるものであった。

ダイセンオサムシ隠岐亜種とマイマイカブリ隠岐亜種は現地ではまだ多いとされ対象外となったが、この2種が重要な地域個体群であることには間違いはない。分科会でも除外することに異論が出たことを明記しておく。

## 7. 衰亡する昆虫の系統

ここでいう系統とは、いわゆる南方系、北方系あるいは西部支那系、環日本海系といった生物地理上の系統である。詳しく論じるスペースはないが、チョウ類に限ってみれば、衰亡が著しいのは北方系の種である。20年以上前から草原性チョウ類（オオウラギンヒョウモン、ウスイロヒョウモンモドキ、ヒョウモンモドキ、ヒメシジミ、ゴマシジミ、ヒメヒカゲ、コキマダラセセリ、ホシチャバネセセリなど）の衰亡が指摘されていたが、これらはいずれも北方系の種であった。絶滅危惧Ⅰ類のシータテハ、キバネセセリ、ウラジャノメなどの森林性の種

も北方系種である。軽々には言えないが、いわゆる地球温暖化による最低気温の上昇が影響を与えている可能性もあると思われる。

## 8. 今後の課題

絶滅の恐れがあり、いままさに衰亡しつつある昆虫342種をリストアップしたあと、それを知った私たちは何をどうすればいいのだろうか。

高名なチョウ研究者として知られた小路嘉明は広島県のチョウの保護策として次のように提言した（小路, 1994, 1995）。すなわち、

- ①衰亡していると思われる種を認知する。
- ②衰亡の事実があるかどうか調べる。
- ③衰亡の原因は何かを調べる。
- ④適切な保護策を講じる。

これはもちろん一般的に俯瞰できるものであり、衰亡しつつある昆虫類の保護とは、その種の分布と生態を継続的に調査し、衰亡の原因となった要因を取り除く対策を講じることに尽きるのである。

そして、これができるのは、実はプロの昆虫研究者ではなく、アマチュアの昆虫同好者なのである。本稿では、鳥根県の昆虫研究の歩みをやや詳しく書いたが、鳥根県の多様性に富んだ昆虫相を解明し、分布や生態を詳細に調査し、衰亡の実態の大半を明らかにしてきたのは高校生を含むアマチュア・ナチュラリストの手によるものであった。もちろんこれは国内各地でも世界でも共通である。

趣味の昆虫採集は無償！で、未記録種を発見する、知られていなかった地理的変異を見出す、年次ごとの発生动向をモニタリングする、学界未知の生態を解明していく。その上で文献記録と貴重な標本が集積されることは学問的にも自然保護にも貢献できるものである。かつて、標本は分類学研究を目的として作成されてきたが、現在では高度経済成長時代からの自然破壊、環境激変を受け、過去と現在の変遷を具体的に知る自然史資料としての価値が高くなっている（しかし、前提として絶滅の恐れのある昆虫の採集には良識とマナーが必要であることはいうまでもない）。

絶滅の恐れのある昆虫類を保全していくことは無論だが、より重要なことはそれを含む多様性に富んだ昆虫類全体の保全であり、それは、生息環境が保全されるか否かに帰結する。多様な生態系の保全は地域の人々の手に託されている。その地域の人々はもとより多くの人に、そこに生息する種と環境保全の重要性を説き、理解を得て協力を得ることが、今に生きるナチュラリストに課せられた使命といえよう。

（淀江賢一郎）

注記1：

鳥根県内で具体的に「保護」施策がとられている昆虫類は次のとおりである。

- (1)国立公園特別保護地区：すべての昆虫が採集禁止（昆虫だけでなく、すべての動植物、土石、落葉などを含む）。
  - ・三瓶山（親三瓶山頂、室の内周辺など）
  - ・隠岐諸島（赤壁、国賀、白島、布施海岸、海苔田鼻、小敷原山周辺など）
  - ・鳥根半島（多古七ツ穴、潜戸鼻周辺など）
- (2)種の保存法（国内希少野生動植物種）
  - ・マルコガタノゲンゴロウ
  - ・シャープゲンゴロウモドキ
  - ・ヒョウモンモドキ※採集だけでなく、標本の譲渡、移動なども禁止
- (3)自然公園法（指定動物）
  - ・ウスイロヒョウモンモドキ（大山隠岐国立公園特別地域）
- (4)鳥根県天然記念物
  - ・ゲンジボタル（邑南町口羽）
- (5)鳥根県自然環境保全条例
  - ・ハッチョウトンボ、ヒメシジミ、ゴイシシジミ（赤名湿地野生動植物保護地区）
  - ・ギフチョウ、フタコブルリハナカミキリ、ホシベッコウカギバ（女亀山野生動植物保護地区）
- (6)鳥根県指定希少野生動植物
  - ・ダイコクコガネ、カワラハンミョウ
- (7)松江市文化財保護条例
  - ・ギフチョウ（星上山）
- (8)大田市自然環境保全条例
  - ・ウスイロヒョウモンモドキ（三瓶山）
  - ・ギフチョウ（大江高山）
- (9)雲南市文化財保護条例
  - ・ゲンジボタル（雲南市大東町の赤川水系全域）
- (10)雲南市ほたる保護条例
  - ・ほたる（雲南市大東町小河内、南村、中湯石、新庄、川井、下阿用）

注記2：

かつて希少昆虫調査では無視されていた身近な普通種のアキアカネ（赤トンボ）が、石川県、兵庫県ではこの数年で10分の1以下に激減しているという詳細な報告があることなどから、いわゆる普通種のデータ蓄積がますます重要となっている。

絶滅 (EX)

○ヒメシロチョウ

1種

絶滅危惧I類 (CR+EN)

- |   |   |  |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• コバネアオイトトンボ</li> <li>• マイコアカネ</li> <li>↑ タガメ</li> <li>• カワラハンミョウ</li> <li>• イソチビゴミムシ</li> <li>• シャープゲンゴロウモドキ</li> <li>• カバフキシタバ</li> <li>↑ ウラナミアカシジミ</li> <li>• ヒメシジミ本州・九州亜種</li> <li>• オオウラギンヒョウモン</li> <li>• シータテハ</li> <li>• クロヒカゲモドキ</li> <li>• コキマダラセセリ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>↑ モートンイトトンボ</li> <li>• コカワゲラ</li> <li>• トゲナベブタムシ</li> <li>• オオヒョウタンゴミムシ</li> <li>• マルコガタノゲンゴロウ</li> <li>• ダイコクコガネ</li> <li>○キマダラルリツバメ</li> <li>• クロシジミ</li> <li>↑ ゴマシジミ</li> <li>• ヒョウモンモドキ</li> <li>• ホシミスジ近畿地方以西亜種(注1)</li> <li>• ウラジャノメ</li> <li>• ホシチャバネセセリ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ヒロシマサナエ</li> <li>• カワラバッタ</li> <li>↑ ハラビロハンミョウ</li> <li>• イワタメクラチビゴミムシ</li> <li>↑ ゲンゴロウ</li> <li>• オオハナカミキリ</li> <li>• ルーミスジミ</li> <li>↑ シルビアシジミ (注1)</li> <li>↑ ウラギンスジヒョウモン</li> <li>• ウスイロヒョウモンモドキ</li> <li>• ウラナミジャノメ本土亜種</li> <li>↑ キバネセセリ</li> </ul> |
|---|---|--|

計38種

絶滅危惧II類 (VU)

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• オツネイトンボ</li> <li>↑ ネアカヨシヤンマ</li> <li>• キイロヤマトンボ</li> <li>• ズイムシハナカメムシ</li> <li>○サイカチマダラキジラミ</li> <li>• オキチビハネカクシ</li> <li>○ツヤネクイハムシ</li> <li>• オオズクロメバエ</li> <li>◇スジボソヤマキチョウ</li> <li>↑ ウスイロオナガシジミ</li> <li>↑ ミドリシジミ</li> <li>↑ ミスジチョウ</li> <li>• ギンイチモンジセセリ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• グンバイトンボ</li> <li>• ナゴヤサナエ</li> <li>↑ ハッチョウトンボ</li> <li>◇ゴミアシナガサシガメ</li> <li>○ハマベゴミムシ</li> <li>○オオツノハネカクシ</li> <li>• ニッポンハナダカバチ</li> <li>• ギフチョウ</li> <li>• カラスシジミ</li> <li>↑ オナガシジミ</li> <li>• クモガタヒョウモン</li> <li>↑ オオムラサキ</li> <li>◇スジグロチャバネセセリ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ベニイトトンボ</li> <li>• ハネビロエゾトンボ</li> <li>↓ コオイムシ</li> <li>• コエゾゼミ</li> <li>↓ コガタノゲンゴロウ</li> <li>↑ アオハナムグリ島前亜種</li> <li>• キバラハキリバチ</li> <li>• ジャコウアゲハ</li> <li>◇ミヤマカラスシジミ</li> <li>• ヒロオビミドリシジミ</li> <li>• メスグロヒョウモン</li> <li>• ヒメヒカゲ中部・近畿・中国地方亜種(注1)</li> <li>◇ミヤマチャバネセセリ</li> </ul> |
|--|--|---|

計39種

準絶滅危惧 (NT)

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• アオハダトンボ</li> <li>• ムカシトンボ</li> <li>• カトリヤンマ</li> <li>• タベサナエ</li> <li>○エゾトンボ</li> <li>◇ウスバカマキリ</li> <li>◇セグロイナゴ</li> <li>• マエグロハネナガウンカ</li> <li>• エゾゼミ</li> <li>• エゾハルゼミ</li> <li>• ヒメミズカマキリ</li> <li>• ウミミズカメムシ</li> <li>• アカスジオオカスミカメムシ</li> <li>• ヨツモンカメムシ</li> <li>↓ フタテンカメムシ</li> <li>• フトハサミツノカメムシ</li> <li>○イズモメクラチビゴミムシ</li> <li>○コオナガミズマシ</li> <li>• ルリクワガタ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ムスジイトトンボ</li> <li>• サラサヤンマ</li> <li>• ルリボシヤンマ</li> <li>• キイロサナエ</li> <li>• ヒメアカネ</li> <li>◇ハマズ</li> <li>○ヤマトマダラバッタ</li> <li>○シリアカハネナガウンカ</li> <li>• アカエゾゼミ</li> <li>• ヒメハルゼミ</li> <li>↓ ホッケミズムシ</li> <li>○オヨギカタビロアメンボ</li> <li>○アダチアカサシガメ</li> <li>• シロヘリツチカメムシ</li> <li>• アカアシクチブトカメムシ</li> <li>○ハマベウスバカゲロウ</li> <li>◎タイシャクナガチビゴミムシ(注2)</li> <li>◇ミズマシ</li> <li>• キンキコルリクワガタ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ホソミイトトンボ</li> <li>• アオヤンマ</li> <li>• ヒメサナエ</li> <li>• ムカシヤンマ</li> <li>• ミヤマアカネ</li> <li>◇ショウリョウバッタモドキ</li> <li>• ガロアムシ類</li> <li>• アヤヘリハネナガウンカ</li> <li>○ハルゼミ</li> <li>○エノキカイガラキジラミ</li> <li>○オオミズムシ</li> <li>• エサキアメンボ</li> <li>○ハマベナガカメムシ</li> <li>○ハマベツチカメムシ</li> <li>○アオクチブトカメムシ</li> <li>◇セアカオサムシ</li> <li>• コマルケシゲンゴロウ</li> <li>◇チュウブホソガムシ</li> <li>• ヒメオオクワガタ</li> </ul> |
|--|---|--|

- オオセンチコガネ
- ニセマグソコガネ
- オオチャイロハナムグリ
- ハガマルヒメドロムシ
- オオキノコムシ
- スネケブカヒロコバネカミキリ
- ◇ キンイロネクイハムシ
- キオビホオナガスズメバチ本州亜種
- ネジロハキリバチ
- オキナワリチラシ
- スカシサン
- ↓ ネズミホソバ
- ナマリキリガ
- ツクシカラスヨトウ
- コトラガ
- ◇ ゴイシシジミ
- フジミドリシジミ
- ↓ エゾミドリシジミ
- ↓ キリシマミドリシジミ
- アサマイチモンジ
- ◇ シナノエンマコガネ
- ◇ コブナシコブスジコガネ
- アヤスジミゾドロムシ
- ヨコミゾドロムシ
- マクガタテントウ
- ヨコヤマヒゲナガカミキリ
- スゲハムシ
- キヌゲハキリバチ
- シロスジコシブトハナバチ
- シロシモフリエダシヤク
- クロウスタビガ
- ホソバミツモンケンモン
- ムラサキミツボシキリガ
- ◇ コシロシタバ
- ◇ オナガアゲハ
- ウラゴマダラシジミ
- ↓ ウラジロミドリシジミ
- クロミドリシジミ
- スギタニルリシジミ
- ◇ オオチャバネセセリ
- ◇ ミツノエンマコガネ
- ◇ アカマダラハナムグリ(アカマダラコガネ)(注1)
- ケスジドロムシ
- ◇ イソジョウカイモドキ
- ベーツヒラタカミキリ
- イッシキキモンカミキリ
- ヤマトスナハキバチ
- チビトガリハナバチ
- ムネグロメバエ
- フジキオビ
- タッタカモクメシヤチホコ
- クビグロケンモン
- ヨスジキリガ
- クロシモフリアツバ
- ↓ ツマグロキチョウ
- ウラキンシジミ
- ハヤシミドリシジミ
- ヒサマツミドリシジミ
- ホシミスジ隠岐亜種

計116種

情報不足 (DD)

- コバネコロギス
- イソハサミムシ
- キスジハネビロウンカ
- ◆ カタビロクサビウンカ
- ヒメベッコウハゴロモ
- ミヤケミズムシ
- アシマダラアカサシガメ
- マダラカモドキサシガメ
- ウデワユミアシサシガメ
- ノコギリカメムシ
- エゾツノカメムシ
- アイヌハンミョウ
- ノツメクラチビゴミムシ
- オキナガゴミムシ
- マダラコガシラミズムシ
- ヒメミズスマシ
- クロコブセスジダルマガムシ
- ツマグロマルハナノミ
- マダラクワガタ
- ツノコガネ
- オキチャイロコガネ
- シラホシダエンマルトゲムシ
- ヤマトタマムシ
- ガロアムネスジダラコメツキ
- カドワキツヤミズギワコメツキ
- ルリヒラタムシ
- クロオオハナノミ
- クロソンホソハナカミキリ
- クロサワヒメコバネカミキリ
- ハタケノウマオイ
- ムネアカアワフキ
- アリヅカウンカ
- キノカワハゴロモ
- シャシャンボキジラミ
- イトアメンボ
- クロバアカサシガメ
- ヒゲナガサシガメ
- オオメダカナガカメムシ
- ウシカメムシ
- カワラゴミムシ
- コニワハンミョウ
- ササジメクラチビゴミムシ
- ウミホソチビゴミムシ
- ムツボシツヤコツブゲンゴロウ
- コミズスマシ
- ヤマトモンシテムシ
- ホソキマルハナノミ
- ネプトクワガタ
- クロオビマグソコガネ
- オオタケチャイロコガネ (注1)
- ババチビドロムシ
- アオマダラタマムシ
- オオベニホソヒラタコメツキ
- ヒメボタル
- キイロテントウゴミムシダマシ
- クロゲンセイ
- オオホソコバネカミキリ
- トラフホソバネカミキリ
- カヤコオロギ
- チッチゼミ
- キボシマルウンカ
- スケバハゴロモ
- ミズカメムシ
- キバネアシブトマキバサシガメ
- オオアシナガサシガメ
- クビアカサシガメ
- ヒメマダラナガカメムシ
- イシハラカメムシ
- コハンミョウ
- ホソハンミョウ
- マシダナガゴミムシ
- ウミミズギワゴミムシ
- マルケシゲンゴロウ
- エゾコガムシ
- ウマヅライソハネカクシ
- オニクワガタ
- ムネアカセンチコガネ
- セスジカクマグソコガネ
- アオアシナガハナムグリ
- ヒゲナガヒラタドロムシ
- クロマダラタマムシ
- ムネアカツヤケシコメツキ
- スジグロボタル
- オキツヤヒサゴゴミムシダマシ
- フタスジカタビロハナカミキリ
- ヒゲシロホソコバネカミキリ
- ルリボシカミキリ

- オオアオカミキリ
- モンクロベニカミキリ
- アヤモンチビカミキリ
- ◆ アサカミキリ
- バッキンガムカギアシゾウムシ
- クロホシタマクモゾウムシ
- ウマノオバチ
- ケンランアリノスアブ
- カラフトゴマフトビケラ
- モリクサツミトビケラ
- ハマゴウノメイガ
- ムネシロテンカバナミシヤク
- ワタナベカレハ
- スキバホウジャク
- ウスジロドクガ
- シロホソバ
- スギタニゴマケンモン
- クビジロツメヨトウ
- キスジウスキヨトウ
- ナマリキシタバ
- オオミドリシジミ
- ヤノトラカミキリ
- タキグチモモフトホソカミキリ
- ダイセンセダカコブヤハズカミキリ
- ヒメマルミツギリゾウムシ
- タカハシトゲゾウムシ
- モジヤモジヤツチイロゾウムシ
- ダルマアリ
- ネグロクサアブ
- ギンボシツツトビケラ
- ウジセトビケラ(ウジヒメセトビケラ)
- ギンツバメ
- トガリバナミシヤク
- オナガミズアオ
- ナカスジシヤチホコ
- ナチキシタドクガ
- ニセオオコブガ
- ゴマシオケンモン
- アヤモクメキリガ
- トビイロアカガネヨトウ
- ヨシノキシタバ
- キュウシュウチビトラカミキリ
- ◆ クビアカモモフトホソカミキリ
- ハンノキカミキリ
- ミツギリゾウムシ
- ババスゲヒメゾウムシ
- フクイアナバチ
- キバジュズフシアリ
- ゴヘイニクバエ
- ビワアシエダトビケラ
- アイミヤマシマトビケラ
- クロモンチビヒメシヤク
- フタキスジエダシヤク
- ギンボシズメ
- エゾクシヒゲシヤチホコ
- トラサンドクガ
- ヒメネグロケンモン
- ウスズミケンモン
- ムラサキハガタヨトウ
- ムラサキシタバ
- ヒメアシブトクチバ

計148種

今回の改訂により掲載対象外等となった種

|                 |                  |                   |
|-----------------|------------------|-------------------|
| オオカワトンボ (注3)    | マルタンヤンマ          | オオルリボシヤンマ         |
| アオサナエ           | クロサナエ            | コサナエ              |
| トラフトンボ          | タイリクアカネ          | コノシメトンボ           |
| キトンボ            | クツウムシ            | カヤキリ              |
| キュウシュウエゾゼミ (注4) | ハマダナガチビゴミムシ (注2) | ダイセンナガチビゴミムシ (注2) |
| ミスミメクラチビゴミムシ    | オキオサムシ (注3)      | オキマイマイカブリ (注3)    |
| ハマダラハルカ         | ウスベントガリバ         | ウスズミカレハ           |
| ヒサゴズメ           | コシロオビドクガ         | シロフヒメケンモン         |
| ウスアカヤガ          | アミメキシタバ          | ウスイロキシタバ          |
| テングアツバ          | オオウラギンスジヒョウモン    | キマダラモドキ           |

計30種

(注1) 今回の改訂で種名が変更になった種

| (前回改訂)      | (今回改訂)                  |
|-------------|-------------------------|
| シルビアシジミ本土亜種 | → シルビアシジミ               |
| ホシミスジ西日本亜種  | → ホシミスジ近畿地方以西亜種         |
| ヒメヒカゲ本州西部亜種 | → ヒメヒカゲ中部・近畿・中国地方亜種     |
| アカマダラコガネ    | → アカマダラハナムグリ (アカマダラコガネ) |
| ヒバチャイロコガネ   | → オオタケチャイロコガネ           |

(注2) 前回の改訂では「ハマダナガチビゴミムシ」、「ダイセンナガチビゴミムシ」と亜種ごとに記載していたが、近年他にも複数の亜種の存在が確認されていることから、今回の改訂では種として「タイシヤクナガチビゴミムシ」を掲載した。

(注3) 今回の改訂により掲載対象外となったが、現在の種名が前回改訂から変更されている種。

| (前回改訂)    | (現在の種名)        |
|-----------|----------------|
| オオカワトンボ   | → ニホンカワトンボ     |
| オキオサムシ    | → ダイセンオサムシ隠岐亜種 |
| オキマイマイカブリ | → マイマイカブリ隠岐亜種  |

(注4) 前回の改訂では「キュウシュウエゾゼミ」としていたが、「コエゾゼミ」の誤同定だったため、今回対象外とした。

- : カテゴリー区分変更なしの種 (205種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (17種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (9種)
- : 新規掲載種 (85種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (22種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (3種)
- ◎ : その他変更種 (1種)

チョウ目シロチョウ科

# ヒメシロチョウ

*Leptidea amurensis* (Ménétrières, 1858)

島根県：絶滅 (EX)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 11

### 【選定理由】

島根県から広島県境の呑谷峠（のんだにだわ）で1952年7月12日に平田信夫氏が採集した1オスが唯一の記録。その後、周辺は環境が一変し、現在は絶滅していると判断される。

### 【概要】

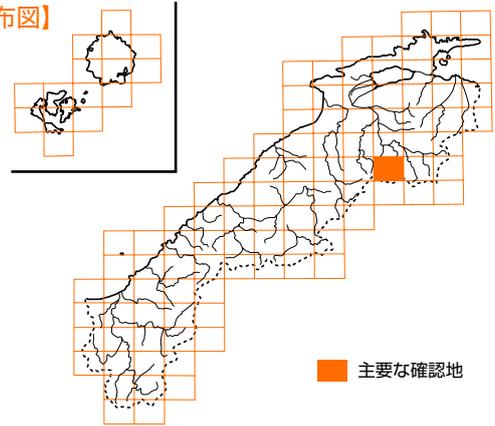
翅長20-24mm。食草ツルフジバカマの生える草地に生息。北海道、本州、九州に産するが西日本では広島県高野町、阿蘇山・九重山のみから知られていた。近年、倉敷市立自然史博物館に寄贈された平田信夫氏（元・松江高校教員）のコレクション中に「呑谷」ラベルの本種1オスがあり、これについて土橋重人・淀江賢一郎・奥島雄一の3氏が仔細に検討した結果、呑谷峠の島根県側で採集されたものに間違いがないことが判明した。

### 【県内での生息地域・生息環境】

旧・仁多町呑谷峠は、当時は放牧によって毛無山山頂から峠まで本種生息に適した大規模なシバ草原であった

が、現在は生息環境が失われ、絶滅していると判断される。広島県高野町でも1992年には絶滅したとされる。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |  |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|--|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |  |
| ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |  |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目アオイトトンボ科

# コバネアオイトトンボ

*Lestes japonicus* Selys, 1883

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

県内での分布がもともと限られる種であるが、近年、過去の産地のほとんどで生息の確認ができない状況。全国的にも減少が著しく、特に中部、関東地方では、ほとんどの県で絶滅状態である。微妙な環境変化が、本種の生息に大きなダメージを与え、他種に先駆けて絶滅するようである。

## 【概要】

全長38－44mm。金緑色があざやかな中型のイトトンボ。国産のアオイトトンボ属4種中、最小である。朝鮮半島・中国の一部に分布し、国内では青森から鹿児島まで分布するが、産地は局地的。

## 【県内での生息地域・生息環境】

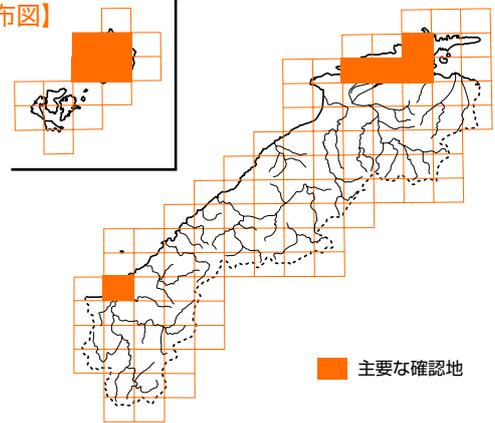
過去の記録は島根半島部と隠岐（島後）に集中している。一方を雑木林に囲まれた植生豊かで比較的大きな池沼に生息する。現在の確実な生息地は隠岐（島後）の油井ノ池だけで、ここ数年、本土側での記録が途絶えてい

る。

## 【存続を脅かす原因】

開発等による水域の植生環境の変化や背後林の消失。溜池改修等による長期間に渡る池沼の干し上げ。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    | ○  | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |

トンボ目イトトンボ科

# モートンイトトンボ

*Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

分布は幾分限られるものの、かつては県内で産地が散見されたが近年そのほとんどが消失。全国的にも西日本で減少傾向が著しく、絶滅したとされる県もある。

## 【概要】

全長22－32mmの小型のイトトンボ。オスは腹端部の鮮やかな橙色が目立ち、また眼後紋が弧状で、一見して他種と区別できる。未熟なメスは全身鮮やかな橙色であるが、成熟するにつれて黄緑色に変わり、腹部背面に黒条が現れる。5月中旬から6月下旬ごろが最盛期。交尾は早朝に行われ、メスが植物組織内に単独で産卵する。朝鮮半島から沿海州にかけて分布し、国内では北海道南端から九州南端まで分布。

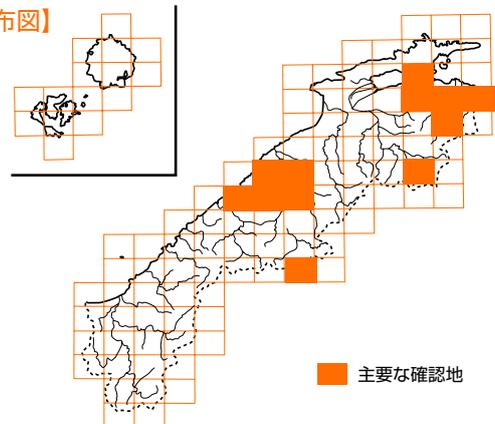
## 【県内での生息地域・生息環境】

平地から低山地にかけての湿地や休耕田等に分布するが、生息地が乾燥化、草原化する例が多く安定した産地はごくわずか。県西部と隠岐諸島では未記録。

## 【存続を脅かす原因】

造成等開発による生息地の消失や湿地の乾燥化、草原化。水田への農薬散布。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 湿地 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 湿地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    |      |    |    |    |     |    | ○  |    |      | ○  |    |    |      |    |    | ○  |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目サナエトンボ科

# ヒロシマサナエ

*Davidius moiwanus sawanoi* Asahina et Inoue, 1973

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：中国地方固有亜種

環境省：－

### 【選定理由】

県内からは約50年間記録がなかったが、2007年に益田市で新産地が発見された。現在この産地が、県内唯一の生息地であり、また国内における本種分布域の西限となっている。

### 【概要】

全長40-46mm。黒地に黄色い条斑を持つ小型のサナエトンボ。日本特産種モイワサナエの西中国地方亜種で、1954年5月に出雲市所原町で採集された1オスが本亜種の国内初記録であり、標本も現存。その後、広島県の八幡高原で多数の生息が確認され、広島産標本に基づき亜種記載された。

### 【県内での生息地域・生息環境】

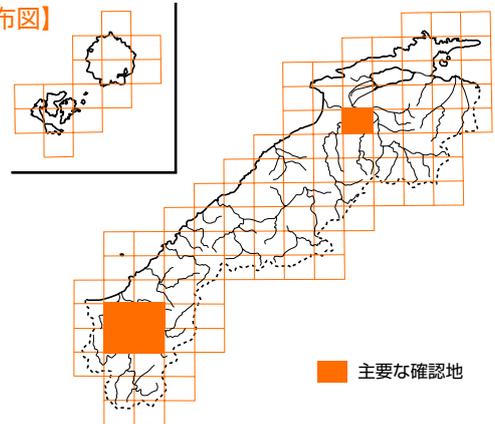
中国地方の他県の産地全てが、中国山地の分水嶺付近に形成された高標高 (alt.500~800m) の湿原等を流れる緩流であるが、益田市の生息地は低標高 (alt.100m前後) の里山的環境の溪流であり貴重。同様の環境は周辺

に少なくないことから、今後の新産地追加が大いに期待できる。

### 【存続を脅かす原因】

里山や山林開発による、生息環境の悪化や消失。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 小川  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 小川 | 森林 | 草原   | 農地 | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    | ○  |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    | ○  |    |      |    |    |    |    |    |    |    |

トンボ目トンボ科

# マイコアカネ

*Sympetrum kunkeli* (Selys, 1884)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

過去の記録によれば、県東部の平野部で比較的普通に分布していたことがうかがえるが、ここ数年県内からの記録が途絶えており絶滅も懸念される。全国的にも近年急激な減少傾向が指摘されている。

### 【概要】

全長29-40mm。小型でやや細身のアカトンボ。成熟オスでは顔面が青白色になる。ヒメアカネ、マユタテアカネに似るが、本種では翅胸部側面に短い黒色条があることで識別できる。朝鮮半島や中国北東部にも分布し国内では北海道から九州まで記録がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

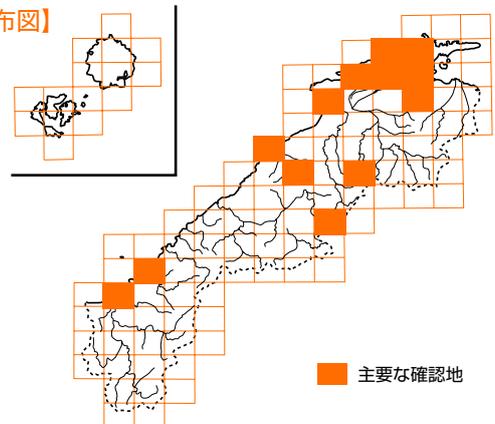
記録のほとんどが島根半島部周辺であり、中部・西部の沿岸部でも記録が散見される。おもに植生豊かな池沼に生息するが、本種は生息環境の変化に非常に敏感であり、生息地周辺の雑木林の伐採等わずかな環境変化であっても深刻な影響を受けてしまう。隠岐諸島では未記

録。

### 【存続を脅かす原因】

生息する池沼の植生環境や水質の悪化。生息地周辺の雑木林等の伐採。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 小川  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 小川 | 森林 | 草原   | 農地 | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    |

# コカワゲラ

*Miniperla japonica* Kawai, 1967

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：分布域局限種

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

斐伊川の中下流域が本種の唯一の確実な生息地とされているが、2000年以降は確認記録がなく、絶滅が危惧される。

**【概要】**

体長8mm前後の小型のカワゲラで、1属1種の日本固有種。基準産地である京都府宇治川では1958～1959年に確認されて後、記録が途絶えている。成虫は7～8月に灯火に飛来する。幼虫の確認は斐伊川下流域の1例のみで生態は未知な部分が多い。

**【県内での生息地域・生息環境】**

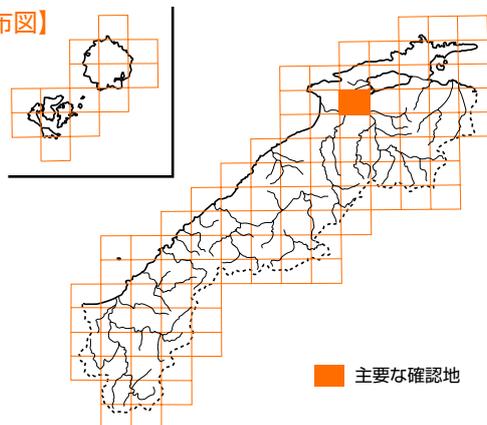
1997年に斐伊川で初めて生息が確認され、1998年に中下流域で広範に成虫、1999年に下流域の流水部の砂河床で幼虫が採集されている。しかしながらそれ以降は確認記録がなく、2006・2009・2010年には斐伊川中下流域において本種を対象とした生息調査が実施されたものの、確認に至っていない。経年調査による生息状況の把握、

幼虫の成育環境等の生態解明が急務である。

**【存続を脅かす原因】**

河川及び沿川の環境変化が考えられるが、生態未解明のため詳細は不明である。

**【分布図】**



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    | ○  |      |    |    |    | ○    |    |    |    |    |    |

# カワラバッタ

*Eusphingonotus japonicus* (Saussure, 1888)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内の分布は局地的であり、生息環境の変化により急激に生息数を減らす可能性がある。

**【概要】**

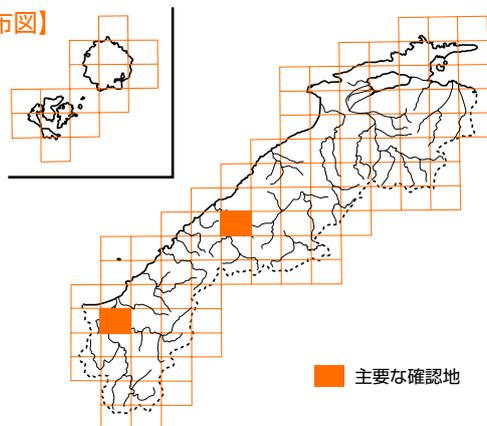
体長約25～45mm。体色は、灰色から青灰色に黒色紋を散布し、河原の礫に似た色彩を持つ。後翅中央部に褐色の半円帯があり、その内側は鮮やかな青色。中礫から大礫サイズの円礫が堆積し、草が疎らに生えるような河川敷に生息する。成虫は7～10月に出現し、河川からやや離れた場所の灯火に飛来することがある。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内では江の川水系と高津川水系に局地的に生息している。過去に記録のある斐伊川水系や隠岐諸島では、現在は確認できない。過去の隠岐諸島における分布が確実であるとすると、現在は絶滅したとみられる。

洪水が起こらないことによる礫河原の草地化。大規模洪水が発生し後の復旧工事による河床礫の移動や除去。

**【分布図】**



**【存続を脅かす原因】**

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| △    | ○  | ○  | △  |      |    | ○  |    |      |    |    | ○  |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目コオイムシ科

# タガメ

*Lethocerus deyrollei* (Vuillefroy, 1864)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵11

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

県内では隠岐諸島も含めて広く分布するが、生息地の減少が著しく、灯火に飛来する個体の確認例も少なくなっている。危機的な状況である。

## 【概要】

体長48－65mm前後で日本最大の水生昆虫である。平野部から山間地の池や水田、休耕田、湿地などの止水域に生息している。成虫のオスが卵を守る習性がある。国外ではシベリア、朝鮮半島、台湾、中国、アッサムに分布し、国内では本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布する。

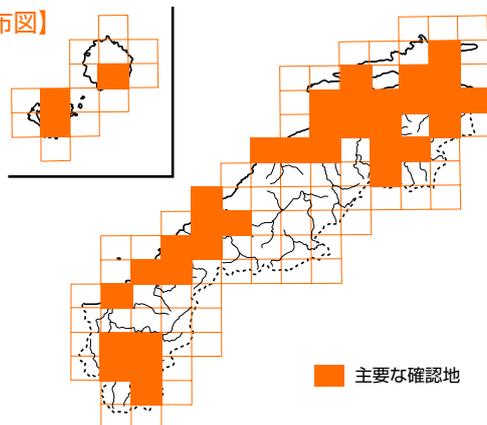
## 【県内での生息地域・生息環境】

県内では各地に広く分布しているが、生息地そのものは少ない。水生植物の豊富な池や湿地でみられることが多いが、個体数の多い地域ではさまざまな止水域に生息している。特に水田は繁殖場所として重要な環境である。灯火へ飛来することがある。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移、農薬を含めた水田管理方法の変化、灯火に飛来した個体の轢死、採集。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    | ○  |      |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |

カメムシ目ナベブタムシ科

# トゲナベブタムシ

*Aphelocheirus nawae* Nawa, 1905

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

全国的にみても希少性が高く、生息環境の悪化による絶滅が危惧される。県内では西部で1カ所の産地が確認されているのみである。

## 【概要】

体長8.5－10mm前後。流速があり、底に砂や細礫のある水路や川に生息する。近縁種のナベブタムシとは腹背腺や前胸背などの特徴で見分けることができる。本州・九州、国外では朝鮮半島に分布するが国内では西日本に偏る。島根県では1998年に初めて発見された。

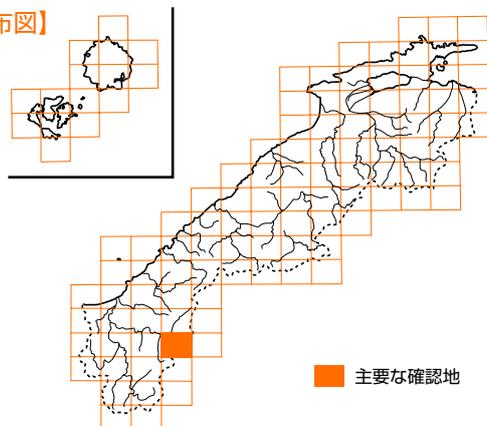
## 【県内での生息地域・生息環境】

県内では益田市匹見町の1水路で採集されている。しかしこの水路は2012年の調査では、3面コンクリート化され底の細礫がほとんどなくなっており、本種は見つからなかった。かつては多産した同属のナベブタムシも見られなくなった。本県では新たに生息地が確認されなければ、絶滅した可能性が大きい。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川・水路の改修。水中の溶存酸素量の減少や泥の堆積は本種の生存に悪影響を与えることが予想される。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    | ○  |    |      |    | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目ハンミョウ科

# ハラビロハンミョウ

*Cicindela sumatrensis niponensis* Bates, 1883

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

砂質海岸の河口付近に生息するハンミョウで、県内の生息地が限られ、孤立化して個体数も少なく絶滅が危惧される。

## 【概要】

体長 12-14mm。銅色で溝や点刻などは青緑色を帯び、上翅に黄白色で屈曲した帯紋がある。成虫は 5～9月に砂質海岸の河口部に出現し活動する。本州(中部以西)、九州、種子島などの限られた砂質海岸に分布するが、各地で減少が顕著といわれる。

## 【県内での生息地域・生息環境】

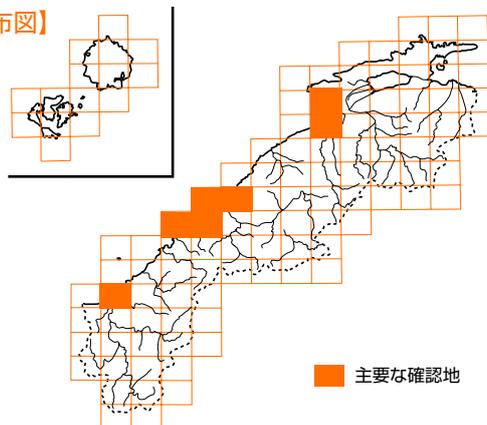
出雲海岸から益田海岸までの数カ所で生息が確認されている。生息地は背後に海浜植物の植生がある砂質海岸で、春季越冬成虫、夏季に新成虫が出現する。河口の河川側が活動域で、成虫は水際の湿った砂浜を敏捷に歩行する。幼虫は水辺に近い砂浜に巣穴をつくる。生息地であった神戸川河口、差海川河口は、近年は生息が確認さ

れていない。

## 【存続を脅かす原因】

大規模工事による砂浜の攪乱、堆砂の移動、砂浜の縮小、漂着物の堆積。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ◎  | ◎  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  | ◎  |

コウチュウ目ハンミョウ科

# カワラハンミョウ

*Cicindela laetescripta* Motschulsky, 1860

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

砂質海岸の河口付近の砂浜などに生息するハンミョウで、限られた生息地は孤立化し、個体数もきわめて少なく、絶滅が危惧される。

## 【概要】

体長15mm前後。上翅は白に銅緑色の模様があり地域によって模様に変異がある。細砂の河口や砂丘海岸に生息し、成虫は 7～8月に出現する。砂上を敏捷に歩行し、近づくと飛翔する。北海道、本州、四国、九州に分布し全国的に激減している。

## 【県内での生息地域・生息環境】

江の川以西の砂質海岸に局所的に生息するが、個体数はきわめて少ない。春季に越冬成虫、夏季に新成虫が出現し、水辺からやや離れた開けた砂浜を敏捷に歩行する。幼虫も成虫が活動する砂浜に巣穴をつくる。

## 【存続を脅かす原因】

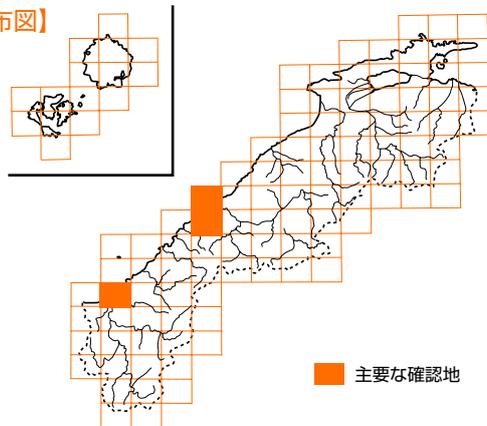
大規模工事による砂浜の攪乱、堆砂の移動、漂着物の

堆積のほか、海浜植物の繁茂による砂浜の縮小。

## 【特記事項】

平成24年3月6日島根県条例に基づく指定希少野生動物植物に指定されたため採集は禁止されている。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ◎  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ◎  | ○  |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目オサムシ科

# オオヒョウタンゴミムシ

*Scarites sulcatus* Olivier, 1795

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

砂質海岸に生息する大型のヒョウタンゴミムシで、全国的に減少しており、県内でも生息地が限られ、個体数も少なく絶滅が危惧される。

## 【概要】

円筒形で体長 28-38mm。全体が黒色で光沢がある。砂質海岸やそれに隣接する場所に生息し、成虫は5~10月に出現する。夜行性で日中は漂着物の下や地中の孔道に潜み、夜間に地表を徘徊して他の昆虫などを捕食する。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、台湾、東南アジアなどに分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

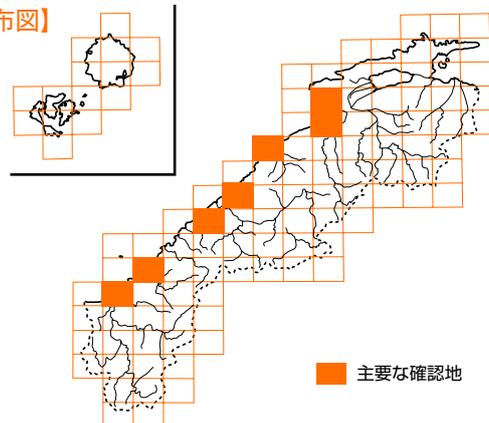
浜山公園を含む出雲海岸から益田海岸に至る砂質海岸で、生息が確認されているが個体数は少ない。汀線から離れた海浜植物の植生地から背後の防風林内の砂地が生息域となっており、出雲海岸では防風堆砂垣付近に多く見られたが破損埋没した。また、隣接する道路の側溝

に落ちている個体も少ない。

## 【存続を脅かす原因】

松枯れ防除の農薬散布、防風林の荒廃・消失。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ◎    | ◎  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    | ○  | ○  | ○  |    |

コウチュウ目オサムシ科

# イワタメクラチビゴミムシ

*Daiconotrechus iwatai* S.Uéno, 1970

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

松江市（大根島）にある玄武岩質の火山洞窟（竜溪洞）を基準産地とする大根島の固有亜属で、同島の地中環境が変化した場合、キョウトメクラヨコエビなど、他の地下性種とともに絶滅する危険が大きい。

## 【概要】

体長約3mm。黄褐色で扁平。複眼は完全に退化。背面に10対の長剛毛を有し、触角は長い。ダイコンメクラチビゴミムシ属（以下、チビゴミムシを省略）は、ノコメクラ属とチョウセンメクラ属の中間形態を示す属で、2007年に長崎県の対馬でホソメクラ亜属の2新種が記載され、本種と併せて3種を含む属となった。島根半島でノコメクラ属の新種（イズモメクラチビゴミムシ）が見つかったことと併せてチビゴミムシ属の系統と進化を考えるうえで本種の重要性はより高まっている。

## 【県内での生息地域・生息環境】

本種が確認されているのは松江市（大根島）の竜溪洞

のみ。これまでに計10個体が採集されている（1970年2個体、1979年2個体、1997年1個体、2002年2個体、2005年2個体、2008年1個体）。幼虫は未知。地下適応が進んだ種であり、分布域は竜溪洞を含む大根島の地下空間の一部と考えられる。具体的な範囲は明らかではないが、同島のほかの洞窟（幽鬼洞）で見られないことから島内全域に分布しているわけではない。洞内では湿潤な泥上に転石があるような環境で見つかることが多く、特定の微環境を選好している可能性が高い。

## 【存続を脅かす原因】

周囲を中海に囲まれている大根島の地形特性から地下水水質の変化は脅威となり得る。また本種の生息に地下の微生物相が関与している可能性があることから、地表からの肥料などの薬剤浸透による微生物相の変化にも注意を要する。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    | ○  |    |    |    |

コウチュウ目オサムシ科

# イソチビゴミムシ

*Thalassoduvallius mashidai mashidai* Uéno, 1956

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

周布川河口で発見されたチビゴミムシで、島根半島で再発見されたが、不安定な潮間帯の岩礁に生息し、絶滅が危惧される。

## 【概要】

体長4.6-4.9mm。浜田市周布川河口で発見され、新属新種として記載された。全体が褐色で頭部が大きく、上翅は丸味が強い。満潮線の近くの大きな石の下や積み重なった礫の底で、真水が海にしみ込むような場所を好むといわれる。愛媛県宇和島、神奈川県真鶴岬、伊豆大島などに別亜種が分布する。

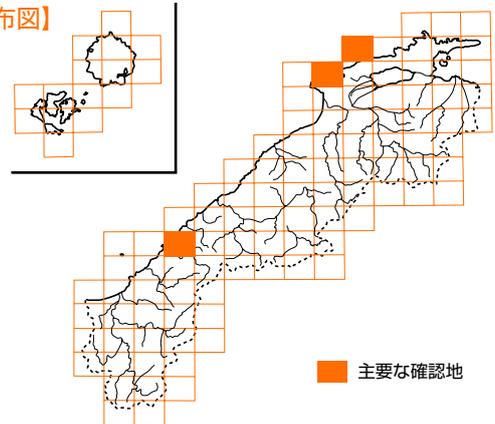
## 【県内での生息地域・生息環境】

周布川河口左岸の岩場で、こぶし大の小石が堆積した下の海水中から採集された。その後は長らく未発見であったが近年島根半島の海岸2カ所で再発見された。背後地の崖から淡水がしみ出すような岩礁地の礫の隙間や波打ち際の礫間で採集されている。

## 【存続を脅かす原因】

大規模工事による礫浜の改変、漂着物の堆積など生息環境の悪化。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 | 岩礁 |
| ○    |    | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    | △  | ◎  |

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# マルコガタノゲンゴロウ

*Cybister lewisianus* Sharp, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

本種は国内ではもっとも絶滅の可能性が高いゲンゴロウの1つで、とりわけ西日本の個体群はきわめて危険な状況にある。県内では数例の記録があるのみである。

## 【概要】

体長21-26mm。背面は暗緑色で前胸背板・上翅に黄色の縁取りがある。腹面は全体に黄色。体は卵形で丸みが強い。似ているコガタノゲンゴロウの腹部は全体に黒色を帯びる。生息場所は、水生植物の多い池などの止水域である。比較的、大きな池に生息することが多い。

本種は中国、インドシナに分布し、国内では本州と九州に分布する。本州での分布は青森県から山口県までと広い。

## 【県内での生息地域・生息環境】

松江市では1955年の記録が残されている。2003年秋に県東部で採集された1頭が近年の確実な記録である。その後、県中部でも記録がある。県内での分布状況や生息

環境については不明な点が多く、調査が必要である。しかしながら、本種の生息可能な止水域環境の条件は、非常に限られている可能性が高く、何らかの環境の変化により絶滅するおそれがある。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、移入生物（特にオオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニ）の侵入・繁殖、違法な採集。

## 【特記事項】

本種は「種の保存法」により2011年に国内希少野生動物種に指定されており、捕獲だけでなく、標本等の譲渡や貸借も許可無くすることはできない。生息状況を確認した上で具体的な保全措置を取る必要がある。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 | 岩礁 |
| ○    | ○  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○    |    |    |    |      | △  |    |    |    |    |    |

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# ゲンゴロウ

*Cybister chinensis* Motschulsky, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

かつてはふつうにみられた水生甲虫である。しかし、現在は激減し自然度の高い止水域で確認されるのみであり、絶滅が危惧される。近年の確認例は著しく減少しており、危機的な状況である。

### 【概要】

体長34－42mm前後。前胸背板・上翅に黄色の縁取りがあり、腹面は全体に黄色だが、中央部は暗色。オスの上翅表面は平滑だが、メスには細かなシワ状の溝がある。水生植物の多い溜池や水路、水田などの止水域をおもな生息地としている。

国外では朝鮮半島、台湾、中国、シベリアに分布する。国内では、北海道、本州、四国、九州に広く分布し、垂直分布も広い。日本の代表的な大型水生甲虫であるが、全国的に減少傾向が著しく各都道府県のレッドデータブックに掲載されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | △  |      |    |    | ○  |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      | △  |    |    |    |    |

隠岐諸島では古い記録があるが、詳細は不明である。本土側では各地に分布しているが、産地は山間部など局地的である。とりわけ、平野部での生息は絶望的な状況である。浮葉植物や抽水植物の豊富な溜池などの止水域が県内でのおもな生息環境である。本種が生息する止水域には、微少種から大型種までのゲンゴロウ科やガムシ科、水生半翅類など多種多様な水生昆虫類が生息していることが多く、その生息環境は種多様性からみても貴重である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、移入生物（ウシガエル、オオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニ）の繁殖。水田の管理方法の変更。採集。

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# シャープゲンゴロウモドキ

*Dytiscus sharpi* Wehncke, 1875

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

### 【選定理由】

県内では中部や西部で数カ所の産地が確認されているのみであり、生息環境の悪化や消滅による絶滅が危惧される。近年の確認例がないことも憂慮すべき状況である。また、全国的にみても希少性が高い大型種のゲンゴロウである。

### 【概要】

体長28－33mm前後。コナギやオモダカ、ヒルムシロなどの生えた泥深い湿地や水路などに生息し、特に湿地化した放棄水田は本種のもっとも好む環境である。日中は泥に潜っていることなどから、他のゲンゴロウ類に比べて発見されにくい。

本種は日本固有種であり、本州・佐渡に分布する。1990年代前後に生息が確認されている県は千葉、新潟、富山、石川、滋賀などである。島根県では1992年に初めて発見されたが、2001年に確認されたのが最後で、その後は新たな生息地も含めて確認されていない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では溜池で生息が確認されている。新たに生息地が確認される可能性はあるが、放棄水田などの湿地は遷移の進行により数年から数十年で乾燥化し、生息できなくなってしまう。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移、違法な採集。

### 【特記事項】

本種は「種の保存法」により2011年に国内希少野生動物種に指定されており、捕獲だけでなく、標本等の譲渡や貸借も許可無くすることはできない。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    |      |    |    | ○  |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目コガネムシ科

# ダイコクコガネ

*Copris ochus* (Motschulsky, 1860)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 13

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

本種は全国的に減少傾向にあり、本県でも生息地は局限される。今後、牧畜形態の変化によっては絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長18-28mm。黒色で光沢は鈍い。オスは、頭部に後方に反った1本の大きな角を持ち、前胸背板にも2対の突起があるが、小型なオスになるほど目立たない。メスは頭部に板状の横隆起と前胸背板に弧状に突出した横隆条と1対のくぼみがある。成虫は、5~10月に発生する。牛糞下に坑道を掘り、育児室を作って数個の糞球を作り産卵する。シベリア、モンゴル、中国、朝鮮半島、北海道、本州、四国、九州、佐渡島、伊豆諸島、壱岐島、対馬、大隅諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は、三瓶山の放牧地にのみ生息が確認されている。

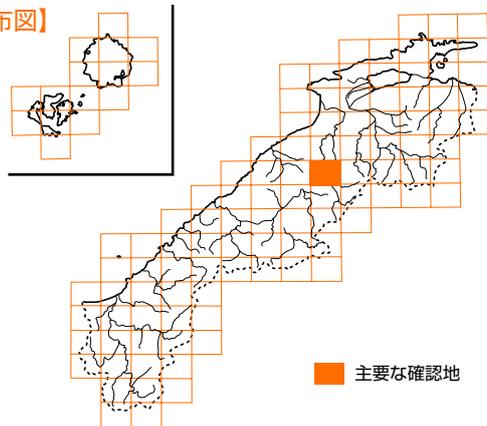
### 【存続を脅かす原因】

生息地での牧畜形態の変化。採集圧の増加。

### 【特記事項】

平成22年12月に島根県条例に基づく指定希少野生動物に指定されたため採集は禁止されている。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ◎    |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目カミキリムシ科

# オオハナカミキリ

*Kanoa granulata* (Bates, 1884)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 13

島根県固有評価：分布限界種 (西限)

環境省：-

### 【選定理由】

日本特産種で冷温帯地域に生息する。本県では島根半島の枕木山周辺の低標高地に生息し、特異な分布であるとともに分布西限でもある。

### 【概要】

体長15-23mm。頭・胸部は黒色、上翅は暗赤色。全体が灰黄色の微毛を有する。成虫は5~8月に出現し、アカメガシワ、リョウブなどの花に飛来する。北海道、本州に分布。全国的にはブナ帯で生息している例が多い。幼虫の食樹種はブナ、モミ、アカマツからの発生記録がある。県内では、近年も島根半島部で少数採集されている。この地域では松くい虫被害によって大径のアカマツがほとんど消失している。モミは大木が残存しており、寄生樹種である可能性が高い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

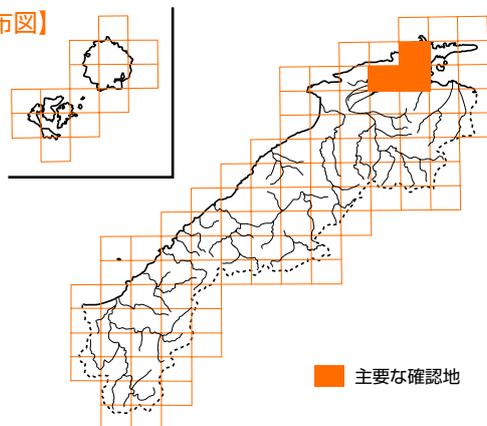
おもに島根半島東部で採集記録がある。古くは市街地での記録があるほか、平地の広葉樹林でも採集記録があ

る。

### 【存続を脅かす原因】

生息域での森林伐採、特に寄生樹種であるアカマツ、モミの大径木を有する生息環境の消失。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    | ○    |    |    |    |      | △  |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヤガ科

# カバフキシタバ

*Catocala mirifica* Butler, 1877

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

## 【選定理由】

国内および県内での生息地がきわめて限定され、個体数も少ない。

## 【概要】

前翅長26mm内外。前翅はキシタバ類に多い樹皮模様で、灰青色を帯びる。中央から翅頂部にかけては、前縁に接して、広い暗色部分がある。

成虫は7～8月に出現し、灯火や樹液に飛来する。また果樹にもやって来るといふ。幼虫の食樹はカマツカが知られる。

本州および四国に分布するが、局地的で、国内に産するキシタバ類のなかで、姿を見るのがもっとも困難な種といわれている。国外では中国に分布。

## 【県内での生息地域・生息環境】

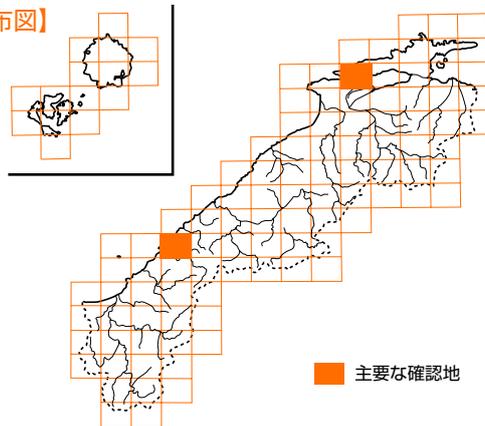
島根半島西部および県西部のやや海寄りの地域での古い採集例があるだけで、記録も途絶えている。生息環境が海寄りの地域のみともいいがたい。今後も調査を行い、

生息実態を把握する必要がある。

## 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む良好な林の消失。

## 【分布図】



主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| △    |    | △  |    |      |    |    |    | △   |    |    |    |      | △  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# キマダラルリツバメ

*Spindasis takanonis* Matsumura, 1906

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵13

## 【選定理由】

生息地は限定され個体数も少ない。

## 【概要】

翅長13-17mm。朝鮮半島、本州（北限は岩手県、西限は広島県）に分布。クロマツ・ニセアカシア林、ソメイヨシノ・アカマツ林、クリやキリなどが混じる雑木林、カシワ林の4パターンの生息環境がある。年1回6月中旬から7月にかけて発生。夕刻、梢の先で占有行動をとって敏速に飛びまわる。鳥取市では天然記念物に指定されている。ムネジワハリブトシリアゲアリと共生して幼虫期（7令）をおくる。

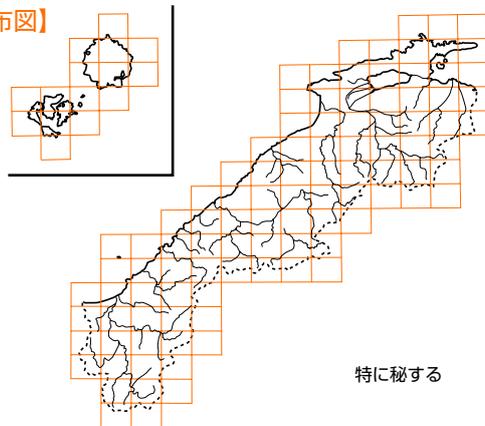
## 【県内での生息地域・生息環境】

安来市伯太町で1965年6月1日に板垣治氏が採集した1オスが唯一の採集記録。その他、三瓶山（伊藤宏氏）、匹見峡（山田学氏）でも確かな目撃記録があり、再確認が望まれている。出雲市と六日市町の古い記録には疑問点があり、引用すべきでない。

## 【存続を脅かす原因】

安来市伯太町の山の反対側の生息地（鳥取県米子市奈喜良）では農薬空中散布によって滅びた。シリアゲアリが巣をつくる樹木とその周辺の林の保全が必要である。

## 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | △  | △  |    | △    |    |    |    | △   | △  | △  |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ルーミスシジミ

*Panchala ganesa loomisi* (H. Pryer, 1886)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

西日本の照葉樹林（常緑広葉樹林）に生息するが、その生息地は局限される。県内では隠岐（島後）が唯一の生息地で、個体数も減少傾向。

### 【概要】

翅長13-15mm。国内の確実な生息地は千葉県清澄山、山口県長門峡、和歌山県古座川町、鹿児島県屋久島など数カ所。奈良県春日山では国の天然記念物に指定されていたが、薬剤散布で絶滅した。アカガシが混じる常緑広葉樹の渓谷に生息する。具体的には、兩岸は切り立って険しい斜面となり、川はゆるやかに流れ、カシ類が鬱蒼とおおい茂り、風通しの悪いという条件の渓谷。7月中旬に羽化し、そのまま成虫で越冬、翌年5月ごろから活動を再開、食樹アカガシの新芽のりん包内部に1卵ずつ産卵する。年1化である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）での野外観察では、アカガシの高所樹冠

に潜んでいることが多く、目撃は容易でない。しかし、気温が30度を超す日には、暑さを避けるように谷底に降りてきて、時に吸水もする。隠岐（島後）の生息地は、全国各地の生息地と比較して規模はごく小さく、近年の道路工事による伐採などで、危機的状況に陥っている。一度消滅すると二度と回復することがないため、アカガシ原生林を破壊する大規模な伐採・植林や林道開発などは厳重な注意が必要である。

隠岐諸島における最初の発見者は木村康信氏である。

なお1950年代に三瓶山や大田市近郊で採集記録が残されているが再確認されておらず、また、上記した特殊な渓谷環境が見い出せず疑問がある。

### 【存続を脅かす原因】

高標高地の林道建設や大規模な植林によるアカガシの混じった自然度の高い照葉樹林の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    |    | ○  | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ウラナミアカシジミ

*Japonica saepestriata* (Hewitson 1865)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【選定理由】

生息地・個体数とも著しく減少している。

### 【概要】

翅長18-22mm前後。山地のクヌギを含む疎林や林、平地、低山地のクヌギ、コナラ、ナラガシワなどを含む雑木林に生息しているが、クヌギへの依存度が強い。平地では6月に発生、山地では7月でも見られる。山陰ではアカシジミと混生するところもあるが、本種のほうが少し遅れて発生する。日中は脅かさないと思われ飛ぶことは少ないが、夕方から活発に飛び回る。

### 【県内での生息地域・生息環境】

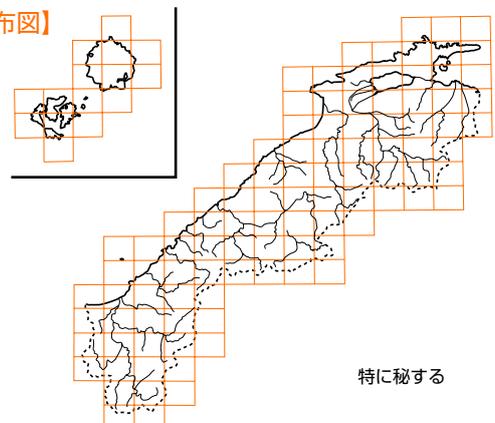
県内ではもともとクヌギ林に乏しいこともあり、西部（六日市町など）、東部（大東町など）にわずかに記録があったのみで、近年県内における本種の目撃記録はないようである。

古木ではなく若木を好むため、人為による定期的な雑木林の更新が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

クヌギ林を含む雑木林の手入れ不足による荒廃。雑木林（二次林）は適切な伐採更新によって生態系が維持される側面がある。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# クロシジミ

*Niphanda fusca* (Bremer et Grey, 1853)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

1990年代から急激に生息地、個体数とも減少している。

### 【概要】

翅長20-22mm。本州、四国、九州に分布するが、生態が特異なため局地的。6月下旬から8月にかけて発生、山地のカシワ・クヌギの疎林、アキグミの生えた草原などが生息地。開発や伐採で人手が入りやすく、また植生遷移が進行しやすいなどの不安定な環境に多い。

メスは下草にいるが、オスは樹上に静止、夕方には敏速に飛び回る。ともにノアザミ、ヒメジョオン、オカトラノオなどで吸蜜する。産卵する草木はさまざま、隠岐ではアキグミ。そこには必ずグミキジラミがいる。クロヤマアリ（知夫里島）、クロオオアリが近くにいることが条件となり、産卵するメスは近くの草木に止まり、アリの様子をうかがいながら、キジラミの近くに産卵する。やがて孵化した幼虫はキジラミの分泌物をなめ、幼虫自身が分泌物を出すようになると、アリに巣へ運ばれ、

アリに餌をもらい成長し、翌年蛹になり巣から出て翅を伸ばす特異な生態をもつ。

### 【県内での生息地域・生息環境】

玉造は1960年代、三瓶山では1990年代以降の正式な報告はなく絶滅している可能性がある。1990年代以降確認されている生息地は隠岐（知夫里島、西ノ島）のみ。隠岐（島前）は牧畑という放牧場が1,000年以上にわたって維持・更新されており、良好な生息地となっていた。

隠岐島産は特異な地域個体群であり、特別な保全が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

計画的な雑木林、草地の更新が必要である。10年ほど前から隠岐（知夫里島）では、放牧場を近代的に整備するため除草剤によってアキグミが除去されるなど、憂慮される事態がおきている。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | △  |    | ○  |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# シルビアシジミ

*Zizina emelina emelina* (de l'Orza, 1869)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

産地が局地的で、1990年代から著しく個体数が減少している。

### 【概要】

翅長10-12mm。5月上旬ごろ第1化が現れ10月ごろまで年4回の発生と思われる。ヤマトシジミに酷似し、混生するが、後翅裏面の黒斑の並びで識別できる。食草ミヤコグサが繁茂するシバ状の草地に見られる。食草の花やウマゴヤシ、カラスノエンドウなどで好んで吸蜜し、時には吸水もする。

### 【県内での生息地域・生息環境】

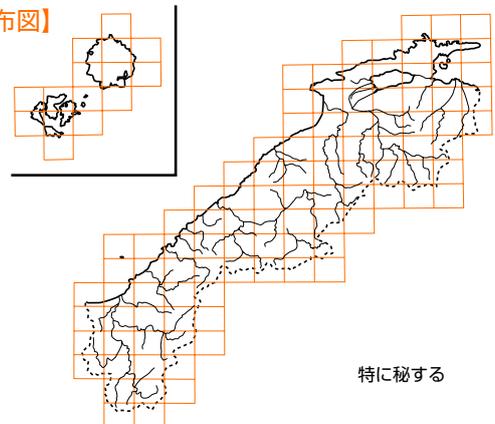
生息環境は牧場、河川堤防、海岸岩場の狭い草地など。旧・島根町、旧・大社町の日本海の潮をかぶるような岩場の発生環境は全国的にもまれであるために採集圧を受けている（西田秀行氏の発見）。高津川、江の川、周布川などの河川敷や堤防は草刈りを行う時期や範囲に工夫が必要と思われる（10月に一斉に広範囲に刈り取らない

など）。隠岐（知夫里島、西ノ島、中ノ島）の牧場にも生息している。

### 【存続を脅かす原因】

草地の荒廃、植生遷移。採集圧も大きい。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○    |    |    | ◎  |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ヒメシジミ本州・九州亜種

*Plebejus argus micrargus* (Butler, 1878)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

中山間地から山地の湿性草地に生息するが、生息地は限定され個体数も少ない。

## 【概要】

翅長13-17mm。北海道では溪流沿いの河川敷で発生したり、中部地方では2,000m辺りの乾燥草原でも見られるが、中国地方ではおもに中国山地沿いの湿性草原に見られる。年1回6月中旬から7月にかけて発生。オスとメスは翅の色が異なる。飛翔はゆるやかで草地を低く飛び、アザミ、オカトラノオなどで吸蜜する。

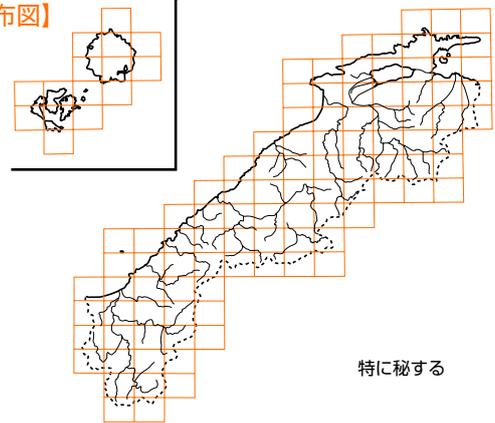
## 【県内での生息地域・生息環境】

旧・赤来町、旧・瑞穂町、雲月山の山頂部、旧・匹見町、旧・金城町など、狭い草地にわずかに残るのみである。近年、旧・仁多町でも発見されたが、おそらく隣県の広島県庄原市高野町からの飛来個体による一時的な発生と考えられる。赤名湿原では条例で採集が禁止されている。県内で確認されている食草はキセルアザミ。

## 【存続を脅かす原因】

湿原の埋立（産廃処分場）や乾燥化、草原の荒廃。温暖化も影響があるのではないと思われる

## 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    | ○  |    |      | ○  |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ゴマシジミ

*Maculinea teleius kazamoto* (H. Druce, 1875)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

生息地も限定され、2000年代から著しく個体数が減少している。全国的にも減少が著しい。

## 【概要】

翅長18-22mm。ワレモコウのある草地に8月に発生するが、食草があっても見られないところが多い。有名な生息地、鳥取県大山山麓では、周囲に林がある急斜面の草地、田畑と山道に段差があり草の中にワレモコウが見られる場所に発生している。幼虫はワレモコウを食べ、途中からシワクシケアリの巣の中で、アリの幼虫を食べ、成長するという。

## 【県内での生息地域・生息環境】

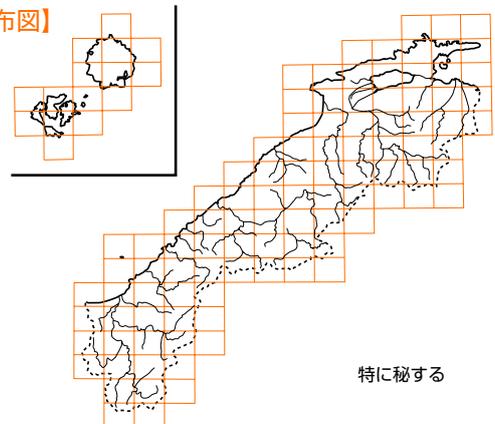
東部、中部の山地（邑南町、飯南町、奥出雲町など）に局地的に分布しているが、生息地は田畑ノリ面や道路際、林縁などのごく狭い範囲で個体数も少ない。遷移によって樹木が進出し、ワレモコウ自体が消滅していく傾向がある。アリと共生する特異な生態のため、保全が困

難な種でもある。

## 【存続を脅かす原因】

草地の荒廃、植生遷移。採集圧もある。

## 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    |      | ○  |    |    |     | ○  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目タテハチョウ科

# ウラギンスジヒョウモン

*Argyronome laodice japonica* (Ménétrières, 1857)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

以前は人里近くで普通に見られた種であったが、1980年代より個体数が激減している。

## 【概要】

翅長28-37mm。6月中旬ごろ発生、林周辺の明るい草地で見られ、アザミやオカトラノオなどの花で吸蜜する。盛夏には夏眠し秋に再び現われ産卵、卵または1令幼虫で越冬する。1970年代は普通種のため注目されることはなかった。しかし、その後、急速に姿を消しつつある。

## 【県内での生息地域・生息環境】

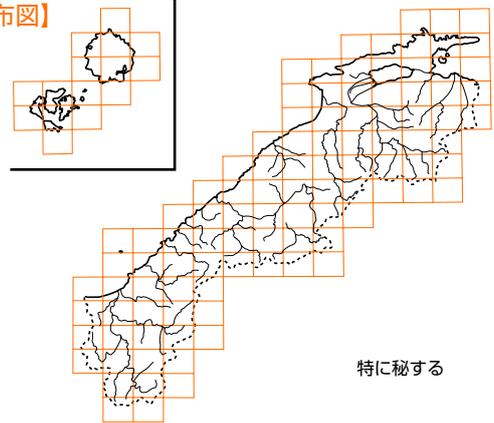
薪利用などで適度な伐採が入り、チョウ生息に良好な里山が、エネルギー改変により放置され、荒廃（遷移の進行）するにつれ減少した。1996年安来市の調査では、里山周辺の草地で少ないながら観察されていたが、現在では遷移が進み確認できない年が続いている。県全域で、なぜ激減しているのがはっきりとした要因がわからず、県内での発生状況や生息環境の詳しい調査が必要と思わ

れる。

## 【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の手入れ不足による荒廃。農薬。

## 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      | ○  |    |    |      | ○  |    |    |      |    | ○  |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目タテハチョウ科

# オウウラギンヒョウモン

*Fabriciana nerippe* (C. et R. Felder, 1862)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

1970年代以降急激に減少し、絶滅がもっとも危惧される種になっている。

## 【概要】

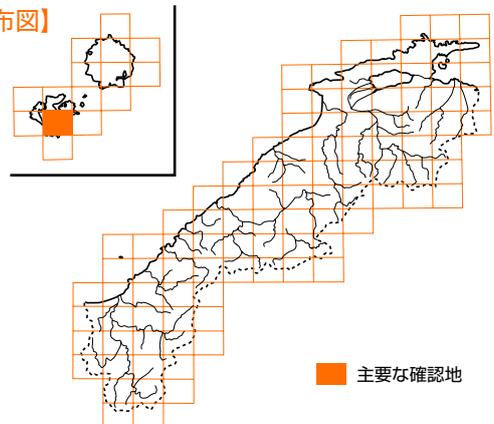
翅長33-42mm前後で、メスは大型になる。同属のウラギンヒョウモンに酷似するが、翅外縁部斑紋がハート型で識別は容易。年1回、6月上旬ごろから発生し7月に多く見られる。オスは活発に飛翔しオカトラノオ、アザミなどを訪れるが、メスは不活発でブッシュ内に潜んでいることが多い。近年、全国的に衰亡が著しく、残された産地は鹿児島県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、山口県などに数カ所しかない。生息環境は、石灰岩台地、火山性草原、牧場、自衛隊演習場などの大規模な草原で、スマレ、ツボスマレなどが多く見られるところに限られている。

1987年から始まった松枯れ対策殺虫剤空中散布によってほぼ絶滅した。

## 【存続を脅かす原因】

草原の荒廃、殺虫剤空中散布。

## 【分布図】



主要な確認地

## 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（知夫里島）が残された唯一の生息地であったが、

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    |    | ○  |      |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目タテハチョウ科

# ヒョウモンモドキ

*Melitaea scotosia* Butler, 1878

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

1980年代より全国的に衰亡が著しく、日本国内からの絶滅が憂慮されている。県内でも絶滅が危惧されている。

## 【概要】

翅長26－30mm。6月中旬ごろから7月上旬にかけて年1回、食草のタムラソウやキセルアザミが繁殖する湿地に発生、ゆるやかな飛び方でノアザミ、ヒメジョオンなどの花をよく訪れる。関東地方、中部地方、中国地方に局地的に生息していた。全国的に衰亡が著しく絶滅した産地も多い。広島県の大和町周辺は残された唯一の生息地で「種の保存法」によって保護されている。湿地の乾燥化、植生遷移、開発などの影響もさることながら、採集圧が個体数減少の大きな原因のひとつだったように思われている。

## 【県内での生息地域・生息環境】

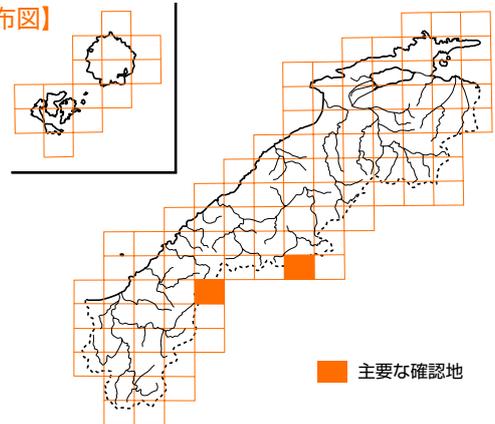
旧・金城町、旧・瑞穂町の2カ所（いずれも淀江賢一

郎氏による発見）。産廃処分場として埋め立てで湿地が破壊され、絶滅状態である。

## 【存続を脅かす原因】

湿原の開発。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    | ○  |    |      | ○  |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目タテハチョウ科

# ウスイロヒョウモンモドキ

*Melitaea protomedia* Ménétriès, 1858

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：分布限界種 (西限)

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

中国山地の草原に局所的に広く分布していたが、近年各地で急激に衰退し、多くの個体群が既に絶滅した。県内で唯一の生息地である三瓶山は、国内分布の西限でもある。自然公園法指定動物。

## 【概要】

標高400－800m前後のススキを主体とする乾性草原に生息。幼虫はカノコソウ、オミナエシを摂食する。成虫は6月中旬から7月中旬に現れ、草原をゆるやかに飛翔する。国内で存続が確認されている本種の個体群は2013年時点で5カ所余に過ぎない。本種は東アジア（中国北部・朝鮮半島・沿海州など）にも分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

本種が確認されているのは三瓶山のみ。三瓶山では中茎ススキ草原の下に生育するオミナエシをおもな食草としている。成虫期は7月上・中旬で、吸蜜植物はおもにオカトラノオ。かつては東の原、男三瓶山頂、室の内な

ど三瓶山のあちこちで成虫が見られたが、2000年には女三瓶山頂に残存するのみとなった。ここでは島根県などによる保全事業が取り組まれ、2006年には450個体の成虫発生（標識再捕による推定値）が確認され、男三瓶山頂や東の原にも一時的に個体群が復活したが、その後2006年豪雨（卵期）や2007年台風（成虫期）の影響で衰退し、2008年以降、個体群は飼育・放虫による「対策依存状態」に陥っていた。しかし、2010年7月3日に放虫した蛹の全てをネズミに食害され、その後、毎年成虫期に探索が続けられているが、2013年まで発生がまったく確認されていない現状にある。

## 【特記事項】

現在、環境省を主体として生息確認と生息環境維持の努力が続けられている。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ◎  |    |    |      | ◎  |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目タテハチョウ科

# シータテハ

*Polygonia c-album hamigera* (Butler, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内では1950年代の古い記録のみで、近年の追加記録がなく、絶滅が懸念されている。

### 【概要】

同属で平地から山地まで見かけるキタテハに酷似するが、翅表に青い鱗粉がないなどの特徴があり識別は容易。年2回の発生で6月から8月に夏型が見られ、9月ごろから秋型が羽化する。樹林周辺や渓谷沿いに見られ、花で吸蜜したり地上で吸水したりする。飛び方はキタテハより敏速で、人が近づくと敏感に反応するが、吸水中驚いて飛び立っても再び戻ってきて同じ場所で吸水もする。秋型は翅の外縁の切れ込みが大きくなり、裏の模様も変化し、そのまま越冬する。冬の環境に対応するための衣替えだと思われる。翌春現われる越冬個体は、生息地を離れ遠くまで移動することがあるといわれている。既知の食草はハルニレ、エノキ、イラクサ科のコアカソなどだが、山陰ではハルニレと思われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

旧・仁多町呑谷など局地的に発生していた古い記録がある（森山正治氏による複数の採集記録。標本も現存する）。しかし、鳥取県智頭町沖の山で1985年に記録されて以来、山陰地方での確認情報はない。食草は現在でも多く見られるのに姿を消した原因はさだかでない。長野県信州地方では車の多い国道沿いの渓谷でも、20年前から変わらず見られる所もあり、環境が激変し見られなくなった場所もあることから、生息地自体の変化のほかに、北方系の種であることから温暖化も影響しているかもしれない。県内ではすでに絶滅している可能性も高い。今後は幼虫の探索が必要だろう。

### 【存続を脅かす原因】

渓谷沿いの開発、林道建設などによる環境変化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| △    |    |    |    | △    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目タテハチョウ科

# ホシミスジ近畿地方以西亜種

*Neptis pryeri hamadai* Fujioka et Minotani, 2000

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限定され、激滅している。

### 【概要】

翅長26-32mm。翅裏の基部に黒い斑点があるのが特徴で、近似種との識別は容易。低山地の露岩地に見られる。山陽側では年2-3回の発生といわれているが、県内では8月には食樹イブキシモツケ、ユキヤナギの葉で巣を作り越冬態勢に入り年1回の発生（まれに2化）。飛翔はゆるやかで、ウツギなどに訪花、ときには吸水もする。近年、本県の個体群はmt-DNA研究によって特異な個体群であることがわかった。また、隠岐諸島の4島に生息している個体群も特異であり別亜種（ssp. *yodoei*）とされる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

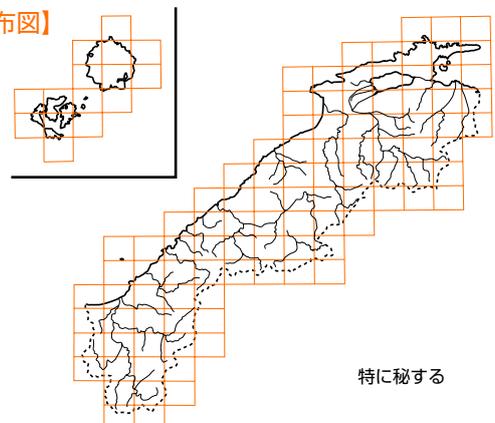
三瓶山、三階山、大麻山、立久恵峡、江の川流域（断魚溪など）で記録されている。いずれの生息地もイブキシモツケなどが生える露岩地。立久恵峡では6月に実施

される殺虫剤空中散布によって激滅した。

### 【存続を脅かす原因】

農薬空中散布、露岩地の荒廃。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目ジャノメチョウ科

# ウラナミジャノメ本土亜種

*Ypthima motschulskyi nipponica* Murayama, 1969

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

1990年代ごろから、生息地が著しく狭められており、個体数も少ない。絶滅が憂慮される。

## 【概要】

翅長23－28mm。後翅裏面の眼状紋が3つで、同属のヒメウラナミジャノメは5つある。西日本の平地から低山地の露岩地草付、湿地、河川敷、田畑の山側のノリ面、雑木林林縁などに局所的に生息。対馬、屋久島など離島にも生息しているが、隠岐諸島には分布していない。年2回、6月と8～9月に出現。

## 【県内での生息地域・生息環境】

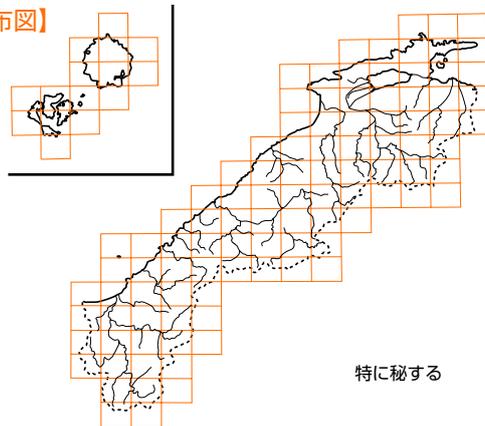
島根半島から益田市まで局所的に生息するが密度は低い。比較的個体数の多い浜田市での観察では、日あたりのよい乾燥した休耕畑や手入れの少ない果樹園で、丈の低いチガヤ、アシボソなどの茂った場所でよく見られた。最近の調査では県内における本種のもっとも重要な生息環境は平地～低山地の露岩地であることが判明した。そ

こでの食草はヤマカモジグサと推測される。

## 【存続を脅かす原因】

露岩地の荒廃、農薬空中散布、雑木林林縁の手入れ不足。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    |    | 平野地域 |    |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|------|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼 | 崖地   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| △    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     | △  |    |    |    | ○    |    | △  |    |    |      | ○  |    |    |    |

チョウ目ジャノメチョウ科

# クロヒカゲモドキ

*Lethe marginalis* (Motschulsky, 1860)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

本州、四国、九州に分布するが産地は限られる。県内では浜田市周辺のみから知られていたが、衰亡が著しく絶滅が危惧されている。

## 【概要】

翅長30－34mm。同属のクロヒカゲに似るが眼状紋の大きさで識別できる。年1回7月中旬に出現。クヌギ、コナラなどの雑木林の林縁を生息域とし、昼間は林の中で静止しているが、曇った日や夕方には活発に活動する。クヌギ、タブの樹液を好み、訪花は観察されていない。多産する中部地方（長野県、山梨県など）も開発で雑木林が荒れ、減少している。

## 【県内での生息地域・生息環境】

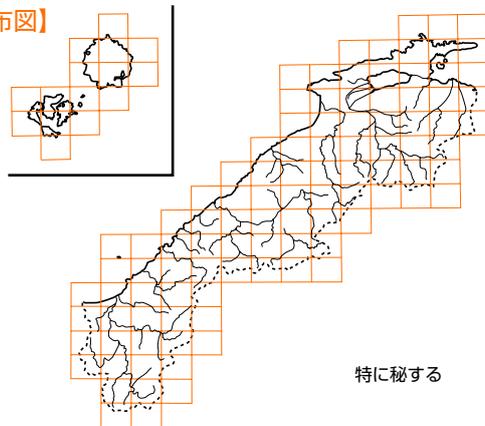
本種の生息が唯一確認されている浜田市三階山周辺は近年、高速道路、県立大学などの大規模開発がすすみ生息域が極端に減少している。わずかに残されたクヌギ林の保全が必要であり、このままクヌギ林の伐採が進めば

本県から姿を消す恐れがきわめて高い。

## 【存続を脅かす原因】

大規模な開発によるクヌギ雑木林の荒廃。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    |    | 平野地域 |    |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|------|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼 | 林地   | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    | ○  |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |    |      |    |    |    |    |      |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ジャノメチョウ科

# ウラジャノメ

*Lopinga achine* (Scopoli, 1763)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 15

島根県固有評価：分布限界種 (西限)

環境省：－

### 【選定理由】

県内では奥匹見峡、旧・恐羅漢山など限られた場所のみ生息し、著しく減少している。

### 【概要】

翅長22-30mm。本州では1,000mを越える山地に生息地が見られ局地的になる。成虫は6月下旬から7月上旬ごろに見られ、ゆるやかに飛び、開けた場所に出てきてはすぐ葉に止まり翅をよく広げる。メスを生かして放置しておく、容易に産卵する習性がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

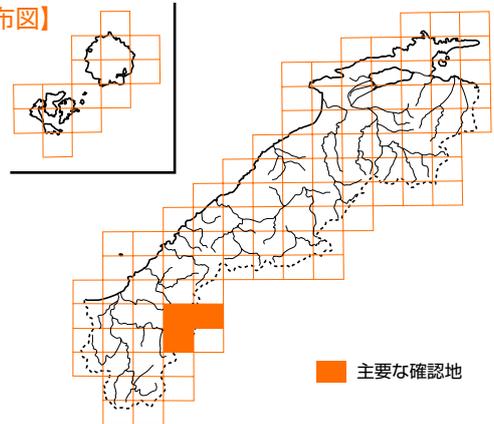
旧・恐羅漢山頂は周辺が林になり、中央部は開けて登山者の休憩場所にもなっている。周辺には低木やクマザサなどが見られる。晴天の日には朝8時半ごろより活動を始め、島根県側の林から多くは飛び出してきた。しかし現在はほとんどその姿を見ることはできず絶滅が憂慮されている (なお、このポイントの中村泰士氏が発見されたものである)。冬季は積雪も多く厳しい環境になる

が、幼虫はニシノホンモンズゲを食草として育つ。

### 【存続を脅かす原因】

山頂部の改変伐採。露岩地の荒廃。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 崖   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    | ○  |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |

チョウ目セセリチョウ科

# キバネセセリ

*Bibasis aquiline chrysaeglia* (Butler, 1882)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

隠岐 (島後) を除けば近年の記録がなく、絶滅が危惧されている。

### 【概要】

翅長21-22mm。年1回6月中～下旬ごろから落葉広葉樹林周辺や山道脇によく姿を現わし、獣の糞に來たり、時には吸水、オカトラノオなどの花にも來る。吸水時には自分の排出液を吸う吸い戻し行動を見かける。午後には山頂付近で占有行動をとる。

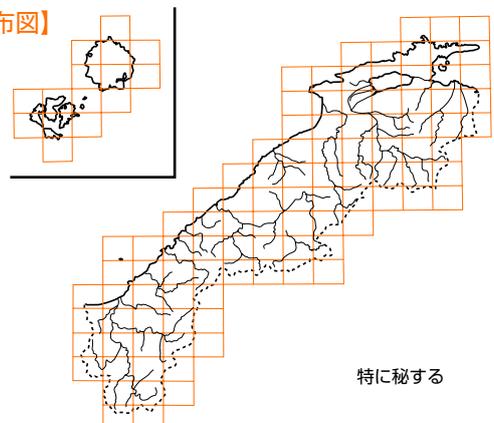
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、1957年仁多町呑谷で採集されたのが初記録。その後、雲月山、隠岐 (島後) で採集されているが、隠岐諸島を除けば記録が古く共に1例のみのため、現在では生息していないと思われる。隠岐 (島後) は海岸に近い所に生息地が見られるが、松枯れ対策の殺虫剤空中散布により、本種に悪影響が出ている。隠岐 (島後) で確認されている食樹はハリギリ (山本正志氏の発見)。

### 【存続を脅かす原因】

ハリギリを含む落葉広葉樹林の伐採、殺虫剤空中散布。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| △    |    |    | ○  |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    | ○  |    |    |    |

チョウ目セセリチョウ科

# コキマダラセセリ

*Ochlodes venatus* (Bremer et Grey, 1852)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

中国山地沿いに生息地がわずかに見られるのみで、絶滅が危惧されている。

### 【概要】

翅長20-22mm。北海道から山口県東部あたりまで分布するが、北海道では低地でも見られ小型であり、中部地方から中国地方にかけては、山間部の湿地性草原に見られ、大型化。中部地方では標高2,000m近い乾燥草原にも見られる。翅が赤橙色で白く薄い斑紋があり、明るい感じがするチョウで、一見ヒメキマダラセセリにも似るが識別は容易。7月に多く見られ、敏速に飛ぶ。ノアザミ、オカトラノオなどの花を訪れ、時には吸水もする。

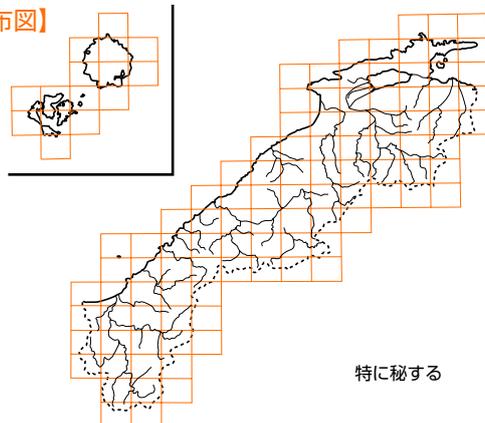
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では標高500m以上の湿原に見られるが、そのような条件に合う場所は中国山地沿いにわずかに見られるに過ぎず、個体数も少ない。湿地は遷移により植生変化する不安定な環境であり、今後の動向には注意を要する。

### 【存続を脅かす原因】

自然度の高い湿地の開発。

### 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      | ○  |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

チョウ目セセリチョウ科

# ホシチャバナセセリ

*Aeromachus inachus* (Ménétrières, 1858)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

生息地が限定され、減少が著しい。

### 【概要】

翅長10-15mmでセセリチョウの中では最小。本州、対馬に生息し、山陰では7-8月にかけて年1回の発生。食草オオアブラススキがある樹林周辺の草原に見られる。各種の花を訪れるが、飛び方は敏速でハエのようにも感じられ、また風景に溶け込んで見失うことが多く発見しにくい。1980年代より各地で減少しまれにしか見られなくなっているが、セセリチョウという地味なグループのため、中・大型のチョウのようにとりたてて騒がれることがない。

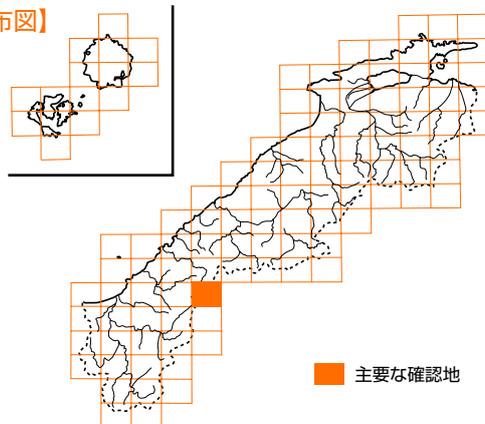
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では西部の中国山地沿いで傍示峠、雲月山の2カ所が知られるのみだが、1980年代より開発などの影響で生息地が破壊され、きわめてまれな種になっている。

### 【存続を脅かす原因】

自然度の高い草原を破壊する開発、草地の荒廃。

### 【分布図】



主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    | ○  |    |      | ○  |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目アオイトトンボ科

# オツネトンボ

*Sympecma paedisca* (Brauer, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内の分布が局限される。また過去に発見された産地のほとんどが絶滅状態である。

### 【概要】

全長35－41mm。全身淡褐色をした地味な色調のイトトンボ。未熟なホソミオツネトンボとよく似るが、閉じた翅の縁紋が重ならないことで区別できる。初夏に羽化した個体はそのまま林縁などで生活し、越冬を終えた翌春、生殖活動を行う。和名「オツネン（越年）」は、成虫で越冬することに由来する。ユーラシア大陸の北寄りに広く分布し、国内では北海道、本州、四国、九州北部に分布するが、西日本ではまれとなる。

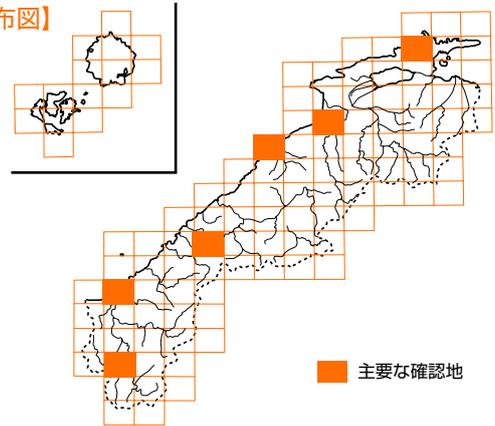
### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を除き沿岸部から内陸部まで広く分布するが産地は局限される。生息地はいずれも日当たりのよい植生豊かな溜池である。なお県内で越冬の様子は観察されていない。

### 【存続を脅かす原因】

池の水質悪化や産卵場所となる抽水植物の除去。成虫の生活場所となる林の消失。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

トンボ目モノサシトンボ科

# ガンバイトンボ

*Platynemis foliacea sasakii* Asahina, 1949

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 15

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

小規模で清澄な緩流に生息し、県内の産地はおもに江の川・高津川水系各々に数カ所程度。

### 【概要】

全長37－41mm。オスの中・後肢の一部は顕著な偏平形で白い米粒のように見える。メスでは、しばしば同所的に生息するモノサシトンボと似ており、識別には注意が必要。平野部から低山地の、水生植物の繁茂する緩やかな清流が代表的な生息環境。中国北部に原名亜種が分布し、国内では関東以西に分布する。特殊な生息環境のためか産地は全国的に局限され特に関東地方では近年急速に生息地が失われている。

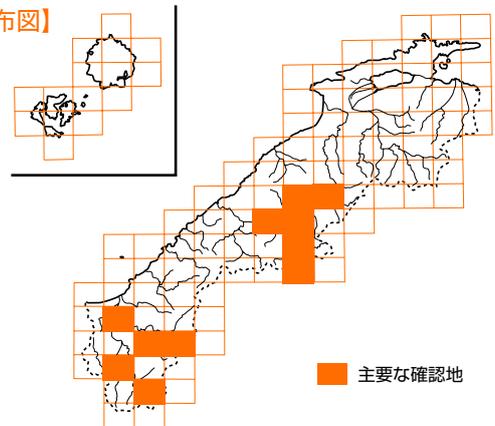
### 【県内での生息地域・生息環境】

今まで分布が江の川水系と高津川水系に限られていたが、近年、神戸川水系からも発見された。小規模な緩流のほか、常にきれいな水の流入が認められる溜池や砂防ダムの堆砂池等、止水的環境での生息も確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

造成等開発による生息地の埋め立て。湧水等の流入経路の分断。成虫の休息及び摂食場所となる雑木林の伐採。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 小川 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 小川 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    |

トンボ目イトトンボ科

# ベニイトトンボ

*Ceriagrion nipponicum* Asahina, 1967

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

2007年に県内で初記録されたが、産地は益田市周辺と県中部地域の数カ所に局限される。

### 【概要】

全長32-45mm。オスは腹部を中心に全身が鮮やかな朱色でメスでは幾分淡色となる。モートンイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボのメスも未熟時には朱色であるが、本種と異なり成熟に伴い緑色から褐色に変わる。平野部から低山地にかけての、植生豊かな池沼が代表的な生息環境で、益田市では6-9月まで成虫が確認されている。国内では宮城県以南に分布するが産地はかなり局地的である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

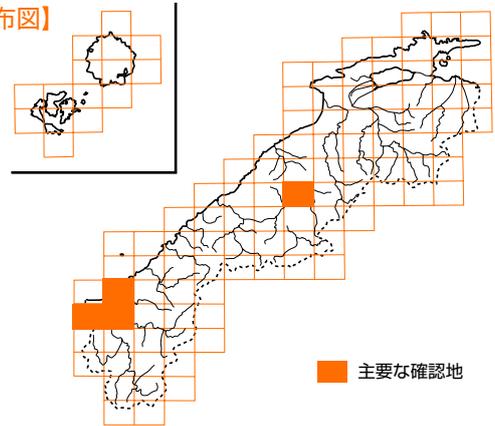
分布が県中部・西部の数カ所に限られ、東部からは未発見。益田市周辺における2007-2009年の調査では7カ所の農業用溜池等で確認されたが、多産した初記録地の益田市飯田町の溜池では改修により既に生息が途絶えて

おり、良好な生息地の保全が急務である。

### 【存続を脅かす原因】

造成等開発による生息する池沼の埋め立て等。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |

トンボ目ヤンマ科

# ネアカヨシヤンマ

*Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

沿岸平野部の林縁に形成された湿地的環境に生息するが、分布が非常に限られるうえ、既知産地の消失が顕著。

### 【概要】

全長75-88mmの大型ヤンマで、黒みの強いずん胴な体形が特徴的。幼虫は日本産ヤンマ科で唯一背棘を有し、識別が容易。同属のアオヤンマが、溜池やクリークなど水深の比較的深い開放的な水域を好むのに対し、本種は水田や湿地等水深がほとんどなく、一方を雑木林等に接するような半開放的環境を好む。初夏に羽化し未熟な個体は日中に林縁部をゆったりと摂食飛翔する。成熟すると黄昏活動性が強くなる。産卵はおもに日中、湿地の湿土や朽木に行う。国内ではおもに関東以西の本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

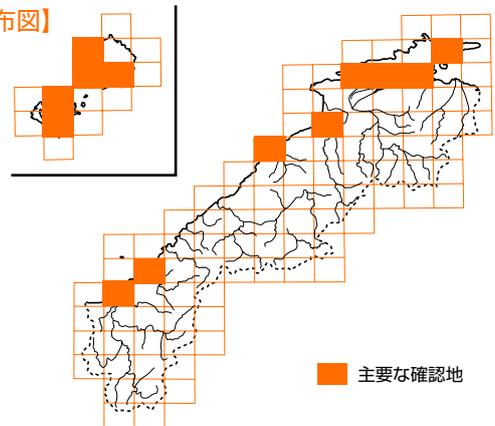
県全域に広く分布するが、生息地はいずれも沿岸部で内陸部からの記録はない。隠岐諸島では4島すべてに記

録がある。

### 【存続を脅かす原因】

造成、残土処理による湿地や放棄田の埋め立て。圃場整備による水田の乾燥化。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    | ○  |      |    |    |    |    | ○  |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目サナエトンボ科

# ナゴヤサナエ

*Stylurus nagoyanus* (Asahina, 1951)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

全国的に産地に限られる中、宍道湖を含めた斐伊川下流域は本種の多産地として有名であるが、以前に比べ個体数が明らかに減少している。

### 【概要】

全長59－65mm。夏に出現する中型のサナエトンボ。大きな河川の下流域全体を生活場所とする生活スケールの大きなトンボ。オスは流れの上をかなり長時間飛び続けメスを探す。日本特産種。

### 【県内での生息地域・生息環境】

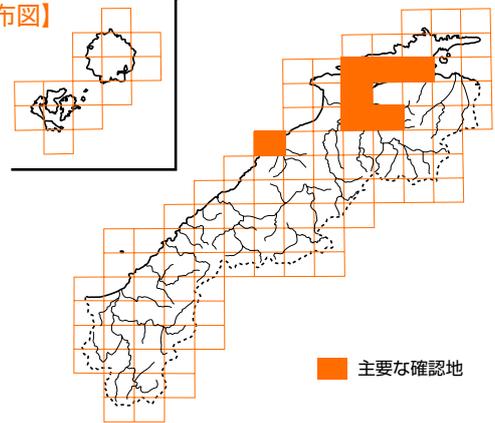
斐伊川および静間川下流域のほか、最近になって神戸川での生息が確認された。斐伊川では産み落とされた卵や孵化した幼虫のほとんどは流下し、宍道湖内で成長する。宍道湖岸での10年以上継続した羽化消長調査によれば、羽化は6月上旬から始まり、7月上旬をピークとして9月上旬まで続く。成虫の活動は羽化が観察される宍道湖岸ではまったく見ることができず、斐伊川河口部か

ら約30km上流までの斐伊川本川部で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地周辺の開発による水質等河川環境悪化。成虫の休息場所となる河畔林等の伐採。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    | ○    | ○  |    |    |    |    |

トンボ目エゾトンボ科

# ハネビロエゾトンボ

*Somatochlora clavata* Oguma, 1913

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県内における過去の記録は、隠岐諸島の数カ所と本土側の3カ所だけであり、いずれの産地も、現在、生息が確認されていない。全国的にも減少傾向が著しく、新たに産地が発見された場合は、その保全が急務である。

### 【概要】

全長58－66mm。全身金属光沢がありエゾトンボに酷似するが、オスは尾部上付属器、メスは産卵弁が長く突き出ることによって区別できる。未熟な成虫は林間の開けた空間で摂食飛翔を行い、成熟すると水域に戻って一定の区間ホバリングを交えて縄張りを張る。産卵は岸近くの水面やコケ、礫の隙間に行く。早朝や夕方には谷筋などを摂食飛翔や黄昏飛翔もする。日本特産種。

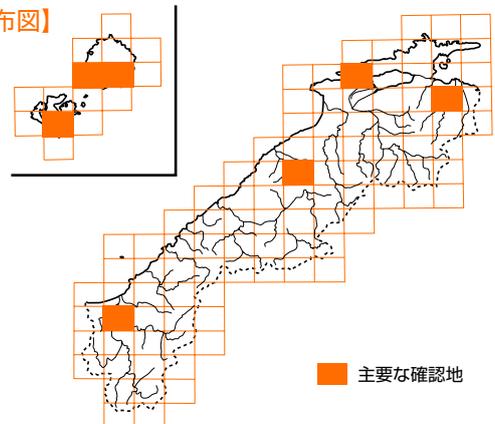
### 【県内での生息地域・生息環境】

近年、生息の情報が途絶えていたが、最近になって出雲市奥宇賀町で生息が確認された。本種の好む環境は林縁に接した緩やかな流れや湿地内を流れる細流である。

### 【存続を脅かす原因】

幼虫の生息場所となる水路のコンクリート化や水域の乾燥化。成虫の生活場所となる林の消失。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 小川 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 小川 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    | ○  |    |    |    |    |

トンボ目ヤマトンボ科

# キイロヤマトンボ

*Macromia daimoji* Okumura, 1949

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

周辺に樹林があり河床が砂質系の河川中下流域に生息するため産地が局地的である。

### 【概要】

全長75-83mm。同属のコヤマトンボに似るが、成虫は腹部第3節側面の黄条が上下で分断されること、幼虫は下唇の形状や爪の長さで区別できる。未熟個体は周辺の開けた空間などで摂食飛翔を行い、成熟すると水域に戻ってくる。オスは早朝と夕方を中心に河川の広範囲をパトロールする。産卵は薄暗くなるころから始まり、流れの緩やかな砂地の場所を不規則に飛翔しながら間欠的に打水を行う。国内では関東地方以西の本州、四国、九州に分布するが、産地は局地的で減少している地域も少なくない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

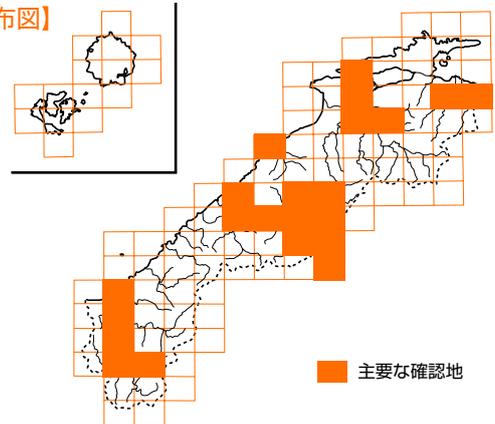
県内では斐伊川水系の中下流に広く分布しているが、最近になって県中・西部の江の川、高津川での生息が確

認された。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修等による河床の変化。未熟期間を過ごす河川周辺の林の消失。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    | ○  |      |    |    |    | ○    |    |    |    |    |    |

トンボ目トンボ科

# ハッチョウトンボ

*Nannophya pygmaea* Rambur, 1842

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 16

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

湿地を代表する種であるが、造成等による埋め立てや植生遷移による乾燥化のため生息地の減少傾向が顕著。

### 【概要】

全長17-21mm。世界でもっとも小さいトンボの一つで一円玉ほどの大きさ。オスは成熟すると全身が赤化し、メスでは黄色、褐色、黒のまだら模様となる。羽化は5月中旬ごろから始まり、しばらくすると未熟及び成熟個体が湿地に入り乱れて見られる。交尾時間は短く、交尾を解いたメスは単独で打水産卵を行う。オスの警護飛翔もしばしば見られる。東南アジアを中心に広く分布し、国内では本州以南に分布する。

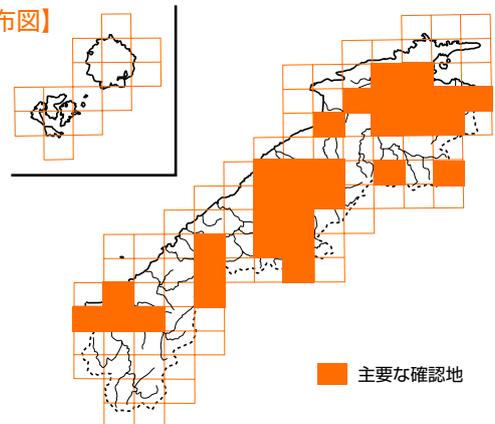
### 【県内での生息地域・生息環境】

低山地を中心に隠岐諸島を除く県全域に広く分布するが、産地は局地的。日当たりがよい浅い湿地を好む。休耕田で一時的に大発生し、マスコミを賑わすが、草原化により生息できなくなる場合が多い。

### 【存続を脅かす原因】

造成や残土処分等による生息地の埋め立てや、湿地の乾燥化、草原化。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 湿地 | 森林 | 草原   | 農地 | 河川 | 湖沼 | 湿地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    | ○    |    |    | ○  |      |    | ○  |    |      | ○  |    |    | ○  |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目コオイムシ科

# コオイムシ

*Diplonychus japonicus* Vuillefroy, 1864

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内では隠岐（島後）を含む各地で局所的に生息が確認されているのみであり、生息環境の悪化による絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長17－20mm前後。平野部の池や河川敷、水田、休耕田、湿地などの浅い止水域に生息している。成虫のオスが背中に卵を背負う習性がある。近縁種にオオコオイムシがいるが、本種はより小型で体色が薄く、前胸背板がより狭まるなどの特徴により、区別可能である。しかし、正確な同定にはオス交尾器の検討が必要である。国外ではシベリア、朝鮮半島、中国に分布し、国内では本州、四国、九州に分布する。

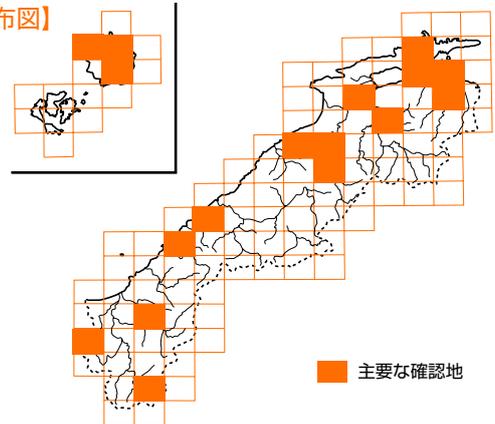
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では平野部を中心に生息しているが、まれに山間部にも生息地がある。近年の調査により、中海周辺に生息地が多いことが判明した。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    | ○  |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |

カメムシ目ハナカメムシ科

# ズイムシハナカメムシ

*Lyctocoris beneficus* (Hiura, 1958)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵16

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

戦後の稲作農法の改変や殺虫剤の大量投入によって激減し、全国的に絶滅に瀕している。近年東部数カ所で生息が確認されたが個体数は少ない。

### 【概要】

体長4mm前後のカメムシのなかまで、黒褐色で光沢があり、微毛を散布する。この科の中では比較的大型である。野積みの稲わらや枯れ枝の間に生息し、鱗翅目幼虫の体液を吸収する。ズイムシとはイネの害虫として知られるニカメイチュウの幼虫。本種はこのガの天敵として知られていたが、このガ自体が有機塩素系殺虫剤によって絶滅状態にある。本州・四国・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

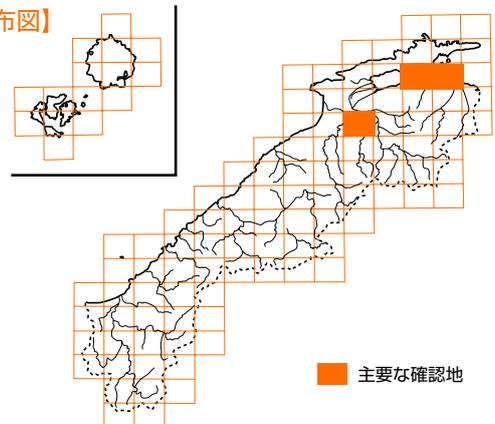
戦前には明確な記録がない。県東部で確認されているのは木次町から安来市にかけての斐伊川水系河川敷4カ所である。前述のように水田周辺では絶滅した可能性が高いが、河川敷のような場所でイネ科草本を寄主とする鱗翅目幼虫

によって個体群を維持しているものと考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

河川敷などのイネ科草原の破壊や、殺虫剤散布、火入れなど。管理不足による遷移の進行。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目サシガメ科

# ゴミアシナガサシガメ

*Myiophanes tipulina* Reuter, 1881

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

細長い大型のサシガメで、全国的に生息地が局限され絶滅状態にある。県内では1980年頃まで数カ所の記録があったが、それ以後の生息情報がない。

## 【概要】

体長17mm内外、淡褐色の地に濃淡の斑紋があり、長毛でおおわれる。脚、触角は細長く糸状で体長と同じかそれよりも長く、静止しているとガガンボのように見える。里山の林縁に生息し、家屋内外で発見されることも多く、小昆虫などを捕食する。山口県平生町では近年、築100年以上の古い家屋の便所で見ついている。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。

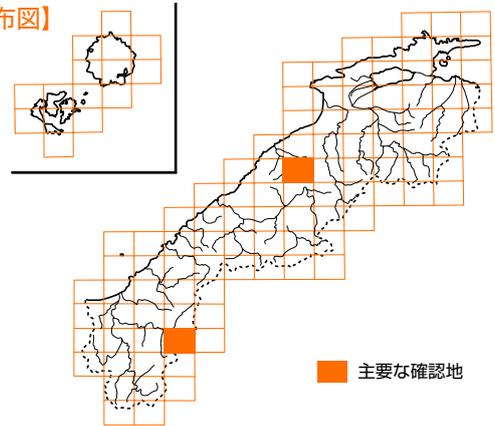
## 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と益田市匹見町で古い記録がある。他県のように家屋を含む里山環境に適応した種のように、山里の崩壊とともに姿を消すとみられる。

## 【存続を脅かす原因】

山里の放置・無人化、住環境の近代化など。周辺の二次林の竹林化。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    |      |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目セミ科

# コエゾゼミ

*Lyristes bihamatus* (Motschulsky, 1861)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵17

## 【選定理由】

本県の東部山地が、本州における本種分布の西限となる。標高1,000m以上のブナ林に局限され、個体数も少ない。

## 【概要】

体長は31-37mmでオスがやや大きく、翅端までは47-56mmである。エゾゼミより小型で、前胸背後縁の黄褐色帯が外方の黒紋で切断される。色彩や斑紋には変異が多い。北海道・本州・四国、国外ではサハリン・千島に分布する北方系のセミであり、7-8月にブナ林に出現する。鳴き声はエゾゼミに似るがやや低く、細い。

## 【県内での生息地域・生息環境】

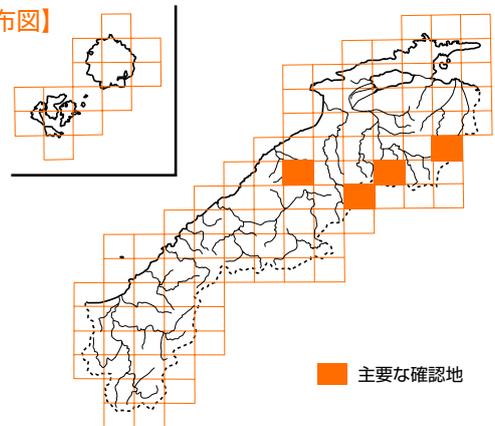
三瓶山および東部山地の標高1,000m以上の地点4カ所で記録されている。成虫は昼間はブナの梢上部で鳴いている。西部山地（旧・匹見町）において本種として記録されているのは県境を越えた広島県や山口県側で生息が確認されている同属のキュウシュウエゾゼミの可能性が

高い。

## 【存続を脅かす原因】

ブナ林の伐採や分断は、地域個体群の絶滅をもたらす。また、寒地系のセミであるので、地球温暖化の影響も無視できない。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目キジラミ科

# サイカチマダラキジラミ

*Euphalerus robiniae* (Shinji, 1938)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵17

### 【選定理由】

寄主植物のサイカチの生育地が県内では1カ所に限定されているため、本種の生息地も限定されている。

### 【概要】

体長2.0mm前後。胸部は全体に黒い。前翅には特徴的な黒い斑紋があり、翅脈上に黒い斑点がある。額錐は短く、触角は短い。ジャケツイバラキジラミに似ているが、小さく、前翅の斑紋が異なる。サイカチ（マメ科）を寄主し、幼虫は葉の縁を曲げた虫えい（虫こぶ）を形成する。新成虫は7月に出現する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

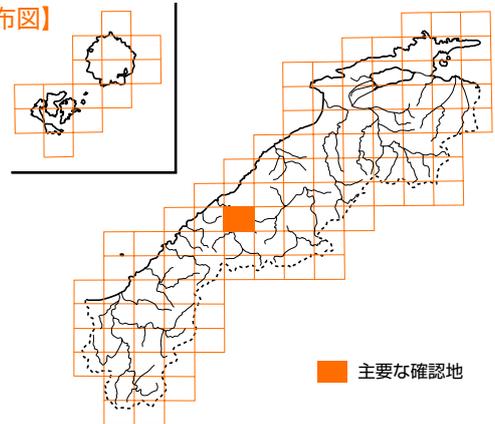
本種は寄主特異性が高いキジラミで、幼虫が成育できる寄主植物はサイカチのみである。県内の生息地は県中部のサイカチの生育地に限定されている。

### 【存続を脅かす原因】

サイカチ生育地の縮小や消滅。サイカチは「改訂しませねレッドデータブック2013植物編」において絶滅危惧Ⅰ

類に指定されている。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    |    |      |    |    | ○  |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目オサムシ科

# ハマベゴミムシ

*Pogonus japonicus* Putzeys, 1875

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵17

### 【選定理由】

塩性湿地に生息する種であり、本種の生息できる環境が県内ではきわめて限定されている。日本海側での分布という点においても注目される。全国的な希少種でもある。

### 【概要】

体長6.5mm前後。背面はつやのある黒色だが、上翅の側方から翅端付近は茶褐色をしている。上翅の条溝は明瞭である。

塩田跡や海岸の埋め立て地などに形成した潮性湿地に生息する。夜行性で灯火に飛来する。同属のドウイロハマベゴミムシは同じような環境に生息する種であるが、県内では確認されていない。

日本固有種で本州、四国に分布する。中国地方では岡山県と山口県で記録され、それぞれの県のレッドデータブックに掲載されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島の干拓地の牧場に生息している。同じ場所で塩性湿地に生息するオオツノハネカクシが確認されている。島根県内で同様な環境はほとんどなく、生息地が限定されている。本土側でも中海の埋め立て地や沿岸部の河口周辺などで、灯火による調査を行えば、生息を確認できる可能性はある。

### 【存続を脅かす原因】

塩性湿地の開発、生息地の塩分条件の変化。現状としては生息地の湿地は放牧地として管理され、状況は安定している。希少種が生息する塩性湿地としての価値が認められれば、本種の保全に繋がるのが期待される。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |     |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|-----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 | 塩湿地 |
|      |    |    | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    | ○   |

# コガタノゲンゴロウ

*Cybister tripunctatus orientalis* Gschwendtner, 1931

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵 17

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**【選定理由】**

県内では隠岐諸島や三瓶山、県東部など限られた場所で記録があった。しかし、2000年以降、県東部を中心に確認例が増えてきており、今後の動向を注視する必要がある。

**【概要】**

体長24－29mm前後。大型種のゲンゴロウと同様、前胸背板・上翅に黄色の縁取りがあり、腹面は全体に黒色。水生植物の多い溜池や水路、水田などの止水域をおもな生息地としている。

本亜種は台湾、中国、朝鮮半島に分布する。国内では、本州、四国、九州、南西諸島、小笠原に分布する。かつては日本各地でふつうに見られたようであるが、全国的に減少傾向が著しく各都道府県のレッドデータブックに掲載されている。しかしながら2000年以降、西日本では確認例が相次いで報告されており、状況が変化してきている。南西諸島では水田や水路などの生息地は減少して

いる。

**【県内での生息地域・生息環境】**

本種はもともと県内では少なかったらしく、1990年代以前の記録はわずかである。しかし、2000年以降、県東部や隠岐諸島などで散発的な記録が報告されるようになり、繁殖地も確認されている。条例による保全が行われている鳥取県の個体群、あるいは九州などで増えている個体群が分散し、島根県内で定着した可能性も考えられるが、現時点では個体群を見分ける手段がない。また、このまま増加するかどうかについても予想が難しい。

**【存続を脅かす原因】**

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、移入生物（外来魚など）の侵入・繁殖。過剰な採集。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    | ○  |      |    |    | ○  |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |

# オキチビハネカクシ

*Micropeplus okiensis* Watanabe, 1990

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

**【選定理由】**

隠岐（知夫里島）で発見され記載されたハネカクシの微小種で、その後、鳥取市で採集されたが、分布が限定されている。

**【概要】**

体長1.6－2.0mm前後の微小種。全体が黄褐色から褐色で光沢がない。1983年に隠岐（知夫里島）で初めて採集され、既知の6種とは頭部、鞘翅、腹部の構造やオスの交尾器の形態が大きく異なることから新種記載された。本種は、1991年に鳥取市でも採集されており、県内の本土側で発見される可能性がある。

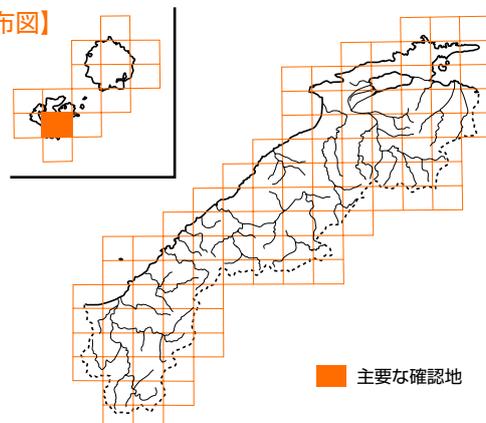
**【県内での生息地域・生息環境】**

本種は、県内では 知夫里島が唯一の既知産地である。林床下の腐葉土層に生息する微小種であるため発見し難く、特殊な採集法による調査が必要である。隠岐諸島でも知夫里島以外では発見されていないが、県内の社寺林など生息の可能性がある場所での調査が必要である。

**【存続を脅かす原因】**

生態等が明らかでなく不明であるが、自然度の高い森林、社寺林などの消失。

**【分布図】**



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    |    | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    | ○  |    |    |

コウチュウ目ハネカクシ科

# オオツノハネカクシ

*Bledius salsus* Miyatake, 1963

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

## 【選定理由】

塩性湿地に生息する種であり、本種の生息できる環境が県内ではきわめて限定されている。日本海側での分布という点においても注目される。

## 【概要】

体長6.2–7.3mm。雄の頭部に2本の突起があるほか、前胸背板に1本の長い角状突起がある。雌にはこの突起がない。

塩田跡や海岸の埋め立て地などに形成した潮性湿地に生息する。夜行性で灯火に飛来する。塩田に無数の穴を掘ることから、かつては害虫とされていた。

日本固有種で本州、四国に分布する。中国地方では岡山県と山口県で記録され、それぞれの県のレッドデータブックに掲載されている。

## 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島の干拓地の牧場に生息している。同じ場所で塩性湿地に生息するハマベゴミムシが確認されている。

島根県内で同様な環境はほとんど無く、生息地が限定されている。本土側でも中海の埋め立て地や沿岸部の河口周辺などで、灯火による調査を行えば、生息を確認できる可能性はある。

## 【存続を脅かす原因】

塩性湿地の開発、生息地の塩分条件の変化。現状としては生息地の湿地は放牧地として管理され、状況は安定している。希少種が生息する塩性湿地としての価値が認められれば、本種の保全に繋がることが期待される。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |     |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|-----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 | 塩湿地 |
|      |    |    | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    | ○   |

コウチュウ目コガネムシ科

# アオハナムグリ島前亜種

*Cetonia (Eucelonia) roelofsi iijimai* K. Sakai, 1996

島根県：絶滅危Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：隠岐島前固有亜種

環境省：－

## 【選定理由】

隠岐（島前）に生息する藍黒色のアオハナムグリで、島後には緑色の原名亜種が分布し、島前と島後で亜種が異なる初めての例である。近年個体数の減少が著しい。

## 【概要】

アオハナムグリは体長16–19mm前後。南西諸島を除く各地に分布し、背面は緑色で変異は少ないが、五島列島と種子島に分布するものは赤色を呈し別亜種とされている。隠岐（島前）の個体群は、背面が藍黒色を呈し、他の地域とは異なっている。

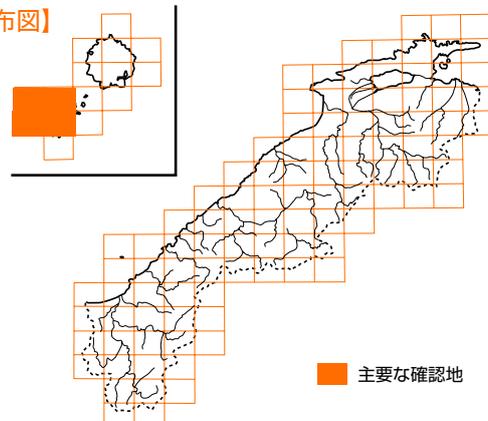
## 【県内での生息地域・生息環境】

本亜種は島前の3島にのみに分布し、島後は背面が緑色の原名亜種である。1994年に西ノ島で初めて藍黒色の1オスが採集され、翌年に採集された個体すべてが藍黒色であったため新亜種として記載された。成虫は6月ごろ出現しクリなどの花にくる。近年は個体数の減少が著しい。

## 【存続を脅かす原因】

生態等が明らかでなく不明であるが、幼虫の食餌とされる倒木・朽木の減少。珍種とされ採集圧もある。

## 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |     |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|-----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 | 塩湿地 |
|      |    |    | ◎  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    | ○   |

コウチュウ目ハムシ科

# ツヤネクイハムシ

*Donacia nitidior* (Nakane, 1963)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

湿地に生息する甲虫で、県内における生息地は2カ所のみが知られている。

## 【概要】

体長5.0－6.5mm。背面は銅色または青色で金属光沢がある。肢は短く、腿節の基部は赤褐色。前胸背板は粗く点刻される。上翅間室は密な横シワがあるが、浅い。陰茎先端部のくびれは浅く、先端に小さな突起がある。骨片の中央突起は太短く、下方に向かって曲がる。カツラネクイハムシに似ているが、本種の複眼が小さいことで区別できる。成虫は5～6月に出現し、スゲ類に訪花する。生息環境は一般には日当たりの良い湿地である。

日本固有種で本州と佐渡に分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

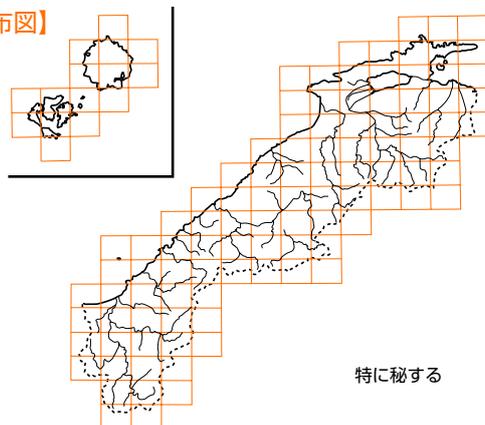
県中部と西部の湿地に生息している。今後、中国山地の小規模な湿地において生息が確認される可能性はあるが、島根県側の地形は一般に急峻であり、広島県側と比

べると湿地そのものが少ない。

## 【存続を脅かす原因】

湿地の自然遷移。林道等の開発。県東部の湿地は保全されており、生息環境としては安定した状態にある。

## 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |

ハチ目アナバチ科

# ニッポンハナダカバチ

*Bembix nipponica* F. Smith, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵17

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

典型的な海浜性のカリバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度が激減している。日本固有種。

## 【概要】

体長は雌雄間で差がなく、18mm前後の大型のカリバチである。体色は全体的に淡黄色で、胸部は黒色、腹部の各背板後縁には黒色の横縞がある。名前は、顔面の縦中央部が突起していることに由来する。海浜では風による砂の移動の少ない場所、すなわち松が疎らに生育する防風林内や民家の庭先などの日当たりのよい場所を好んで集団営巣する。育房は、緩やかに傾斜して穿孔された主坑（深さ約15－20mm）から分岐した側坑に水平方向に連結される。営巣地では、オスがメスを求めて翅音高く迅速にパトロールを行う。幼虫餌として、ハナアブ科をはじめとするさまざまな分類群のハエ類の成虫を狩る。卵は、育房内で最初に貯蔵した獲物の腹面に産下される。

ふ化した幼虫は、親バチの随時給食で発育する。閉鎖された育房口は、給餌のつど閉開が繰り返される。年1化性で、活動期間は6月末から8月中旬までの1.5カ月間である。越冬は繭中で前蛹態で行う。国内での分布域は広く、北海道から屋久島まで及ぶ。同胞種のタイワンハナダカバチ *Bembix formosana* Bishoff が台湾と八重山諸島に分布する。

## 【県内での生息域・生息環境】

大社砂丘（出雲市）、静間神社（大田市）、三里ヶ丘（益田市）。生息環境は、いずれも海浜かその近辺。

## 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

## 【特記事項】

海浜と類似した環境であれば、内陸でも営巣が見られる（京都銀閣寺の境内がその例）。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    | ○  |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

## キバラハキリバチ

*Megachile xanthothrix* Yasumatsu et Hirashima, 1964

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

典型的な海浜性のハナバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度がきわめて低い。

## 【概要】

体長はメスが16-17mm、オスが15-16mm。大型のハキリバチである。胸・腹部の背面が橙黄色ないし黄褐色の毛で覆われている。希種のため、生態的知見がきわめて乏しい。年1化性で、活動期間は夏から初秋である。最近の大社砂丘での調査によると、初見日はオスが7月上旬、メスが7月下旬であった。広食性であるが、花粉を採集できる花資源は大型のマメ科植物に限定される。海浜では、ハマナタマメが主花資源植物と目される。山陰の海浜ではこの植物の生育はまれで、これが原因で生息密度が極端に低いのかも知れない。営巣は砂地に穿孔して行われるほか、アナバチの1種の放棄巣や野ネズミの旧坑なども利用する。アナバチの1種の細い旧坑を利用した巣では、巣の構造は筒類営巣性のハキリバチ類のそ

れと類似している。すなわち、複数の育房が直列に連続的に配置される。また、ほかのハキリバチ類と同様に、育房のカップは卵形葉片で、育房栓と入口栓はいずれも円形葉片で閉鎖される。越冬態は前蛹である。国内では、西南日本においていずれも少数個体が採集されている。国外では、中国北東部と韓国で分布が記録されている。

## 【県内での生息域・生息環境】

大社砂丘だけで、ここでの2年間の綿密な調査でヤマハギとハマゴウにおいて3オスと18メスが採集されるに過ぎない。

## 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

## 【特記事項】

内陸でも河川敷で営巣が見られる。ここでは、クズが花資源植物として利用される。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

## オオズグロメバエ

*Archiconops niponensis* (Vollenhoven, 1863)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

国内では、採集個体数がきわめて少ない 寄生性種である。

## 【概要】

体長はメスが13-16mm、オスが13-17mm。メバエ類のなかでは大型の美麗種である。雌雄は外形が酷似し、頭部は赤褐色、胸・腹部は灰色を呈している。メバエ類はすべて寄生性で、寄主として有剣類のハナバチ上科を中心に、スズメバチ上科、アナバチ科、ベッコウバチ上科が知られている。発達した口吻をもち、顕著な訪花性をもつ。生態がわかっているほかの種では、メバエ類は寄主のハチに抱きつきその腹部の背板間に産卵管を挿入して産卵するという。ふ化した幼虫は、最初は寄主の血リンパを体表から吸収するが、発育につれて寄主の腹部内臓を食べ尽くして、ここに囲蛹を形成する。寄主は砂丘地に多産するツチバチ類らしく、ハマグルマやハマゴウの花上での待ち伏せと、寄主成虫の追撃がしばしば観察

されている。最近の大社砂丘における生態調査によると、活動期間は7月上旬から8月中旬で、寄主と推測されるツチバチ類の活動期とよく符合した。越冬は、土中で死亡した寄主腹部内で囲蛹態で行うと考えられる。性比は、ややオスに傾斜している。国内では、本州・九州から分布が記録されている。国外では、熱帯アフリカ・東南アジア・中国にも広く分布する。

## 【県内での生息域・生息環境】

松江市、出雲市の大社砂丘のほか、江の川（江津市）と高津川（益田市）の河川敷でも採集されている。

## 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

## 【特記事項】

*Archiconops erythrocephalus* (Fabricius) とは別種であることが最近判明した。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

チョウ目アゲハチョウ科

# ギフチョウ

*Luehdorfia japonica* Leech, 1889

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県内広く分布しているが、開発や環境の変化で個体数や生息地自体も減少傾向にある。

### 【概要】

翅長29－32mm。日本特産種。年1回3～4月に発生する。成虫には顕著な陽光性があり、早朝から日中にかけて樹影のある山頂部や尾根筋、伐採斜面などに集まって活動する。この集合と分散によって地域全体の個体群が維持されるという側面がある。卵はカンアオイ類の新芽裏面に10個程度にかためて産みつけられる。ミヤコアオイは浅い谷筋や薄暗い林中に多いが、産卵は林縁部のものに集中する。春は明るく、夏は薄暗くなるような季節的推移のはっきりした林床が生息域となる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種の生息にもっとも適した環境は、雑木の疎林と藪や小川が混交する起伏に富んだ地形に適度に開けた空間、入り組んだ山裾の里山である。そのほかにも食草カ

ンアオイ類さえ生育していればブナ、カシ、スギ、マツ、タケなどさまざまな林縁環境で局所的にみられる。食草はミヤコアオイ、サンヨウアオイ、タイリンアオイ。それぞれの個体群が異なった分布成立要因をもつメタ個体群と考えられる。いずれの地域においても土地開発などにより産地が狭められつつある。生息地の全体像は把握できておらず、新産地の発見とその生息環境の実態を詳しく知ることが急務である。本種の記録がなくても、カンアオイ類の生育する土地の大規模な造成や伐採にあたっては、生息の可能性が高いので事前の調査が必要である。旧・赤来町女亀山で県条例により、松江市星上山・大田市大江高山では市条例によって保護されている。

### 【存続を脅かす原因】

大規模な土地開発、雑木林の手入れ不足による荒廃。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目アゲハチョウ科

# ジャコウアゲハ

*Atrophaneura alcinous* (Klug, 1836)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が局地的で個体数も少ない。

### 【概要】

翅長46－58mm。山陰には食草がウマノスズクサ、マルバウマノスズクサの2種があり、前種は温帯から暖帯に広く分布しているが、山陰では局地的にしか見られないため、発生地も限られている。南西諸島では成虫が年周見られ、数も多いが、山陰では3化と思われる。飛翔はゆるやかで、アザミ、ネギボウズなど各種の草花で吸蜜する。吸水は確認されていない。卵から蛹まで特異な形をし、幼虫は共食いすることも知られている。蛹で越冬。ウマノスズクサ食のチョウは国内では本種しか生息していなかったが、近年同属のベニモンアゲハが八重山に土着し、またホソオチョウが人為的な放蝶により国内各地で繁殖している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

ウマノスズクサは堤防などに多く見られる。マルバウ

マノスズクサは本県が南限で、局所的に分布している多年草のつる草。県内では斐伊川、神戸川、飯梨川、周布川の堤防で本種が発生しているが、飯梨川では河川改良で食草が消滅した。本種は時には大発生することがあり、大山(マルバウマノスズクサ)、飯梨川(ウマノスズクサ)のように食草を食べつくし姿を消すこともある。鳥取県米子市法勝寺川堤防のように、定期的な草刈をしている所では、大発生防止になり、数は少ないが長期間生息できる環境となっている。隠岐(西ノ島、マルバウマノスズクサ食)でも複数の採集記録があるが、40年近く再確認されておらず絶滅している可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

里山の荒廃。河川堤防の過度の草刈りによるウマノスズクサ生息地の破壊。ウマノスズクサを公園や墓地などに人工的に植栽して生息地を増やすことを考えたい。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    | △  |      |    | ○  |    |      |    |    | ○  |      |    |    |    | ○    |    |    |    |    |    |

チョウ目シロチョウ科

# スジボソヤマキチョウ

*Gonepteryx aspasia niponica* Bollow, 1930

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

1990年代より、産地・個体数とも減少傾向である。

### 【概要】

翅長30-35mm。翅の先端が尖っているのが特徴。6月に発生した成虫はヒメジョオン、オカトラノオなどの花で吸蜜する。オスはよく吸水にくる。また、翅を閉じたまま葉裏に止まる性質もある。盛夏時には夏眠をし、秋再び現われて活動、そのまま越冬する。翌年3月ごろ暖かい晴天の日に見われてクロウメドキ類の枝先に産卵するが、1本の木に3-40個の卵を見かけることもある。越冬後の成虫は翅が痛んでいる。

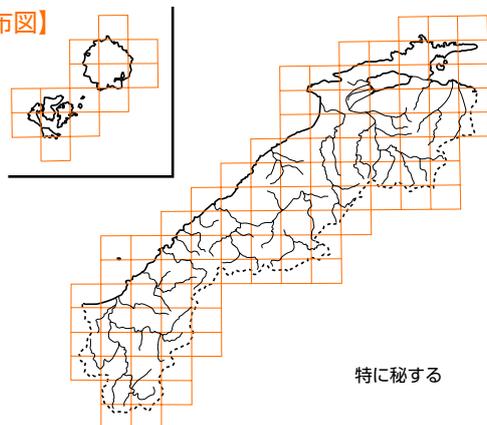
### 【県内での生息地域・生息環境】

匹見峡、松江市忌部、船通山、呑谷、三瓶山、三井野原などの林縁で見られるが減少が著しく近年はまれ。また、盛夏には高地のヒヨドリバナに吸蜜に来ていることがある。

### 【存続を脅かす原因】

クロウメドキを含む落葉樹林帯の伐採、雑木林の荒廃。

### 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# カラスシジミ

*Fixsenia w-album fentoni* (Butler, 1882)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

分布が限定され、個体数も激減してまれな種になってきた。

### 【概要】

翅長15-19mm。後翅裏面の白色条がW型になり、同属のミヤマカラスシジミと識別できる。北海道、本州、九州に分布し多産するところもある。食樹のハルニレがある落葉広葉樹林に見られる。年1回6月に発生、オスは夕方占有行動をし、三瓶山などではウツギなどで吸蜜するのを見ることができる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

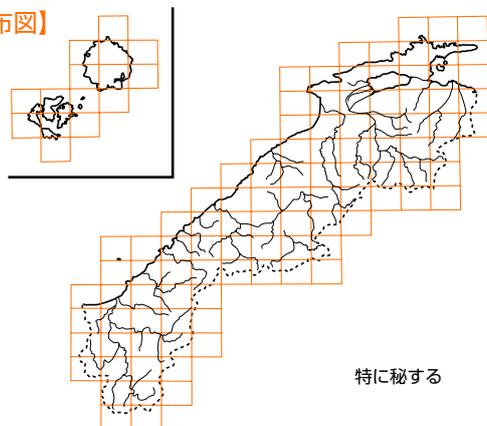
県内では西部、東部、隠岐諸島で記録があるが、開発などの伐採で絶滅していると思われるところもある。隠岐諸島は地理的変異をもつ独特の個体群が確認されているが、薬剤空中散布の影響を受け激減した。多産した三瓶山でも牧場拡張などでハルニレの大木が伐採され大きな影響を受け、個体数は減少した。近年、奥出雲町、雲

南市でも発見されている。

### 【存続を脅かす原因】

ハルニレを含む落葉広葉樹林の伐採。

### 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ミヤマカラスシジミ

*Fixsenia mera* (Janson, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

1990年代より、産地・個体数とも減少傾向である。

## 【概要】

翅長16-18mm。山地性のチョウで、年1回6月下旬ごろより現われ、二次林や落葉樹林周辺の明るい場所を敏速に飛び回り、ヒメジョオンなどの花を訪れる。産卵は食樹クロウメモドキ類の枝にし、卵で越冬する。

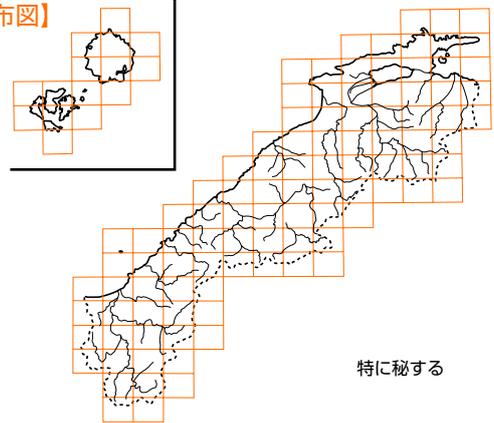
## 【県内での生息地域・生息環境】

食樹は落葉樹林帯の中に見られ、三瓶山、旧・匹見町、旧・横田町小八川などで記録がある。旧・横田町三井野原も良好な生息地であったが、1980年代には林が伐採され、さらにループ橋ができてからは生息環境が大きく変わり絶滅したと思われる。食樹が同じであるスジボソヤマキチョウともども減少が著しいのは、減少要因が同じだろうと推測される。

## 【存続を脅かす原因】

クロウメモドキを含む落葉樹林帯の伐採、荒廃。

## 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

チョウ目シジミチョウ科

# ウスイロオナガシジミ

*Antigius butleri* (Fenton, 1882)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵18

## 【選定理由】

生息地、個体数ともに減少している。

## 【概要】

翅長16-18mm。鳥取県大山のような高標高地ではミズナラ林で6月下旬ごろから7月中旬ごろに発生するが、県内の低山地では6月中旬ごろナラガシワに発生する。ウラジロミドリシジミ、ヒロオビミドリシジミのようにナラガシワのある程度まとまった林ばかりではなく、低山地の農道脇にポツリと点在する木にも少ないながら見られる。日中は葉陰に静止していることが多く、目立ちにくい種ではある。もともと少なかった種に思えるが、車の排ガスや遷移による影響も考えられ、昔は確認できた所も今では見られないところが多い。

## 【県内での生息地域・生息環境】

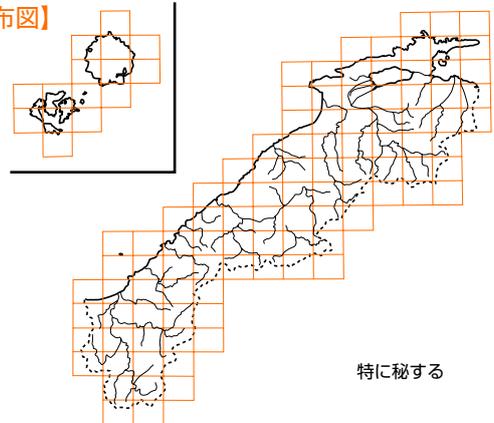
東部では2002年に低山地の農道脇の樹から確認できた所もあるが、樹が大きくなり枝が道路へ張り出せば伐採される恐れや、遷移進行で生息環境は決してよくない。

旧・木次町には毎年確認されているところも残されている。

## 【存続を脅かす原因】

食樹ナラガシワを含む雑木林の荒廃と伐採。

## 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目シジミチョウ科

# オナガシジミ

*Araragi enthea* (Janson, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

生息地、個体数とも減少している。

### 【概要】

翅長18mm前後。溪谷沿いに見られるオニグルミが食樹で、他のゼフィルスより少し遅れ7月中旬ごろ出現。昼間は葉陰で静止しているが、夕方になると食樹の梢を飛翔する。産卵は樹幹のシワ部分にするのを確認しているが、多くは休眠芽近くの枝で見られる。

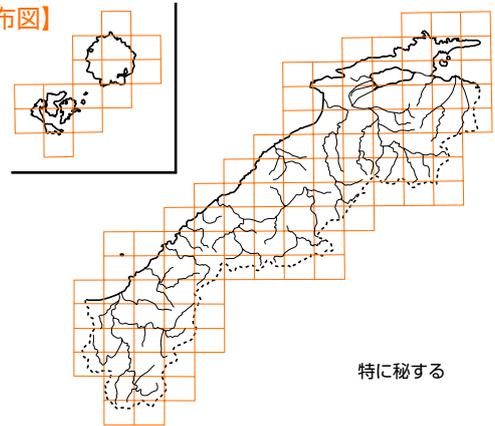
### 【県内での生息地域・生息環境】

オニグルミは湿った土地を好み、水分が少ないところでは成木しない。そのため溪流沿いに繁殖するが、三瓶山北の原での成木林は、地下に水分を多く含んでいる特殊な環境であろう。堰堤工事や林道改修などで伐採されたり、遷移が進行したりで、各地とも環境は決して良いとはいえず、現在では隠岐（島後）、奥出雲町などに散発的に見られるに過ぎない。また隠岐（島後）産は特異な個体群であり保全が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

溪谷沿いの道路拡幅による食樹オニグルミの混じる落葉広葉樹林の伐採。

### 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    | ○  | ○    |    | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ヒロオビミドリシジミ

*Favonius latifasciatus* (Shirôzu et Hayashi, 1959)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

ナラガシワに依存しているため産地が限定され、個体数も減少傾向である。

### 【概要】

翅長22-24mm。中国地方のみに生息する。低山地に見られるナラガシワに依存。6月上旬から下旬ごろに発生するが、ある程度古木が存在する林に見られる。翅表が青緑色のミドリシジミ類の中では発生が早い。オスは晴天の日、朝10時ごろより活動を始め、昼ごろに一時活動が鈍くなり、2時ごろから再び活動する。追飛や卍飛翔など激しく飛翔するが、メスは不活発で葉上にいることが多く、早朝には下草にも降りている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

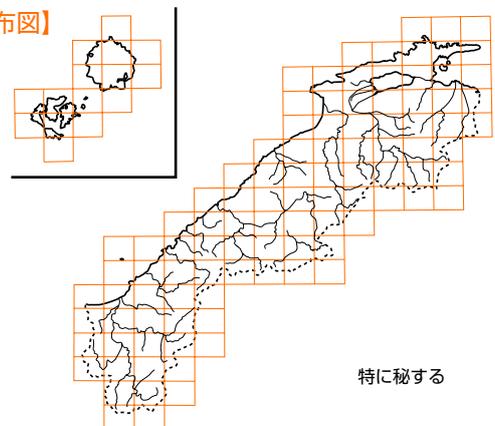
ナラガシワは県内の低山地に広範囲に点在するがごく小規模な林しかないため、本種の生息密度は低く生息地も限られている。旧・匹見町、旧・六日市町、旧・瑞穂町、旧・邑智町、旧・頓原町、旧・横田町、旧・赤来町

などに記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

ナラガシワはまったくの雑木として扱われるため伐採されやすく、保全が必要である。

### 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ミドリシジミ

*Neozephyrus japonicus* (Murray, 1875)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限定され個体数も減少傾向。

### 【概要】

翅長18-20mm。食樹ハンノキ、ヤマハンノキが自生する湿地に、6月下旬から7月中旬ごろ発生する。北海道から九州まで広く分布し、平地から山地まで見られるが、山陰では山地性となる。オスの翅表は金緑色、メスは黒褐色で、A、B、AB、Oと呼ばれる4型の色斑が現れる。発生地を離れることなく、昼間は葉上で静止していることが多いが、夕方には活発に活動する。

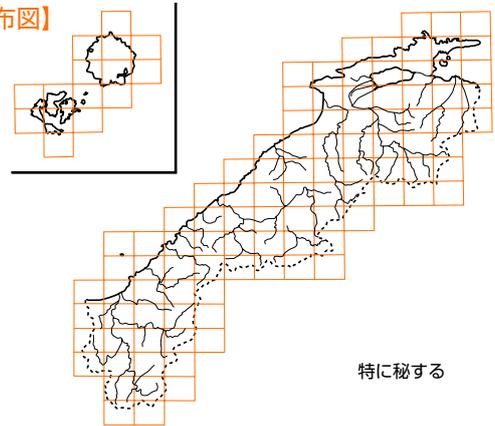
### 【県内での生息地域・生息環境】

県東・西部の湿地帯に食樹が点在し、生息が確認されているが、規模は小さい。ハンノキ林があっても本種が見られない場所、小川沿いの1本の樹に発生していたがすでに姿を消した場所もある。湿地は埋立てや遷移で不安定でもあり、現在の状況からすると、今後長期間安定した発生は望めないようにも思われる。

### 【存続を脅かす原因】

ハンノキの生える湿地の開発、埋め立て、乾燥化。谷沿いにある小湿地は産廃処分場として開発されつつある。

### 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 湿地 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |    |

チョウ目タテハチョウ科

# クモガタヒョウモン

*Nephargynnis anadyomene ella* (Bremer, 1864)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

分布は広いが極端に減少傾向にある。

### 【概要】

翅長30-41mm。他のヒョウモン類に先駆けて、平地では5月中旬ごろより出現する。低山地から山地まで広範囲に生息しているが、広い草原よりは雑木林周辺、谷筋にある明るい草地などで吸蜜しているのを見かけることが多い。比較的ゆるやかに飛ぶが、人には敏感で近づくとすぐ飛び立つ。やがて夏眠に入り姿を消し、秋再び現われて活動し産卵する。

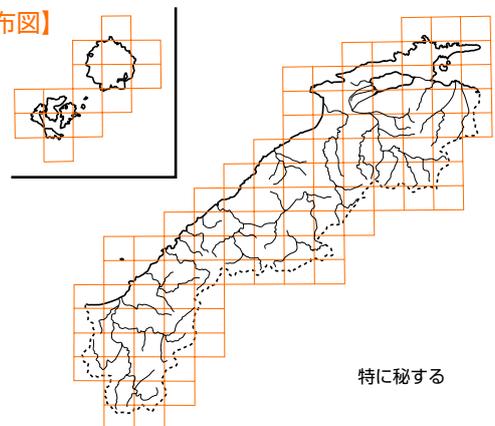
### 【県内での生息地域・生息環境】

里山域を中心にして、県内全域（隠岐諸島・島根半島含む）に低密度で分布していたが、近年は目撃することさえ困難になってきた。以前の三瓶山では遊歩道沿いなどのウツギに集まるが多かった。不用意に雑木林を伐採せず、その林縁部を欠かさず手入れしていくなど、里山環境を保全していくことが望ましい。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の手入れ不足による荒廃。農薬の影響も考えられる。

### 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 湿地 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      | ○  |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    | ○  |      |    |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目タテハチョウ科

# メスグロヒョウモン

*Damora sagana liane* (Fruhstorfer, 1907)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

1970年代には普通に見られたが、1990年代より減少傾向にある。

### 【概要】

翅長35－40mm。オスは他のヒョウモン類と似た色模様しているが、メスは地色が黒褐色でイチモンジチョウに似た色模様をし、別種のように見える。低山地の雑木林や二次林周辺に6月中旬ごろ現われ、各種の花を訪れたり、地上で吸水したりするが、盛夏には夏眠し秋再び現われ、木の幹など食草から離れた所に産卵、1令幼虫で越冬する。食草はスマレ類。

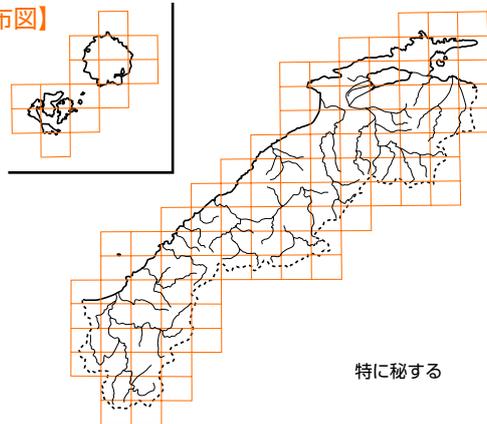
### 【県内での生息地域・生息環境】

低山地の雑木林の林縁などが主要生息地。ウツギ、クリ、ノアザミ、オカトラノオなどに訪花するのが観察されている。隠岐諸島でも以前のように多く見られることがない。秋季見られる越冬個体は人家周辺の草花で吸水するので発見されやすい。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の手入れ不足による荒廃。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      | ○  |    |    |      | ○  |    |    |      |    | ○  |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目タテハチョウ科

# ミスジチョウ

*Neptis philyra excellens* Butler, 1878

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

近年個体数が減少している。

### 【概要】

翅長31－37mm。古くは松江市内や郊外の社寺林にも見られたが、急速に姿を消し、現在では溪谷沿いにカエデがある落葉広葉樹林にまれに見られる程度である。しかし、発生にはカエデ林は必要なく、1本の大きな木があり、周囲の環境さえよければ発生源になる。年1回6月上旬に発生、樹冠を滑空するように飛翔、よく吸水のため地上に降りてくる。幼虫越冬するが、カエデの葉が落ちないように柄を枝と糸で綴っているため冬季には目に付きやすい。

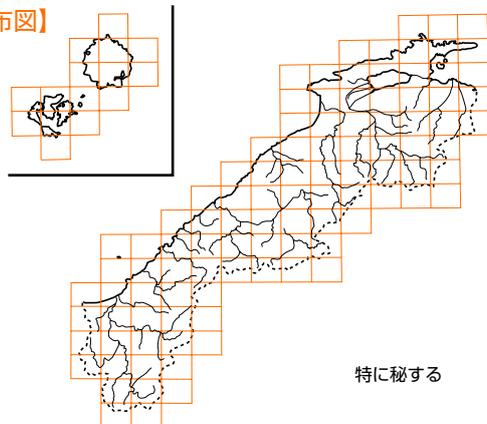
### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山、呑谷、匹見峡、大万木山などで確認されているが、どことも必ず見られる場所ではなく、カエデのある溪谷でも2～3年で幼虫さえも見られなくなることがある。

### 【存続を脅かす原因】

カエデの混じる自然度の高い落葉広葉樹林の伐採。林道のアスファルト舗装化。

### 【分布図】



| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目タテハチョウ科

# オオムラサキ

*Sasakia charonda* (Hewitson, 1863)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

近年著しく減少している。

### 【概要】

翅を開くと100mmを超すタテハチョウ最大の大きさで、飛翔も樹の周りを滑空旋回し力強く勇壮。オスの翅表には綺麗な紫色がありたいへん美しく、国蝶にも選ばれている。年1回6月下旬から7月に発生、オス、メス共にクヌギなどの樹液に集まる。幼虫はエノキ、エゾエノキを食し、落葉裏で越冬する。農山村の生活習慣の変化から里山が変貌し雑木林は著しく荒廃が進んだ。里山を代表するチョウ類が衰亡していく様相が本種の動向から垣間見える。

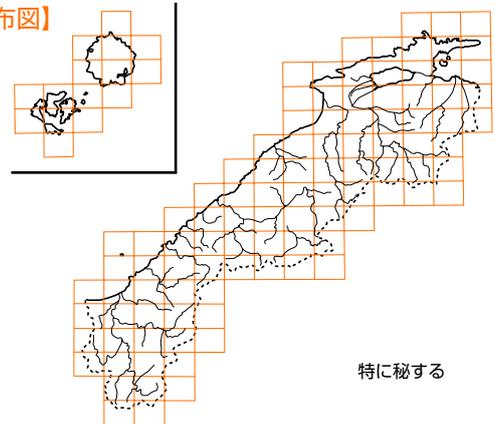
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内広く低密度で確認されているが、浜田市では開発、安来市のような自然林も樹液の出る樹が枯れるなど環境悪化が進んでいる。車の排ガスも影響が大きいと思われる。多産していた三瓶山でも少なくなってきた。

### 【存続を脅かす原因】

幼虫の食樹エノキ・エゾエノキ、成虫の蜜源クヌギ・アベマキを含む自然度の高い雑木林の伐採、手入れ不足、放置による荒廃。

### 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目ジャノメチョウ科

# ヒメヒカゲ中部・近畿・中国地方亜種

*Coenonympha oedippus arothius* Okada et Torii, 1945

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

生息地が局限され、個体数も減少傾向である。

### 【概要】

翅長20-23mm。年1回6-7月に出現、翅裏面の眼状紋に特徴があり、地理的変異、個体変異が知られる。中部地方と中国地方の山陰側では高標高地の乾性草原に、東海地方と山陽地方では低標高地の湿性草原に見られるという特異な分布を示す。生息地では日あたりのよい草地をゆるやかに飛翔し、オカトラノオなどの花を訪れる。

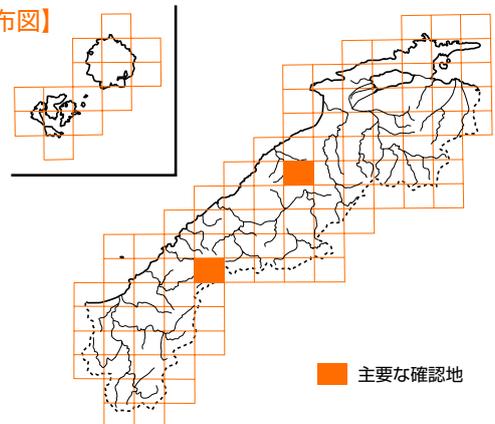
### 【県内での生息地域・生息環境】

雲月山と三瓶山の2カ所の乾性草原に生息する。雲月山では山頂近くの草地に多く見られたが激減した。三瓶山でも減少が激しく、西の原、北の原ではまれで、東の原で見られるに過ぎず、憂慮される事態になっている。県内での幼虫の食草は知られていないが、他県の例からイネ科であることは間違いない。

### 【存続を脅かす原因】

手入れ不足や過放牧による乾性草原の荒廃。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ◎  |    |    |      | ◎  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目セセリチョウ科

# ギンイチモンジセセリ

*Leptalina unicolor* (Bremer et Grey, 1835)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵19

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

生息地が減り個体数も減少している。

## 【概要】

翅長15-16mm。翅の裏面にはみごとな銀線がある特異な模様で近似種はいない。北海道から九州まで広く分布するが、どことも個体数の減少傾向が見られる。本種は食草のススキ・オギがある明るい草地在りになっていて、クズ、カナムグラのような繁殖力の強い植物が入り被い尽くすと姿を消す。5月と7-8月年2回発生し、草上を弱々しく飛び続け、葉に止まったり花で吸蜜したりする。また湿ったところでは吸水もし、時には集団にもなる。

## 【県内での生息地域・生息環境】

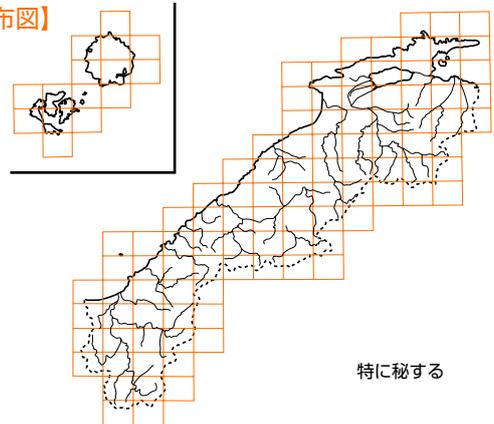
県東部では斐伊川、西部では旧・三隅町、高津川など数カ所が産地として知られている。開発などで産地が破壊され絶滅しているところもある。遷移の進行など残された産地も環境が悪くなっている。米子市では高速道路

のり面で発生しているところがあり、県内でもそういう可能性はある。

## 【存続を脅かす原因】

手入れ不足による草地の荒廃。

## 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    | ○    |    |    | ○  |    |    |

チョウ目セセリチョウ科

# スジグロチャバネセセリ

*Thymelicus leoninus* (Butler, 1878)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

局所的で個体数も減少傾向である。

## 【概要】

翅長14mm前後。地色は赤橙色、翅脈が黒い線状になりその名がある。オスは斜状性標があるが、メスはヘリグロチャバネセセリに酷似し識別が困難。7-8月に発生、溪谷沿いの林縁の明るい草をゆるやかに飛び、訪花や吸水をする。葉に止まるときは前翅を立て、後翅を開くセセリチョウ独特の姿勢をとる。

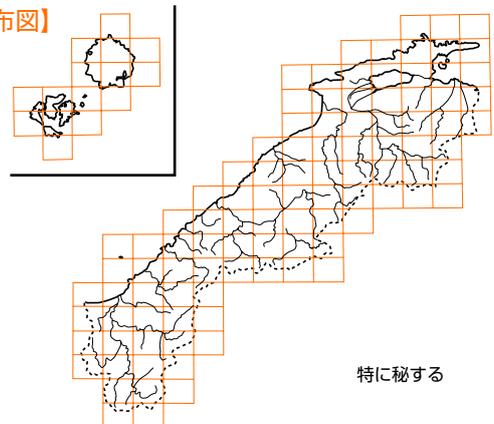
## 【県内での生息地域・生息環境】

県内では島根半島、船通山、立久恵峡、江の川流域、旧・頓原町などで確認されているが少ない。旧・仁多町呑谷は、年によって多産することもあるが、2013年は伐採後の山道が放置されて荒れて減少していた。近似種ヘリグロチャバネセセリが崖地の草付きに生息するのに対し、本種は谷沿いの林縁草地に多く、すみ分けをしている。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の開発改修、自然遷移。

## 【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    | △    | △  |    |    | △   | △  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目セセリチョウ科

# ミヤマチャバネセセリ

*Pelopidas jansonis* (Butler, 1878)

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

産地・個体数とも著しい減少傾向が見られる。

### 【概要】

翅長16-21mm。本州（隠岐諸島を含む）、四国、九州に分布。チャバネセセリの仲間は、後翅裏面の白斑の並び方で種別を識別するが、後翅の中室に大きな白斑があるのは本種のみで識別は容易。年2回、5月ごろと7-8月に発生する。山地樹林周辺の草地を敏速に飛び回り、ノアザミ、ヒメジョオンなどの花に好んで吸蜜し、湿地で吸水もする。

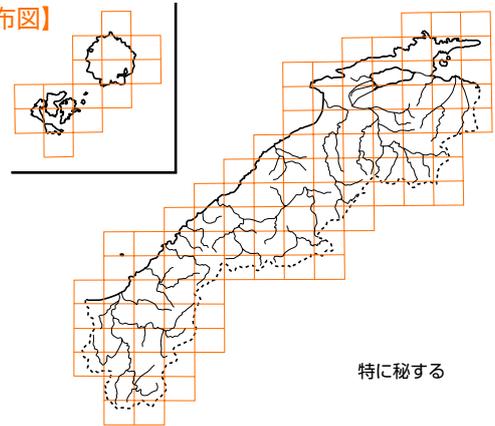
### 【県内での生息地域・生息環境】

以前は島根半島の山麓にも多かったが、近年減少傾向にある。隠岐（島後）でも最近の記録が少ない。三瓶山では比較的まだ多く見られる。採草地、牧場などの広い草原では見られない。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の草地の荒廃。

【分布図】



特に秘する

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    | ○  |    |    | ○   | ○  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目カワトンボ科

# アオハダトンボ

*Calopteryx japonica* Selys, 1869

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

水生植物が豊かな河川中流域に生息しており、河川改修等による環境変化に弱い。

### 【概要】

全長55－63mm。ハグロトンボによく似るが、成熟したオスでは翅が青藍色に輝き、また腹面末端が白色である。メスでは翅に白色の偽縁紋がある。羽化時期はハグロトンボより約1カ月早く5月中旬ごろから始まる。最盛期は6月で8月上旬まで見られる。本種はメスへの求愛行動が特異で、オスは飛びながら腹面末端の白色部を誇示し、ときに流水面に浮かんで流されるような行動をとる。

産卵はメス単独で水中植物に行うが、しばしば潜水産卵に移行する。朝鮮半島から中国東北部、東シベリアに分布し、国内では本州および九州の各地に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

流域の比較的大きな河川の中流域を中心に広く分布するが、生息河川はかなり限定される。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

生息地流域の開発等による水質悪化や、河川改修等による河川植生環境の消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    | ○    |    |    |    |    |    |

トンボ目イトトンボ科

# ムスジイトトンボ

*Paracercion melanotum* (Selys, 1876)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での記録が非常に少なく、現在確実に見られるのは中海沿岸部の池沼や河川下流域。

### 【概要】

全長30－39mmの中型のイトトンボ。同属のセスジイトトンボやオオイトトンボとは混生するうえ形態が酷似するため、同定に注意を要するグループの一つ。オスでは同属他種に比べ眼後紋が小さく体色の青みが強いが、確実な同定には尾部付属器による確認が必要。メスでは前胸後縁の中央部がへこむことなどで識別できる。国内で

は宮城県以南に分布。南方系の種で日本海側では産地が限定される。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）を含む県内沿岸部の数カ所から記録されている。平地の植生豊かで比較的大きな池沼、河川の河口域等がおもな生息環境。中海に面している鳥取県米子市の水鳥公園周辺は本種の多産地であるが、距離的に近い飯梨川河口周辺で近年生息が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

開発等による生息水域の消失や水質悪化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    | ○  | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      | ○  |    |    |    | ○  |

トンボ目イトトンボ科

# ホンミイトトンボ

*Aciagrion migratum* (Selys, 1876)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での分布が局限され、また単発的な記録が多く、確実な生息地が知られていない。

### 【概要】

著しく細身の中型のイトトンボ。本種は秋に羽化し、越冬後翌春に成熟する越冬型と、初夏に羽化し直ちに成熟する夏型の2タイプが知られる。全長は越冬型で33－37mm、夏型で29－33mm。未熟な個体は、オス、メスとも淡褐色であるが、成熟すると越冬型の方が、体色の青みがより強く鮮やかになる。産卵はオス、メス連結して植物組織内に行うのがよく観察される。台湾、朝鮮半島か

ら中国中部にかけて分布し、国内では関東・北陸地方以南に分布している。本種は南方系の種であり、比較的寒冷な気候の日本海側では分布が限られる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平地から山間部まで広く分布するが産地は局部的。植生豊かで日当たりのよい池沼や水田等に生息。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

圃場整備や池沼の埋め立てによる生息地の消失。水田への農薬散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    | ○  |    | ○    |    |    | ○  |      | ○  |    |    |    |    |

トンボ目ムカシトンボ科

# ムカシトンボ

*Epiophlebia superstes* (Selys, 1889)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

河床の安定した山間部の溪流に生息するが、分布は局地的である。

### 【概要】

全長45－56mm。中生代に栄えた古代トンボの1群で、現生種は日本特産種である本種と、ヒマラヤ山地に生息するヒマラヤムカシトンボの2種のみ知られていたが、最近になって中国北東部から第3の種が報告されている。複眼が離れるなど体形はサナエトンボ科に似るが、翅はアオイトトンボ科に似るといふ特異な形態をしている。幼虫期間はきわめて長く、6、7年に及ぶと言われている。

ている。おもに4月下旬から5月にかけて溪流周辺を敏捷に飛翔する。産卵はメスが単独でフキ、ワサビ、コケ類などの生体組織内に行く。成虫の出現期間が短いため、幼虫採集による分布調査が有効。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地沿いの源流域を中心に、島根半島部や離島である隠岐（島後）にも分布している。

### 【存続を脅かす原因】

林道やダム建設等、山間開発による溪流への土砂流入や水系の分断。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 溪流 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    | ○  |     |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |    |

トンボ目ヤンマ科

# サラサヤンマ

*Sarasaeschna pryeri* (Martin, 1909)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

周辺を樹林で囲まれた湿地や休耕田などに生息するが、産地は局地的である。

### 【概要】

全長57－68mm。黒地に黄色から緑色の斑紋を持つ小型のヤンマ。樹林に囲まれた丘陵地の湿地や休耕田に生息する。4月下旬ごろから羽化が始まり、未熟成虫は林間の開けた場所を高く飛びながら摂食飛翔を行う。成熟したオスは木陰のある湿地や休耕田をホバリングを交えながら縄張り飛翔を行い、メスの飛来を待つ。産卵は朽木

や湿った土、落ち葉などに行く。北海道、本州、四国、九州に分布するが、産地の減少している地域もある。日本特産種。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平野部から山間部まで広く分布するが、特殊な湿地環境に生息するため産地は局限される。隠岐（島後）にも分布する。

### 【存続を脅かす原因】

湿地や休耕田の乾燥化、開発による生息場所の消失。成虫の休息場所となる林の消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    | ○  |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

トンボ目ヤンマ科

# アオヤンマ

*Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

生息池沼の埋め立てやヨシ原などの植生破壊により、産地が急速に減っている。

### 【概要】

全長66－79mm。全身黄緑が鮮やかで、一見して他のヤンマと区別できる。幼虫の頭部は顕著な逆三角形でネアカヨシヤンマに似るが、腹部に背棘がないことで識別できる。羽化は5月上旬ごろから始まり、成虫は8月中旬ごろまで見られる。成熟したオスは、おもに日中、ヨシ原の間を縫うように縄張り飛翔する。交尾はヨシ原の中や、林縁の小枝などで観察される。メスは単独で挺水植

物の茎に産卵する。国外では朝鮮半島と中国中部、北部に分布し、国内では北海道南部から九州熊本まで分布している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

挺水植物が繁茂する池沼やクリークに生息し、かつては平野部で普通に見られた。隠岐諸島では現在も比較的多産する。

### 【存続を脅かす原因】

挺水植物の多生する溝川や池沼の埋め立て。ヨシ原などの植生破壊。休息場所となる山林への薬剤散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目ヤンマ科

# カトリヤンマ

*Gynacantha japonica* Bartenef, 1909

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

圃場整備による水田の乾燥化や山裾の水田の放棄荒廃により、近年減少傾向が著しい。

### 【概要】

全長66－77mm。複眼が大きく腹部がほっそりとした中型のヤンマ。腹部背面の第2節の色は、成熟オスでは鮮やかな水色、メスでは緑色の斑紋となる。羽化は7月上旬ごろから始まり、成虫は秋遅く11月下旬ころまで見られる。黄昏活動性が強く、日中は薄暗い樹林の下枝にぶら下がっていることが多い。産卵はメス単独で水田の湿土や朽木などに行う。国外では中国中部、北部から朝鮮

半島に分布し、国内では北海道南部から九州まで広く分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

かつては平野部から低山地にかけての林縁の水田で普通に見られたが、圃場整備による水田の乾燥化や草原化により近年急速に生息状況が悪化している。隠岐の島後や、島前の知夫里島にも記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

圃場整備等による水田や湿地の乾燥化。成虫の休息場所となる林の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |     |    | ○  |    |      |    |    | ○  |      |    |    |    |    |    |

トンボ目ヤンマ科

# ルリボシヤンマ

*Aeshna juncea* (Linnaeus, 1758)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

おもに中国山地沿いの湿地や比較的小規模な池沼に生息するが、分布が局地的である。

### 【概要】

全長68－90mm。オオルリボシヤンマに似た大型のヤンマである。7月中旬ごろから羽化、成虫は10月中旬ごろまで見られる。成熟した成虫は、気温が下がり始める8月下旬ごろから水域に現れ、オスはホバリングをししば交えて縄張り飛行を行い、メスは単独で水面付近の植物組織内や湿土に産卵する。北半球北部一帯に分布し、

国内では北海道、本州、四国に分布。西南日本では産地に限られる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

おもに中国山地沿いの湿地や休耕田、小規模で挺水植物の豊富な池沼で見られる。島根半島部や益田市周辺、大田市石見銀山周辺など標高の低い平野部での記録もあるが非常にまれ。隠岐諸島では未記録である。

### 【存続を脅かす原因】

造成や残土処理等による生息地の埋め立て。成虫の休息場所となる森林の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 湿地 | 森林 | 草原   | 農地 | 河川 | 湖沼 | 湿地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    | ○  |    |      |    |    |    | ○  |    |    |    |    |

トンボ目サナエトンボ科

# ヒメサナエ

*Sinogomphus flavolimbatus* (Matsumura in Oguma, 1926)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

流域全体の環境が良好に保たれている大きな河川の流域に限って分布する。

### 【概要】

全長41－47mm。河川上流域を中心に生息する華奢な体形のサナエトンボ。体形のよく似たオジロサナエとしばしば混生するが側胸の斑紋等で識別は容易。幼虫は河川中下流域まで流下することが多く、そこで羽化した成虫は上流域に移動しながら成熟するという。匹見川では、6月に羽化が始まり7月中旬には溪流の石の上で縄張り

を張るオスが多数見られる。産卵はメスが単独で、流れの緩い岸辺に現れ打水産卵を行う。日本特産種。

### 【県内での生息地域・生息環境】

比較的流域の大きな河川の上流部で見られる。高津川水系の匹見川上流部では多産するが他の地域では単発的な記録がほとんどで個体数も多くない。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

林道工事等山間部開発に伴う木々の伐採や溪流への土砂流入。ダム設置による溪流環境の消失や水系の分断。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    | ○  |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

トンボ目サナエトンボ科

# タベサナエ

*Trigomphus citimus tabei* Asahina, 1949

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

分布が限られるが、特に県東部ではまれで、絶滅した産地も少なくない。

### 【概要】

全長43－47mmの比較的小型のサナエトンボ。県内に分布するコサナエ属3種（本種、コサナエ、オグマサナエ）はお互い酷似し、また混生も見られるため、成虫の同定には注意を要する。ただし本種幼虫は、同属他種に比べ背棘・側棘が明瞭であり、また腹部先端が円筒形にならず、区別は容易である。県内平野部では4月上旬から羽

化が始まり6月まで記録がある。コサナエ属中で本種のみが日本特産種でなく、朝鮮半島から中国東北部にかけて別亜種が分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を除く県全域に分布するが、東部では産地が局限される。平野部を中心に、緩やかな流れの浅い小川に生息するが、溜池等止水的環境にも適応している。

### 【存続を脅かす原因】

小規模な流れのコンクリート水路化。生息地の植生環境の破壊。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 小川 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 小川 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    | ○    | ○  |    |    |      |    | ○  | ○  |    |    |    |    |

トンボ目サナエトンボ科

# キイロサナエ

*Asiagomphus pryeri* (Selys, 1883)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

平地や丘陵地の緩やかな流れの砂泥河川に生息するため、分布が限られる。

### 【概要】

全長60－69mmの大型のトンボ。ヤマサナエに似るが、オスでは尾部上付属器の先端が斜めに断ち切れ下部付属器よりも短いこと、メスでは産卵弁が長く突出することで識別は容易。羽化は5月中旬ごろから行われ、1週間前後で終わる。未熟個体は生息地周辺の林内で過した後、水域に戻ってくる。オスは河川の石や植物に静止し縄張

りを占有する。日本特産種で関東以南の本州、四国、九州に分布するが、全国的に産地の減少が顕著。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部を中心に記録があるが、中・西部では記録が少ない。隠岐諸島では未記録。おもな生息環境は砂泥河川の中下流域である。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修等による河川環境の変化。未熟期間を過ごす河川周辺の林の消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 小川 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 小川 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    | ○  |    |    |    |    |

トンボ目ムカシヤンマ科

# ムカシヤンマ

*Tanypteryx pryeri* (Selys, 1889)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

幼虫が山の斜面で水のしたたり落ちるような特殊な環境に生息するため分布が限られる。

### 【概要】

全長63－80mmのやや大型のトンボ。頭部が比較的小さく複眼が離れており、一見サナエトンボのように見えるが、腹部の斑紋が特異で縁紋もサナエトンボより長い。羽化は5月上旬ごろに始まり、成虫は7月下旬まで見られる。大型のトンボのわりに動作がのろく、飛翔しているより、木立の幹や地面および低木の葉上などに体を密着させて止まることが多い。産卵はメス単独で湿った柔

らかい泥やコケの間に行く。幼虫は湿った土やコケの間にトンネルを掘って生活している。日本特産種で本州、九州に分布しているが、四国には分布しない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

低山地から山間部にかけて広く分布するが、産地は限定される。島根半島部にも記録があるが、隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

林道建設等開発による生息湿地の消失。成虫の休息場所となる山林の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 湿地 | 森林 | 草原   | 農地 | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    | ○  |    |      |    |    |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トンボ目エゾトンボ科

# エゾトンボ

*Somatochlora viridiaenea* (Uhler, 1858)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

かつては休耕田等の増加に伴い、一時的に産地・個体数を増したが、植生遷移による生息地の乾燥化などにより多くの産地が消失した。

### 【概要】

全長53－74mm。全体が金属光沢のある暗緑色をした中型のトンボで夏から秋に出現する。成熟したオスは水田や湿地上で縄張り飛翔を行いメスの飛来を待つ。黄昏時には生息地周辺の高所を広範囲に飛び回る。同属のハネビロエゾトンボとは混生するうえ、特にオスの形態が酷

似するため、同定には注意を要する。雌雄とも腹部に黄斑があるのが本種であるが、成熟した雄では黄斑の消失する個体も見られ、尾部上付属器による確認が必要である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含め、県内全域の丘陵地から山地にかけての湿地的環境に分布するが、生息地は限定される。

### 【存続を脅かす原因】

植生遷移等による湿地の乾燥化や草原化、造成・残土処分等による湿地の消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 湿地 | 森林 | 草原   | 農地 | 河川 | 湖沼 | 湿地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |  |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |    | ○  |    |  |

トンボ目トンボ科

# ヒメアカネ

*Sympetrum parvulum* (Bartenev, 1912)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

湿地や水はけの悪い水田等に生息し、生息地が限定される。近年産地の減少が著しい。

### 【概要】

全長28－38mm。県内で見られるアカトンボ属の中では最小の種類。マユタテアカネに似るが、顔面の眉斑が無いかあっても薄く小さいことなどで区別できる。羽化は5月下旬ごろから始まり、成虫は平野部では11月ごろまで見られる。メスは交尾後、オスと連結あるいは単独で、腹部を泥の中に差し込むように産卵するのが観察される。朝鮮半島から中国東北部、ウスリーまで分布し、国

内では北海道から九州まで分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含め県全域に広く分布するが、生息地は限定される。湿地的環境に生息し、産地ではモートンイトトンボやハッチョウトンボとの混生がしばしば観察される。

### 【存続を脅かす原因】

造成や残土処分等開発による、湿地・休耕田等生息地の消失やそのような環境の乾燥化、草原化。成虫の休息場所となる周辺雑木林等の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 湿地 | 森林 | 草原   | 農地 | 河川 | 湖沼 | 湿地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |  |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |    | ○  |    |  |

トンボ目トンボ科

# ミヤマアカネ

*Sympetrum pedemontanum elatum* (Selys, 1872)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

低山地を中心にかつては比較的普通に見られたが、近年生息地の減少傾向が顕著である。

### 【概要】

全長30－41mmのやや小型のアカトンボ。翅の縁紋あたりから内側にかけて幅広い褐色帯があるのが特徴的である。羽化は6月下旬ごろから始まり、成虫は11月下旬近くまで見られる。ただ秋に羽化する個体もいるようで、一部2化の可能性があるという。オスは成熟すると縁紋も含めて全身が赤くなる。メスは成熟してもあまり赤くならず橙褐色だが、縁紋や腹部が少し赤くなるものもい

る。9月上旬ごろから交尾や産卵の生殖活動が見られる。国内では北海道から九州まで、国外では朝鮮半島、中国、ロシア、ヨーロッパに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島および島根半島部を除き、低山地を中心に広く分布する。水田やそれに付随する緩やかな流れがおもな生息環境である。最近平野部に近い生息地の減少が著しい。

### 【存続を脅かす原因】

圃場整備による水田の乾燥化や水田地帯を緩やかに流れる小川のコンクリート化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |    |  |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 湿地 | 森林 | 草原   | 農地 | 河川 | 湖沼 | 湿地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |  |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |  |

カマキリ目カマキリ科

# ウスバカマキリ

*Mantis religiosa* (Linnaeus, 1758)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

県内ではまれな種であり、生息地が限られている。

### 【概要】

体長約45–65mm。成虫・幼虫共に前脚基節の内側に黒紋がある。卵のうはやや長い枕形で壁・石下などに産みつけられる。造成地などの草地や河川敷・海岸の草原など開けた明るい環境を好み、安定した草原に生息する。国内では北海道、本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮半島、台湾、中国、シベリア、インド、中～南ヨーロッパ、北アフリカ、北米に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本土域および隠岐諸島で記録されている。隠岐諸島の記録は再確認が必要である。沿岸部の記録が多い。

### 【存続を脅かす原因】

安定した草原の減少。河川改修。海岸の開発。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    | △  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    | ○  | ○  |      |    |    | ○  |    |    |

バッタ目コオロギ科

# ハマスズ

*Dianemobius csikii* (Bolivar, 1901)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

自然度の高い砂地環境に生息する種であり、県内での生息地も減少している。

### 【概要】

体長約10–20mm。灰白色の地に褐色（あるいは灰色）の斑があり、砂とそっくりの体色をしている。2化性で、成虫期は6–10月。時々「チョンチョン」という音をまじえながら「ピーピー」と鳴く。海岸植物が多い良好な自然の砂浜や河川敷に生息する。国内では北海道南部、本州、四国、九州、奄美諸島、国外では中国北部に分布

する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部の海浜植物群落を伴った砂浜で記録されている。内陸での記録はまったく無く、確認は難しい。隠岐諸島には生息していないとみられる。

### 【存続を脅かす原因】

海浜植物群落を伴った砂浜の減少。海岸浸食。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  | ○  |

バッタ目バッタ科

# ショウリョウバッタモドキ

*Gonista bicolor* (de Haan, 1842)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

ススキやチガヤ草地の減少により、生息地が孤立している。

### 【概要】

体長約30–80mm。細長く直線的な体型。後脚は短い。体は淡緑色で、背中茶色っぽい。全身が褐色の個体もいる。飛ぶ時も発音しない。どちらかというと湿っぽい安定した草原を好む。国内では本州、四国、九州、伊豆諸島、対馬、南西諸島、国外では中国、東南アジアに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島、松江市、雲南市、三瓶山および隠岐諸島から記録されている。隠岐では1950年の目録以降、記録が無かったが、2013年10月に島前の中ノ島で再確認された。

### 【存続を脅かす原因】

水田の畦の管理方法の変化。採草地の放棄による植生遷移。特にススキ草地の減少。ススキの群落であってもクズが進入すると本種は生息できなくなる。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    | ○  |      |    |    |    |     | ○  | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

バッタ目イナゴ科

# セグロイナゴ

*Shirakiacris shirakii* (Bolivar, 1914)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生息地は限定されている。

### 【概要】

体長約30-40mm。中型のイナゴ類。体色は黒灰色から茶灰色で、黒褐色の斑紋がある。複眼には6条の黒線がある。河川敷、丘陵地の疎らな湿った草原に生息する。国内では本州、四国、九州、対馬、南西諸島、国外では朝鮮半島、沿海州南部、中国、カシミール、バルチスタンに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部、隠岐諸島で記録されている。近年の記録があるのは隠岐のみである。

### 【存続を脅かす原因】

採草地の放棄による植生遷移。草地を一斉に刈り取る事による単純化、放置によるマント群落化、セイタカアワダチソウなどの外来植物の繁茂。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    | ○  |    |      |    |    |    |    |    |

バッタ目バッタ科

# ヤマトマダラバッタ

*Epacromius japonicus* (Shiraki, 1910)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵20

### 【選定理由】

海浜植生を伴った砂丘海岸に生息する種であり、県内での生息地も自然度の高い砂浜に限定されている。

### 【概要】

体長30-35mm。体色は白地に黒や茶色の斑模様で多いが、緑色に赤褐色の斑模様を持つ個体もいる。基本的には生息地の砂地の色によく似ており、動かないと見つけることは難しい。日本固有種で北海道、本州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部から西部までの砂丘の発達する海岸や河口の砂洲に生息している。県内の砂浜海岸は、大社から湖陵付近の出雲砂丘が最大で、本種の最大の生息地でもある。隠岐諸島では記録がなく、生息の可能性も低い。全国的にみれば島根県は自然度の高い砂浜が多く残されており、良好な生息地としての価値は高い。

### 【存続を脅かす原因】

砂浜海岸の開発、海岸浸食。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

ガロアムシ目ガロアムシ科

# ガロアムシ類

*Galloisina* spp.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

原始的な形態を残す昆虫とされ、県内では東部および西部の山地 5カ所で採集記録があるが、詳細は不明である。

### 【概要】

ガロアムシは体長10mm前後。全体に鉛色がかかった褐色で、生時は淡色のものが多いといわれる。

国内では、エゾガロアムシ、オオガロアムシ、ガロアムシ、ヒメガロアムシなどの種が知られ、北海道から九州までの山地で点々と発見されており、本州にはガロア

ムシのほかオオガロアムシ、ヒメガロアムシが分布するとされる。近年、新たな知見に基づく再検討が行われている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1979年に県東部の大万木山でガロアムシの成虫が採集され、その後、立久恵などの樹林の湿った石の下で成虫と幼虫が採集されている。1984年に匹見の広見山で採集された幼虫は、オオガロアムシの可能性もあるとされる。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息地域、生態などが明らかでなく不明。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| △    |    | △  |    | △    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目ハネナガウンカ科

# マエグロハネナガウンカ

*Zoraida pterophoroides* (Westwood, 1851)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

照葉樹を交えた自然林に生息する。県内での記録地は1カ所のみで個体数も少ない。

### 【概要】

体長6mm、翅端まで17mmの前翅の長い大型のウンカである。形態はアヤヘリハネナガウンカとよく似ているが、本種の前翅の前縁部暗褐色帯は後縁部が直線状であることで区別できる。本州、九州の山地で得られるが、個体数は少ない。国外では、台湾、ミャンマー、スリランカに分布する。アヤヘリハネナガウンカと同様生態等は未

知の部分が多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲部の丘陵地で1個体が得られているが、その後の記録はない。他地域でもアカガシなどの照葉樹をまじえた自然林に生息する可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

照葉樹林周辺の植生破壊・分断、市街化、殺虫剤散布、大気汚染など。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目ハネナガウンカ科

# シリアカハネナガウンカ

*Zoraida horishana* Matsumura, 1914

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵20

### 【選定理由】

照葉樹を交えた丘陵地の里山に生息する大型のウンカで、個体数が少なく全国的に希種とされる。

### 【概要】

体長は6mm（翅端まで14mm）で、前翅が非常に長く黒褐色。頭部と触覚は黄色で、腹端は鮮紅色。小楯板は大きく褐色を帯びる。幼虫はウメの朽木に生えるキノコで育つことが知られている。本州・四国・九州、台湾に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐の島町中谷で近年確認された。上記の分布域から、県本土のあまり冷涼でない地域の里山で発見される可能性はある。

### 【存続を脅かす原因】

丘陵地の里山の破壊や伐採。これらの地域の長期間の放置による竹林化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    |    | ○  | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目ハネナガウンカ科

# アヤヘリハネナガウンカ

*Losbanosia hibarensis* (Matsumura, 1935)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

低山地のスダジヤアカガシを交えた広葉樹林に生息する大型のウンカで、日本特産種。県内では数カ所で記録されている。

### 【概要】

体長5mm、翅端まで13mmの大型で美しいウンカである。体は黄赤色で前翅は長く、その外縁は直線状で基半から前縁部にかけては幅広く暗赤褐色で、その後縁はジグザク状。本州・四国・九州の山地で得られるがまれである。生態などは未知の部分が多い。幼虫は照葉樹につく菌類

を食するといわれている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市・雲南市・大田市の丘陵地の照葉樹をまじえた山林で得られているが、他地域では生息記録がない。

### 【存続を脅かす原因】

照葉樹林周辺の植生破壊・分断、市街化、殺虫剤散布、大気汚染など。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目セミ科

# エゾゼミ

*Lyristes japonicus* (Kato, 1925)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

大型の寒地性のセミであり、森林の自然度の指標となる。近年県内では記録のあった平野部で見られなくなった。

### 【概要】

体長は37–43mmでオスがやや大きく、翅端までは雄雌とも58–65mmである。アカエゾゼミとよく似るが、全体に黒味が強く前胸背の上方に白線があり、側縁が白粉におおわれている。鳴き声もよく似ているが、数分間も連続的に鳴くことがある。日本全土および朝鮮半島に分布し、ヒノキなどが生える針葉樹林に多い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

アカエゾゼミより標高の低いスギ、ヒノキなどの植林地にも生息する。県内では低山地から標高900mくらいが上限である。アカエゾゼミより分布域は広く、個体数も多いが、オスは高い梢上にいるので見つけにくい。隠岐(島後)にも生息する。出雲市大津町と湖陵町の記録は近年途絶えている。

### 【存続を脅かす原因】

低山地からブナ帯下部にかけての森林破壊や殺虫剤散布。スギ、ヒノキ人工林の放置。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目セミ科

# アカエゾゼミ

*Lyristes flammatus* (Distant, 1892)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

国内のブナ帯に生息する大型の美しいセミで、県内では標高800m以上のブナ帯に生息する。本県西部山地が本州における西限分布域となる。

### 【概要】

体長は37–43mmでオスがやや大きく、翅端までは58–65mmである。エゾゼミとよく似るが、全体に赤味が強く前胸背の上方に白線がなく、側縁も白粉におおわれていない。また前翅の暗色斑の様子によって区別できる。北海道・本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。北海道や東北地方では平地にすむが、関東以西

では600–1,200mのブナ・ミズナラ帯に生息し、産地は局所的である。7月下旬から9月上旬にかけてあられ、日当たりのいい梢で、「ギイー……」と太く短く鳴く。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山および中国山地の山頂付近数カ所で確認されているが、ブナ帯下部の標高がやや低い場所での採集記録もある。

### 【存続を脅かす原因】

ブナ、ミズナラを含む広葉樹林の伐採や分断。温暖化によるブナ林の衰退。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目セミ科

# ハルゼミ

*Terpnosia vacua* (Olivier, 1790)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵20

### 【選定理由】

アカマツやクロマツ林に生息するセミであるが、県内の平地では近年大規模なマツ枯れによって生息場所が失われつつある。

### 【概要】

体長はオスが26–31mm(翅端まで33–37mm)、メスが22–26mm(翅端まで31–36mm)である。体は黒色で細かな灰色の鱗毛を装う。オスの腹部は袋状で、メスの腹部は短く先端は細長い産卵管となる。北海道・本州・四国・九州に分布する。成虫は4月下旬から6月末に出現する。

分布域は関東以西の本州・四国・九州・神津島・天草諸島・五島列島・甌島、中国。

### 【県内での生息地域・生息環境】

全域のマツ林に生息するが、隠岐諸島には生息しない。山間部では発生が遅く個体数も少ない。近年平地では鳴き声が殆ど聞かれなくなった。

### 【存続を脅かす原因】

「マツ枯れ」による二葉生マツ林の衰退、「マツ枯れ予防」の殺虫剤散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目セミ科

# エゾハルゼミ

*Terpnosia nigricosta* (Motschulsky, 1866)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内では標高800m以上のブナ帯に生息し、本県西部山地が本州における西限分布域となる。

### 【概要】

体長はオスが30-35mm (翅端まで40-44mm)、メスが22-27mm (翅端まで38-42mm) である。北海道・本州・四国・九州に分布する。東北日本では低山地に、西南日本ではブナ帯に生息する。6月中旬から7月下旬に出現し、「ミョーキン・ミョーキン・ケケケケ……」と鳴く。合唱性があり、1匹が鳴くと他の個体も鳴きだす。同属

のハルゼミは、平地から低山地のマツを主体とする森林に広く分布し、体色は黒っぽい。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地および三瓶山の、標高800-1,000mのブナ林に生息する。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

ブナ林の伐採、分断。温暖化によるブナ林の衰退。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目セミ科

# ヒメハルゼミ

*Euterpnosia chibensis chibensis* Matsumura, 1917

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

一定規模以上の照葉樹林に生息する小型のセミであり、県内にわずかに残存する極相的自然の指標となる昆虫である。

### 【概要】

体長は23-29mmであるがオスがやや大きく、翅端まで32-37mmである。メスの産卵管はきわめて長く後方にのびる。国内では本州・四国・九州・沖縄本島・屋久島・トカラ列島・奄美大島、国外では朝鮮半島に分布する。6月中旬から7月下旬に出現し、シヤカシなどの常緑

樹上で「ウィーン・ウィーン」と鳴く。合唱性があり、森全体がうなっているように聞こえる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

極相に近い照葉樹林に生息するが、二次林的な要素をもつ地域にも見られる。出雲部では、海岸部から山間部まで生息場所が点在している。石見地方では、山間部でも確認されている。隠岐諸島には生息しない。

### 【存続を脅かす原因】

スダジイ林、カシ林などの破壊、分断。アカマツをまじえた林分の周辺における「松枯れ対策」殺虫剤散布等。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目キジラミ科

# エノキカイガラキジラミ

*Celtisaspis japonica* (Miyatake, 1968)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵20

### 【選定理由】

おもにエノキの大木がまとまって生える場所に生息する種である。古くからエノキが自生・植栽されている場所が減少しており、本種の生息地も限定されている。

### 【概要】

体長約3.6mm。体および前翅の大部分は黒色。秋型の成虫の前翅には透明な帯がある。触角の先端以外は全体に黄褐色。胸部の幅が広く、頭部は相対的に小さい。前翅の表面には細かく不規則なシワが多く、鈍い光沢がある。初夏に出現する幼虫はエノキの葉表にツノ状のゴ-

ルを形成し、葉裏には貝殻状の覆いがある。秋に出現する幼虫はゴールを作らず、葉裏に貝殻状の覆いがあるのみである。日本固有種で、本州と九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部や中部で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

エノキの大木の減少。低地におけるエノキノミゾウムシの増加も本種の生息に影響を与えている可能性がある。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目タイコウチ科

# ヒメミズカマキリ

*Ranatra unicolor* Scott, 1874

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

全国的に平野部の溜池などの汚染・破壊によって、生息地が失われつつある。県内でも最近の確かな生息記録は少ない。

### 【概要】

成虫の体長は24－32mmの細長い水生カメムシである。体は黄褐色で体長の3分の2程度の呼吸管を持つ。産卵期は6月下旬から7月。卵はヒシやジュンサイなどの浮葉植物の組織内に産み付けられる。8月ごろに成虫が現れ、メダカなどの小動物を捕らえてその体液を吸収する。水中では水草上で静止していることが多い。分布域は北

海道・本州・四国・九州・沖縄、国外では朝鮮半島・中国北部・東シベリア。同属のミズカマキリは、一回り大きく、体長と同じ長さの呼吸管を持つ。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平野部や丘陵地の小規模な溜池など約10カ所で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

溜池などの埋め立てや破壊。各種排水の流入。ブルーギルやブラックバスなど外来魚の放流。長期間の水抜きなど。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |

カメムシ目ミズムシ科

# ホッケミズムシ

*Hesperocorixa distanti hokkensis* (Matsumura, 1905)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

生息場所の止水域が開発や都市化によって失われ、全国的に絶滅に瀕している。本県でも近年生息が確認された場所は数カ所で、個体数も少ない。

### 【概要】

体長10mm前後の水生カメムシのなかまでである。体は淡青黄色で黒色の条斑がある。前胸背の黒色黄帯は9～12本。後肢をのばしてボートのオールのように動かし、水中を泳ぐ。このために、後肢ふ節には長毛が密集している。水中の小動物を捕らえて体液を吸収する。成虫で越冬し、3月ごろ産卵し、新成虫は6月ごろ出現する。北

海道・本州・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。西日本に生息するのは本亜種とされる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の丘陵地の溜池数カ所で生息が確認されている。これらはヒシやジュンサイが繁茂したやや富栄養化した水域である。池の周囲は里山の環境が維持されている。

### 【存続を脅かす原因】

溜池など埋め立て、各種排水の流入。ブルーギルなど外来魚の放流。長期間の水抜きなど。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目ミズムシ科

# オオミズムシ

*Hesperocorixa kolthoffi* (Lundblad, 1933)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

本州西部、四国および九州に分布するが、池沼環境悪化により激減している。県内では、近年生息が確認されている。他地域でも生息環境があると考えられる。

### 【概要】

同属のホッケミズムシよりやや大きく、体長10.8－13.4mmでやや丸みがあり、雄の顔の中央部は広く凹む。生態もホッケミズムシとよく似ており、池沼に生息する小動物を捕食する。ときに群生するが、産地は局部的。国内では本州（近畿地方以西）、四国、九州、国外では

朝鮮半島、中国、ロシアに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の数カ所と隠岐（島前）で記録がある。比較的開けた環境の止水域に生息する。他県では学校のプールで発生したという報告もある。

### 【存続を脅かす原因】

溜池や水路などのコンクリート化や各種排水の流入。ブルーギルなどの外来魚の放流。長期間の水抜きなど。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      | ○  |    |    |    |    |

カメムシ目ミズカメムシ科

# ウミミズカメムシ

*Speovelia maritima* Esaki, 1929

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

自然度の高い海岸に生息するミズカメムシである。生息に適した環境が限られている上に、本種が好む微環境は港湾等の整備によって消失している。

### 【概要】

体長4mm内外、褐色で頭は大きく前下方に突出する。体は硬く頑丈。口吻は長く後脚基節に達する。無翅で、長翅型は確認されていない。海蝕洞や岩礁地帯の石下で発見される。幼虫は初夏から夏にみられる。分布域は北海道・本州・伊豆諸島・九州。遠く離れたハワイ諸島に

近縁種がいる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1957年頃浜田市の河口付近で得られ、その後しばらく確認されていなかった。2000年以降に島根半島や隠岐諸島で再発見された。隠岐島前の中ノ島では、湾内が良好な生息地となっており、個体数が多い。

### 【存続を脅かす原因】

岩礁地帯の破壊、コンクリート化、水質汚濁などの環境の悪化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 | 岩礁 |
| ○    | ○  |    | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    | ○  |

カメムシ目カタビロアメンボ科

# オヨギカタビロアメンボ

*Xiphovelia japonica* Esaki et Miyamoto, 1959

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

生息地が局地的であり、全国的に減少傾向にあるため。

### 【概要】

体長1.5-2.5mm。体は光沢のない黒色で、中胸背や腹部背面に銀灰色毛による紋様が見られる。ふつう無翅型だが、まれに長翅型が出現する。生息地では密集して生息する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

浜田市のみで確認されている。河川の護岸ブロックの間や溜池の岸部に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化と消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 | 岩礁 |
|      |    | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    | ○    | ○  |    |    |    |    |    |

カメムシ目アメンボ科

# エサキアメンボ

*Limnophorus esakii* (Miyamoto, 1958)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

アジア東部に分布するアメンボ。国内では関東地方から九州北部に生息するが、産地は限られる。

### 【概要】

体長10mm前後、中型の繊細なアメンボである。体は褐色で体側は銀白色、頭部は黒色で褐色の条斑がある。触角は長く、第4節が最長。国内では本州・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。池沼や流水域のヨシやマコモなどの抽水植物の間で活動するため見つかりにくい。水辺で産卵、越冬することや季節的分散飛行をしないことなどにより「新しい生息場所を開拓する能力に乏しい」とされてきたが、最近の調査・研究によると必ずしもそうではない。

いことなどにより「新しい生息場所を開拓する能力に乏しい」とされてきたが、最近の調査・研究によると必ずしもそうではない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部平野部の溜池や水路河口部などで確認されている。隠岐諸島にも生息する。

### 【存続を脅かす原因】

池沼や流水域のヨシ帯の破壊。これらの水域への各種排水の流入水質汚濁。ブルーギルやブラックバスなど外来魚の放流。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 | 岩礁 |
| ○    |    |    | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    | ○    | ○  |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目カスミカメムシ科

# アカスジオオカスミカメムシ

*Gigantomiris jupiter* Miyamoto et Yasunaga, 1988

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

1988年に日本から新属・新種として記載された国内最大のカスミカメムシである。国内では、限られた地域のみで生息する。山陰では大山と扇ノ山が基準標本産地となっている。

## 【概要】

体長13-15mmで、この科のカメムシの中では世界最大クラスである。体色は黒褐色から黄色縞、赤色縞のものなど変異に富んでいる。寄主植物はオニグルミ、ヤナギ類、ミズメ、ミズナラ、スイカズラなど。分布域は、国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・ロシア沿

海州である。長野以西の本州では中国山地が主要な生息地である。

## 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶の太平山で1991年に発見、その後三瓶北の原や隠岐の島町でも採集された。生息域は、山地帯の広葉樹林の林縁部である。

## 【存続を脅かす原因】

ブナ帯下部の落葉広葉樹林の伐採など。極相的な環境は必要としないと思われる。林縁部の二次林的環境を保つためには、適度の人為的管理が必要である。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    | ○  | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目サシガメ科

# アダチアカサシガメ

*Haematoloecha adachii* Tachikawa, 1968

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵20

## 【選定理由】

暖地に棲む地表性のサシガメであるが、同属の他種に比べてきわめてまれな種である。本県では隠岐（島後）で最近確認されている。

## 【概要】

体長10-13mmで前胸背板前葉が黒色となること、前翅革質部が広く赤色を呈することなどで、同属の他種から区別できる。今のところ本州（千葉県）・四国（高知県）・伊豆諸島（神津島、御蔵島）で記録されているに過ぎない。

## 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐島後（隠岐の島町）で冬季、海岸沿いの林床の腐朽木材中で越冬している1個体が発見された。冬季でも温暖な県西部の海岸林などでの生息が考えられる。

## 【存続を脅かす原因】

海岸林の破壊や汚染。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    |    | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    | ○  |    |    |    |

カメムシ目ナガカメムシ科

# ハマベナガカメムシ

*Peritrechus femoralis* (Kerzhner, 1977)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵21

## 【選定理由】

河口や海浜の草本間に生息するが、個体数が少なく確認地は全国的に限られる。県内では近年東部3カ所で確認されている。

## 【概要】

体長4.3-5.5mm、体は黄褐色で黒色点刻を散布するが目立った斑紋はない。草本群落が見られる開けた河原や河口や海浜で得られる。分布は北海道・本州・九州・四国、ロシア極東部・中国北東部。

## 【県内での生息地域・生息環境】

三刀屋町、木次町の斐伊川河川敷、安来市赤江町の吉田川河口で得られている。他地域でも開けた砂地の草本群落において発見される可能性は高い。

## 【存続を脅かす原因】

自然度の高い河原・河口や海浜などの汚染や破壊、近傍での殺虫剤散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    | ○  |    |      |    |    | ○  |    |    |

カメムシ目クヌギカメムシ科

# ヨツモンカメムシ

*Urochela quadrinotata* (Reuter, 1881)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

寒地系のカメムシで、県東部山地が本州における分布西限であり、個体数も少ない。

### 【概要】

体長15mm内外、赤みを帯びた褐色で各半翅鞘上に黒紋がある。触角は長い。山地のハシバミやシテ類に見いだされる。新成虫は9月に現れる。国内では北海道・本州・九州、国外では朝鮮半島・東シベリアに分布する。同属にはバラ科木本につくナシカメムシがあるが、近年では少なくなった。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部山地帯山麓部の落葉広葉樹林2カ所で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

山地帯の落葉広葉樹林の伐採、植生の遷移、気候の温暖化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目ツチカメムシ科

# シロヘリツチカメムシ

*Canthophorus niveimarginatus* (Scott, 1874)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

旧北区東北部を分布の中心とし、日本は分布の南端にあたる。全国的に絶滅に瀕しており、県内でも最近の記録は2カ所のみである。

### 【概要】

体長6-8mm、光沢のある黒藍色で粗い点刻におおわれる。体の側縁は黄白色に縁とられる。カナビキソウに寄生し、メス成虫は卵を保護する習性がある。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・シベリア・旧北区東北部に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

最近の記録は三瓶山と益田市にある。環境の良好な山地(温帯)の草原に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

山地草原の環境汚染や破壊、地球温暖化など。草原への低木の侵入などによる遷移の進行。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目ツチカメムシ科

# ハマベツチカメムシ

*Bysinus variansi* (Fabricius, 1803)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵21

### 【選定理由】

自然度が高く規模の大きい海浜砂丘に生息地が限定される。山陰海岸では数カ所が確認されているのみである。

### 【概要】

体長3.5-4.5mm、体は暗褐色から濃く褐色、触覚と各脚は黄褐色。海浜の草本植物の根際で得られる。植物からも吸汁することがある。国内では本州(山口・鳥取・和歌山・三重・新潟など)・九州(長崎・福岡)、国外では朝鮮半島・中国・東洋区。

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市と大田市の砂質海岸で、コウボウムギやハマボウフウ群落の根際で多数得られている。他地域でも良好な砂質海岸で生息する可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

砂質海岸の汚染や破壊、近傍の植林地での殺虫剤散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

カメムシ目カメムシ科

# フタテンカメムシ

*Laprius gastricus* (Thunberg, 1783)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本種はシバ草原の地表に生息する特異なカメムシで、放牧業の衰退によって全国的に生息環境が失われている。県内で生息が確認されているのは隠岐（島前）と三瓶の2カ所のみである。

### 【概要】

体長13mm前後のカメムシのなかまでである。体は灰褐色から黒褐色で小楯板の上端2カ所に白点がある。草食性で、イネ科草本の根ぎわに生息する。成虫で越冬し、石下などに潜んでいる。国内では本州・四国・九州・対馬・

屋久島、国外では中国・インドに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島前）の知夫里島の生息地は大部分が牛の放牧地として利用されており、良好なシバ草原の状態が維持されている。その後三瓶北の原でも採集されており、土地的極相がシバ草原のような環境で生息するものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

放牧の中止など、シバ草原の放置。シバ草原はススキ草原から低木林へと移行するであろう。また、生息地およびその周辺における殺虫剤散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    | ○  |      |    |    |    |     | ○  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目カメムシ科

# アカアシクチブトカメムシ

*Pintheaus sanguinipes* (Fabricius, 1787)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

大型の捕食性カメムシで、県内の生息地が局限され個体数も少ない。森林の自然度の指標となる。

### 【概要】

体長14-18mm、緑色の光沢のある褐色で、前胸背側角黒みを帯び測方に突出し、先端は丸い。脚は赤褐色。山地の樹上で生活し、ガ類などの幼虫を捕食する。国内では北海道・本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・旧北区に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と西部山地2カ所で記録がある。山地の環境の良好な落葉広葉樹林に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

山地の落葉広葉樹林の伐採や大気汚染などの環境の悪化、殺虫剤散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目カメムシ科

# アオクチブトカメムシ

*Dinorhynchus dybowskyi* Jakovlev, 1876

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵21

### 【選定理由】

寒地系の捕食性カメムシで、暖地では少ない。県内の山地2カ所で20年前に採集されたが、その後の記録がない。

### 【概要】

体長18-23mm、金緑色の光沢のある美麗種。前胸背側角は棘状にとがり、口器は太い。山地の樹上で生活し、ガ類などの幼虫を捕食する。植物からも吸汁することがある。国内では北海道・本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・ロシア極東部。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と大万木山の2カ所で記録がある。山地の環境の良好な落葉広葉樹林に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

山地の落葉広葉樹林の伐採や大気汚染などの環境の悪化、殺虫剤散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

カメムシ目ツノカメムシ科

# フトハサミツノカメムシ

*Acanthosoma crassicauda* Jacovlev, 1880

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

大型のツノカメムシで、県内の生息地は局限され、全国的にも希少種とされる。

### 【概要】

体長17-18mm、鮮やかな緑色で、オスの生殖節のハサミ状突起は太く後方に開く。前胸背の後側縁に顕著な歯状突起がある。イヌザクラ、ソメイヨシノなどのバラ科木本類に寄生する。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・シベリア東部に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山の1カ所で記録がある。サクラ類をまじえた環境の良好な2次林に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科

# ハマベウスバカゲロウ

*Myrmeleon solers* Walker, 1853

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵21

### 【選定理由】

海浜植生を伴った砂丘海岸に生息する種であり、県内での生息地も自然度の高い砂浜に限定されている。

### 【概要】

前翅長27mm前後。翅は透明で顕著な模様はない。体は全体に黒く、前胸背にY字型の黄褐色斑紋がある。海浜砂丘に生息する。幼虫は、汀線から離れた砂浜や海浜植生帯の汀線寄りの砂地上にすり鉢型の巣穴を造るアリジゴクである。国内では日本海側を中心とした本州、九州の海岸に生息し、国外では中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部から西部までの砂丘の発達する海岸に生息している。県内の砂浜海岸は、大社から湖陵付近の出雲砂丘が最大で、本種の最大の生息地でもある。隠岐諸島では記録がなく、生息の可能性も低い。全国的にみれば島根県は自然度の高い砂浜が多く残されており、良好な生息地としての価値は高い。

### 【存続を脅かす原因】

砂浜海岸の開発、海岸浸食。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

コウチュウ目オサムシ科

# セアカオサムシ

*Hemicarabus tuberculosus* Dejani et Boisduvai, 1929

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

山地草原性のオサムシで分布は局所的。

### 【概要】

体長16-22mm。前胸背板は赤銅色。頭部と上翅測縁部も赤銅色を帯びる。上翅の大部は黒色で凸型条列を持つ。中国地方近県では大山を含む中国山地の高標高地帯に残る草原地帯で生息が確認されている。成虫・幼虫ともおもに昆虫類を主食としていると推測される。

晩夏から秋に新成虫が出現して越冬する。

北海道、本州、四国、九州、ユーラシア東部、朝鮮半

島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山麓の草原周辺で生息している。隠岐で古い記録があるが、誤記の可能性はある。

### 【存続を脅かす原因】

開発や草原の衰退など、本種の生息に適した環境の悪化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目オサムシ科

# イズモメクラチビゴミムシ

*Stygiotrechus izumonis* S. Uéno, 2008

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

### 【選定理由】

島根半島西部が本種の基準標本産地で、分布も同地域に限定されている可能性が高いため、比較的絶滅のリスクが高い。

### 【概要】

体長約2.8mm。淡色、無眼などの地中に適応した形質をもつ。九州北部から瀬戸内に分布するノコメクラチビゴミムシ属の中でミスミクラチビゴミムシとともに日本海側に産する特異な種で、本属の一部が日本海の海岸沿いに分散した可能性を示唆する。本属全体の分化を考える上でも重要な種である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

2008年に島根半島西部の廃坑で採集された1オスで記載された種で、その後の採集努力にも関わらず追加の記録を見ない。周辺の廃坑や地下浅層のトラップ調査でも採集例はなく、分布は局所的で個体群の規模も小さいと考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

廃坑内の地下水位変動が少ないことから生息地の地中環境は安定していると思われ、これを攪乱するような地上・地下の改変は絶滅リスクを増大させる。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 地下 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    | ○  |    |    |    |    |

コウチュウ目オサムシ科

# タイシャクナガチビゴミムシ

*Trechiana yokoyamai* S. Uéno, 1958

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【選定理由】

島根県に分布する亜種及び地域個体群は分布域が狭く個体群規模が小さいため環境改変による影響を受けやすい。

### 【概要】

体長5.4-6.4mm。体は茶褐色で光沢があり、地中に適応した形質をもつが、小さい複眼が見られるなど地表層的な形質も残る。本種は中国地方中央部に広い分布域をもち、5亜種が記載されているほか、未記載のものも含めるとさらに3つ以上の亜種または地域個体群が存在すると考えられる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では浜田市に分布する県固有亜種（ハマダナガチビゴミムシ）のほか、石見銀山、月山（安来市）、船通山、島根半島で分布が確認されており、地理的には孤立しているものが多い。洞窟などのほか、川沿いの腐葉土層など地表付近でも見られることがあるが詳細な分布は不明。

### 【存続を脅かす原因】

ダム造成などの集水域単位での大規模改変は各亜種・地域個体群を絶滅させるおそれがある。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 地下 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    | ○  |    |    |    |    |

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# コマルケシゲンゴロウ

*Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内の生息地はきわめて局地的である。他県でも同じような傾向がみられる。

### 【概要】

体長2mm前後。体型は卵形で背面を微細な点刻と網目状の印刻が覆う。マルケシゲンゴロウによく似ているが、より小型。水生植物の多い溜池の浅瀬や放棄水田をおもな生息地としている。非常に小型であるため、発見されにくい。中東から東アジアまで広く分布する。国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含め、県内の溜池で生息が確認されている。浅瀬で他の小型種のゲンゴロウ類と共に得られることが多い。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。生息地の浅瀬は水位変動の影響が大きく、極端な渇水も生息地が消失する原因になる。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 地下 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |

コウチュウ目ミズスマシ科

# コオナガミズスマシ

*Orectochilus punctipennis* Sharp, 1884

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵21

### 【選定理由】

河川中流域に生息する小型の流水性ミズスマシであり、県内での生息地は限られている。また、全国的にも減少が著しい水生甲虫の1つである。

### 【概要】

体長5.5-6.2mm。体は紡錘形。背面は全体に黒い。上翅表面には微細な毛が密生する。オナガミズスマシより明らかに小型である。オナガミズスマシが山地溪流に生息するのに対し、本種は河川中流域の挺水植物の生えた淀みに生息する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部や西部の河川で確認されている。過去の記録がほとんど無いため、現時点でどの程度減少したかは不明である。しかし、生息環境の立地が人間活動の大きな場所に近いため、影響を大きく受けていると見られる。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修。水質汚染、特に洗剤等の界面活性剤の流入。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目ミズスマシ科

# ミズスマシ

*Gyrinus japonicus* Sharp, 1873

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

近年、急速に減少している。かつては溜池などの水面を群れて泳ぐ姿がよく見られたが、現在ではほとんど見られなくなっている。

### 【概要】

体長6.0-7.5mm前後。体型は紡錘形で背面に鉛色の光沢がある。一般に止水域の開けた水面を旋回しながら泳ぐが、流水環境にも生息する。近似種が数多く存在するが、体長により他種と区別できる。幼虫は水生で、腹部側面に細長い気管鰓を持つ。日本固有種で、北海道、本

州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含めた県内全域に分布する。池沼などの止水域や山地溪流の淀みなどに生息する。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁（特に油の流入）、池沼の開発改修、自然遷移。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    | ○  | ○  |     |    |    | ○  | ○    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目ホソガムシ科

# チュウブホソガムシ

*Hydrochus chubu* Balfour-Browne et M. Sato, 1962

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

県東部のいくつかの溜池で生息が確認されている。県中部および西部の生息状況は不明である。

### 【概要】

体長2.5mm前後。体は細長く、体表面に青緑金属光沢を持つ。近縁種のヤマトホソガムシより小型である。止水域に生息する。日本固有種で本州に分布する。水中で遊泳ができず、動きは緩慢である。

されている。生息地での個体数は多い。同所的にスジヒラタガムシが生息していることが多い。島根県東部の生息地は、県外の産地に比べて地点数が多く、全国的にみても重要な生息地域である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

### 【県内での生息地域・生息環境】

やや富栄養な止水域に生息する。県内では溜池で確認

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目クワガタムシ科

# ルリクワガタ

*Platycerus delicatulus delicatulus* Lewis, 1883

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

主として高齢級のブナ林に生息しており、生息地は限定される。

### 【概要】

体長オス9-14mm。メス8-13mm。オスは緑色を帯びた青藍色、メスは銅色。前胸背板後角が丸みを帯び突出しないことからコルリクワガタ属と区別される。成虫は5-7月に出現する。昼行性で、ブナ等の倒木に集まるほか、まれにカエデやミズナラの新芽に飛来することが知られている。産卵する枯れ木は、コルリクワガタに比べて太いブナの枝、倒木や立枯れ木に依存しているとき

れる。産卵翌年の秋に材中の蛹室内で羽化し、そのまま越冬後、野外へ脱出する。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部、西中国山地で採集されている。分布調査は十分でなく県東部の自然度の高いブナ林にも生息している可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

大径木を有するブナ林を主体とする森林の維持が必要。これらの森林の大規模開発による消失や、寸断化による生息環境の悪化による絶滅が危惧される。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    | ○  |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目クワガタムシ科

# キンキコルリクワガタ

*Platycerus acuticollis akitai* Fujita, 1987

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

主としてブナ帯に生息し、生息地は限定される。

### 【概要】

体長8-11mm。オスは青みの強い藍色、メスは黒っぽい銅色。成虫は5-6月に出現する。成虫は早春にカエデ類、ミズナラ等の葉が展開しはじめる新芽に飛来し吸汁することが知られている。産卵は林床に落ちた湿度の高い細めの枝や、ブナの倒木に行われる。幼虫はこれらの材を摂食して成長し、翌年秋に材内で羽化し成虫で越冬した後、野外へ脱出する。本州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地および三瓶山のブナ林で林床の落枝中やミズナラ等の新芽に飛来したものが確認されている。また、隠岐諸島では常緑広葉樹の枯れ枝から発生が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域であるブナを主体とする森林の開発による消失。また、地域によっては発生源となっている材の採集など、過度の採集圧による絶滅が危惧される。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目クワガタムシ科

# ヒメオオクワガタ

*Nipponodorcus montivagus* (Lewis,1883)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

全国的に自然環境の良く保全された場所で記録されているが個体数は少ない。島根県での生息域は限定される。

### 【概要】

体長オス31-47mm、メス27-32mm。体は光沢のない黒色。成虫は5-10月に見られ、ヤナギ等の樹液に飛来する。植物に噛み傷を付け滲出する樹液を吸汁する行動をとることが知られるが、島根県での採集例のほとんどは地面を歩行中のものである。また、成虫越冬することも知られている。幼虫はブナ等広葉樹の立枯れ、倒木の材

を摂食する。北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地東部から西部のブナ帯で記録があるほか、三瓶山でも採集されている。中国山地の西部は採集個体が比較的多い。

### 【存続を脅かす原因】

樹洞を形成するような老径木が存在する発達した森林の保全が必要である。これらを有する自然度の高い森林の伐採などによる生息環境の悪化・消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    | ○  |    | △    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目センチコガネ科

# オオセンチコガネ

*Phelotrupes auratus* (Motschulsky, 1857)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が局限され、また、牛やシカの糞に依存しているため、これらの動物の減少によっては絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長14-22mm。体上面はふつう金赤色から紫赤色で、金属光沢がある。センチコガネに似るが、頭楯は長めの台形。成虫は4-11月、おもに山地で発生する。牛、馬、シカなどの糞に集まる。メスは地中へ糞を埋めこんで産卵する。幼虫は糞を食べて育つ。シベリア、朝鮮半島に

分布し、国内では北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山の和牛放牧地、島根半島西部のシカ生息地。

### 【存続を脅かす原因】

三瓶山における牧畜形態の変化。野生シカの生息域の森林伐採や、シカの捕獲などによるシカの個体数の減少。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    | ○    | ○  |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目コガネムシ科

# シナノエンマコガネ

*Onthophagus bivertex* Heyden, 1887

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

隠岐諸島の放牧地に生息するが、近年はまれになっている。

### 【概要】

体長7-10mm。体は黒色で、上翅は褐色を帯び、光沢は鈍い。頭頂の隆起は、大型のオスでは長く伸びた牛角状の突起となり、メスでは横長でわずかに波曲した隆起になる。成虫は、6-9月に出現し、山地の獣糞にあつま。国外ではシベリア、中国、朝鮮半島に分布し、国内では本州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島(知夫里島)の放牧地に生息し、牛馬糞に依存しているが、個体数は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

生息地での牧畜形態の変化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    |    | ○  |      |    |    |    |     | ○  |    |    |      | △  |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目コガネムシ科

# ミツノエンマコガネ

*Onthophagus tricornis* (Wiedemann, 1823)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内における生息地が限定されている。

### 【概要】

体長12-18mm。黒色で光沢は鈍い。頭頂部に板状で両端が上方に突出する角状の隆起がある。前胸背板の前縁部中央は前方に鈍く太い突出がある。成虫は、5-11月に出現する。河川敷や海岸部に生息する。腐った魚肉に集まり、灯火にも飛来する。国外では中国、台湾、ジャワ、マレー半島、インドシナ、ミャンマー、インドに分布し、国内では本州、九州、壱岐島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部に生息する。生息地は、畑地や裸地、疎林が混在する環境である。

### 【存続を脅かす原因】

裸地的な環境の消失。農業形態の変化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    | ○  | ○  |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目コガネムシ科

# ニセマグソコガネ

*Aegialia nitida* Waterhouse, 1875

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が局限されており、また、生息密度も少なく希少であるため。

### 【概要】

体長3.5–4.5mm。黒色で光沢があり、頭胸前縁、上翅会合部、脚は赤褐色。背面は強く隆起する。眼は上面に出ない。上翅には細い条溝がある。体の腹面には、黄色の長毛を生ずる。成虫は、ほぼ通年見られる。本種は、きれいな砂浜のイネ科植物などの根際に生息している。日本固有種で、北海道、本州、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部・中部の海浜植生の残された砂浜。

### 【存続を脅かす原因】

海浜の護岸工事、砂浜への車の乗り入れによる海浜植生の減少、松食い虫防除のための空中薬剤散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

コウチュウ目コブスジコガネ科

# コブナシコブスジコガネ

*Trox nohirai* Nakane, 1954

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

成虫の記録が少なく、幼虫の成育場所が特殊である。

### 【概要】

体長5.5–6.7mm。体は長卵型で、強く膨隆する。背面は黒色で光沢がある。上翅の条溝内の点刻は強く、間室は強く膨隆し、短毛を密生したこぶや隆起を欠く。成虫は、4–10月に出現する。平地から山地にかけて分布し、おもに灯火で採集される。近年、本種の幼虫がフクロウの巣で成育することが確認され、特殊な生育環境を必要とすることが判明した。朝鮮半島に分布し、国内では北

海道、本州、四国、九州、伊豆諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平地や山間地において灯火採集の記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

フクロウの営巣場所の減少。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目コガネムシ科

# アカマダラハナムグリ (アカマダラコガネ)

*Anthracophora (Poecilphilides) rusticola* Burmeister, 1842

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長14–20mm。背面は赤褐色に不規則な小黑紋を有する。成虫は4–9月に出現。晩夏から秋に新成虫が出現してそのまま越冬、翌春に産卵が行われる。主としてクヌギ等の樹液に集まるほか、灯火、まれに花に飛来することも知られている。平地から低山地の広葉樹林に生息する。カワウや猛禽類の巣中から幼虫が見いだされ、これらの鳥類に依存していると推測される。国内では北海

道、本州、四国、九州、国外ではシベリア東部、モンゴル、中国に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部の平野部から低山地、隠岐諸島で記録がある。県中部、西部からの記録はないが生息している可能性は高い。

### 【存続を脅かす原因】

本種が生息する低山地帯の猛禽類などの大型鳥類が多数営巣可能な森林の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    | ○  |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    | ○  |    |    |    |

コウチュウ目コガネムシ科

# オオチャイロハナムグリ

*Osmoderma opicum* Lewis, 1887

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

老木等に依存する特異な生活様式を持ち、発達した森林の指標昆虫でもある。

### 【概要】

体長22-32mm。体は全体に黒褐色で銅色ないしは紫銅色の光沢を帯びる。成虫は独特の芳香を放つ。成虫は7~8月に、高標高の自然環境の良好な林分に生息し、ブナ、ミズナラ等の立枯れ木、老木に見られる。産卵はこれらの材の腐朽部に行われ、幼虫は腐朽部および樹洞内部の材が堆積した腐植土を摂食して育ち、繭を作り蛹

化することが知られている。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部 (三瓶山)、西部の老木残存するブナ帯森林で採集されている。倒木の不朽部から採取されている。県西部の中国山地は採集例が多い。

### 【存続を脅かす原因】

樹洞を形成するような老木残存する森林の伐採等、生息環境の悪化・消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 湿地 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |    |

コウチュウ目ヒメドロムシ科

# アヤスジミゾドロムシ

*Graphelmis shirahatai* (Nomura, 1958)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

写真 口絵21

### 【選定理由】

県内での分布は局所的である。河川中下流域に生息するヒメドロムシで、全国的な希少種である。斐伊川下流の個体群は生息数が多く貴重である。

### 【概要】

体長3.4-3.7mm。全体に黄色だが上翅の点刻列に沿って黒条がある。体はやや細長く、肩は明瞭。前胸背板にくびれがない。触角は糸状で長い。上翅の点刻列は明瞭。肢が著しく長く、爪が大きい。成虫・幼虫共に水中に生息し、ヤナギ類などの流木を食べる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の河川に生息している。斐伊川下流の本流と神戸川中流の支流がおもな生息地である。とりわけ水位変動の大きな斐伊川は本種の生息にとって重要な条件であると考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

流木の減少。極端な渇水。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 湿地 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    |      |    | ○  |    |    |    |    |

コウチュウ目ヒメドロムシ科

# ケスジドロムシ

*Pseudamophilus japonicus* Nomura, 1957

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)

写真 口絵21

### 【選定理由】

水辺植生の豊かな河川に生息し、生息地における個体数が少ない。

### 【概要】

体長4.8-5.3mm。国内最大のヒメドロムシ。体は長い楕円形。全体に黒色または焦げ茶色。上翅に点刻列があり、間室に毛が生えている。河川の上流から下流まで広く生息する。成虫・幼虫ともに水中にある流木についていることが多い。成虫は灯火に飛来する。小型の幼虫は、川辺の水中に露出したツルヨシの根際にも生息してい

る。幼虫期は2年以上と考えられる。日本固有種で、本州と九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では県東部の河川に生息が確認されている。中部および西部にも分布しているとみられる。隠岐諸島には分布していない。

### 【存続を脅かす原因】

水辺植生の破壊、流木の供給の減少。極端な渇水。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 湿地 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    | ○  |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    |      |    | ○  |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目ヒメドロムシ科

# ハガマルヒメドロムシ

*Optioservus hagai* Nomura, 1958

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

写真 口絵21

### 【選定理由】

県内の分布は局地的である。また、河川における生息環境も特殊である。

### 【概要】

体長2.2–2.5mm。体は全体に楕円形で、背面側に著しく盛りあがる。黒色で光沢が強いが、上翅の基部と先端に黄褐色の紋がある。触角は糸状で長い。上翅の点刻列は条溝を伴う。日本固有種で本州、九州、隠岐諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、県東部、中部、隠岐諸島（島後）で確認されている。比較的流れが緩い細流で多産することがある。山地溪流で見つかることもあるが、個体数は少ない。離島での記録は隠岐諸島のみであり、生物地理学的に注目される。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修、大規模な水害。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 湿地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    | ○  |      |    | ○  |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    | △  |

コウチュウ目ヒメドロムシ科

# ヨコミゾドロムシ

*Leptelmis gracilis* Sharp, 1888

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)

写真 口絵22

### 【選定理由】

県内の分布は局地的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長2.6–3.0mm。全体に黒色。上翅に黄色い縦スジの模様があるが、不明瞭。体はやや細長く、肩の隆起は不明瞭。前胸背板に顕著なくびれと横溝がある。触角は糸状で長い。上翅の点刻列は明瞭。肢は著しく長い。近縁種とされたホソヨコミゾドロムシは、本種の長翅型であることが判明している。幼虫は扁平で、日本産ヒメドロムシ科の中では特異な形態をしている。日本固有種で本

州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部に河川下流と溜池で確認されている。長翅型は短翅型に比べて出現率が低い。溜池では短翅型のみが確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

河川や溜池の改修、極端な渇水。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 湿地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    | ○  | ○    |    |    |    | ○    | ○  |    |    |    |    |    |

コウチュウ目ジョウカイモドキ科

# イソジョウカイモドキ

*Laius asahinai* Nakane, 1955

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

### 【選定理由】

浜田の海岸で発見され、日本海側での初記録として注目された。その後の記録がなかったが、近年の調査で再発見された。岩礁帯の特殊な環境に生息する種で絶滅の危険性が高い。

### 【概要】

体長4.5–5.0mm前後。背面は黒色でやや光沢を欠き、触角の基半分は赤褐色。上翅は微細な印刻があり、オスの触角第3節は異常に太い。海浜性で本州、九州に分布し、成虫は5月ごろから汀線の岩礁に見られる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1960年、浜田市福井の岸から離れた岩礁の割れ目で、水際に群棲していた本種が採集されたのが唯一の記録であったが、近年の調査で島根半島から大田市琴ヶ浜までの5カ所の岩場の岩礁帯や隠岐（島後）の岩礁で確認された。高波時には波に覆われるような岩礁の波打ち際の隙間などで採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

大規模工事、漂流物の堆積など環境の改変・悪化を避ける。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 湿地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    | ◎  |

コウチュウ目オオキノコムシ科

# オオキノコムシ

*Encaustes praenobilis* Lewis, 1883

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

分布は局地的で個体数も少ない。生息場所であるブナ林の消失や周辺林の伐採等の環境悪化による減少が懸念される。

## 【概要】

体長16－36mm。長楕円形。光沢のある黒色で前胸、上翅肩部および翅端にオレンジ色の斑紋がある。成虫はブナ林中の大径枯死木、倒木に発生したサルノコシカケ等の多孔菌類を食べるほか、アミスギタケ、ハチノスタケ、ツリガネタケに集まる。また、灯火にも飛来することが

観察されている。幼虫は多孔菌類の子実体中や、これら菌糸が蔓延した材部で見つかる。本州、四国、九州に分布。

## 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地のブナ林において記録があり、いずれもブナ大径木が多い場所に限定されている。県西部の採集記録が多い。

## 【存続を脅かす原因】

本種の生息環境であるブナの大木を有する成熟した林分の伐採や道路開設等によるブナ林寸断による林の乾燥化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目テントウムシ科

# マクガタテントウ

*Coccinula crotchi* (Lewis, 1879)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（西限）

環境省：－

## 【選定理由】

河川敷などの荒地に生息する日本固有のテントウムシ。島根県は分布の西限にあたる。生息地は人為の影響を受けやすい環境であり、河川敷環境の生物多様性の指標として選定した。

## 【概要】

体長約3－4mm。背面は黒色で、特徴的な橙色斑を有する。北海道や東北では比較的普通だが、西日本では分布は局地的。北海道では年1世代、西日本では2世代を経過し、越冬後成虫の発生量は少ない。発育には温帯性

種としては高い温度（約14℃以上）を要求する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川中流域には比較的高い密度の個体群が確認されている。その他、江の川や高津川の河川敷、三瓶山、さらに、鳥取県の弓ヶ浜でも分布が確認されている。

## 【存続を脅かす原因】

河川敷の大規模な土地利用改変により環境が画一化すると個体群が消滅する。また、南西限界付近の個体群として、地球温暖化の影響により気候適応が破綻する可能性がある。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    |      |    | ○  |    |     |    |    | ○  |      |    |    |    | ○    |    |    |    |    |    |

コウチュウ目カミキリムシ科

# ベーツヒラタカミキリ

*Eurypoda batesi* Gahan, 1894

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

シイ類大径木の残存する照葉樹林に生息するが個体数は少なく生息環境も縮小している。

## 【概要】

体長26－34mm。体は扁平で光沢のある赤褐色。成虫は6～9月に出現する。夜行性で日中はスグジイなど寄生木の枯死部にある隙間などに潜み、夜間にこれらの立枯れ木、倒木上を徘徊するほか、灯火にも飛来することが観察されている。関東以西の本州、四国、九州、中国南西部、ラオスに分布。

## 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から県央の沿岸から内陸部にかけて記録があるが、沿岸に近い区域に多い。隠岐諸島にも採集記録がある。7～8月に灯火に飛来したものが得られた例が多い。比較的民家に近い場所で採集されているが、社寺林に寄生樹種の老木が多く残存しているためと思われる。

## 【存続を脅かす原因】

依存するシイ類の老木を有する照葉樹林の消失。また、貴重な生息場所である社寺林等において景観対策や危険木としての枯死・衰弱木の伐倒による繁殖場所の消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    | ○  |      |    |    |    | △   |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目カミキリムシ科

# スネケブカヒロコバナカミキリ

*Merionoeda hirsuta* (Mitono et Nishimura, 1936)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

南方系の特異な形態をしたカミキリで、隠岐（島前・島後）のほか、中国山地の赤来、匹見で採集されていたが、近年、三瓶山山麓でも採集された。個体数が多くない。

### 【概要】

体長 10-14mm。上翅が短く、腿節末端は肥大して暗色の長毛があり、脛節には金色の長毛が密生する。成虫は 7-8 月に出現しカラスザンショウ、アカメガシワ、リョウブなどの花に集まり、メスはネムノキの枯死部に飛来して産卵する。本州（茨城県以西）、四国、九州、

対馬に分布する。近年は近県で採集記録が散見される。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1950 年に匹見町初見で初めて採集された。その後、隠岐（島後）の大満寺山で成虫が採集され、ネムノキの枯死部で幼虫と蛹が確認された。隠岐（島後、西ノ島、中ノ島）、赤来、匹見のほか、近年、三瓶山山麓で採集された。

### 【存続を脅かす原因】

食樹のネムノキはどこでもあるが、本種の分布が限られる理由は不明。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    | ○  |    |    |    |

コウチュウ目カミキリムシ科

# ヨコヤマヒゲナガカミキリ

*Dolichoprosopus yokoyamai* (Gressitt, 1937)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本州、四国、九州に分布するが個体数は少ない。ブナ林に依存する種で、本県では生息に適したブナ大径木が多く残存する環境は少ない。

### 【概要】

体長 20-30mm。体は黒色で背面に灰白色の微毛を持ち、霜ふり状の斑紋、帯状紋を形成している。ブナ大径木の存在する林分に生息し、成虫は 7-9 月に出現する。ブナの生立木に寄生する。日中根元の落葉樹下に潜む事が観察されている。夜行性で夕刻から夜間、ブナ生立木の

幹上に集まるほか、灯火にも飛来する。成虫の脱出孔はブナ生立木の地際部や、幹の衰弱部に多く観察されている。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部で採集記録がある。近年、三瓶山で少数の個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息確認地域周辺ブナ林の伐採による生息環境の破壊。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目カミキリムシ科

# イッシキキモンカミキリ

*Gleneacent centroguttata* Fairmaire, 1897

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

関東以西、四国、九州に分布するが局所的。

### 【概要】

体長 11-16mm。黒色微毛のピロード状に覆われた体に、頭部、前胸背及び上翅に鮮やかな美しい黄色紋を持つ。成虫は 7-8 月に出現し、クワ類の葉脈を後食する。夕刻に活動が活発になり、1 本の木に集中して集まることが観察されている。幼虫はヌルデを寄主としている。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部、西部で記録がある。西部での記録は少ないが、三瓶山南西部では桑畑での採集記録が多い。県中部では古くから養蚕用のクワ栽培が盛んであった地域で、桑畑の周辺にヌルデが生育する二次林が広がる場所が多い。

### 【存続を脅かす原因】

成虫、幼虫それぞれの食物であるクワ類、ヌルデの双方が豊富に存在する林が必要。残存するクワの転作や開発等、二次林の消失によって個体数の減少、絶滅が危惧される。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目ハムシ科

# キンイロネクイハムシ

*Donacia japana* Chûjô et Goecke, 1956

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【選定理由】

食草であるミクリ属の生える溜池や水路などが減少しており、それに伴い生息地も減少している。

### 【概要】

体長7mm前後。体全体に金銅色を帯び、上翅に赤または青色の斑紋がある。ヤマトミクリやヒメミクリなどを食草としており、成虫は抽水葉を食べ、幼虫は地下で根を食べる。成虫はおもに5～6月に出現する。日本固有種で北海道、本州、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部のミクリ属の生える溜池や水路などに生息している。生息地では個体数が多く、ミクリの葉には食痕がみられる。

### 【存続を脅かす原因】

ミクリ類の減少。生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

コウチュウ目ハムシ科

# スゲハムシ

*Plateumaris sericea* (Linnaeus, 1758)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

湿地に生息する北方系のハムシで、県内での記録は1カ所のみである。

### 【概要】

体長7～9mmで体全体に金属光沢がある。成虫は5～6月に出現し、スゲなどの花に集まり花粉を食べる。幼虫はスゲ類の根を食害する。

ヨーロッパから日本まで、旧北区に広く分布する。国内では、北海道、本州、九州、佐渡などに分布する。北海道や本州東部ではもっとも普通にみられるネクイハム

シであるが、西日本で分布は局地的で、中国山地の個体群は希少性が高い。近縁種にシラハタネクイハムシがあり本種に酷似しているが、西日本には分布していない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、県中部の湿地で確認されているのみで、本州での分布の西限となっている。広島県との県境付近の湿地で発見される可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

湿地の自然遷移や乾燥。気候の温暖化。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |

ハチ目アナバチ科

# ヤマトスナハキバチ

*Bembecinus hungaricus japonicus* (Sonan, 1934)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：情報不足（DD）

### 【選定理由】

典型的な海浜性のカリバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度が激減している。

### 【概要】

体長はメスが10～11mm、オスが9～10mm。小型のアナバチである。全体が黒色を呈し、腹部の1～3節板後縁に淡黄色の横縞がある。年1化性で、活動期間は7月上旬から9月下旬である。幼虫餌として、同翅亜目の成虫を狩る。砂地に穿孔し、緩やかに下降した坑道（坑道長：2.5～9cm）の先端に1個だけ育房を作製する単育房制

で、育房内に砂粒の台座を作り、その上に卵を垂直に産下する。最初の貯食は、産卵後しばらく経って行われる。随時給食制で、給餌は育房口をそのつど開閉して行われる。越冬は、育房内の繭中において前蛹態で行う。北海道から屋久島まで広く分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大社砂丘だけで局所的に採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

昆虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ハチ目スズメバチ科

# キオビホオナガスズメバチ本州亜種

*Dolichovespula media sugare* Ishikawa, 1969

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

## 【選定理由】

近年、中国地方の山岳地帯でも生息が確認された。生息密度は低く、分布の南限にあたる。

## 【概要】

真社会性種で、女王はキイロスズメバチに擬態している。働きバチの腹部斑紋の変異は多様で、「五目蜂」と称される。体長は女王が19-22mm、働きバチが14-19mm、オスが19mm前後である。巣房を樹幹の小枝にぶらさげる。スズメバチ類のなかでは、コロニーのサイズは最小である。年1化性で、秋期に出現した次世代の女王とオスが

交尾し、受精後に女王だけが朽木などに穿孔して越冬する。国内では、本州中部以北の山岳地帯では豊産する。原亜種は (*D. m. media* (Retzius))、旧大陸のほか北海道にも産する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

大万木山、安蔵寺山で局所的に採集されている。最近、邑智郡川本町の国有林と三瓶山で巣が発見された。豊かな自然林が残された山岳地帯だけに生息している。

## 【存続を脅かす原因】

豊かな自然林の喪失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    |    | ○    | ○  |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

ハチ目ハキリバチ科

# キヌゲハキリバチ

*Megachile kobensis* Cockerell, 1918

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

典型的な海浜性のハナバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度の維持が危惧される。ハマゴウの重要な送粉者である。日本固有種。

## 【概要】

体長はメスが9-11mm、オスが8-10mmで、体全体が白毛で覆われた中型のハキリバチである。部分的2化性で、越冬は育房内において前蛹態で行う。活動期間は、大社砂丘では6月中旬から9月中旬までの3カ月間にも及ぶ。広食性種であるが、ハマゴウのスペシャリスト的

な送粉者である。砂地に緩やかに傾斜した単坑を掘り(深さ2-7cm)、その先端に1-3個の育房を直列に配置する。育房は葉片で作製される。国内では、本州・四国・九州に分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

県内の海浜では、ハマゴウの生育が良好であれば普遍的に生息する。汀線から離れた堆砂垣周辺の砂丘内で営巣する。

## 【存続を脅かす原因】

海浜生態系の破壊。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

ハチ目ハキリバチ科

# チビトガリハナバチ

*Coelioxys formosicola* Strand, 1913

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

典型的な海浜性のハナバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系が喪失し、生息密度の維持が危惧される。

## 【概要】

体長はメスが8-12mm、オスが7-12mmで、雌雄とも胸部の背面に目立つ4つの白斑がある。キヌゲハキリバチの労働寄生蜂である。寄生様式は「空き巣ねらい型」で、寄主の留守中に育房内に侵入して、貯めかけの花粉団子中に数卵を産下する。活動期間は、寄主と同じであ

る。部分的2化性で、寄生した寄主の育房内において前蛹態で越冬する。海浜周辺で生育するコマツナギ、ハギ類のほか海浜性のハマグルマをよく訪花する。国内の分布域は、寄主のそれと同一である。

## 【県内での生息地域・生息環境】

県内の海浜では、ハマゴウの生育が良好であれば、寄主ともども普遍的に生息する。

## 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

ハチ目ハキリバチ科

# ネジロハキリバチ

*Megachile disjunctiformis* Cockerell, 1911

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

準海浜性のハナバチで、国内では局所的に採集されている。

### 【概要】

体長はメスが15-18mm、オスが12-14mm。中型のハキリバチである。全体が黒色を呈し、前伸腹節と腹部の1節背板に白毛が密生する。年1化性で、活動期間は7月下旬から9月下旬である。典型的な広食性で、大社砂丘周辺ではハギ類でよく採集される。また、海浜のハマゴウでもしばしば採集される。営巣は、海浜周辺のブドウ

用ビニールハウスで使用されるフレーム管の内部を利用して行われていると推測される。育房は樹脂を用いて作製される。なぜ、海浜を好んで生息するのか不明である。国内では、本州から南西諸島の西表島まで広く分布する。国外では、台湾・中国・朝鮮半島にも産す。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大社砂丘だけで局所的に採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    |    |    |      |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

ハチ目ミツバチ科

# シロスジコシブトハナバチ

*Amegilla quadrifasciata* (Villers, 1789)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

準海浜性のハナバチで、国内では採集個体数が少ない。

### 【概要】

体長はメスが15-17mm、オスが13-14mmで、がっしりした体躯をもつ。腹部の1-4節背板後縁に白毛帯がある。名前はこの特徴に由来する。稀種のため、生態に関する知見は皆無に近い。年1化性で、活動期間は7月下旬から9月中旬までである。典型的な広食性で、海浜ではハマゴウの花でしばしば採集される。営巣地は、海浜に流れ込む大小河川脇の切り通しの砂壁と推測される。

内陸部でも、営巣地は砂壁であろう。国内では、本州・四国・九州から分布記録がある。国外では、旧大陸にも産する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大社砂丘（出雲市）、波子海水浴場（浜田市）、三里ヶ浜（益田市）のほか、三瓶山でも局所的に採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

特異な環境に営巣するので、このような環境の喪失は生息を不可にする。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      | ○  | ○  |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

ハエ目メバエ科

# ムネグロメバエ

*Conops opimus* Coquillett, 1898

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

国内では、採集個体数がきわめて少ない寄生性種である。

### 【概要】

体長はメスが12-18mm、オスが12-17mm。メバエ類のなかでは大型種である。個体の大小差は、寄主サイズに由来すると考えられる。全体が茶褐色を呈する。両複眼の内縁部には、それぞれ1個の黒点がある。最近の大社砂丘における調査によると、オオズグロメバエよりも早く出現し、活動期間は5月中旬から7月上旬である。寄

主は、ヒメハナラナガツチバチと推定される。寄主がよく訪花するハマヒルガオの花の周辺で待ち伏せが見られる。国内では本州・九州に、国外では中国・韓国にも分布している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

松江市と大社砂丘（出雲市）で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

海浜固有の生態系の破壊。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    | ○  |    |      | ○  |    |    |     | ○  |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    | ○  |    |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目マダラガ科

# オキナワルリチラシ

*Eterusia aedeasugitanii* Matsumura, 1927

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：－

### 【選定理由】

南方系で隠岐（島後）では、古くから生息が知られ分布上注目されている。隠岐諸島の昆虫相を特徴づける重要種である。

### 【概要】

国内では、本州（伊豆半島以西）、四国、九州、対馬などに分布し、緑色に白い斑紋のある美麗種で、8～9月に出現する。近年、広島県安佐町では著しく黒化した個体が採集され、山口県でも採集されている。八重山諸島には各別亜種が分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の山地に生息し個体数も比較的多い。島前の知夫里島に記録があるが再確認が必要である。メスは昼にソバなどの白い花に来るが、夜灯火に飛来するのはオスだけである。山陰本土側は、これまで未発見であったが、近年、匹見の澄川で採集された。幼虫の食樹はヒサカキ・ツバキなどである。

### 【存続を脅かす原因】

幼虫の食樹のヒサカキは多いが、蜜源のソバ畑が急激に減少しており、発生量に影響するかなが重要視される。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    | ○  | ◎  | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    | ○  |    |    |

チョウ目シャクガ科

# シロシモフリエダシャク

*Biston melacron* Wehrli, 1941

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生息地が限定され、日本全国的に見ても、その分布が局地的である。

### 【概要】

前翅長18～23mm程度。大きさにはかなり個体差がある。白い翅に特徴ある黒い斑紋を散らしたエダシャクで、成虫は早春にのみ現れる。本州、四国南部、九州、対馬に分布。国外では台湾、朝鮮半島、中国に分布するとされる。生活史等については不明な点が多く、食草なども未知。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺と東部および西部の中国山地沿いの地域で見つかっている。いずれもやや標高の高い場所である。また近年、隠岐郡西ノ島町で生息が確認された。

### 【存続を脅かす原因】

分布および生息環境の調査が必要だが、雑木林を含む森林の消滅が考えられる。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目アゲハモドキガ科

# フジキオビ

*Schistomitra funeralis* Butler, 1881

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での生息地がきわめて局地的。個体数も多くない。

### 【概要】

前翅長28mm内外。翅は黒の地色に、クリーム色から黄色に近い大きな模様を規則正しく並べているのが特徴。全体的に明るい色彩をもっている。日中に活動する蛾で、成虫の発生は年に一度、6月ごろ。花に集まる。幼虫はナツツバキにつき、蛹で越冬するといわれる。1属1種で、今のところ日本特産種。本州の関東地方以西および四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と中部のいずれも中国山地沿いの地域にごく限られた生息地があるにすぎない。山地の雑木林や周辺に広がる草原などがおもな生息場所と考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

山地の良好な森林やそれと併存する環境（草原など）の減少、消滅。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| △    | ○  |    |    | △    |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目カイコガ科

# スカシサン

*Prismosticta hyalinata* Butler, 1885

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での採集記録が2例のみで、生息地がきわめて限定される。

### 【概要】

前翅長16mm内外。触角はオス、メスとも櫛歯状。翅の色はメスが明るい茶色で、オスはこげ茶色が主体となる。前翅、翅頂近くには半透明の紋がある。かつてはオビガ科に入れられスカシオビガと呼ばれていたという。成虫は7～8月に出現、幼虫はハイノキ科のサワフタギ、タンナサワフタギを食樹としている。国内では本州（関東

地方以西）、四国、九州に分布する。国外については不詳。いまのところ日本特産種。全国的にもあまり多くないが、特にメスは少ないとされる。県内ではメスが1個体採集されていたのだが、近年オスも採集された。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部、三瓶山でのみ生息が確認されている。確認地はシデ主体の落葉樹林地帯。

### 【存続を脅かす原因】

良好な落葉樹林帯の減少や消滅。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    |    | ○    |    |    |    | △   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目ヤママユガ科

# クロウスタビガ

*Rhodinia jankowskii hattorie* Inoue, 1965

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内での産地が限られ、個体数がきわめて少ない。

### 【概要】

前翅長45mm内外。明るい黄色の翅をもつ近縁種ウスタビガ*Rhodinia fugax fugax* (Butler, 1877) をかなり黒っぽくしたようなヤママユである。まさに名前のお通り。またウスタビガは翅の色や形などが、オスとメスとはなはだしく異なっているのに対し、本種はほぼ同じである。前後翅にはそれぞれに透きとおった三日月型の紋をもつ。成虫は年に1回、秋に出現。幼虫はキハダを食草

としている。寒冷地の種で北海道から本州北部にかけては少なくないといわれるが、西日本では希種となる。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の中国山地沿いと中部の三瓶山、大万木山周辺に生息地がある。

### 【存続を脅かす原因】

良好な落葉樹林帯および里山的環境の減少や消滅。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| △    | ○  |    |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シャチホコガ科

# タッタカモクメシャチホコ

*Cerura tattakana* (Matsumura, 1927)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内の生息地が局地的であり、個体数も少ない。

### 【概要】

前翅長34-40mm。大型のシャチホコ。翅、体ともに白と黒を絡めた色彩で、特に前翅の黒い波状の斑紋が特徴的である。成虫は6月ごろに出現、年2化とも考えられるが、県内での詳しい観察報告はない。国内では本州、四国、九州、対馬、屋久島、奄美大島、沖縄諸島、八重山諸島に、国外では台湾、中国南東部、ベトナム、タイ、ミャンマーなどに分布。国内では西部地域に多く見られ、

これは食草であるイイギリの分布と重なるという。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺および西中国山地の一部で生息が確認されている。照葉樹林と落葉樹林が混ざり合った場所に生息地があると考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

良好な森林環境の減少、消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヒトリガ科

# ネズミホソバ

*Pelosia angusta* (Staudinger, 1887)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本州における分布が局地的であり、一般的に個体数も少ない。島根県でも分布は局地的であり、既知の生息地のほとんどが人為的な攪乱を受けやすい平地の湿地や里山周辺である。

### 【概要】

開張16-17mm程度、コケガ亜科に属する小型種であり、国内では1906年に隠岐（島後）の西郷で初めて採集された。その後、北海道、本州、対馬で記録されているが、北海道以外では非常に少ない。中国地方では島根県と鳥取県で記録がある。国外ではシベリア南東部、サハリン

に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内ではこれまでに隠岐（島後）の西郷で2個体、邑智から1個体が採集されていたにすぎず、非常にまれな種と考えられていた。しかし、近年の調査で島根半島の複数の地点と三瓶山で生息が確認された。島根半島ではおもに低地の湿地周辺で確認されている。隠岐（島後）では1967年以降の採集例がなく、調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地周辺の林地、植生など自然環境の改変。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    | ○  | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      | ○  |    |    | ○    | ○  |    |    |    |    |

チョウ目ヤガ科

# ホソバミツモンケンモン

*Cymatophoropsis unca* (Houlbert, 1921)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内の生息地が限定され、国内他地域でも同様に産地は限られる。

### 【概要】

前翅長15mm内外。前翅にある白く縁どられた3つの斑紋が鮮やかで、特徴的である。成虫の出現は、県内では5-8月にかけて。幼虫はネコノチチを食樹とすることが近年判明した。国内では本州（中国地方）、四国、九州に分布する。生息域は狭い。国外では、朝鮮半島、中国、チベットに分布。同属のミツモンケンモン

*Cymatophoropsis trimaculata* (Bremer, 1861) は国内での絶滅が懸念されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の島根半島および雲南市、出雲市、県西部の西中国山地周辺で見つかっている。本種と石灰岩質土壌に固有の植生との関係が再三指摘されているが、県内においては関係は薄いと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

良質な林の減少、消滅。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    |    | ○  |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目ヤガ科

# クビグロケンモン

*Viminia digna* (Butler, 1881)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

県内での生息地がきわめて局地的である。

### 【概要】

前翅長16-22mm。前翅に特異な斑紋を持つ。体、翅の大きさにはかなり個体差がある。成虫は4-5月と8月に出現、年2化と思われる。春に出るものは翅の斑紋は鮮明だが、色は全体に白っぽく、後翅は白に近くなる。夏に出るものは強く黒味を帯びる。幼虫の食草としては、カキツバタ、イタドリなどが報告されている。*Viminia* 属はケンモンヤガ類としてはめずらしく、非樹木性で、

灌木や草本につくという。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に、国外では台湾、朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

今のところ生息地は三瓶山のみ。湿地環境に生息するとされ、三瓶では池のカキツバタなどとの関係が考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

湿地環境およびそれに付随する植生の消失。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 湿地  | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    |    |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |

チョウ目ヤガ科

# ナマリキリガ

*Orthosia satoi* Sugi, 1960

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

産地・個体数がきわめて限られる。

## 【概要】

前翅長17mm内外。前翅は紫灰色の地色、黒く太いスジを有する。成虫の発生は春4月、年に1度だけである。本種の属する*Orthosia*属は北半球温帯の広葉樹林に多くの種が生息するといわれ、国内には20種ほどが知られている。いずれの種も春にのみ出現、同じような生活サイクルを持っている。本種は日本特産種。東北地方から本州中部にかけて産地があるが、局地的。個体数も少ない。

幼虫の食草や生態などに関しても未知の部分が多い。

## 【県内での生息地域・生息環境】

従来西日本には生息記録が見当たらなかった種であるが、1999年に三瓶山で見つかった。現在までのところ、採集例はこの1例のみ。三瓶山の落葉樹林を生息場所としていると考えられる。

## 【存続を脅かす原因】

三瓶山等、落葉樹林帯の減少や消滅。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目ヤガ科

# ムラサキミツボシキリガ

*Eupsilia unipuncta* Scriba, 1919

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

県内での生息地が限定される。

## 【概要】

前翅長18-19mm。前翅は紫赤色で、外横線付近に灰色の太い帯がある。中室近くの白点は小さく、その周りの小白点は個体によっては消失することがある。成虫の発生は10月ごろ。越冬した個体は春に見られるというが、県内ではまだ観察がない。幼虫期については未知。国内では本州、四国、九州に分布する。しかし生息地はかなり局地的で見つけにくい。国外では中国に分布している。

## 【県内での生息地域・生息環境】

1990年代終わりに、県中部の三瓶山と西部の中国山地沿いの地域で続けて見つかった。いずれも落葉樹林帯。また川沿いの地域に多く見られるとの観察もある。暖温帯の種とされている。

## 【存続を脅かす原因】

良好な落葉樹林帯の減少や消滅。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目ヤガ科

# ヨスジキリガ

*Eupsilia strigifera* Butler, 1879

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

## 【選定理由】

県内での産地・個体数がきわめて限られる。

## 【概要】

前翅長15mm内外。翅は黄褐色、前翅にクリーム色にちかいスジが4本入る。全体的に薄い色あいで、淡い印象がする。成虫は10月ごろに出現し、そのまま越冬して3-4月ごろまで活動する。ただ県内で、春の個体は確認されていない。幼虫期は未知。国内では岩手県以南の本州、四国、九州、対馬に分布する。東北地方では以前見つかっておらず、近年進出したと考えられるという。国

外では台湾、朝鮮半島、中国、ネパールなどに分布。

## 【県内での生息地域・生息環境】

現在までのところ生息地は県中部の三瓶山のみ。落葉樹林帯での採集例が1例あるだけである。

## 【存続を脅かす原因】

より多くの調査が必要だが、落葉樹林等の林の減少、消失が考えられる。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    |    | ○    |    |    |    | △   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヤガ科

# ツクシカラスヨトウ

*Callyna contracta* Warren, 1913

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

本州における生息確認記録が少なく、局地的である。

### 【概要】

前翅長17mm内外。明るい茶色を基調とした翅を持つ。前翅はこげ茶と白色の紋で特異な模様を形成する。成虫は5～6月および8～9月に出現する。幼虫はムラサキ科のチャノキを食べるといふが、詳しくは分っていない。国内では九州と奄美大島のみ分布するとされてきた。だが近年、中国地方西部や対馬などで新たな生息地の発見が続いている。国外では中国、ベトナム、ネパー

ル、インドに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1999年以降、県中西部および中国山地沿いの地域で生息地が見つかってきている。

### 【存続を脅かす原因】

まだ多くの調査が必要と思われるが、良好な森林環境の減少や消滅が考えられる。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目ヤガ科

# コシロシタバ

*Catocala actaea* Felder & Rogenhofer, 1874

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【選定理由】

県内での生息地が限定され、さらに減っていく傾向にある。

### 【概要】

前翅長27mm内外。ハネの地色が黒い*Catocala*で、後翅に細長い白色の斑紋を有する。成虫は年に一度、6月終わりごろから出現、秋まで姿が見られる。幼虫はクヌギなどブナ科を食樹としている。

北海道、本州、四国、九州に分布しているが、数は少ない。国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布し

ている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

低地の落葉二次林を主たる生息場所とし、県東部および西部の山口県に近い限られた地域にのみ見られると考えられていたが、全県的に、時に市街地の裏山のようなところにも少数ながら見出せることが分ってきた。

### 【存続を脅かす原因】

クヌギを含む落葉二次林や里山的環境の減少や消滅など。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目ヤガ科

# クロシモフリアツバ

*Atuntsea kogii* (Sugi, 1977)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【選定理由】

国内ならびに県内における生息地がきわめて限定される。また本県赤名峠産の個体が模式標本となっている。

### 【概要】

前翅長12-14mm。前翅は茶色、灰白色、黒などが交じり合った複雑な斑紋を有するが、後翅は茶色で無地である。成虫は県内の例でいうと6～8月にかけて発生。幼虫その他については、今のところ不明である。本種は1977年に北海道産のオスと本県赤名峠産のメスをもとにして新種記載されたもので、1属1種。北海道、本州に

分布するが、局地的、個体数も多くない。国外では朝鮮半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山および赤名峠で採集されている。三瓶の例を見る限り、雑木林の蛾との印象が強い。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む森林環境の減少、消滅が考えられる。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  |    |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目トラガ科

# コトラガ

*Mimeusemia persimilis* Butler, 1878

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内における生息地が限られる。

### 【概要】

前翅長21-24mm。前翅は黒の地色に大きな黄色い斑紋を散らす。後翅はオレンジ色、黒の縁どりと紋がある。同じ科のトラガ*Chelonomorpha japana* Motschulsky, 1861と大きさ、色、斑紋等、よく似ている。そのため過去の採集記録においては両者を混同していた可能性がある。成虫は5月の終わりから6月にかけて現れ、昼間に活動する。トラガが4月から5月の初めにかけて出現す

るのに対して、1カ月近く発生が遅い。幼虫はヤブガラシ、ヤマブドウ、マタタビを食草としている。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に、国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部、ベトナムに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山およびその周辺、琴引山、また西部の中国山地沿いの地域に生息しているが、個体数は少ない。

### 【存続を脅かす原因】

森林やそれに付随する草地などの環境改変。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| △    | ○  |    |    | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目アゲハチョウ科

# オナガアゲハ

*Papilio macilentus* Janson, 1877

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

産地・個体数ともに減少している。

### 【概要】

翅長49-70mm。黒いアゲハの中では、翅の幅が狭く尾状突起が長い特徴があり識別しやすい。5月、8月の2回発生。低山地から山地の落葉樹の多い谷筋の開けた場所によく現われ、ゆるやかに飛翔し、アザミなどの花で吸蜜したり地上で吸水したりする。もともとアゲハの中では個体数の少ない種である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の県境付近の低山地でもよく発生していたが、山が伐採され環境が一変し姿を消したところもある。本種の食草は一般にはコクサギとされるが、県内で確認されている食樹はシキミ、カラスザンショウ。松江市八重垣神社周辺は普通に見られていたが、ここ10年ほどは確認できていない。隠岐（島後）では、1980年代から記録がない。

### 【存続を脅かす原因】

落葉広葉樹林の手入れ不足による荒廃と思われる。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    | ○   |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シロチョウ科

# ツマグロキチョウ

*Eurema laeta bethesba* (Janson, 1878)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B類 (EN)

### 【選定理由】

全国的に減少しており、本県でも産地、個体数とも減少傾向である。

### 【概要】

翅長18-21mm。河川敷、堤防、海岸草地や、山間地の林周辺に生息する。食草はマメ科のカワラケツメイ。成虫は年2回発生し、夏型はキタキチョウとよく似ていて、混生地では識別が難しいが、食草から離れることなく周辺の花を訪れたり吸水したりしている。10月ごろに秋型が現われ、前翅の先端が尖り独特の褐色条が現われ識別が容易になる。越冬のため分散が著しく、産生地から離れた場所でも見られるようになる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

旧・仁多町、旧・頓原町、旧・赤来町などの山間地、安来市な

どに記録が多い。食草カワラケツメイは道路ぎわやガレ場の荒れ地に群落を作るため、人為的な環境変化、他植物の進入など遷移の進行により、本種発生量は変動が大きい。新しくつくられたキャンプ場周辺や、ダム湖周辺などで多数見られることもある。

また、旧・六日市町では農家が豆茶用としてカワラケツメイを無農薬栽培しており、本種が多数発生していたことがある。1985年島根半島の海岸線岩場で、大陸からの飛来によるものと思われる裏面が赤い個体群が多数観察されたこともある。隠岐（島後）では計2例の記録のみで、これも大陸からの飛来によるものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

カワラケツメイ群落地の荒廃。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  |    | △  | ○    |    |    |    |     |    |    | ○  |      |    |    | ○  |      |    |    | ○  |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目シジミチョウ科

# ゴイシシジミ

*Taraka hamada* (H. Druce, 1875)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内に広く分布しているが減少傾向。

### 【概要】

翅長10–16mm。翅の裏が基石を並べているような斑紋がある。幼虫は笹や熊笹などに付くアブラムシを食べて育つ肉食性で、成虫はアブラムシが出す分泌物を吸う。発生地周辺で見られるが、時には何の種かわからないほど激しい飛び方をする。春から初秋に見られるので年2～3回の発生と思われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

平地、低山地から山間地まで、林周辺、山道脇のササ類のある所で発生する。アブラムシに影響され毎年発生するとは限らず、また、今まで見なかった所で突然発生することもあり、アブラムシを求め移動性があるようで、産地は流動的である。隠岐（島後）には確実な採集記録があったが、長く再確認されていない。

### 【存続を脅かす原因】

開発改修、自然遷移。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ウラゴマダラシジミ

*Artopoetes pryeyi* (Murray, 1873)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限られ個体数も少ない。

### 【概要】

翅長22–24mm。食樹イボタノキがある平地から低山地の落葉広葉樹が優占する林の林縁部を生息環境としている。年1回6月に発生、オスは日中あまり活発ではなく、イボタやウツギなどで吸蜜する。ミドリシジミ属の中には夕方に活発に飛翔する種がいるが本種もその1種。産卵はイボタの枝に産み付けられるが、赤いUFOのような独特の形をしていてよく目立つ。

### 【県内での生息地域・生息環境】

浜田市周辺など西部にも生息地はあるが、松江市・出雲市・雲南市・奥出雲町など東部に多く生息地が見られる。各地とも道路拡幅などでイボタを含む雑木林の伐採が進行し生息域が狭められている。

隠岐（島後・西ノ島、中ノ島、知夫里島）産は、翅表の黒帯が広くて暗化する地理的変異が見られ、きわめて特異な個体群であり、保全が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林の荒廃。隠岐諸島では殺虫剤空中散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    | ○    |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    | ○  |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ウラキンシジミ

*Coreana stygiana* (Butler, 1881)

## 島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

生息地・個体数共に減少傾向である。

### 【概要】

翅長17–19mm。日本特産種。オスの翅裏は暗い金色、メスは明るい金色をしている。コバノトネリコやマルバアオダモを食樹とし、低山地では6月中旬ごろ、三瓶山のような高標高地では6月下旬から7月上旬ごろ発生。日中はほとんど飛翔することなく、クリの花などで吸蜜し、まれに吸水する姿も見られる。5時ごろより日没直後には活発に活動する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部県境付近の低山地で1997年確認しているが、道路拡張、新設などで環境も悪くなり、現在でも生息しているか不明。呑谷でも1986年の記録がある。船通山、三瓶山、奥出雲町など山地の渓谷沿いや落葉樹林周辺では、現在でも確認されている。隠岐（島後・西ノ島）にも生息しており、特異な個体群であるが、松枯れ対策の殺虫剤空中散布の影響を受けて激減している。

### 【存続を脅かす原因】

トネリコを含む雑木林の伐採、隠岐諸島では殺虫剤空中散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林   | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    | ○    |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# フジミドリシジミ

*Sibatanozephyrus fujisanus* (Matsumura, 1910)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限られ、個体数も少ない。

### 【概要】

翅長16–18mm。日本特産種（近似種が近年、台湾、中国奥地で発見された）。標高600m以上のブナ林に生息。年1回6月に出現するが、樹上で生活しているため発見しにくい。強風の翌朝にブナ林の下草によく降り、気温の高い日には吸水にも降りてくるので、こんなときには発見しやすい。標高の高い地で発生が早いのは、ブナの芽ぶきが早く伸展も早いいため、食樹に合わせて幼虫の成

長も早いためである。

### 【県内での生息地域・生息環境】

温帯落葉樹林に自生するブナ林は、県内で10数カ所あるが、現在確認されている確実な産地は船通山、大万木山、天狗石山、匹見峡の4カ所。匹見峡は標高400m付近のイヌブナが食樹になっている特異な環境である。三瓶山のブナ林ではいまのところまだ発見されていない。

### 【存続を脅かす原因】

ブナ・イヌブナ帯における林道建設、植林のための野放図な伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ウラジロミドリシジミ

*Favonius saphirinus* (Staudinger, 1887)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

産地も限られ個体数も少ない。

### 【概要】

翅長17–19mm。ゼフィルスの中でもファボニウスと言われる、オスの翅表が青緑色に輝く一群の仲間、裏面が銀白色しているのでこの名がある。年1回6月にナラガシワ林に発生する。同じ食樹であるヒロオビミドリシジミと混生するところも多いが、県東部低山地の小規模なナラガシワ林では本種のみ発生している。

### 【県内での生息地域・生息環境】

東部、西部にナラガシワ林が点在するが、開発改修、

道路拡張、稚茸のホダ木にと伐採されることが多く、また、林周辺に存在する所では、放置されて他の樹木に覆い隠されそうになるほど、樹種変換がゆっくりと進行し、本種の存在が数年後には危ぶまれるほど不安定な環境下にある。また、隠岐（島後）では、海岸近くにある小規模なカシワ林に生息が確認されており、きわめて特異な個体群で特別な保全対策が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

カシワやナラガシワを含む雑木林の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    | ○   |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    | ○  |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ハヤシミドリシジミ

*Favonius ultramarinus* (Fixsen, 1887)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

カシワに依存しているため、産地も限定され個体数も少ない。

### 【概要】

翅長20–22mm。オスの翅表が青緑色に輝くファボニウスと呼ばれる一群の仲間、6月下旬から7月上旬の短い期間に出現。標高400m以上の山地のカシワ林が生息地。日中はカシワの葉陰に潜んでいることが多く、朝方や夕方に活動。特に早朝には下草に降りている個体をよく見かけることもある。産卵は大木では下枝の1年枝上

に、ヒコバエには好んで産卵し、林から離れた草地に孤立している若木にも多数の卵が見られることもある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内で確認されているのは三瓶山、大佐山、吾妻山の3カ所。三瓶山では山頂部や室の内は特別保護区として保全され良好であるが、個体数は多くない。他所は道路ができたたり、近くにスキー場ができたたりで、荒廃している。

### 【存続を脅かす原因】

カシワ林周辺の開発。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目シジミチョウ科

# エゾミドリシジミ

*Favonius jezoensis* (Matsumura, 1915)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

局地的で、生息地も限定される。

### 【概要】

翅長18-21mm。食樹ミズナラが、中国地方では標高600m以上の山地に限られるため、発生地も限定されている。6月下旬から7月上旬ごろに出現するが、同じ食樹のジョウザンミドリシジミ、アイノミドリシジミと混成している場所も多く、時間的な棲み分けをしている。早朝にも見られることもあるが、午後からの活動がおもになり、晴天時には午後から夕方にかけて、なわばりをつくり、活発に飛翔する。曇天時は活動時間が早くなる傾

向がある。産卵は太枝、樹幹などに行う。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では船通山、大万木山、三瓶山、益田市匹見町、隠岐（島後）などに記録がある。隠岐（島後）の山地ミズナラ林に生息する本種はきわめて特異な地域個体群であり、特別な保全対策が必要である（久保田直哉氏が発見）。

### 【存続を脅かす原因】

林道開発などによるミズナラを含む落葉広葉樹林の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  | ○  | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# クロミドリシジミ

*Favonius yuasai* Shirôzu, 1947

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

産地が局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

翅長19-21mm。翅の表が黒褐色で緑色をしないミドリシジミ。クヌギ、アベマキの大木がある林に発生するが、自然林より人家周辺の二次林を好むようで、しかも若木のみでは見られず、ある程度の古木が存在する林に発生し、また、特定の本木に偏って見られる傾向がある。活動は夜明け前の暗いうちに始まり、明るくなるころには活動が終わっている。昼間は樹葉上にいることが多いが、夕方には再び活動を始める。終令幼虫は、一般には

樹の根際に降りてくる習性が知られているが、本県では高所にとどまるという特徴がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西部(旧・六日市町)で1968年初発見(能見豪氏)。以後、旧・柿木村、旧・津和野町などで確認されており、東部でも三瓶山、旧・赤来町、旧・頓原町などから発見された。大木を含むクヌギ林は県内にはごく少なく、発生数も少ない。

### 【存続を脅かす原因】

クヌギの古木を含む自然度の高い雑木林の荒廃。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# ヒサマツミドリシジミ

*Chrysozephyrus hisamatsusanus* (Nagami et Ishiga, 1935)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限定され個体数も減少傾向。

### 【概要】

翅長18mm前後。日本特産種。ミドリシジミの中で後翅の白帯がV字状になっているのは本種のみ。食樹ウラジロガシのある溪谷沿いで6月中旬ごろより発生する。オスは山頂付近で多く見られ、晴天の日中にかけて活動する。メスは活発に活動することはないが、10月ごろまで生存し、ウラジロガシの頂芽辺りの休眠芽に産卵する。鳥取市の久松山が基準標本産地で、和名は訓読みしたもの。

### 【県内での生息地域・生息環境】

匹見峡、旧・仁多町に産地が知られていたが、近年、調査精度が上がり、旧・金城町、旧・旭町、旧・瑞穂町、大万木山、安来市からも卵、成虫確認の報告がある。旧・仁多町では、落葉樹と常緑樹が混成している溪谷で、道路付近に産卵木が見られる。現在、伐採や遷移が進み生息環境が著しく悪化している。

### 【存続を脅かす原因】

ウラジロガシの混じる自然度の高い広葉樹林帯の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# キシマミドリシジミ

*Thermozyphrus ataxus* (Westwood, 1851)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

### 【選定理由】

生息地も限定され個体数も少ない。

### 【概要】

翅長20-21mm。山地帯でアカガシが多く見られる照葉樹林に7月下旬から8月に発生する。メスの翅裏地色は茶褐色、樹林内の葉上で静止していることが多く、活発に活動することないが、気温が高いときには、地上で吸水もする。オスの翅裏地色は銀白色、表には綺麗に輝く金緑色があり、午前11時ごろより3時過ぎまで、溪谷の斜面や樹林内でもテリトリーを張り活発に活動、交尾も

この時間帯に行われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島では1975年に発見され、1981年に淀江賢一郎氏が津和野町で発見した。隠岐（島後）では、ルーミスシジミと混生しているが、大規模伐採や杉の植林で大きなアカガシ林が減少傾向にあり、さらに1990年代の大型林道造成工事が拍車をかけ憂慮すべき状態になっている。

### 【存続を脅かす原因】

林道建設、植林などによるアカガシ林の伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
|      |    | ○  | ◎  | ◎    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目シジミチョウ科

# スギタニルリシジミ

*Celastrina sugitanii* Matsumura, 1919

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限定され、個体数も少ない。

### 【概要】

翅長12-15mm。北海道、本州、四国、九州に分布。年1回、4月中旬ごろに出現。トチノキの見られる山間樹林の溪谷で発生、よく晴れた暖かい日に活動し、オスはよく地上や溪流の岩場で吸水、時には集団にもなる。メスは近くのワサビなど訪花する。ルリシジミと混生するため紛らわしいが、本種は翅の色が灰白色で暗く、また斑紋の構成で識別できる。孵化した幼虫はトチノキの花、

つぼみを食して成長する。県内ではミズキなどでは確認されていない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では匹見峡、船通山など局地的に生息しているが、近年、三瓶山、奥出雲町呑谷からも記録がある。船通山は溪谷沿いが急斜面になり、山頂部のカタクリも保護されているため、開発しにくい状況にあり環境は良い。

### 【存続を脅かす原因】

トチノキの混じる自然度の高い落葉広葉樹林の大規模な伐採。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    | ○    |    |    |    |     |    |    |    |      |    |    |    |      |    |    |    |    |    |

チョウ目タテハチョウ科

# ホシミスジ隠岐亜種

*Neptis pryeri yodoei* Fujioka, 1998

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：島根県固有亜種、基準標本産地

環境省：－

写真 口絵22

### 【選定理由】

本種は隠岐諸島のみで生息する個体群で、近年減少傾向である。

### 【概要】

翅長26-32mm。海岸部でミツバイワガサが見られる林縁の明るい場所に年1回6月に出現（例外的に2化）、ゆるやかに飛翔シツギなどに訪花する。8月には食草の一部を綴って巣を作り越冬する。前翅2室の白斑が横に大きく、後翅白斑列が三日月形になるなど顕著な地理的変異が見られ、隠岐諸島の個体群は固有の亜種 (ssp. *yodoei*) として1998年に記載された。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後、西ノ島、中ノ島、知夫里島）ではおもに海岸部の崖や河川下流域の崖地、道路沿いの崖地が生息地になっている。食樹ミツバイワガサが西日のよくあたる崖地に生育しているため、本種も山奥よりも海岸近くに多く見られる。本亜種は特異な地域個体群であり保全が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

道路開発（道路拡幅や古い露岩地のコンクリート吹き付けなど）。殺虫剤空中散布。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 崖地 | 森林 | 草原 | 農地   | 河川 | 湖沼 | 崖地 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 | 崖地 |
|      |    |    | ○  |      |    |    |    |     |    |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    | ○  |

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

# アサマイチモンジ

*Limenitis glorifica* Fruhstorfer, 1909

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

近年産地、個体数が減少傾向にある。

**【概要】**

翅長25-36mm。日本固有種で本州のみに生息。スイカズラやタニウツギなどを食草に、年2回5～6月と8月に発生し樹林周辺で見かける。良く似たイチモンジチョウと混生している場所もあるが、白斑の違いなどで識別できる。発生場所にある花を訪れたり、吸水したりする。幼虫で越冬する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

低山地から山地にかけて生息しているが、良好だった産地も放置されてクズなどが辺りを覆い、衰亡している所が多い。県東部の観察では、遷移による環境の悪化のせいか、よく見られた三瓶山や旧・仁多町も、一時まったく見られなくなった年もあったが、近年少ないながら復活した。隠岐諸島からは未記録である。

**【存続を脅かす原因】**

開発や、遷移の進行、林縁の手入れ不足による荒廃など。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      |    |    |    | ○   | ○  |    |    |      | ○  |    |    |      |    |    |    |    |    |

# オオチャバナセセリ

*Polytremis pellucida* (Murray, 1875)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

1990年代より県内全域で減少傾向が見られる。普通種と思われていたが、全国的にも減少傾向にあるという。

**【概要】**

翅長22-23mm。翅裏面の白斑がジグザグに並ぶ所で近似種と識別できる。飛翔は敏速で、ノアザミ、オカトラノオなどの花を訪れ、ときには吸水もする。年2回の発生で、ササ原や雑木林周辺の林縁草地がおもな生息地になるが、河川敷でも見られる。

**【県内での生息地域・生息環境】**

平地から山地まで、林縁のイネ科植物の生える草地やササ草原に広く生息するが、密度は低い。近年、多産していた東部でも著しく減少している。しかし、普通種と思われていたために昔の記録が乏しく、定量的な比較が困難であり、今後のデータ集積が必要である。

**【存続を脅かす原因】**

雑木林周辺（林縁）の荒廃によるものと思われる。

| 生息地域 |    |    |    | 山地地域 |    |    |    | 里地域 |    |    |    | 平野地域 |    |    |    | 海岸地域 |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----|------|----|----|----|-----|----|----|----|------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|
| 東部   | 中部 | 西部 | 隠岐 | 森林   | 草原 | 河川 | 湖沼 | 森林  | 草原 | 農地 | 河川 | 湖沼   | 森林 | 草原 | 農地 | 河川   | 湖沼 | 林地 | 草地 | 砂浜 | 河口 |
| ○    | ○  | ○  |    |      | ○  |    |    | ○   | ○  | ○  |    |      | ○  | ○  | ○  |      |    |    |    |    |    |

バッタ目コロギス科

## コバネコロギス

*Metriogryllacris magnus* (Matsumura et Shiraki, 1908)

### 【選定理由】

県内のおもな記録は、隠岐（島前）に限られ、その他地域の生息状況はほとんど分かっていない。

### 【概要】

体長約20mm。触角は体長の5倍以上。翅は退化して痕跡的。体は赤褐色で、腹部背面は各節後縁が黒色のために横縞模様が顕著。形態はハネナシコロギスに酷似するが、ごく短い翅を持ち、後脛節背面に特に大きな棘を有しない。樹上性で、広葉樹などの葉の一部を切り、筒状に巻いて巣を作る。本州以南、南西諸島、台湾に分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

西ノ島町の美田ダムでは、ダムサイトの投光器に誘引される本種が8～12月までの間、連続的に確認されている。暖帯海岸の照葉樹林に生息し、他県でも島嶼における多産の報告例がある。

### 【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする森林の伐採など生息域の環境悪化。

バッタ目キリギリス科

## ハタケノウマオイ

*Hexacentrus japonicus* Karny, 1907

### 【選定理由】

おもな生息地が平地であり、市街地化に伴って生息地が減少している。

### 【概要】

体長約30～35mm。体色は淡緑色で、頭部から前胸の背面に濃褐色の太い条がある。前脚の脛節には鋭い棘がある。成虫は8月上旬から中旬にかけて現れ、オスは夜間「ズイチョ、ズイチョ」とせわしなく鳴く。灯火にもよく飛来する。平野部の草原に生息するが、現在では林地に隣接した丈の高い草地で見られる傾向が強く、広域に

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

開けた草地ではあまり見られなくなった。日本固有種で本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本土域および隠岐諸島で記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

平野部における草原環境の減少。河川の改修。市街地化。

バッタ目コオロギ科

## カヤコオロギ

*Euscyrus japonicus* (Shiraki, 1930)

### 【選定理由】

希少種で、局所的な分布を示すため。

### 【概要】

体長約10～20mm。翅は短く腹部の中央にとどく程度。発音器がないため鳴かない。年1化で、成虫は8～10月に見られる。卵で越冬。河川敷や林縁などのイネ科草本に生息する。国内では関東南部から九州、国外では朝鮮半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部および中部で記録されている。鳴かないために

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

発見が難しいが、地表が湿っている場所のチガヤ草地などを重点的に探せば、生息地はさらに見つかると思われる。

### 【存続を脅かす原因】

草原の減少。手を入れないことによる遷移、特にクズなどの進入によるマント群落化など。

ハサミムシ目ハサミムシ科

## イソハサミムシ

*Anisolabis seirokei* Nishikawa, 2008

### 【選定理由】

自然度の高い礫浜海岸に生息するハサミムシで、県内での生息地は限られている。

### 【概要】

体長13～38mm前後。背面は黒から赤褐色まで変異がある。また腹部先端のハサミも曲がったものから直線的なものまで変異がある。同所的にハサミムシ（ハマベハサミムシ）が生息しており、よく似ているが、大型で背面が赤褐色の個体は本種である可能性が高い。

国内では本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部および隠岐諸島の海岸に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

自然度の高い礫浜海岸の消失。

写真 口絵22

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
絶滅危惧Ⅰ類

絶滅  
絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅  
準絶滅危惧

情報  
情報不足

カメムシ目トゲアワフキ科

## ムネアカアワフキ

*Hindoloides bipunctata* (Haupt, 1923)

### 【選定理由】

本科は熱帯地方に多く、日本産は2属2種。幼虫は石灰質の巣を寄主上につくる。生息地は全国的に限られ、中国地方での記録も少ない。

### 【概要】

体長(翅端まで)オス4mm、メス5mm。オスは小楯板が赤色で他は一樣に黒色。メスは前胸背も赤色。前翅は黒色で、先端部は膜質。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾・中国に分布し、ソメイヨシノなどのサクラ類を寄主とする。成虫は4~5月ごろ現れる。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ふ化した幼虫は巻き貝状の巣を作る。

### 【県内での生息地域・生息環境】

産地は出雲部から石西部にかけて点在するが、個体数は少ない。おもに里山的環境の植栽されたサクラ樹で発見される。隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

里山的環境の開発、殺虫剤散布、大気汚染など。

カメムシ目セミ科

## チツゼミ

*Kosemia radiator* (Uhler, 1896)

### 【選定理由】

本州のセミでは最小であり、見つけにくい。里山的環境に適応した種だが、個体群動態の把握が難しい。

### 【概要】

体長27-32mm、開張48-57mm、メスがやや大きい。体は黒色、体表に銀灰色の鱗毛を有する。腹面の大部分は黄褐色。成虫は県東部平地では8月中旬から11月上旬にかけて現れる。産卵はツツジ類などの生枝中に行う。日本特産種で北海道・本州・四国・九州に生息する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵22

### 【県内での生息地域・生息環境】

平地の公園などで鳴き声などの生息情報は多い。隠岐諸島でも確認されている。小型で採集しにくいので発生状況の把握が困難である。

### 【存続を脅かす原因】

二次林的環境の破壊、または放置、竹林などへの移行。

カメムシ目ハネビロウンカ科

## キスジハネビロウンカ

*Rhotana satsumana* Matsumura, 1914

### 【選定理由】

山地の広葉樹林で得られるが、生息地が局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長3.5mm、翅端まで7mm。体は淡黄褐色で、前翅は著しく広く大きい。前翅には外縁に平行した暗黄色帯をもつ。詳しい生態は未知であるが、カンランを吸汁している観察記録がある。国内では本州・四国・九州、国外では中国に分布する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部から東部の中国山地沿いの3カ所で得られている。

### 【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする自然林の破壊や分断。

カメムシ目アリヅカウンカ科

## アリヅカウンカ

*Tettigometra bipunctata* Matsumura, 1900

### 【選定理由】

幼虫がアリの巣に共生するという特異な習性を持つ。本科、本属の日本産の種は他に1種のみで、個体数も少ない。

### 【概要】

体長(翅端まで)5mm、ふつうのウンカに比べて体幅が広い。体や前翅は淡褐色で、暗赤褐色と赤色の顆粒を散布する。本州のみから知られる希種で、幼虫はアリの巣内で生活するという。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の中国山地林縁部の1カ所で記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする自然林の破壊や分断。

カメムシ目マルウンカ科

## キボシマルウンカ

*Ishiharanus iguchii* (Matsumura, 1916)

### 【選定理由】

生息地が局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長（翅端まで）5mm、半球形で前翅は橙色に黒褐色の斑紋があり、ある種のテントウムシに似ている。ナガバノヤブマオなどのイラクサ科植物に寄生する。国内では本州・四国・九州・対馬、国外では中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内の数カ所で記録があり、隠岐諸島にも産する。林縁部の草地で得られる。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

広葉樹を主体とする自然林の破壊や分断。

カメムシ目マルウンカ科

## カタビロクサビウンカ

*Issus harimensis* Matsumura, 1913

### 【選定理由】

アカマツやネズなどの針葉樹につく希種とされ、県内における生息記録は少なく、アカマツ林の衰退の指標となる。

### 【概要】

体長（翅端まで）8mm程度のウンカのなかまでである。頭部は黄褐色、体は黒褐色でやや扁平。前翅の幅は広く後方に向かってやや狭くなる。前翅の膨出部には白帯がある。本州と四国に分布する。詳しい生態・分布はあきらかでないが、発生期は6月初旬らしい。

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐（島後）のアカマツをまじえた丘陵地で生息が確認されている。他にも、やや急峻な丘陵地のアカマツ林で、市街化していない地域に生息しているものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採やアカマツ林の遷移、「松枯れ予防」と称する殺虫剤散布。

カメムシ目アオバハゴロモ科

## キノカワハゴロモ

*Atracis formosana* Jacobi, 1915

### 【選定理由】

最近本州で分布が確認された南方系の種であり、アリと共生するなど独特の生活様式をもつ同翅類である。

### 【概要】

体長（翅端まで）7mm程度のアオバハゴロモの仲間。体は扁平で軍配型。緑色の地に暗黒色の模様が全体にあり、樹皮に似ている。複眼はよく発達し側方に突出する。成虫は各種の広葉樹上に見られ、幼虫は樹皮下で生活し、ヤマアリのなどのアリに保護されている。南西諸島に分布するが、1990年代後半に九州から山口県、千葉県の数カ

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

所で採集されている。県内では1999年に東部低山地で確認され、その後西部の山間で多数採集されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

山間の谷沿いの雑木林（クリ－コナラ林）などに生息する。

### 【存続を脅かす原因】

開発に伴う森林破壊や、殺虫剤散布など。

カメムシ目ハゴロモ科

## スケバハゴロモ

*Euricania fascialis* (Walker, 1858)

### 【選定理由】

自然林の林縁部に生息するが、他のハゴロモ類に比べ、産地も個体数も少ない種である。

### 【概要】

体長6mm、翅端まで10mm程度のハゴロモのなかまでである。体は黒褐色で、前翅は透明で不連続な暗褐色の帯状紋がある。キイチゴ、オウトウ、ブドウ、クワなどを吸汁する。本州・四国・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中山間地5カ所で確認されているが、隠岐諸島には記

島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

録がない。

### 【存続を脅かす原因】

開発に伴う森林破壊や殺虫剤散布など。

カメムシ目ハゴロモ科

## ヒメベッコウハゴロモ

*Ricania taeniata* Stal, 1870

### 【選定理由】

熱帯東洋系の種であり、県内は分布の北限とみられる。

### 【概要】

体長6mm、翅端まで10mm程度、前翅は黄褐色で中央より外方に先端縁に平行な3本の暗色帯がある。平地のイネ科草本上に生息するが、個体数は多くない。国内では本州以南、国外では台湾・インド・フィリピンに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

河川敷などの開けた環境で採集されているが、県東部では個体数は少ない。隠岐諸島では未発見。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

イネ科草原の大規模な火入れや、殺虫剤散布、市街化。

カメムシ目キジラミ科

## シャシャンボキジラミ

*Cacopsylla vaccinii* (Miyatake, 1964)

### 【選定理由】

松枯れによって尾根の植生が変化し、寄主植物であるシャシャンボの生育地が減少している。

### 【概要】

体長約2.5mm。翅は透明で顕著な模様はない。寄主はツツジ科のシャシャンボで、幼虫は虫えい（虫こぶ）を形成しない。新成虫は6月に出現する。成虫は羽化後しばらくすると寄主から分散し、野外での発見は困難になる。日本固有種で、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵22

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の丘陵地で確認されている。隠岐諸島にはシャシャンボが自生しているものの、これまでのところ確認されていない。

### 【存続を脅かす原因】

松枯れによる植生の変化。

カメムシ目ミズカメムシ科

## ミズカメムシ

*Mesovelgia vittigera* Horváth, 1895

### 【選定理由】

生息地が局地的であり、希少であるため。

### 【概要】

体長2.3-3.4mmで、体は緑褐色で光沢がある。オスの腹部第8節腹面中央には黒色の毛束からなる突起があり、これが他種との区別に用いられる形質である。ふつう無翅型であるが、まれに長翅型が出現する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

浮葉植物や抽水植物が豊富な溜池に生息する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化と消失。

カメムシ目ミズムシ科

## ミヤケミズムシ

*Xenocorixa vittipennis* (Horvath, 1879)

### 【選定理由】

水生植物が豊富な池沼に生息する中型のミズムシで、生息環境が局所的で県内での生息確認地点は多くない。

### 【概要】

体長7.2-9.1mm、丸みのある光沢の強い種である。淡青黄色に黒色条斑をもち、前胸背には6-8条の黒色帯がある。本州・四国・九州、台湾・中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

生息確認地は東部4地点、中・西部各1カ所ですべてが平地の溜池であった。生息池での個体群密度は比較的

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

大きい。隠岐諸島では確認されていない。

### 【存続を脅かす原因】

溜池などの止水域の大規模な開発、水路整備や宅地造成など。各種排水の流入や帰化動物の放流。

写真 口絵22

カメムシ目イトアメンボ科

## イトアメンボ

*Hydrometra albolineata* (Scott, 1874)

### 【選定理由】

溜池などの生息場所が失われ、全国的に絶滅が危惧される。隠岐（島後）を含む県内でも生息の記録がある。

### 【概要】

体長11-14mm、暗褐色から黒色で、長翅型と短翅型がある。オスの腹部7節の腹面は縦にくぼみ長毛がある。池沼・水田・河川などの水際にすみ、水面を走ることができる。分布域は国内では本州・四国・九州・トカラ諸島、国外では朝鮮半島・中国・台湾。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内での記録は灯火採集によるものが多く、確実な生息地は確認されていない。本種と同所的に生息する同属のヒメイトアメンボは県内全域に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

水辺の植生破壊、3面コンクリート化、水質汚濁などの環境悪化。

カメムシ目マキバサシガメ科

## キバネアシブトマキバサシガメ

*Prostemma kiborti* (Jakovlev, 1889)

### 【選定理由】

地表性で採集が困難な種であり、全国的に希種とされる。県内では最近になって生息が確認された。

### 【概要】

体長10mm内外、光沢のある黒色で、粗い毛でおおわれている。翅は短く革質部は黄褐色で、膜質部は退化する。地表の石下で生活する。分布域は国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・モンゴル・極東ロシア。

### 【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川や高津川の河川敷で少数が得られている。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

河川敷の破壊、3面コンクリート化、水質汚濁などの環境の悪化。

カメムシ目サシガメ科

## アシマダラアカサシガメ

*Haematoloecha rubescens* Distant, 1883

### 【選定理由】

暖地に棲む地表性のサシガメであり、分布域は広いが個体数は少ない。県内では戦前の記録が1カ所あるが、その後は発見されていない。

### 【概要】

体長11.5-14mmで頭部、前胸背、小楯板は赤色である。前翅は黒色で革質部の前縁と基部、中央の横帯は赤色を呈する。脚も赤色で、各節に黒帯がある。本州・四国・九州・伊豆諸島・小笠原諸島・奄美大島・沖縄本島、朝鮮半島・中国に分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

雲南市三刀屋町での記録が唯一。生息環境はアダチサシガメと同様に海岸部の林床とされるが、当地では河川敷等のような場所であったかもしれない。

### 【存続を脅かす原因】

海岸林や河畔林の汚染や破壊。

カメムシ目サシガメ科

## クロバアカサシガメ

*Labidocoris insignis* Distant, 1883

### 【選定理由】

日本特産のサシガメで、県内での生息地は局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長12mm内外で、前胸背後葉、前翅革質部後縁、腹部が鮮やかな紅色である。山地の草むらで発見され、朽ち木の樹皮下などで成虫越冬する。本州・四国・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と隠岐（知夫里島）の2カ所で記録がある。こ

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

これらの放牧地に見られる二次草原に生息するものと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

草原の物理的破壊、火入れなどの過剰な管理、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

## オオアシナガサシガメ

*Gardema melinarthrum* Dohrn, 1860

### 【選定理由】

細長い大型のサシガメで、南方系の種である。県内の生息地は局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長20mm内外、体肢は細長く淡褐色で脚は黄色。触角は細長く糸状で体長を超える。ササ藪の地表近くで発見されるが、個体数は少ない。国内では本州・九州、国外ではフィリピン、スリランカに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

中部山地の邑南町と隠岐（島後）で記録されている。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

生息環境は雑木林のササ群落である。今のところ他地での記録はない。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林の伐採、林床のササ群落の刈り取り。大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

## マダラカモドキサシガメ

*Empicoris rubromaculatus* (Brachburn, 1889)

### 【選定理由】

細長い小型のサシガメで、日本特産種。県内の生息地は局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長5mm内外、暗褐色の地に淡色紋がある。触角や脚は黄白色で、多数の暗褐色輪がある。半翅鞘は柔らかく、一見蚊に似ていることからこの和名がついた。草むらの枯れ草に見られるが発見困難。本州・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

近年斐伊川の河川敷や八束町で発見されているが、今

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

のところ他地での記録はない。

### 【存続を脅かす原因】

河川敷の改修、コンクリート化、火入れ、殺虫剤散布。

カメムシ目サシガメ科

## ヒゲナガサシガメ

*Serendiba stalianus* (Horvath, 1879)

### 【選定理由】

細長い中型のサシガメで、日本特産種。県内の生息地は局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長15mm内外、暗赤褐色で脚は黄色。触角は細長く糸状で、前胸背側角は棘状に突出する。県内で採集されたものはいずれも灯火に飛来した個体で、生態は明らかでない。周辺のコナラ、クヌギなどの樹上で生活し、他の昆虫などを捕食するものと思われる。本州・四国・九州・対馬に分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部平野と隠岐（島後）の2カ所で記録がある。環境の良好なクヌギ・コナラの二次林に生息すると考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

## クビアカサシガメ

*Redvius humeralis* (Scott, 1874)

### 【選定理由】

大型のサシガメ類で、県内の生息地が局限され、個体数も少ない。

### 【概要】

体長13-16mm、光沢のない黒色で、長軟毛を密生する。前胸背の後半が暗赤色で、その中央は黒色。コナラ、クヌギなどの樹上で生活し、鱗翅類の幼虫などを捕食する。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾に分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地下部の4カ所で記録がある。環境の良好なクヌギ・コナラの二次林に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採、大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

カメムシ目サシガメ科

## ウデワユミアシサシガメ

*Polytoxus armillatus* T. Ishikawa, 1998

### 【選定理由】

最近記載された小型のサシガメで、今のところ西日本の数カ所での記録のみである。県内では1991年に発見されたがその後の記録がない。

### 【概要】

体長10mm内外、赤褐色で体正中部に黒帯がある。河川の河口部のヨシ帯に生息すると見られるが、詳しい生態は未知である。本州・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川水系の下流域の河川敷で記録されている。岸辺

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

のヨシ帯で、小昆虫を捕食すると思われる。同属のキベリユミアシサシガメは、県東部の河川敷など2カ所で発見されている。形態・生態は本種とよく似ている。

### 【存続を脅かす原因】

河川改修に伴うヨシ帯の破壊、水質汚濁などの環境悪化。

カメムシ目ナガカメムシ科

## オオメダカナガカメムシ

*Malcus japonicus* Ishihara et Hasegawa, 1941

### 【選定理由】

日本特産種で、県内の生息地は局限され個体数も少ない。

### 【概要】

体長6mm内外、黒褐色で細長く全身に大きい点刻を密に散布する。前胸背後葉の両端に1対の大きなこぶがある。クワを食草とし、本州・四国・九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

益田市匹見町と出雲市佐田町の2カ所で記録されているが、最近隠岐（島後）でも確認されている。良好な里

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

山環境に生息する種類である。

### 【存続を脅かす原因】

里山環境の開発、環境汚染。

カメムシ目ナガカメムシ科

## ヒメマダラナガカメムシ

*Graptostethus servus* (Fabricius, 1787)

### 【選定理由】

海岸砂丘のハマヒルガオ群落に特異的に生息するカメムシで、県内の生息地は局限され個体数も少ない。

### 【概要】

体長10mm内外、橙赤色の地に頭部、胸背、脚、前翅などに黒色の斑紋がある。前翅の斑紋には変異がある。ハマヒルガオなどを食草とする。国内では本州・四国・九州・南西諸島、国外では台湾に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市大社町から大田市にかけての砂質海岸2カ所で

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

海岸砂丘の後退、人為的破壊および海洋汚染。

カメムシ目ノコギリカメムシ科

## ノコギリカメムシ

*Megymenum gracilicorne* Dallas, 1851

### 【選定理由】

農耕地周辺の水辺の草本群落で発見されるカメムシで、生息地は局限され個体数も少ない。

### 【概要】

体長13-16mm、赤紫色を帯びた黒褐色で、頭部はシャベル状に突出する。前胸背の前縁と側縁に突起があり、腹部側縁は鋸歯状となる。カラスウリ、カボチャ、キュウリなどに見られる。国内では本州・四国・九州・トカラ諸島、国外では朝鮮半島・中国・台湾に分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平野部数カ所で確認されている。発見・採集が困難な種類であり、生息域はもっと広いと思われる。

### 【存続を脅かす原因】

水辺周辺の除草や除草剤散布、水路のコンクリート化。

カメムシ目カメムシ科

## ウシカメムシ

*Alcimocoris japonensis* (Scott, 1880)

### 【選定理由】

農耕地周辺の広葉樹林で発見されるカメムシで、産地は局地的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長8-9mm、光沢のある黄褐色に多数の黒色点刻があり、一見暗褐色に見える。前胸背側角はウシの角状に突出する。小楯板は大きく基部両側に黄白色紋がある。本州・四国・九州・南西諸島に分布し、アセビ、シキミ、フジなどで発見される。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

今まで匹見、隠岐諸島、松江、三瓶、八束、木次で確認されている。関西では都市公園のような場所で発生しており、今後生息域はもっと広がると思われる。

### 【存続を脅かす原因】

農耕地や住宅地周辺の緑地帯の破壊、環境悪化。

カメムシ目カメムシ科

## イシハラカメムシ

*Charazonotum ishiharai* (Linnavuori, 1961)

### 【選定理由】

山地の広葉樹林縁部で発見されるカメムシで、産地は局地的で個体数も少ない。県内では近年確認された。

### 【概要】

体長9-11mm、黄褐色に多数の黒色点刻を散布する。小楯板の先端には黄白色紋がある。幼虫・成虫ともにミツバウツギの実を吸取する。本州・四国・朝鮮半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

奥出雲町上阿井の林道法面のミツバウツギで発見され

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵22

た。ミツバウツギは県内ではまれな植物ではないので、今後生息域はもっと広がると思われる。

### 【存続を脅かす原因】

山間部の大規模な開発（道路整備や宅地開発）など。

カメムシ目ツノカメムシ科

## エゾツノカメムシ

*Acanthosoma expansum* Horvath, 1905

### 【選定理由】

中型のツノカメムシで、県内の生息地は局限され、山地の自然度の指標となる。

### 【概要】

体長12-15mm、緑褐色で、前胸背側角は黒く強く突出する。ミズキやニワトコなどの植物上で見られる。国内では北海道・本州・四国・九州、国外では中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

東部山地と隠岐（島後）に記録がある。山地の広葉樹をまじえた環境の良好な二次林に生息する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【存続を脅かす原因】

山林の伐採や大気汚染などの環境の悪化。

コウチュウ目カワラゴミムシ科

## カワラゴミムシ

*Omphron aequalis* Morawitz, 1863

### 【選定理由】

砂地に生息する地表性甲虫で、全国的に減少している。県内では内陸での古い記録があるが、現在では生息地がほとんど消失している可能性がある。

### 【概要】

体長5.5-6.5mm。ハンミョウ科やオサムシ科に近縁な独立した科として扱われている。体は円形で肢が長い。海岸や砂丘、内陸の砂地（自然堤防など）に生息する。成虫は灯火に飛来する。国内では北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、沿海州、中国に分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵22

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の内陸部で記録がある。近年の記録はまったくない。

### 【存続を脅かす原因】

砂地環境の消失。

コウチュウ目ハンミョウ科

## コハンミョウ

*Myriochile speculifera* (Chevrolat, 1845)

### 【選定理由】

砂質の河原に生息するが生息に適した環境が減少。

### 【概要】

体長11-13mm。赤みを灰色で鈍い金属光沢がある。上翅には細い白色の斑紋がある。成虫は春から秋にかけて出現し7-8月、夏に多い。成虫は地表を俊敏に歩行・飛翔して小昆虫等を捕食し、幼虫は土中に掘った孔に身を潜め付近を通る小昆虫を捕食する。

河川敷、河口など水辺に見られるが、丘陵地など裸地・乾燥した場所でも生息が確認されている。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮半島、台湾、中国、東南アジアに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部の河川の中・下流域。隠岐諸島で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ハンミョウ科

## アイヌハンミョウ

*Cicindela gemmata aino* Lewis, 1891

### 【選定理由】

生息環境である石礫がある河川敷に生息する種で県内の分布も局所的。

### 【概要】

体長16-17mm。体色は青緑色を帯びた鈍い金属光沢。上翅には太くはっきりした白紋があり、青く光る孔点の列がある。

成虫は春期に石礫が多くあるような大型河川の上中流域の河川敷に局所的に出現する。晴れた日中に活発に歩行・飛翔して、小型の昆虫類を捕食する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、シベリア南東部に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部の大型河川の上中流域の河川敷に生息。西部地域では比較的多く採集されている

### 【存続を脅かす原因】

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ハンミョウ科

## コニワハンミョウ

*Cicindela transbaicalia japonensis* Chaudoir, 1863

### 【選定理由】

砂質の河原に生息するが、生息に適した環境が減少している。

### 【概要】

体長11-13mm。体色は緑を帯びた灰色の金属光沢で、上翅には白い紋がある。成虫は春から秋に出現し7-8月に多い。成虫は地表を俊敏に歩行・飛翔して小昆虫等を捕食し、幼虫は土中に掘った孔に身を潜め付近を通る小昆虫を捕食する。河川敷、河口の掘いた砂地に見られ、丘陵地の裸地・乾燥地にも見られる。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、サハラに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部地域のおもに大型河川で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

河川の大規模な改修工事等による生息地の消失、生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ハンミョウ科

## ホソハンミョウ

*Cylindera gracilis* Pallas, 1777

### 【選定理由】

全国的にも減少している種であり、県内の分布も限定される。

### 【概要】

体長10-12mm。細長い体型で、体色は黒みを帯びた金属光沢を持つ。上翅には4つの白色の斑紋を持つ。上翅後半の中央部に赤い紋が出る型もある。

成虫は7-8月に出現する。飛翔することはほとんど無く、素早く地上を徘徊して昆虫など小動物を捕食する。幼虫は土中に穴を掘り中に身を潜めて、近くを通る獲物

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵23

を待ち伏せて捕食する。

本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、シベリアに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の山地に形成された草原。

### 【存続を脅かす原因】

開発等による生息地の消滅や、草原、疎林が植生遷移による生息適地の劣化・縮小。

コウチュウ目オサムシ科

## ノツメクラチビゴミムシ

*Rakantrechus (Uozumitrechus) notsui* S. Ueno, 2010

### 【選定理由】

島根半島が本種の基準標本産地となっているが、記載されて以降、新たな採集記録がない。

### 【概要】

九州中央部、四国西部、中国地方西部に分布するラクンメクラチビゴミムシ属の中で秋吉台に分布中心のあるアキヨシメクラチビゴミムシ属のうち本種とミスミメクラチビゴミムシは島根県に産し、他種の分布域から離れて飛び石状になっている。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

2008年に島根半島西部の廃坑で発見された。所属亜属の日本海側での分布東端で、ミスミメクラチビゴミムシとの間には大きな空白地帯を挟んでいる。地中に生息していると思われるが特異な分布の理由も含めて情報が不足している。

### 【存続を脅かす原因】

情報不足のため不明である。同属他種の状況から見ると安定的な地中環境を好むように思われることから、地下水系の変化を引き起こす治水などには注意を要する。

コウチュウ目オサムシ科

## ササジメクラチビゴミムシ

*Stygiotrechus sasajii* S. Ueno et Naito, 2007

### 【選定理由】

島根県が本種の基準標本産地となっており、記載されて以降、新たな採集記録がない。

### 【概要】

体長約2.5mm。体色がアメ色で後翅が無く、無眼といった、洞窟や地下に生息する昆虫の特徴をもつ。九州北部から瀬戸内に分布するノコメクラチビゴミムシ属のなかで日本海側に産する特異な種である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

2006年に江の川沿い（江津市）の低標高地で地中の礫

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

層から見いだされ、翌年に記載された。2カ所で採集されているが以降の記録はない。おそらく江の川河口周辺の地中環境に生息していると思われるが絶滅リスクを評価するためにはさらなる情報が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

情報が不足しており具体的な危機には言及できないが、江の川河口周辺の大規模な改変や地中環境に影響する護岸などは脅威となり得る。

コウチュウ目オサムシ科

## マシダナガゴミムシ

*Pterostichus mashidai* Ishida, 1959

### 【選定理由】

島根県が本種の基準標本産地となっている。県内の記録は少なく、詳しい生息状況は不明。

### 【概要】

体長15mm程度。体は細長く、本種が属すナガゴミムシとしては、体が凸型でやや厚みがある。体色は黒く、光沢がある。前胸背の基部に点刻があることが、類似種との区別点。上翅には明瞭な隆条がある。動物質・腐食質の餌を摂食する。中国地方の他県では溪畔の石の下などから比較的普通に採集されるようである。本州中国地方

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1953年県西部冠山で初めて採集されている。生息調査は不十分で、近年県東部から採集されている。その他の地域の生息状況は不明。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の開発等による環境悪化。

コウチュウ目オサムシ科

## オキナガゴミムシ

*Pterostichus okiensis* Nakane, 1989

### 【選定理由】

隠岐（島後）から記載されたナガゴミムシで隠岐固有種であるが、原記載後の記録が少なく生息状況など詳しい状況は不明である。

### 【概要】

体長 17–18mm。黒色で光沢があり前胸背はやや長めで、匹見から記載されたエサキナガゴミムシによく似るが、腹部末端節後半があまり深く凹まず、後縁が波曲しないことで区別できる。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：隠岐諸島固有種

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の都万および大満寺山で採集された個体により記載され、その後大満寺山での採集記録がある。シダ類が繁茂する山地の林縁や道路の側溝で採集されており、やや湿った林地が生息域と考えられる。島前では採集記録がなく調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域や生態が明らかでないが、大規模な伐採など生息環境の激変を避ける。

コウチュウ目オサムシ科

## ウミホソチビゴミムシ

*Perileptus morimotoi* S.Ueno, 1955

### 【選定理由】

河口などの潮間帯に生息するゴミムシで、日本海側ではまれである。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長1.8–2.3mm。体は扁平で背面は暗い色をしている。河川の潮感域の石下などに生息する。本州、四国、九州、南西諸島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の河川下流に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

河口の開発、特に干潟的な微環境の消失。河川水の塩分濃度の変化。

コウチュウ目オサムシ科

## ウミミズギワゴミムシ

*Sakagutia marina* S.Ueno, 1955

### 【選定理由】

潮間帯に生息するゴミムシで、全国的な希少種である。県内の生息状況は不明な点が多いが、限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長5.0mm前後。体は扁平で背面に鈍い青色の金属光沢がある。海浜に生息する。

国内では北海道、本州、四国、九州、国外ではサハラに分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵23

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の海浜に生息する。生息地は、砂浜上に礫が堆積するような環境である。

### 【存続を脅かす原因】

海岸の開発、海岸浸食、砂浜への自動車や重機の乗り入れ。

コウチュウ目コガシラミズムシ科

## マダラコガシラミズムシ

*Halipilus sharpi* Wehncke, 1880

### 【選定理由】

県内での記録が少なく、また生息地での個体数も少ない。

### 【概要】

体長3.3–3.8mm。幼虫は藻類を食べることが知られているが、県内では確認されていない。生息地は溜池や水田などの止水域であるが、生息場所の条件など生態面で不明な点が多い。国内では本州、四国、九州、国外では中国に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵23

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部や隠岐諸島で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目コツブゲンゴロウ科

## ムツボシツヤコツブゲンゴロウ

*Canthydrus politus* (Sharp, 1873)

### 【選定理由】

県内での生息地がきわめて限定されている。

### 【概要】

体長2.4–2.6mm。成虫は小型で背面に光沢があり、鮮やかな斑紋を持つ。水生植物の豊富な止水域に生息する。国内では本州、四国、九州、国外では中国に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部や西部で記録がある。1950年代に松江市の市街地で記録されていたが、その後記録は途絶え、2009年に県西部で再確認された。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵23

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目ゲンゴロウ科

## マルケシゲンゴロウ

*Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的である。他県でも同じような傾向がみられる。

### 【概要】

体長2.4–2.7mm前後。体型は卵形で背面を微細な点刻と網目状の印刻が覆う。コマルケシゲンゴロウに似るが、体長はより大きく、点刻と網目状印刻の形状が異なる。水生植物の多い溜池の浅瀬や放棄水田など、やや富栄養な水域をおもな生息地としている。国外では台湾、タイ、インドなどに分布し、国内では北海道、本州、九州、南

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の溜池や放棄水田に生息している。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目ミズスマシ科

## ヒメミズスマシ

*Gyrinus gestroi* Regimbart, 1883

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的である。全国的にも減少している。

### 【概要】

体長4.6–5.2mm。成虫の体は幅が狭く、後方に向かって急に狭まる。背面は全体に黒色で強い金属光沢がある。溜池などの水面を旋回しながら遊泳する。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部や西部の溜池に生息しているがまれである。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目ミズスマシ科

## コミズスマシ

*Gyrinus curtus* Motschulsky, 1866

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的である。全国的にも減少している。

### 【概要】

体長4.9–5.6mm前後。成虫の体は幅が広く、後方に向かって緩やかに狭まる。背面は全体に黒色で強い金属光沢がある。溜池などの水面を旋回しながら遊泳する。国内では北海道、本州、四国、九州、国外では千島、サハリンに分布する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧 I B 類 (EN)

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部や西部の溜池に生息しているがまれである。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

コウチュウ目ガムシ科

## エゾコガムシ

*Hydrochara libera* (Sharp, 1884)

### 【選定理由】

生息地が局地的で、希少であるため。

### 【概要】

体長16–18mmで、コガムシ *H. affinis* (Sharp, 1873) に非常に似た種類であるが、脚と体腹面が黒っぽいことや上翅基部の点刻の違いで容易に区別される。北海道など寒冷な地域に多く分布し、一年中水を張った休耕田や湿地などの植生が豊かな水深の浅い水域に選好性を示す。国内の分布は北海道、本州、九州で、国外からは朝鮮半島、中国、ロシアの日本海沿岸地域から記録されている。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【県内での生息地域・生息環境】

美郷町のみで確認されている。一年中水を張った休耕田や湿地に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化や消失。

コウチュウ目ダルマガムシ科

## クロコブセスジダルマガムシ

*Neochthebius granulosus* (M.Sato, 1963)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵23

### 【選定理由】

自然度の高い岩礁海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長1.5–1.6mm。体は瓢箪型でやや扁平。背面は黒色で光沢は鈍い。本州、四国、伊豆諸島、千島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の岩礁海岸に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

岩礁地帯の港湾開発、重油などによる水質汚染。

コウチュウ目シデムシ科

## ヤマトモンシデムシ

*Nicrophorus japonicus* Harold, 1877

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

平地性の種であり、近年の記録が少ない。

### 【概要】

体長14–25mm前後。背面は黒色で上翅に赤色の鮮やかな4斑紋がある。後脛節が曲がるのが特徴。成虫は灯火に飛来する。国内では本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、モンゴルに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部の平野部や沿岸部で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

本種の減少原因は不明な点が多い。原野的な環境の減少や農業形態（畑作）の変化によって、生息環境や餌資源が減少している可能性がある。

コウチュウ目ハネカクシ科

## ウマヅライソハネカクシ

*Halorhadinus sawadai* Maruyama et Hayashi, 2009

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：情報不足 (DD)

写真 口絵24

### 【選定理由】

自然度の高い礫浜海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長4.6–5.6mm。体は細長く、扁平。イソハネカクシ属の中ではきわめて大型で、潮間帯性のハネカクシとしても最大級。海岸に生息し、地下数10cm程度の潮間帯の礫間に棲む。2006年に島根県内で発見され、新種として記載された。日本固有種で、本州に分布する。これまでのところ島根県のみで記録がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の礫浜海岸に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

礫浜の開発、重油などによる水質汚染。

コウチュウ目マルハナノミ科

## ツماغロマルハナノミ

*Scirtes tsumaguro* M. Satô et Chûjô, 1972

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

汽水域に生息する特異なマルハナノミで、県内での生息地は限られている。

### 【概要】

体長3mm前後。成虫の体は細長い楕円形で、背面は黄褐色だが翅端部が黒い。後肢で飛躍する。海岸や河口のヨシ原などに生息する。日本固有種で本州、九州、南西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部の大橋川のヨシ原に生息する。島根県内に

は汽水域のヨシ原がある場所は限られており、大橋川はその中でももっとも規模が大きい。

### 【存続を脅かす原因】

河川敷や海岸部の改修、汽水域のヨシ原の消失。

コウチュウ目マルハナノミ科

## ホソキマルハナノミ

*Elodes elegans* Yoshitomi, 1997

### 【選定理由】

山地溪流の限られた微環境に生息するため。

### 【概要】

体長3.8-4.9mm。山地溪流に生息し、幼虫は水生。山際から湧水が染み出しているような場所に生息する。日本固有種で本州、四国、九州に分布し、産地は太平洋側に多い。

### 【県内の生息地域・生息環境】

県東部および隠岐諸島で確認されている。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵24

### 【存続を脅かす原因】

山地溪流の開発。大規模な土砂災害。

コウチュウ目クワガタムシ科

## オニクワガタ

*Prismognathus anglaris* Waterhouse, 1874

### 【選定理由】

県内のブナ林に生息し個体数も多くない。

### 【概要】

オスの体長14-19mm。メスの体長15-18mm。体は黒色。オスの大あごは短く、基部と先端部に歯を持つ。山地のブナ、ミズナラ林に生息する。成虫は7-9月に出現し、倒木上に見られるほか灯火に飛来する。産卵は含水率の高い倒木に行われ、若齢幼虫はメスが産卵時に開けた坑道内の木くずを摂食し2年で成熟して夏に羽化する。羽化後は成虫越冬せず、すぐに材から脱出して活動する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

成虫が餌を食べることは観察されていない。北海道、本州、四国、九州に分布。

### 【県内の生息地域・生息環境】

県西部、安蔵寺山のブナ林で採集されている。県東部や中部のブナ林にも生息している可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採や、道路開設などによる生息域森林の消失・乾燥化。

コウチュウ目クワガタムシ科

## マダラクワガタ

*Aesalus asiaticus* Lewis, 1883

### 【選定理由】

山地性の種で個体数も多くない。

### 【概要】

体長オス4-7mm。メス4-6mm。厚みのある長楕円形で小さくクワガタムシらしくない体型をしている。背面は褐色で黒色の棍棒状の毛が不規則に叢生にする。山地の広葉樹林に生息し、成虫は早春から初夏にかけて出現する。成虫が餌を摂食することは観察されていない。幼虫は広葉樹の朽木を摂食して成長し、2年目の秋に羽化して材内で成虫越冬する。北海道、本州、四国、九州

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

に分布。

### 【県内の生息地域・生息環境】

県西部・東部の中国山地、三瓶山、隠岐の島で記録がある。いずれもブナ帯及びそれよりやや標高の低い広葉樹林帯において、おもに朽木中から採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採による生息環境の消失。

コウチュウ目クワガタムシ科

## ネブトクワガタ

*Aegus laevicollis* E. Saunders, 1854

### 【選定理由】

平野部から低山地に生息するが個体数は少なく、近年記録がない。

### 【概要】

体長オス14-33mm、メスは14-25mm。体は全体黒色。上翅には太い隆条がある。おもに平地の雑木林や沿岸部の照葉樹林に生息する。成虫は6-10月に出現し、ブナ科樹木の樹液に集まるほか、モミの樹液に来ることが知られている。また、灯火に集まる。産卵はシイ類の老木の樹洞内や、樹木の不朽部が腐植土状になった場所など

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

の記録がある。幼虫はそれらの材中等で育ち繭を作って蛹化、秋に羽化して越冬する。国内では本州、四国、九州、国外では台湾、中国に分布。

### 【県内の生息地域・生息環境】

県東部の平野部で採集記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息域での森林伐採など生息環境の消失。

コウチュウ目センチコガネ科

## ムネアカセンチコガネ

*Bolbocerosoma nigroplagiatum* (Waterhouse, 1875)

### 【選定理由】

生息密度が低く、希少であるため。

### 【概要】

体長9-14mm。体色は黄赤褐色で光沢があり、頭部、小楯板、上翅後方などは黒色。前頭の中央にオスは小角状突起、メスは横隆起がある。成虫は5-10月に出現する。平地の芝生が広がる公園や河川敷、山地の放牧地などで発生する。古い牛糞などに来集、灯火にもよくくる。朝鮮半島に分布し、国内では北海道、本州、四国、九州、佐渡島、伊豆諸島、壱岐島に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平地および三瓶山の草原で、おもに灯火で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

草原の消失。

コウチュウ目コガネムシ科

## ツノコガネ

*Liatongus minutus* (Motschulsky, 1860)

### 【選定理由】

生息地が局限されているため。

### 【概要】

体長7-10mm。光沢の無い黒色か黒褐色。オスは、頭部に長く反った角があり、前胸背板には両側と平行に縦の隆起があるが、小型なオスでは目立たない。メスの前胸背板には逆U字型の隆起がある。上翅は平圧される。成虫は、6-10月に発生する。山地の日向にある獣糞に集まる。糞下に坑道を掘り、詰め込こんだ糞に産卵する。朝鮮半島、中国、台湾、インドシナ、ミャンマー、イン

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ド、ヒマラヤ、国内では北海道、本州、四国、九州、佐渡島、対馬に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山および県東部の山間地の放牧地で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地での牧畜形態の変化。

コウチュウ目コガネムシ科

## クロオビマグソコガネ

*Aphodius (Acrossus) unifasciatus* Nomura et Nakane, 1951

### 【選定理由】

県内では、ホンシュウジカが生息する島根半島出雲北山山系にのみ生息する。

### 【概要】

体長7-9mm。体は黒色で上翅が黄土色。上翅の中央より下方に黒帯紋がある。成虫はおもに3月下旬から5月下旬にかけて出現し、秋季にも出現する。日陰にある新しいシカの糞に好んで集まり、糞内に潜って摂食する。日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は、シカの糞に依存しているため、出雲北山山系のホンシュウジカ生息域にのみ分布する。

### 【存続を脅かす原因】

シカの生息域の森林伐採や、シカの捕獲などによるシカの個体数の減少。

コウチュウ目コガネムシ科

## セスジカクマグソコガネ

*Rhyparus azumai* Nakane, 1956

### 【選定理由】

生息密度が低く希少であるため。

### 【概要】

体長5-6.5mm。体色は黒褐色から黒色で光沢を欠く。頭頂に4縦隆条、前胸背板に6縦隆条、上翅に各4縦隆条をそなえる。成虫はおもに5-9月に出現する。灯火にあつまる。日本固有種で、本州、伊豆諸島、四国、九州、南西諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山北の原の下に位置するスギ人工林や西中国山地

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

東端の二次林で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の森林伐採。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
危惧Ⅰ類

絶滅  
危惧Ⅱ類

準絶滅  
危惧

情報  
不足

コウチュウ目コガネムシ科

## オキチャイロコガネ

*Sericania kadowakii* Nakane, 1983

### 【選定理由】

生息地が局限されており、また、生息密度も少なく希少であるため。

### 【概要】

体長7-8mm。やや卵形でわずかに扁平。背面は暗褐色から赤褐色、腹面は赤褐色、触角は黄褐色。本種は、ナエドコチャイロコガネ*S.mimica* Lewisに近い種とされるが、体型が小さくて頑丈、背面の点刻が密で光沢が鈍いことなどで区別される。成虫は5-6月に出現。林内の低空を飛翔して移動する。隠岐(島後)にのみ分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐(島後)の山林内に局所的に生息。灯火に飛来する。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の山林の伐採。

コウチュウ目コガネムシ科

## オオタケチャイロコガネ

*Sericania ohtakei* Sawada, 1955

### 【選定理由】

生息密度も少なく希少であるため。

### 【概要】

8.5-11.5mm。やや細長い卵形で少し扁平。背面は暗褐色から赤褐色、腹面は暗褐色、脚部は赤褐色、触角は黄褐色。背面は光沢がある。腹面は後胸腹板中央部と腹節に光沢がある。中国地方の個体群は、色彩が暗く、腹節の光沢を欠く、頭盾の前縁に沿った深い横溝がないなどの特徴がある。本州(関東地方以西)に分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中央部の山林が残る江の川沿いで採集された記録があるが、詳細は不明。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の山林の伐採。

### 【特記事項】

本種は、「改訂しまねレッドデータブック2004」では、ヒバチャイロコガネ*Sericania Hirosei* Y. Miyake et Nakamura, 1995と記載していたが、分類学的変更によりオオタケチャイロコガネとした。

コウチュウ目コガネムシ科

## アオアシナガハナムグリ

*Aleosticus subopacus* (Motschulsky, 1860)

### 【選定理由】

山地の落葉広葉樹林に分布するが島根県での生息地域は局地的で採集記録も少ない。

### 【概要】

体長15-22mm。背面は光沢の無い、緑色ないし銅褐色。前背胸および上翅に白点紋を散布し、上翅には弱い2本の隆条をもつ。成虫は6-8月に出現して、林縁部にある灌木等の花に集まる。メスは朽木に産卵し幼虫はその材を摂食して育つ。おが屑などの腐植を餌にした飼育下では容易に繁殖できるようである。国内では北海道、本

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

州、四国、九州、国外ではシベリア東部、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山麓や県西部の中国山地の標高の高い自然の保たれた森林から記録されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域の落葉広葉樹林の消失。

コウチュウ目ダエンマルトゲムシ科

## シラホシダエンマルトゲムシ

*Pseudochelonarium japonicum* (Nakane, 1963)

### 【選定理由】

全国的にも分布記録は局所的でまれな種類。

### 【概要】

体長5mm内外。体型は長楕円形。背面には白色の毛斑を有し、上翅には密な点刻がある。成虫は夏季にブナ、サワグルミ、トチノキ等の落葉広葉樹が生育する森林内の沢近くで採集されている。成虫が灯火に飛来することが知られているが、幼虫の食性、生息場所などその他の生態については不明。北海道、本州九州(対馬)に分布。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の自然度の高い落葉広葉樹林において、灯火に飛来した個体が得られている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域周辺の開発等による森林伐採や道路開設等。

コウチュウ目チビドロムシ科

## ババチビドロムシ

*Babalimnichus masamii* M. Sato, 2001

写真 口絵24

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

自然度の高い岩礁海岸に生息する。県内の生息状況は不明な点が多いが、生息地が限られている可能性が高い。

### 【概要】

体長2.0mm前後。体は楕円形。背面は黒色で銀色の毛が生えている。本州、四国、九州、南西諸島に分布する。これまでのところ本州の日本海側では島根県のみで記録がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の岩礁海岸に生息する。

### 【存続を脅かす原因】

岩礁地帯の港湾開発、重油などによる水質汚染。

コウチュウ目ヒラタドロムシ科

## ヒゲナガヒラタドロムシ

*Nipponeubria yoshitomi* Lee et M. Sato, 1996

写真 口絵24

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

山地溪流の限られた微環境に生息するため。

### 【概要】

体長2.3–2.8mm。触角のほとんどの節、頭部、前胸背板、小盾板が黒色で、上翅は濃い茶褐色。雄の触角は鋸歯状で長く、体長より僅かに短い程度。日本固有種で本州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部で確認されている。山際から染み出す湧水によって涵養された湿地状の場所において、幼虫は落ち葉

や石に張り付いている。

### 【存続を脅かす原因】

山地溪流の開発、大規模な水害。

コウチュウ目タマムシ科

## ヤマトタマムシ

*Chrysochroa fulgidissima* (Shonherr, 1817)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

以前は普通に見られたようであるが、近年個体数が減少した。

### 【概要】

体長35–40mm。大型の美麗種。全体が緑色金属光沢を持ち背面には縦に2本の赤い縞が入る。成虫は7–8月に出現。エノキ大木の樹冠部周辺を日中によく飛翔することが知られている。成虫はエノキの葉を摂食する。幼虫は主としてエノキ老木の衰弱・枯死した材を摂食して生育する。このほかカキノキ、サクラ類の樹種も幼虫

期の餌として利用されるようで、これらの材から成虫が羽化することが知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島、県東部から西部の平野部から山地での記録がある。市街地ではおもに社寺林のエノキが発生源となっているようである。

### 【存続を脅かす原因】

開発等による森林伐採。市街地では発生源であるエノキなどの老木の伐採。

コウチュウ目タマムシ科

## アオマダラタマムシ

*Nipponobuprestis amabilis* (Snellen van Vollenhoven, 1864)

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内で確認された生息地は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長16–29mm。大型の美麗種で体色は緑色の金属光沢。上翅に縦の隆条と4つの大型および多数の小型白色凹陥紋とを持つ。成虫は5–7月に平地から山地に出現。幼虫の食樹としてはソヨゴ、クロガネモチのほか、サクラ類、ツゲが知られている。成虫および幼虫が材中で越冬していることが観察されている。本州、四国、九州。国外では中国、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から県中部にかけての市街地や内陸部の山地、また、隠岐諸島から記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採による生息地域の消失。市街地に残された発生源樹木の伐採。

コウチュウ目タマムシ科

## クロマダラタマムシ

*Nipponobuprestis querceti* (E. Saunders, 1873)

### 【選定理由】

県内で生息が確認された場所は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長17-28mm。体色は赤味を帯びた黒色で金属光沢があり、上翅には縦の隆条と多数の白色凹陷紋を散布する。成虫は5-7月に出現する。幼虫はエノキの枯死木や、枯死した枝部分を摂食することが知られている。材の中で育った成虫がそのまま越冬している例が知られている。本州、四国、九州。国外では中国に分布。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の市街地周辺部など低地に記録があるのみであるが、県中部、西部でも生息の可能性がある。

### 【存続を脅かす原因】

低地山林の森林伐採による生息場所の消滅、生息域の縮小化。

コウチュウ目コメツキムシ科

## ガロアムネスジダンダラコメツキ

*Harminius galloisi* Miwa, 1928

### 【選定理由】

生息確認場所は局地的で少ない。

### 【概要】

体長14-19mm。体は幅広でやや扁平。体色は褐色で、上翅中央と後方には黒褐色の毛によるV字型の紋がある。成虫は夏季に森林の残された地域で灯火に飛来することが知られているが、幼虫期の生態等は不明。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の広葉樹林で夏に採集されているほか、隠岐諸島での採集記録がある。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

隠岐諸島での採集記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息域の森林伐採等による森林消失。

コウチュウ目コメツキムシ科

## オオベニホソヒラタコメツキ

*Corymbitodes rubripennis* (Lewis, 1894)

### 【選定理由】

全国的にも少ない種で県内の生息場所は局限される。

### 【概要】

体長9mm前後。上翅は黄赤から暗赤色で金属光沢を欠く。頭部から前胸背面は黒色。成虫は5-6月に出現し、山地の花上に集まる。早春にブナの朽木中から成虫が得られており、成虫で越冬するものと推察される。幼虫期の生態等は不明。本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の高齢級のブナ林から採集されている。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【存続を脅かす原因】

生息域の森林伐採等によるブナ林の消失。

コウチュウ目コメツキムシ科

## ムネアカツヤケシコメツキ

*Megapenthes opacus* Canzeze, 1873

### 【選定理由】

全国的にも少なく、県内での分布も局限される。

### 【概要】

体長10-15mm。頭部と上翅は黒色で、前胸が赤い。背面は黒色の短い毛で覆われる。高標高地に花上で見られるが、まれ。自然度の高い森林が生息地で、樹洞付近で見つかることが報告されており、繁殖場所であることが示唆されている。成虫は夏季に出現するがそのほか幼虫期を含めて生態は不明。北海道、本州、九州に分布。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地で7月にイタドリに訪花しているものが採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域の落葉広葉樹林の伐採による森林消失。

コウチュウ目コメツキムシ科

## カドワキツヤミズギワコメツキ

*Neohypdonus kadowakii* Kishii, 1976

### 【選定理由】

雲南市（大東町）で採集され記載された種であるが、その後の記録がなく分布など不明である。基準標本産地であり再確認し、生息環境を明らかにする必要がある。

### 【概要】

体長4.0mm 前後。全体黒色でつやがあり、触角・上翅肩部は褐色を帯び、肢は黄赤色である。この仲間は微小である上に種類が多く判別が難しいとされる。本種の生態や国内での分布状況などは不明であったが、鳥取県大山で生息が確認された。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は、1967年に大東で採集されたが、その後の記録がなく微小な種であるため発見し難く、同定が難しいことも一因と思われる。最近、鳥取県大山で生息が確認されており、県内でも再確認の可能性が高い。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目ホタル科

## ヒメボタル

*Luciola parvula* Kiesenwetter, 1874

### 【選定理由】

生息地が局地的で、移動性が乏しく、環境変化による影響を受けるため。

### 【概要】

体長5－9mmで、複眼が大きく、触角は短い。上翅は全体に黒色で、前胸背板は大部分が桃赤色で、中央前方に黒斑がある。メスは後翅が退化している。雌雄ともに発光し、閃光的な光を放つ。成虫は6～7月に出現し、出現期間は短い。幼虫は陸生で貝類などを捕食する。日本固有種で、本州、四国、九州、五島列島に分布する。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

体長6mm前後の小型タイプと体長8mm前後の大型タイプが知られるが、島根県からは後者のタイプしか見つかっていない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島や県全域で確認されている。スギなどの生えた古い社寺林や雑木林に生息する。林床は湿っていることが重要である。

### 【存続を脅かす原因】

森林の減少や林床の乾燥化。

コウチュウ目ホタル科

## スジグロボタル

*Pristolycus sagulatus sagulatus* Gorham, 1883

### 【選定理由】

生息地が局地的であり、希少であるため。

### 【概要】

体長7mm前後。複眼が小さく、触角は大きい。上翅は全体に鮮やかな赤色で、周縁と会合部は黒色、黒色縦条がある。前胸背板は茶褐色。成虫になると発光器が痕跡的で、ほとんど発光することなく、雌雄のコミュニケーションには匂い（性フェロモン）が用いられる。幼虫は陸生であるが、湿地や溪流付近に生息し、水中に入って淡水貝類を捕食することがある。日本固有種で、千島列

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

島、北海道、本州、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

飯南町の赤名湿地のみで確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

湿地などの生息できる環境の減少。

コウチュウ目ヒラタムシ科

## ルリヒラタムシ

*Cucujus mniszehi* Grouvelle, 1874

### 【選定理由】

中国地方での生息は少ないようであり、県内の分布は局所的である。

### 【概要】

体長20－27mm。扁平な体型をしており、頭部と前胸は黒色、上翅は鈍いルリ色をしている。

山地の大木樹皮下に生息する昆虫等を捕食する。

他県での観察例では、春季に倒れたブナ等の大木に集まることが観察されている。幼虫は樹皮下を生息環境として生育し、成虫は秋季に羽化して成虫越冬し、翌春出

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

現すると思われる。

北海道、本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の高齢ブナ林から記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

本種の生息に適する高齢級森林の大規模伐採など生息に適した環境の消失。

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

## キイロテントウゴミムシダマシ

*Leiochrodes mashidai* Nakane, 1963

### 【選定理由】

島根県が本種の基準標本産地。

1954年の記載以降、本県の記録はなく生息状況は不明。

### 【概要】

体長2-3mm。体は半球形で光沢のある黄赤褐色をしている。近似種のクロテントウゴミムシダマシは体色が光沢のある黒褐色であることが区別点。砂質海岸に生息するほか、内陸部でも大きな河川の河川敷にも生息することが確認されており、集団で成虫越冬している例が報告されている。本州に分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

1954年に県西部の砂質海岸から採集され記載された。分布調査は十分でなく、県内の他地域での生息状況は不明。

### 【存続を脅かす原因】

河川の土砂供給量が減少して砂質海岸が縮小している。砂質海岸の地形改変、大型河川の河川敷の改修などによる生息環境の消失。

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

## オキツヤヒサゴゴミムシダマシ

*Misolampidius okiensis* Nakane, 1983

### 【選定理由】

隠岐（島後）から記載されたツヤヒサゴゴミムシダマシで隠岐諸島固有種であるが、分布など詳しい状況は不明である。

### 【概要】

体長13-15mm前後。黒褐色で全体にやや扁平で細長のずん胴型に見え、背面は滑らかで光沢がある。上翅には明瞭な条溝があり、間室は細点刻を装うやや大きく密である。またツヤヒサゴゴミムシダマシ類は、オサムシ類と同様に後翅が退化し移動能力低く、種の分化が著し

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：隠岐諸島固有種

環境省：-

いとされている。成虫は朽木で見られ幼虫も朽木を食べると云われている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）から記録されているが、個体数が少ないためか追加記録も少なく、詳しい生息状況は不明である。島前では採集記録はなく、調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目オオハナノミ科

## クロオオハナノミ

*Metoecus satanus* Schilder, 1924

### 【選定理由】

森林に生息するクロスズメバチに寄生して生活しており、森林伐採等、ハチの生息適地の減少によって減少する。

### 【概要】

体長9-13mm。体色は黒色。体型は細長く、脚が長い。クロスズメバチに寄生して成長する。

成虫は8-9月に出現して朽ち木の割れ目などに産卵する。孵化した幼虫は巣材を集めて来たクロスズメバチに乗り移り、巣に運ばれる。巣内でハチの幼虫体内に食

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

い入り過ぎた後、ハチが蛹になる時期に体外に出て寄主の外部から体液を吸って成長して蛹化・羽化して脱出するという。北海道、本州、国外ではサハリン、チベットに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の森林。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採等による寄主であるクロスズメバチの生息適地の環境劣化。

コウチュウ目ツチハンミョウ科

## クロゲンセイ

*Stenoria oohatai* Morimoto et Maeta 2009

### 【選定理由】

生息密度が低く、分布も局限される。

### 【概要】

体長8-11mm。体色は全身暗褐色。オス、メスともに翅があり、飛ぶことができる。成虫は飼育下では6-7月に出現するが、これまで野外での成虫は1例しか記録されていない。本種は、地中に営巣するエサキムカシハナバチに労働寄生することが知られ、エサキムカシハナバチの巣内からクロゲンセイの擬蛹が得られている。本種は2009年に新種記載され、これまでのところ島根県内

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：島根県固有種

環境省：-

写真 口絵24

の一部でしか生息が確認されておらず、確認例も少ない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の山地にあるエサキムカシハナバチの営巣地で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

寄主となるエサキムカシハナバチの営巣地のある露頭の改変。

コウチュウ目カミキリムシ科

## フタスジカタビロハナカミキリ

*Brachyta bifasciata japonica* (Matsushita, 1933)

### 【選定理由】

山地に生息しており、生息域も限定され個体数も少ない。

### 【概要】

体長16-23mm。頭部と胸部は黒色。上翅は黄色で端と前方に黒色横帯を持つ。成虫は4月下旬から5月上旬に、山地に咲くヤマシャクヤクに訪花し、花弁や花粉を摂食する。地表の枯れ枝、枯れ草の茎などに産卵され、孵化した幼虫は土中に潜り根茎を食入し成長すると再び土中に出て土繭を作って蛹となるという。本州、四国、アジ

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ア北東部、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

5月に県東部から西部の山地のほか、隠岐（島後）において、ヤマシャクヤクに訪花している個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域周辺森林の伐採等、生息地域の環境悪化。寄主植物であるヤマシャクヤクの乱獲。

コウチュウ目カミキリムシ科

## クロソンホソハナカミキリ

*Mimostrangalia kurosonensis* (Ohbayashi, 1936)

### 【選定理由】

本州での分布記録は局限され、その個体数も少ないまれな種。

### 【概要】

体長14-18mm。体型は細長く、体背面は黄褐色。成虫は7-8月に出現。本州での採集記録は少ない。成虫はノリウツギ等の花に訪花することが知られている。ハイノキ、クロバイ、丹那サワフタギが寄主植物として知られている。本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部での記録があり、8月にノブドウの花に訪花しているものが得られている。

### 【存続を脅かす原因】

生息域の開発等による寄主植物を含む森林の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## オオホソコバナカミキリ

*Necydalis solida* Bates, 1884

### 【選定理由】

ブナ林に生息し、分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長18-30mm。体は黒色で上翅は黒から明るい赤褐色まで変化がある。上翅は短く後翅、腹部が露出する。成虫は7-8月に出現する。まれに花に飛来するが、ブナの立枯れに産卵、交尾のため集まっているところを観察されることが多い。産卵は各種の広葉樹を餌とすることが記録されているが、特にブナを好む。幼虫はこれらの材を摂食する。本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地の自然度の高いブナ林で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

開発等による生息域のブナ林の伐採や、景観対策等による発生源である立枯れの木の除去。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ヒゲシロホソコバナカミキリ

*Necydalis odai* Hayashi, 1951

### 【選定理由】

ブナ帯に生息するが分布は局地的。

### 【概要】

体長14-25mm。前翅が短小で後翅が露出する。体は黒色で、触角の第8-10節が白黄から黄褐色。オスの上翅は翅端を除いて赤褐色。メスはほぼ黒色。成虫は7-8月に出現し、太いミズナラの生立木の枯死部や立ち枯れ木に産卵に集まるほか、気流の吹き上げにより山頂部に採集されることがある。各種の広葉樹への産卵記録があるが、特にミズナラを好む。幼虫はこれらの材を摂食。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

北海道、本州、四国、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西中国山地、安蔵寺山においてミズナラ大木に飛来した個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

ミズナラ老木を有する自然度の高い森林の開発等による消失、環境悪化。

コウチュウ目カミキリムシ科

## クロサワヒメコバネカミキリ

*Epania septemtrionallis* Hayashi, 1968

### 【選定理由】

本州での分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長8-11mm。体色は黒色。上翅は短く腹部背面の4分の1程度を覆い、後翅が露出する。暖帯から温帯林に生息し、成虫は6-8月に出現してクリ、ノリウツギ等の花に集まる。幼虫の食樹としてクマノミズキが知られている。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の山林で採集された1例のみで、それ以降新た

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

な記録がなく、生息地の確認が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域における開発等、森林の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## トラフホソバネカミキリ

*Thranus variegates* Betes, 1873

### 【選定理由】

分布は局地的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長13-26mm。体は細長く、背面は黄褐色の不規則な暗色の模様があるが、色彩変異も多い。上翅は両側が途中から顕著に狭まり尖った形状で、後翅の一部が露出する。成虫は6-8月に暖-温帯林で見られ、広葉樹倒木に集まる。幼虫はシイ類、アカメガシワ、ハルニレなどの広葉樹が食樹として知られる。北海道、本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の広葉樹林で採集記録があるが、その他の地域では確認されていない。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域の開発による森林伐採。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ルリボシカミキリ

*Rosalia batesi* Harold, 1877

### 【選定理由】

中国山地沿いと隠岐(島後)で採集されているが、個体数は少なく情報がとぼしい。

### 【概要】

体長16-30mm。全体が灰青色の鱗毛で覆われ、前胸背と上翅に黒色の斑紋がある美麗種である。斑紋に黒色の微毛があり、個体により斑紋の変化がある。触角は体長より長く、オスは第3-5節の先端に黒色の毛の束がある。国内での分布は広く温帯林上部に7-9月に出現して広葉樹の伐採木に集まる。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

中国山地沿いの赤名、匹見、六日市および隠岐(島後)に採集記録があるが個体数は少ない。近年、三瓶山山麓でも採集されている。隠岐(島後)では集材場の伐採木で採集され、六日市ではクリの木の葉で採集されているが、近年は路傍に積まれた伐採木を見ない。

### 【存続を脅かす原因】

山林の荒廃、伐採木の減少などが発生に影響している可能性がある。

コウチュウ目カミキリムシ科

## オオアオカミキリ

*Chloridolum thaliodes* Bates, 1884

### 【選定理由】

隠岐(島後)で採集され、松江、匹見、六日市に古い記録がある。個体数が少なく採集例も少ないため、近年の状況は不明である。

### 【概要】

体長23-32mm。大型のカミキリムシで、背面は濃緑色、下面は緑色、前胸背は青緑色、触角と肢は濃紫藍色で触角は長い。北海道、本州、四国、九州、対馬に分布し、成虫は7-8月に出現して樹液や花上で見られるが、サワグルミ、ヤナギ類の伐採木に集まり、サワグル

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ミの材への産卵が知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐(島後)では夕刻に新しい伐採木に飛来した個体やサワグルミの衰弱木に集まったものが採集されている。松江および匹見は古い記録で、近年の状況は不明である。島前での採集記録はなく調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

山林の荒廃、伐採木の減少などが発生に影響する可能性がある。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ヤノトラカミキリ

*Xylotrechus yanoi* Gressitt, 1934

### 【選定理由】

隠岐（島後・知夫里島）で採集された暖帯系の種で、分布上注目されるが採集例が少なく、生息状況など不明である。

### 【概要】

幅広で体長16–20mm。黒色で前頭および前胸背の前・後縁は黄色の毛で覆われる。上翅基部は赤褐色、その後方に白と黄の斜帯、翅端部は褐色でその前に黄色の帯がある。本州、九州、対馬に分布し、中地方以西の暖帯林帯で7–8月に出現する。食樹はエノキが知られている。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の大満寺山では伐採中のエノキ、知夫里島では道路脇のエノキの伐採木で採集され、いずれも伐採間もない伐木である。また、県西部の津和野で採集記録があるが詳細は不明である。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目カミキリムシ科

## キュウシュウチビトラカミキリ

*Perissus kiusiuensis kiusiuensis* Ohbayashi, 1944

### 【選定理由】

隠岐（島後）で採集されていた暖帯系の種で、分布上注目されるが採集例が少なく、詳細は不明である。

### 【概要】

体長7–10mm。小型のトラカミキリで、体は黒褐色、触角と肢は暗赤褐色、上翅に灰白色の2紋があり、翅端近くに灰白色の微毛を密生する。本州、四国、九州、対馬、屋久島などに分布し、成虫は7月に暖帯林帯のカシ類その他広葉樹の伐採木に集まる。八丈島には別亜種が分布する。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の大満寺山で初めて採集され、その後、横尾山では伐採枝に飛来したものが採集された。また大久ではアカメガシワの伐採木から割り出されている。隠岐（島後）以外での記録を見ない。

### 【存続を脅かす原因】

山林の荒廃、伐採木の減少などが発生に影響する可能性がある。

コウチュウ目カミキリムシ科

## モンクロベニカミキリ

*Purpuricenus lituratus* Ganglbauer, 1886

### 【選定理由】

里山環境に局地的に分布する種で、島根県では1976年の初記録以降採集されていない。

### 【概要】

体長17–23mm。上翅は鮮紅色。前胸背に小黒紋、上翅中央部から後方部に大きな黒紋がある。5月上旬から中旬、クヌギの伐採木から伸長した萌芽に好んで集まることが知られているほか、花にも集まる。幼虫期の餌となる寄主植物はナラガシワ、クヌギ、コナラ、カシワが知られている。中国地方では岡山県での採集記録が多い。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

国内では本州、四国、九州、国外ではシベリア、中国、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

1976年5月に島根県東部の平野部でモチノキの花に訪花した個体が得られている。

### 【存続を脅かす原因】

低山地開発による落葉広葉樹林の消失や、管理放棄による植生遷移による繁殖に適した環境の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## タキグチモモトホソカミキリ

*Cleomenes takiguchii* Ohbayashi, 1936

### 【選定理由】

隠岐（島後）で採集された暖帯系の種で、分布上注目されるが、他に採集例がなく詳細は不明である。

### 【概要】

体長7–12.5mm。体は黒色で触角および肢は暗褐色、上翅は黒色で細長く基部と先端は光沢を欠き、4個の黄褐色紋がある。肢の腿節の先端は膨れて太い。成虫は7月ごろ出現しイタドリ、ノブドウなどの花に集まるとされ、カゴノキの伐採木から成虫が羽化している。本州（伊豆半島以西）、四国、九州、屋久島に分布する。（山口県・

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

準絶滅危惧種

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）の高尾暖地性潤葉樹林の近くで採集されたのが唯一の記録である。高尾暖地性潤葉樹林が生息域かどうかは不明である。カゴノキがある西ノ島での調査が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息状況が明らかでなく不明。

コウチュウ目カミキリムシ科

## クビアカモモトホソカミキリ

*Kururu rhopalophoroides rhopalophoroides* Hayashi, 1951

### 【選定理由】

隠岐（島後）で採集され、本種の分布北限にあたるが、個体数は少なく生息状況も不明である。

### 【概要】

体長10-11mm。体は黒色、頭部の基部・前胸・上翅の小楯板周辺は赤褐色。灰白色の直立した長毛でおおわれるが、赤褐色部では黄褐色毛となる。上翅の点刻は大きくやや粗である。成虫は5~6月ごろに出現し、幼虫はモチノキ、ソヨゴなどの材を食するとされる。本州（近畿以西）、九州、対馬などに分布するが産地は限られ

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：分布限界種（北限）

環境省：-

る（山口県・絶滅危惧Ⅱ類、岡山県・準絶滅危惧）。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）でコナラなど雑木のピーテングと林道脇の花のスピーングで採集された2例、2個体のみで、個体数はきわめて少ないと推定される。

### 【存続を脅かす原因】

現時点では生息域や生態が明らかでなく不明。

コウチュウ目カミキリムシ科

## アヤモンチビカミキリ

*Sybra bordinata* Bates, 1873

### 【選定理由】

本州での分布は局所的で近年の記録がない。

### 【概要】

体長7-12mm。体色は茶から黒褐色で上翅には黄褐色の微毛に覆われ、不規則な暗色の条部がある。

南西諸島では枯れ枝上に多くみられるが、それ以外の地域では個体数は少ない。寄主植物としてトベラ、カラスザンショウ、イヌビワ、アコウが知られている。本州、四国、九州、南西諸島に分布。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の沿岸部および隠岐諸島で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

沿岸部に生育する寄主樹林の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ダイセンセダカコブヤハズカミキリ

*Parechthistatus gibber daisen* Miyake et Tsuji, 1980

### 【選定理由】

自然度の高い森林に生息する。移動能力が小さく生息域の環境が破壊された場合、地域個体群の絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長12-18mm。背面は全体茶褐色、腹面は黒色。コブヤハズカミキリ類は後翅が退化し飛翔して移動できないため、地域により種・亜種に分化している。成虫は初秋に新成虫が出現する。出現した成虫は、広葉樹の生葉、枯葉を摂食する。成虫越冬して春から秋に活動する。個

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

体数は多くない。ブナ、アカメガシワなど各種広葉樹の倒木に集まり産卵する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部では低山地から中国山地、西部では中国山地、隠岐諸島に分布し、落葉広葉樹および常緑・落葉樹が混交する林分で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域の森林伐採等による生息環境の消失。

コウチュウ目カミキリムシ科

## ハンノキカミキリ

*Cagosima sanguinolenta* Thomson, 1864

### 【選定理由】

分布は局所的。主として湿地に生育するハンノキ類に依存するが、近年このような環境が消失しつつあり絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長15-22mm。体色は黒く、頭部・前胸背の周辺部、上翅の開合部および下部は赤色。成虫は5~7月に出現し、主としてハンノキの生葉、枝を後食する。幼虫はハンノキが知られ、ヤシャブシから羽化した例もある。北海道、本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の山間部でハンノキ類の生育する地域で採集されている。出雲市の平野部でヤシャブシ類を発生源として継続した発生が見られる。

### 【存続を脅かす原因】

開発など本種の寄生植物である森林の伐採や、ハンノキが多数生育する湿地環境の、植物遷移による林の衰退。

コウチュウ目カミキリムシ科

## アサカミキリ

*Thyestilla gebleri* (Faldermann, 1835)

### 【選定理由】

寄生植物のアサの栽培の禁止により、生息環境が消失した。1950年前後には県東部、隠岐で複数の採集記録があったが、近年の記録はない。

### 【概要】

体長10-15mm。黒色の背面中央部および両側に灰白色の縦縞を持つ。成虫は5-7月に出現し、アサ、アザミ類の葉や茎を摂食し、幼虫は茎に潜入。全国的にアサ(大麻)の栽培禁止後は激減した。近年、他県では乾性草原のアザミやヨモギで発生が確認されている。県内でもア

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

サに近縁な植物等を餌に生息している可能性がある。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、東シベリア、中国、モンゴルに分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部地域の平野部と内陸部、隠岐(島後)で記録があったが、近年の記録はない。

### 【存続を脅かす原因】

生息する可能性のある乾性草原の保全が必要。

コウチュウ目ミツギリゾウムシ科

## ヒメマルミツギリゾウムシ

*Higonius cilo* Lewis, 1884

### 【選定理由】

分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長4-6mm。細長い体型で上翅は光沢のない茶色で中央部に2個の黒点を持つ。成虫越冬する個体が観察されている。森林性で成虫は春から秋に採集記録がある。幼虫の食性等その他の生態については不明。本州、四国、九州、南西諸島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から中部で採集されている。三瓶山麓では晩

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

秋に落葉広葉樹林の立ち枯れたネムノキの幹の孔に潜入しているところが観察されている。

### 【存続を脅かす原因】

森林伐採等による生息森林の消失。

コウチュウ目ミツギリゾウムシ科

## ミツギリゾウムシ

*Baryrhynchus poweri* Roelofs, 1879

### 【選定理由】

低山地から山地にかけて分布するが、近年とくに低山地では見られなくなった。

### 【概要】

体長10-24mm。体型は細長く、体色は光沢の強い黒色。上翅には赤黄色の斑紋がある。成虫は6-8月に出現し、日中に林内を飛翔するものや広葉樹の枯れ木上に集まる。幼虫は各種の広葉樹枯れ木の材を摂食すると推定されるが詳しい生態等は不明である。本州、四国、九州、国外ではインドシナ、台湾、中国に分布。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部まで。低山地から山地にかけての落葉広葉樹林での採集記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

開発等、森林伐採による生息森林環境の消失。

コウチュウ目ゾウムシ科

## バックinghamカギアシゾウムシ

*Bagous buchingami* O'Brien et Morimoto, 1994

### 【選定理由】

寄主植物が希少植物のガガブタに限定されている。

### 【概要】

体長3mm前後。体は細長く、背面は灰色で上翅の先端付近に白色斑紋がある。脛節の先端はかぎ針状。成虫はガガブタの浮葉上に生息し、浮葉の表面をかじり取るように食べる。幼虫は潜葉性。

国内では本州、九州、国外ではベトナムに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部のガガブタが生える池で確認されている。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【存続を脅かす原因】

ガガブタの減少。ガガブタは「改訂しまねレッドデータブック2013植物編」において準絶滅危惧種に指定されている。

写真 口絵24

コウチュウ目ゾウムシ科

## タカハシトゲゾウムシ

*Dinorhopala takahashii* (Kono, 1930)

### 【選定理由】

分布は局所的で個体数も少ない。隣県においても数例の記録があるのみ。

### 【概要】

体長4mm内外。体全体はほぼ黒色で、前胸、上翅基部に赤褐色部がある。また、上翅には大小の円錐形突起を持つ。黒色の後脚腿節部は三角突起状に肥大する。成虫は5～7月に出現しサクラ類の幼木の葉裏に見られる。幼虫はサクラ、スモモの葉に潜り内部を摂食することが知られている。採集例は少ない。本州、四国、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部、中部の山間部において、落葉広葉樹林での記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

本種の寄生樹種であるサクラ類を有する森林の大規模伐採や針葉樹造林による樹種転換。

コウチュウ目ゾウムシ科

## ババスゲヒメゾウムシ

*Limnobaris babai* Chûjô et Morimoto 1959

### 【選定理由】

生息可能な湿地が県内には非常に限られている。

### 【概要】

体長3.5～4.4mm。黒色小型のゾウムシである。成虫は春から初夏に出現し、大型のスゲ属の葉を食べる。日本固有種で本州と九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の湿地で確認されている。これまでのところ1カ所のみで確認されているが、中国山地の小規模な湿地を調査すれば生息を確認できる可能性がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵24

### 【存続を脅かす原因】

湿地の開発、自然遷移。

コウチュウ目ゾウムシ科

## クロホシタマクモゾウムシ

*Egiona picta* (Roelofs, 1875)

### 【選定理由】

全国的にも少ない種で分布は局所的で個体数も少ない。

### 【概要】

体長3mm前後。体型は長楕円形で、灰色の背面に顕著なビロード状の黒紋を有するほか、茶色の横帯を有する。大木の根元の苔や落葉層で成虫越冬しているものが観察されている。そのほかの生態、幼虫の食樹等の詳しいことは不明。本州、九州に分布。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部山林において冬季、ケヤキ大木の樹皮下で越冬している個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

開発等、森林伐採による生息地域の森林の消失。

コウチュウ目ゾウムシ科

## モジャモジャツチイロゾウムシ

*Pseudohylobius setosus* Morimoto, 1962

### 【選定理由】

全国的にもまれな種であり、県内の分布も限定される。

### 【概要】

体長6mm前後。体色は全体茶色で、体の上面は疎生する「もじゃもじゃ」の毛に覆われるほか、太い口吻を持つのが特徴。野外での成虫越冬が観察されている。成虫の出現期や幼虫の食樹等、生態については不明。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山麓の広葉樹林において、秋期に立ち木の地際

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【存続を脅かす原因】

生息地域の開発等による森林の消失。

ハチ目アナバチ科

## フクイアナバチ

*Sphex inusitatus fukuianus* Tsuneki, 1957

### 【選定理由】

生息地が限定的で、生息環境も人為的影響を受けやすい。

### 【概要】

体長30-35mm。体色は全身黒色で、翅も暗褐色。成虫は夏季に出現し、草のまばらな山道や更地、人家の庭などの平坦な裸地に単独で営巣し、ときにまとまったコロニーを形成する。幼虫の餌として、森林性のハネナシコロギス（バツタ目コロギス科）のみを獲物とするため、営巣地の周辺には森林環境が存在することも生息条件と

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵24

なる。国内では本州、四国、九州に分布するが、いずれの地域も生息地は限定的である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の山間地の裸地で営巣地が確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息に適した裸地の消失。

ハチ目コマユバチ科

## ウマノオバチ

*Euurobracon yokahamae* Dalla Torre, 1898

### 【選定理由】

本州から九州にかけて広く分布するが、生息地は限定的で、採集例も少ない。

### 【概要】

体長15-24mm。産卵管がきわめて長く、体長の6.5-9倍に達する。体全体は黄赤褐色で、腹部は暗褐色。翅は赤みがかった黄色で、前翅の3個、後翅に1個の黒紋がある。シロスジカミキリの幼虫に寄生する。本州、四国、九州に分布。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【県内での生息地域・生息環境】

平地の里山に局所的に生息していると考えられるが、詳細は不明である。隠岐（島後）にも採集記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

里山の環境の荒廃。

ハチ目アリ科

## ダルマアリ

*Discothyrea sauteri* Forel, 1912

### 【選定理由】

全国的にまれな種である。

### 【概要】

体長2mm。体の全体が赤褐色でずんぐりした形態のアリ。頭盾が前方に突出し大あごは背面からほとんど見えない。腹部の先端は体の下面に大きく湾曲する。照葉樹林内の腐朽した切り株や土中に巣を作る。節足動物の卵に特殊化した食性をしめし、クモヤムカデの卵を摂食する。コロニーサイズは小さく、平均50個体程度の働きアリと1～数個体の女王アリでコロニーが構成される。本

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵25

州、四国、九州、国外では台湾に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平野部照葉樹林の林床土中から採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

開発等、森林伐採による生息地域の森林の消失、環境悪化。

ハチ目アリ科

## キバジュズフシアリ

*Anomalomyrma* sp.

### 【選定理由】

全国的にもきわめてまれな種であり、県内でも1例しか確認されていない。

### 【概要】

体長3mm弱。体色は赤褐色で、複眼が無い。大あごは側方からみて背方に強く隆起し、内側には短く太い剛毛が密生する特異な形態を示す。これまでの採集記録のほとんどはブナ林で、林内の土壌中から得られている。大あごの特異な形態から特殊化した捕食習性を示すと推測されるが、本種も含め、本属の詳しい生態は不明である。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

本州、九州に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の中国山地の森林から採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

生息地域周辺の開発等による森林の消失。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ハエ目ハナアブ科

## ケンランアリノスアブ

*Microdon katsurai* Maruyama et Hironaga, 2004

### 【選定理由】

トゲアリを寄主とする特異な生活史を持つハナアブで、トゲアリが営巣する洞のある樹木が点在するような雑木林が減少している。

### 【概要】

体長12-15mm前後。アリノスアブ類としても大型で、体が金緑色を帯び、他種との識別は容易である。成虫は6月から7月に出現し、トゲアリのコロニーに飛来する。幼虫はトゲアリの巣内で成育する。

日本固有種で本州に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：情報不足 (DD)

写真 口絵25

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部および中部の2カ所で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

トゲアリが営巣可能な雑木林の減少。トゲアリが生息するだけでは本種の生息条件とはならない。

ハエ目クサアブ科

## ネグロクサアブ

*Coenomyia basalis* Matsumura, 1915

### 【選定理由】

局地的に生息する大型のクサアブ。近年の確認例は少ない。

### 【概要】

体長14-22mm。雄は黒色、雌は赤褐色で、それぞれ腹部に白色斑紋がある。成虫は春から初夏に出現することが知られているが、生態には不明な点が多い。

国内では北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島、国外ではサハリン、千島に分布する。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：情報不足 (DD)

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部および隠岐諸島で確認されている。

### 【存続を脅かす原因】

不明。

ハエ目ニクバエ科

## ゴヘイニクバエ

*Sarcophila japonica* (Rohdendorf, 1962)

### 【選定理由】

海浜植生を伴った砂丘や砂浜に生息する種であり、その生息地が減少している。

### 【概要】

体長5-6mm前後。ニクバエ科としては小型である。成虫は魚の死体などに飛来する。

国内では本州、国外では沿海州、朝鮮半島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県西部の砂浜で確認されている。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：情報不足 (DD)

### 【存続を脅かす原因】

海浜の開発、特に海浜植生の破壊。海岸浸食。

トビケラ目トビケラ科

## カラフトゴマフトビケラ

*Semblis phalaenoides* (Linnaeus, 1758)

### 【選定理由】

国内で特異な分布を示すトビケラ的美丽種で、赤名湿原での記録は注目されるが、それ以後の記録はなく、分布・生息環境などは不明である。

### 【概要】

体長 21-25mm、翅開張 52-65mm。前翅の地色は乳白色で黒褐色の斑紋を点布する。後翅は乳白色で黒色の縁どりがある。ゴマフトビケラによく似ているが、より大型で斑紋が鮮明である。北海道と本州（広島県）に分布し、6-8月に出現する。国外では樺太、シベリアなど

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

に分布する（広島県・絶滅危惧Ⅱ類）。

### 【県内での生息地域・生息環境】

赤名湿原で採集され、同種と同定されたのが唯一の記録で、その後記録がなく詳細は不明である。広島県三段峡でも採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

湿原の乾燥などによる荒廃は、本種に限らず動植物に致命的である。

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## ギンボシツツトビケラ

*Setodes turbatus* (Navas, 1933)

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的で、近年の記録は少ない。

### 【概要】

体長4-6mm前後。成虫は前翅が褐色で銀色の細長い筋状の斑紋がある。この模様はヒメセトトビケラのものに似ている。幼虫は、水田の水路のような流れの緩い場所に生息する。全国的な希少種とされてきたが、地域によっては多い場所もあることが報告されている。島根県内ではこれまでの所、多く生息する場所は確認されておらず、灯火採集を行っても容易に確認はできない。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

北海道、本州、四国、九州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部で灯火に飛来した記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、圃場整備。

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## ビワアシエダトビケラ

*Georgium japonicum* (Ulmer, 1905)

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的で、近年の記録は少ない。

### 【概要】

体長8mm前後。幼虫はヨシの生える池沼や河川に生息する。日本固有種で本州に分布する。全国的に減少した種として知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山の古い幼虫の記録があるが、現在は水質が悪化し、絶滅したとみられる。県中部の江の川水系では1999年の記録がある。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼や河川におけるヨシ群落の消失。

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## モリクサツミトビケラ

*Oecetis morii* Tsuda, 1942

### 【選定理由】

平地の止水に生息するトビケラで、生息地はきわめて限られている。

### 【概要】

体長8mm前後。平地性の種とされ、全国的に少ない種として知られている。日本固有種で本州に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の溜池1カ所で記録がある。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、圃場整備、外来種の進入。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

トビケラ目ヒゲナガトビケラ科

## ウジセトトビケラ(ウジヒメセトトビケラ)

*Setodes ujiensis* (Akagi, 1960)

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的で、京都府と島根県のみで記録された全国的にも希少な種である。

### 【概要】

前翅長6-7mm前後の小型のトビケラ。同定には雄の生殖器の形状を詳しく観察する必要がある。日本固有種で、本州西部に分布する。全国的に生息地は限られている。基準標本産地は京都府である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の江の川水系に生息している。

島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川の開発改修、大規模な水害や極端な渇水。

トビケラ目シマトビケラ科

## アイミヤマシマトビケラ

*Diplectrona aiensis* Kobayashi, 1987

### 【選定理由】

県内の生息地は局地的で、全国的にも希少な種である。

### 【概要】

体長6.5mm、前翅長8.0mm。奥出雲町（旧仁多町）阿井産の標本を基準標本産地として記載された小型のトビケラである。日本固有種で、本州に分布する。全国的に生息地は限られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の斐伊川水系および神戸川水系に生息している。中流域および上流域で記録があり、幼虫の生息場所

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

は不明であるが、成虫の生息地周辺の河川に生息していると考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川の開発改修、大規模な水害や極端な渇水。

チョウ目ツトガ科

## ハマゴウノメイガ

*Herpetograma albipennis* Inoue, 2000

### 【選定理由】

寄主植物であるハマゴウを含めた海浜植生の減少に伴う生息地の減少と、生息密度の低下が危惧される。

### 【概要】

開張15mm程度。翅は黄白色。海浜性のノメイガ類であり、幼虫はハマゴウの蕾や花弁を摂食する。成虫もハマゴウ群落からほとんど離れない。2000年に石川県、伊豆諸島、熊本県、佐賀県産の標本をもとに新種記載された種で、中国地方では島根県と山口県から記録がある。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲・石見地方および隠岐諸島に分布し、大規模なハマゴウ群落がある砂質海岸では個体数が多い。

### 【存続を脅かす原因】

開発や海岸浸食による海浜植生の破壊。

チョウ目ツバメガ科

## ギンツバメ

*Acropteris iphiata* (Guenee, 1857)

### 【選定理由】

県内での生息地が限られる。

### 【概要】

前翅長14–17mm。シヤクガ科の蛾にやや似た姿をしている。白地の翅に明瞭な細い筋が走り、前翅頂付近は普通赤褐色に染まる。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では韓国、中国に分布する。成虫の発生は6～7月および9～10月。灯火に飛来することは少なく、昼間葉上などにとまっていることが多い。幼虫の食草としては、ガガイモ、オオカモメヅル、コカモメヅル、トキ

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

ワカモメヅル、ナンゴクカモメヅルが知られる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と中部の平地から低山地にかけて生息地が点在する。

### 【存続を脅かす原因】

里山の環境の消失。

チョウ目シヤクガ科

## クロモンチビヒメシヤク

*Idaea crassipuncta* (Inoue, 1971)

### 【選定理由】

日本固有種であり、本州では神奈川県と島根県で各1例の記録があるのみ。その他には南西諸島で少数の採集例があるだけで著しく少ない。

### 【概要】

開張10mm前後。日本産*Idaea*属のなかでもっとも小型の種である。翅の色は全体的に白色で、前翅と後翅の中央に黒点がある。本種が属するヒメシヤクガ亜科は外見が近似した種が多く、分布や生態の情報が乏しい分類群の一つである。

### 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：分布域局限種

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

雲南市木次町山方が唯一の生息確認地である。採集地周辺は湿地や草地、森林といった多様な環境を含む里山である。

### 【存続を脅かす原因】

生息状況の調査が必要であるが、島根県では里山の近くで採集されているため、多様な環境を含む里山環境の消失。

チョウ目シャクガ科

## ムネシロテンカバナミシャク

*Eupithecia maenamiella* Inoue, 1980

### 【選定理由】

三重県と島根県出雲市で採集され、基準標本産地となっている。このほかには北海道、青森県、秋田県、岩手県、愛知県で確認されているが、分布は局地的で著しく少ない。

### 【概要】

開張15-20mm。翅の色は全体的に淡褐色、前翅の先はとがる。後胸背には白紋を有する。国内のシャクガ科カバナミシャク *Eupithecia*属の蛾は60数種にのぼるが、同定が困難な種が多く、本種もそのひとつである。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

出雲市一畑が唯一の生息確認地。島根県では原記載以降に採集例が無い。

### 【存続を脅かす原因】

本種の生息状況の調査が必要であるが、古木の残る寺社林に依存している可能性もあるとされるため、寺社林を含む環境の消失。

チョウ目シャクガ科

## トガリバナミシャク

*Horisme stratata* (Wileman, 1911)

### 【選定理由】

県内での生息地が局地的である。

### 【概要】

前翅長16-18mm程度。翅の地色は褐色、前翅が細長く、縦にとがる。成虫が秋にだけ出現する蛾で、県内では10月から11月にかけて見られるが、少ない。幼虫の食草はセンニンソウ、ボタンヅル。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に、国外ではサハリン、ロシア南東部に分布する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺に生息地があり、山地でのみ採集されていた。しかし、近年隠岐西ノ島でも生息が確認された。数は少なくないという。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む良好な里山の環境の消失が考えられる。

チョウ目シャクガ科

## フタキスジエダシャク

*Gigantalcis flavolinearia* (Leech, 1891)

### 【選定理由】

生息地が限定される。

### 【概要】

前翅長23-28mm。その名のとおり前後翅に黄色い帯状のすじがあるエダシャクである。成虫は秋だけに出現し、越冬態は卵。幼虫は背面に大きな一對の突起をもち、ズミ、アズキナシ、マメザクラなどバラ科の植物を食べることが知られている。北海道、本州、四国、九州に分布。一属一種、日本特産種である。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部三瓶山周辺の山地に生息するが、他地域での生息も予想される。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む良好な森林環境の消滅。

チョウ目カレハガ科

## ワタナベカレハ

*Gastropacha clathrata* Bryk, 1949

### 【選定理由】

本県での採集記録は1例のみ。生息地がきわめて限定される。

### 【概要】

前翅長27-40mm、オスよりメスが大きい。ホシカレハ *Gastropacha populifolia angustipennis* Walker, 1855とよく似ているが、翅の色が赤褐色であること、前後翅の外縁屈曲が弱いことなどで区別される。国内では北海道、本州、四国、九州、屋久島、国外では、朝鮮半島、ロシア南東部に分布する。産地は局地的で少ない種。特にメ

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

スはまれだという。幼虫の食草などは未知。

### 【県内での生息地域・生息環境】

現在までのところ県中部、中国山地に続く地域での採集記録だけである。

### 【存続を脅かす原因】

生息に関する調査が必要である。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅  
絶滅危惧Ⅰ類

絶滅  
絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅  
準絶滅危惧

情報  
情報不足

チョウ目ヤママユガ科

## オナガミズアオ

*Actias gnoma gnoma* (Butler, 1877)

### 【選定理由】

一般的に湿地性のが類とされ、湿地の減少にともない全国的に減少している。県内での生息状況が不明である。

### 【概要】

開張50mm前後。幼虫はカバノキ科ハンノキ属の植物を寄主とする。本種は同属のオオミズアオとよく似ており、県内における過去の記録はオオミズアオと混同されていた可能性がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

2000年代には大田市と松江市の平地で記録がある。そ

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

れ以前には県東部と中部で複数の記録があるが、オオミズアオと混同されていた可能性もあり標本の再調査が必要である。松江市ではオオバヤシヤブシから幼虫が見つかっている。

### 【存続を脅かす原因】

ハンノキ属を含む林の消失。

チョウ目スズメガ科

## ギンボシスズメ

*Parum colligata* (Walker, 1856)

### 【選定理由】

県内では1990年代以降の採集記録がなく、近隣の岡山県や兵庫県でも減少が危惧されている。

### 【概要】

開張70-90mm。雌雄ともに前翅中室に銀白紋があり、日本産のスズメガ類で近似した種がないため他種との区別は容易である。幼虫の寄主植物としてクワ科のカジノキ、コウゾが知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部・西部の山間地で記録がある。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵25

### 【存続を脅かす原因】

原因は不明である。寄主植物は現在でも県内各地で見られることから、寄主植物の減少が原因とは考えにくい。生息調査とともに今後の調査が必要である。

チョウ目スズメガ科

## スキバホウジャク

*Hemaris radians* (Walker, 1856)

### 【選定理由】

全国的に減少が危惧されている。本県では複数の記録があるが、近年の記録がなく生息状況が不明である。

### 【概要】

開張40-45mm程度。翅は透明で黒く縁取られ、体色は全体的に橙色で腹部に黒帯がある。昼行性で日中に訪花する。幼虫の寄主植物としてスイカズラ科のオミナエシ、オトコエシ、スイカズラ、アカネ科のアカネが知られている。県内では幼虫の確認例がない。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵25

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部・中部・西部の山間地で記録がある。隠岐諸島からも記録があるが、別種の誤同定の可能性があり再確認が望まれる。

### 【存続を脅かす原因】

草原などの草地環境の悪化、減少。

チョウ目シャチホコガ科

## ナカスジシャチホコ

*Nerice bipartite* Butler, 1885

### 【選定理由】

県内での生息地が限られ、採集例にも散発的な傾向がある。

### 【概要】

前翅長16-19mm。前翅にある白い条が鮮やかなシャチホコである。成虫の出現は5-6月と7-8月、年2化と考えられる。幼虫はナナカマド、マメザクラを食べる。分布は北海道、本州中部以北および、四国山地といわれてきた。しかし、山陰地方でも採集、生息確認記録が続いている。日本特産種。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部、斐伊川沿いの平地から山地まで、三瓶山およびその周辺、西中国山地の一部に生息している。植栽されたナナカマドなどからの発生も考えられる。

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要だが、ひとつには里山的環境の消滅。

チョウ目シャチホコガ科

## エゾクシヒゲシャチホコ

*Ptilophora jezoensis* (Matsumura, 1920)

### 【選定理由】

県内での分布がきわめて局地的であり、個体数も少ない。

### 【概要】

前翅長16mm内外。晩秋から初冬にかけて出現するシャチホコ。体は長い毛に覆われているが、翅は鱗粉が少なく、薄く透きとおっている。また直線状の白い外横線が特徴的である。成虫が現れるのは10～11月。しかし成虫で越冬はせず、卵越冬。春に孵化する。幼虫はカエデ類を食樹にしている。国内では北海道、本州、四国、九州、

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

国外ではロシア南東部、朝鮮半島に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

生息地は県中部の三瓶山と西中国山地の一部。山間部に限られる。

### 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む森林環境の減少と消滅。

チョウ目ドクガ科

## ウスジロドクガ

*Calliteara virginea* (Oberthür, 1879)

### 【選定理由】

全国的に減少が危惧され、個体数も少ない。県内では分布が限られ近年の記録が無い。

### 【概要】

開張はオスで45mm程度、メスで64mm程度。翅は白色で、前翅に2本の黒線が入る。草原性のドクガ類とされ、寄主植物としてハギ類が知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

大田市三瓶山が唯一の生息確認地。草原やその周辺を生息地としていると考えられるが、調査が必要である。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵25

### 【存続を脅かす原因】

草原環境の悪化。

チョウ目ドクガ科

## ナチキシタドクガ

*Ilema nachiensis* (Marumo, 1917)

### 【選定理由】

生息地が限られ、個体数も少ない。

### 【概要】

メスの前翅長24mm内外。オスのそれは19mm程度と思われる。オスとメスの大きさや翅の模様が著しく異なり、別種のように見える。オスは前後翅ともに緑がかった黒褐色、メスは後翅が黄色。成虫の発生は7～8月。メスは灯火に飛来するが、オスはほとんど飛んでこない。幼虫はアラカシ、コナラ、オオバヤシャブシ、ミズキ、アカメガシワ、チシャノキを食べることが知られる。国内

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：－

では本州（西部）、四国、九州、対馬、屋久島、奄美大島、沖縄本島に、国外では台湾、中国に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の平地、県中西部三瓶山周辺、江の川、高津川沿いの地域および隠岐（島前）での採集記録がある。いずれも平地から低山地の里山の環境。

### 【存続を脅かす原因】

低山地の雑木林の減少さらに消滅。

チョウ目ドクガ科

## トラサンドクガ

*Euproctis torasan* (Holland, 1889)

### 【選定理由】

全国的に減少が危惧され、国内での分布が限られ、県内での生息地も限られている。

### 【概要】

開張21～25mm。翅は全体的に橙黄色。オスは前翅の中室に斑紋があり、後翅が黒色になる個体もある。メスの前翅は無紋である。本州、四国、九州に分布する草原性のドクガ類であり、中国地方では本県の他に岡山県と山口県から記録がある。成虫は日中に飛翔し、夜間に灯火にも飛来する。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵25

### 【県内での生息地域・生息環境】

大田市三瓶山の草原で確認されているのみ。

### 【存続を脅かす原因】

生息地である草原環境の悪化。

昆虫類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヒトリガ科

## シロホソバ

*Eliema degenerella* (Walker, 1863)

### 【選定理由】

全国的に減少しているとされる。島根県では十分な調査がされていないが、個体数は多くない。

### 【概要】

開張22mm程度。翅は白色で無紋。日本産のコケガ類では本種に類似した種がないため同定は容易である。幼虫は地衣類を摂食することが知られている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部と隠岐（島後）。県東部ではおもに平地や丘陵地の草地や湿地周辺で確認されている。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要であるが、開発や乾燥化による地衣類の減少。

チョウ目コブガ科

## ニセオオコブガ

*Rhynchopalpus protogigas* (Inoue, 1970)

### 【選定理由】

県内での分布がきわめて局地的である。

### 【概要】

1970年、旧・平田市と徳島市で採集された標本を使って新種として記載された種。前翅長15–20mm程度。コブガでは大きい。翅は地色が灰褐色、前翅には前縁部に接する褐色の斑紋がある。成虫は6～7月に出現、生活史等不詳。ただソメイヨシノの枝についていた繭から羽化した例があるという。本州、四国、対馬に分布するが、採集例は非常に少ない。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の旧・平田市のほか中部の中国山地沿いの地域で採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要であるが、寺社林などの消失。

チョウ目ヤガ科

## ヒメネグロケンモン

*Colocasia umbrosa* (Wileman, 1911)

### 【選定理由】

県内における生息地がきわめて限定され、生息確認記録も非常に少ない。

### 【概要】

前翅長18mm内外で、ウスベリケンモン亜科のなかでは小型の種類。翅は全体に濃い褐色、前翅には太くて白い帯が現れる。成虫は5月と7～8月に出現、年2化と思われる。幼生期は不明。現在までのところ日本特産種とされている。本州、四国、九州の山地に分布する。北限は東北地方北部という。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の中国山地に近い部分でのみ見つかっている。

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要だが、落葉樹林帯の減少、消滅が考えられる。

チョウ目ヤガ科

## スギタニゴマケンモン

*Harrisimemna marmorata* Hampson, 1908

### 【選定理由】

県内での生息地が限られる。

### 【概要】

前翅長13mm内外。翅の色は茶色が基調、前翅の斑紋が特異で、基部前縁付近と翅頂および後角付近に赤褐色の円形紋を有する。後翅は全体的に褐色。成虫は6月と8～9月に現れ、年2化と考えられる。幼虫の食樹はオオカメノキ。本州、四国、九州に分布する。日本特産種である。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の大万木山およびそれに連なる山塊。ブナ帯に近い場所で見つかっている。

### 【存続を脅かす原因】

良好な森林環境の減少、消滅。

チョウ目ヤガ科

## ゴマシオケンモン

*Triana isocuspis* (Sugi, 1968)

### 【選定理由】

県内での生息地が限定される。

### 【概要】

前翅長18-20mm。前翅の細かく白い斑紋がごま塩のように見えることから来た和名のようだ。成虫の発生は5~6月と7~8月、年2化と考えられる。幼虫の食樹はブナ。日本特産種で、東北地方から中部地方の山地、四国の高標高地に分布するとされていたが、県内でも見つか、九州でも見つかったようだ。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部および西部の中国山地沿いの地域に狭い生息域がある。おおむねブナ-ミズナラ帯が生息場所といわれるが、県内でもほぼそれに重なる。

### 【存続を脅かす原因】

良好な森林環境の減少、消失。

チョウ目ヤガ科

## ウスズミケンモン

*Hylonycta carbonaria* (Graeser, 1889)

### 【選定理由】

全国的に減少が危惧されている。県内では十分な調査がされていないが、生息地は限定され個体数も少ないと考えられる。

### 【概要】

開張45-50mm。前翅は灰褐色で後翅は白色。本州・四国・九州に分布するが、分布は局地的で個体数も多くない。国外では朝鮮半島、ロシア南東部に分布する。寄主植物としてクヌギが知られている。

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の松江市と出雲市で記録がある。近年の記録としては、松江市で丘陵地に近い市街地の街灯に飛来した個体が採集されている。

### 【存続を脅かす原因】

里山林の環境の変化。

チョウ目ヤガ科

## クビジロツメヨトウ

*Oncocnemis campicola* Lederer, 1853

### 【選定理由】

県内の採集記録は隠岐 (島前) での1カ所2例のみ。全国的にも分布は局所的。

### 【概要】

開張31-34mm。前翅は暗い紫灰色、後翅は茶褐色で基部は淡色。和名の由来は、首部の白色毛と前脛節末端にある爪による。全国の既知産地はいずれも石灰岩地や断崖等露岩地であり、県内では隠岐諸島の海岸崖部のほか、本土部の立久恵峡、断魚溪などで生息の可能性が高い。食樹はバラ科シモツケ属とされ、食草を同じくするホシ

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵25

ミスジの記録地を狙った調査が有効と思われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

西ノ島町の摩天崖で10月に2例記録されている。隠岐のホシミスジはミツパイワガサを食草としており、本種も同様と推測される。

### 【存続を脅かす原因】

断崖等露岩地の荒廃、生息地への農薬散布等。

チョウ目ヤガ科

## アヤモクメキリガ

*Xylena fumosa* (Butler, 1878)

### 【選定理由】

県内での生息地が限定され、個体数も少ない。

### 【概要】

前翅長27mm内外。大型種である。全体的に濃い茶色を基調とした翅の色、斑紋は目立たないながら木目模様を呈す。成虫は11月ごろに現れ、越冬後3~4月まで活動するというが、県内では1月と2月に採集記録があるにすぎない。幼虫は多食性で、色々な植物につき、サクラ類、ダイズ、アズキ、ジャガイモ、タバコ、ユリ類、ネギ、ノゲシなどの記録がある。北海道、本州、四国、九

## 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

州に分布するものの、局地的で、個体数も多くない。国外では朝鮮半島とロシア南東部に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

今のところ三瓶山と隠岐西ノ島で見つかっているのみ。三瓶での採集個体は草原近くの灯火に来たもの。

### 【存続を脅かす原因】

草原や里山的環境の消失。

チョウ目ヤガ科

## ムラサキハガタヨトウ

*Blepharita amica* (Treitschke, 1825)

### 【選定理由】

生息地がきわめて限定され、個体数も非常に少ない。

### 【概要】

前翅長20mm内外。紫褐色の翅をもつ。前翅の斑紋はオオハガタヨトウ *Mniotype melanodonta* (Hampson, 1906) に似る。後翅は淡褐色。成虫は10~11月に出現する。食草は国内ではヨモギの記録がある。ヨーロッパではトリカブト、ウワミズザクラほかキク科、セリ科などの植物を食べるといふ。国内では北海道、本州に、国外ではサハリン、朝鮮半島、中国、ロシア南東部からヨー

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

ロッパに分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

関西以西には生息していないといわれていた種。1990年代後半に三瓶山で見つかった。現在まで生息地は三瓶のみ。

### 【存続を脅かす原因】

森林および高原草地の消失。

チョウ目ヤガ科

## キスジウスキヨトウ

*Archanara sparganii* (Esper, 1790)

### 【選定理由】

湿地の減少にともない全国的に減少している。本県では調査が不十分であり、生息状況が不明である。

### 【概要】

開張29-44mm。翅の色は全体的に薄い茶色で個体によっては赤褐色を帯び、全体的に黒色鱗片が混ざる。湿地性のがで、幼虫はヨシやミクリの茎内に食入する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

島根半島の中海沿岸で記録がある。灯火に飛来した個体が採集されているため発生地は不明であるが、近隣に

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

は小規模な湿地が点在する。

### 【存続を脅かす原因】

湿地環境の消失。

チョウ目ヤガ科

## トビイロアカガネヨトウ

*Euplexia albilineola* (Wileman & South, 1918)

### 【選定理由】

県内での生息地が局限され、今後もっとも失われやすいと思われる湿地環境に生息すると考えられるため。

### 【概要】

前翅長15mm内外。前翅は銅色の地色に白く縁どられた腎状紋と環状紋、さらに白い内外横線とで印象的な模様を形作っている。成虫は9~11月にかけて湿地で見つかることが多い。年1化と思われる。幼虫期、食草等については未知。本州(福島県以南)、四国、九州に分布する。成虫の発生時期が遅いことと、生息環境が湿地に限定さ

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

写真 口絵25

れると思われるため、記録の少ない種であるという。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山周辺で1例記録があるのみ。採集地は川のほとりで、水性植物も繁茂している。

### 【存続を脅かす原因】

湿地環境の減少、消滅。

チョウ目ヤガ科

## ムラサキシタバ

*Catocala fraxini* (Linnaeus, 1758)

### 【選定理由】

県内での生息地が限られる。

### 【概要】

前翅長45-49mm。Catocala属のなかで唯一後翅に青紫色の帯を有する。大型種で、国内では最大級のシタバガである。成虫の出現は8~10月。年1化。幼虫はヤマナラシおよび栽培種のポプラを食樹とする。国内では北海道、本州、四国、対馬に分布。四国、中国地方ではまれ。国外では東アジアからヨーロッパまで広く分布する。

### 島根県：情報不足 (DD)

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の鯛ノ巣山、中部の琴引山の2カ所でのみ採集例があった。いずれも標高の高い場所だが、最近、3例目として島根半島でも採集された。

### 【存続を脅かす原因】

食樹であるヤマナラシなどが育つ林の減少。

チョウ目ヤガ科

## ナマリキシタバ

*Catocala columbina yoshikoi* Ishizuka, 2002

### 【選定理由】

生息地が限定され、個体数も多くない。

### 【概要】

開張43–53mm。後翅が黄色のシタバガ類であり、前翅は鉛色を帯びている。本州、四国、九州に分布するが生息地は局地的である。石灰岩地帯や渓谷、海岸などの露岩地に自生するシモツケ属を寄主植物とする。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県東部の神戸川流域および西部の江の川流域の渓谷、隠岐（島後）の海岸で採集されている。いずれの場所も

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

渓谷や海岸の露岩地で、シモツケ属の植物が自生している。県内ではイブキシモツケから幼虫が見つかった。

### 【存続を脅かす原因】

シモツケ属が自生する露岩地の消失や荒廃。成虫は樹液や花蜜を摂食すると考えられるため、周辺の森林の保全も重要である。

チョウ目ヤガ科

## ヨシノキシタバ

*Catocala connexa* Butler, 1881

### 【選定理由】

県内での生息地がきわめて限定される。

### 【概要】

前翅長26–28mm。前翅はキシタバ類によく見られる樹皮模様であるが、オスとメスは色彩が異なる。オスは暗灰褐色、メスは白色を帯びる。また前翅がほとんど黒化する個体もある。成虫は夏から10月にかけて見られる。幼虫の食樹はブナ。北海道、本州、四国、九州に分布し、おおむねブナの分布域と重なる。ただ、いずれの生息地でも多産することはなく、少数が見つかるだけだという。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

国外では中国に分布。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山での採集例があるのみ。ブナ帯で発生する蛾である。

### 【存続を脅かす原因】

ブナを含む森林の減少、消滅。

チョウ目ヤガ科

## ヒメアシブトクチバ

*Dysgonia dulcis* (Butler, 1878)

### 【選定理由】

県内での生息地が局限される。

### 【概要】

前翅長15mm内外。アシブトクチバ類では最も小型の種類である。翅の地色は茶色、前翅の根元から中央にかけて広い紫灰色部がある。成虫は6–7月と8–9月に出現する。年2化と考えられるが、幼虫期も含めて生活史の詳細は不明。国外では中国、朝鮮半島に、国内では宮城県付近より南の本州、四国、九州、対馬に分布する。局地的で少ない。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山および西部の海岸部に生息する。県西部からは記録が途絶えて久しい。

### 【存続を脅かす原因】

調査が必要だが、林の伐採などの環境改変。

チョウ目シジミチョウ科

## オオミドリシジミ

*Favonius orientalis* (Murray, 1875)

### 【選定理由】

情報が少ないが、まれで衰亡しつつあると思われる。

### 【概要】

翅長19–23mm。ナラガシワやコナラがある低山地で6月頃に発生する。オスの翅表が青緑色をするファボニウスの一群で、午前9時頃から縄張りを張って飛び交う。早朝に山頂で占有行動をとる。メスは不活発で葉陰で休んでいることが多い。ミドリシジミの仲間は似たものが多いが、本種は前翅後翅の裏面に明瞭な短状があるので識別できる。

## 島根県：情報不足（DD）

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【県内での生息地域・生息環境】

食樹がある周辺の山林や畑が、放置により遷移が進行して環境が悪化している。記録がある安来市や旧・木次町でもほとんど見られなくなった。県内での生息実態について調査が待たれる。

### 【存続を脅かす原因】

開発や雑木林林縁部の荒廃が原因と思われる。

昆  
虫  
類

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

准絶滅危惧

情報不足